

まえがき

このたびは、BYD の車をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。BYD の車を正しくご利用いただき、正しくメンテナンスするために、ご利用の前に必ず本マニュアルのすべての内容をよくお読みください。

特別説明:BYD は、純正部品を使用し、マニュアルにしたがって正しく利用、メンテナンス、整備することをおすすめしています。非純正部品への交換や車の改造を行うと、車両の性能、特に安全性や耐久性に影響を与えるおそれがあります。それにより発生した車の破損および性能上の不具合は品質保証対象外となります。また、車の改造は、国の法規や地方条例に違反する場合があります。

よりよいサービスをお届けするために、皆さまからの貴重なご意見やアドバイスをいただけましたら幸いです。そのためにも必ず正しい連絡先情報をご提供ください。また、変更がある場合は早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、システム上の情報更新を依頼してください。同時に、国の関係法規および地方条例に常にご関心をお寄せいただき、できるだけ早く車両登録をしてくださいますようお願い申し上げます。そうされませんと、車両登録ができなくなるおそれがあります。

本マニュアルに「アドバイス」、「注意」および「警告」が記載されているところは、怪我や破損が発生しないように記載内容をお守りください。シンボルマークの表示や使い方は、次の通りです。

アドバイス


メンテナンスなどを容易にするために守らなければならない事項

注意

車両の損傷を避けるために守らなければならない事項

警告

身の安全を守るために守らなければならない事項

 左図に示す禁止マークは、「このようなことをしてはいけません」、または「このようなことを起こしてはいけません」を意味します。

本マニュアルに*記号が付いている内容は、一部の車種にのみ適用され、それが搭載されていることを表しています。使われているイラストは代表例です。お買い上げの車と異なる場合は、実車を参考にしてください。

本マニュアルは、製品を正しくお使いいただくためのものであり、本製品の仕様およびソフトウェアバージョンに関する説明を表すものではありません。製品仕様やソフトウェアバージョンについては、本製品に関する契約書(もしあれば)を参照していただくか、製品をお買い上げいただいた販売店までお問い合わせください。

著作権は、BYD に帰属します。

BYD から書面による許可を得ずに、本マニュアルの一部、または全部の内容を転載、複製することを禁じます。

本マニュアルを複製する場合は、必ずその責任を追及します。

BYD DOLPHIN 概要

BYD DOLPHIN は、新しいパワートレインを搭載した純電気乗用車で、BYD が総力を結集したエコプロダクツです。ボディーはモノコック構造を採用。床下のブレードバッテリーはボディーと一体化しているため、バッテリーと車両双方の安全性を確保しています。

BYD DOLPHIN はそれぞれのモードにおいて、すべてモーターで駆動するために、環境保全においてゼロエミッションを確実に達成しています。

車が電気によって駆動されるため、車内、車外の音が極めて小さく、ガソリン車とは比べものにならない運転環境、乗り心地のよさをユーザーにお届けします。

車両設計では、高電圧システムの安全性が十分に考慮されているため、衝突事故から乗員の安全を守ります。

バッテリーマネジメントシステムは、常にパワーバッテリーをモニタリングしています。バッテリーのセル毎の電圧や電流などの各性能指標に基づいて、過充電や過放電およびオーバーヒートなどのバッテリー性能に影響をおよぼす一連の問題がないようにバッテリーの出力を調整し、バッテリーが常に正常に機能していることを確保します。

	イラスト目次	イラストで検索します
1	安全	本章の内容を一通りお読みください
2	コンビネーション メーター	メーター、各種警告灯および表示灯などの見方 について
3	コントローラーの 操作	ドアとウィンドウの開閉、運転開始前の調節な どについて
4	使用および運転	運転時の必要操作およびアドバイスについて
5	車内装置	車内装置などの使い方について
6	お手入れと メンテナンス	車のお手入れおよびメンテナンス手順につい て
7	故障が発生したとき	故障が発生したとき、または緊急時の対応策に ついて
8	車両仕様	車両仕様および指示メッセージについて
	さくいん	さくいん

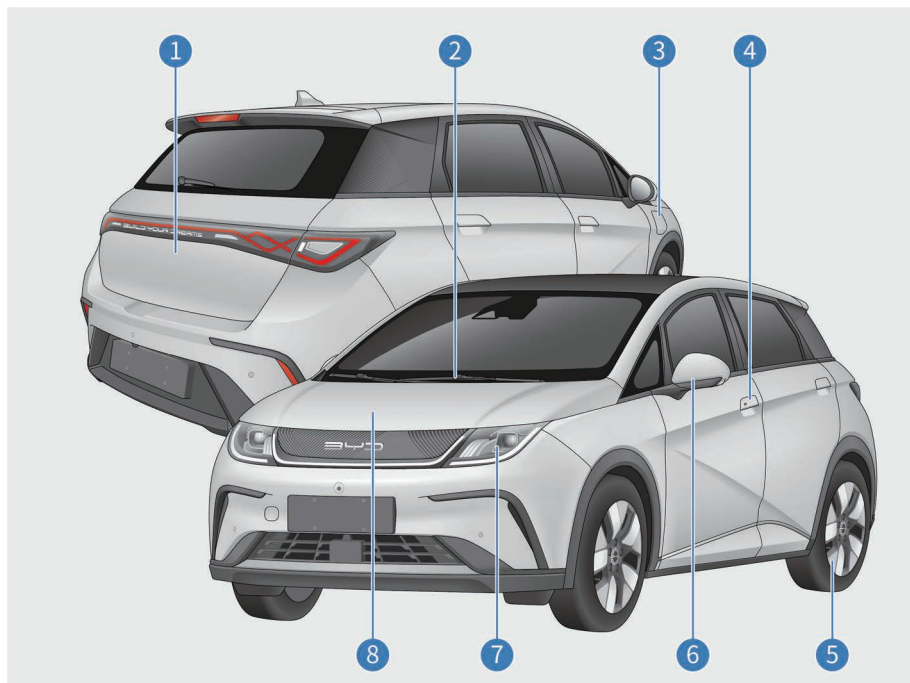
まえがき	1	スマートエントリー& スタートシステム	75
BYD DOLPHIN 概要	3	チャイルドロック	77
1 安全		3-2 シート	78
1-1 シートベルト	16	シートについて	78
シートベルトについて	16	フロントシートの調節	80
シートベルトを着用するとき ...	18	リアシートの収納	82
1-2 エアバッグ	22	ヘッドレスト	83
エアバッグについて	22	3-3 ステアリングホイール	84
運転席および助手席 エアバッグ	23	ステアリングホイール コンビネーションスイッチ	84
前席サイドエアバッグ	24	ステアリングホイールの 手動調節	89
サイドカーテンエアバッグ	25	3-4 スイッチ	90
エアバッグの作動条件および 注意事項	26	ライトスイッチ	90
1-3 幼児用補助装置	34	ワイパースイッチ	95
幼児用補助装置 (チャイルドシート)	34	助手席側ウィンドウ スイッチ	100
1-4 イモビライザー	41	走行距離切替スイッチ	100
イモビライザー	41	運転支援スイッチユニット ...	101
1-5 データの収集および処理 ...	43	助手席側エアバッグ スイッチ	103
データの収集および処理	43	自動緊急通報システム E-Call	105
2 コンビネーションメーター		ハザードランプスイッチ	106
2-1 コンビネーション メーター	50	サンシェードスイッチ *	106
コンビネーションメーター イメージ	50	ルームランプスイッチ	107
メーター表示灯	51	4 使用および運転	
3 コントローラーの操作		4-1 充電 / 放電について	111
3-1 ドアおよびキー	64	充電について	111
キー	64	充電方法	117
ドアの施錠 / 解錠	68	充電ポート盗難防止 ロック機能	127
		外部給電方法	129

目次

4-2 バッテリー	132	インテリジェントスピードリ	
パワーバッテリー	132	ミットコントロール (ISLC) ...	182
起動バッテリー (12V)	136	ハイビームアシストシステム	
4-3 ご利用要領	139	(HMA)	184
慣らし運転期間	139	レーンサポートシステム	
トレーラーのけん引	139	(LDA)	186
安全運転上のご注意	140	緊急時車線維持支援 (ELKA) ...	189
荷物の積み込み	141	ブラインドスポットアシスト	
冠水路の走行	143	システム (BSA)	191
火災の予防	145	ドライバー眠気注意力警告	
電気の省エネで車を長持ち		(DAW)	194
させる方法について	147	幼児置き去り検知 (CPD)	195
4-4 始動および運転	149	タイヤ空気圧モニタリング ...	197
車の始動	149	車両接近通報装置 (AVAS) ...	199
車の運転	151	BYD アラウンドビュー	
シフト機構	153	システム	200
電動パーキングブレーキ		駐車支援システム	202
(EPB)	155	安全運転支援システム	207
オートビークルホールド		4-6 他の主要機能について	214
(AVH)	159	ルームミラー	214
運転要領	161	電動ドアミラー	215
4-5 運転支援機能	163	ワイパー	217
アダプティブクルーズコント		タイヤチェーン	219
ロール (ACC) システム	163	5 車内装置	
ナビゲーションパイロット		5-1 空調システム	222
(ICC)	170	エアコンについて	222
衝突予測警告 (PCW) および		5-2 小物入れ	229
自動緊急ブレーキ (AEB)	173	吹き出し口	229
フロントクロスストラフィック		ドアポケット	229
アラート (FCTA) および		駐車券収納ボックス	229
フロントクロスストラフィック		インストルメントパネル	
オートブレーキ (FCTB)	178	センターボックス	230
交通標識認識システム		グローブボックス	230
(TSR)	180		

センターコンソール ボックス	231	冷却システム	267
カップホルダー	232	ブレーキシステム	268
サングラスホルダー*	233	ウォッシュャ	269
シートバックポケット	233	空調システム	270
5-3 その他の装置.....	234	ワイパーブレード	271
サンバイザー	234	タイヤ	273
アシストグリップ	235	フューズ	277
USB ポート	235		
SD カードスロット*	236	7 故障が発生したとき	
12V アクセサリー電源	237	7-1 故障が発生したとき.....	284
ワイヤレス充電エリア*	238	非常信号灯	284
リアシェルフ	240	リモートキーのバッテリーが 切れたら	285
カーペット	240	緊急時シャットダウン システム	286
フック	241	車両火災が発生したら	287
緊急脱出ハンマー	241	バッテリーの液漏れが 発生したら	288
5-4 マルチメディアシステム...	243	レッカー移動が必要なとき ..	290
マルチメディアコントロール パネル PAD	243	タイヤのエア漏れが 発生したら	292
6 お手入れとメンテナンス			
6-1 メンテナンス上のご注意...	246	8 車両仕様	
メンテナンス周期および メンテナンス内容	246	8-1 データ情報.....	298
6-2 定期メンテナンス.....	253	車両諸元	298
定期メンテナンス	253	8-2 指示メッセージ.....	301
車両の防食について	254	車両の表示	301
塗装メンテナンスのお願い ..	255	警告ラベル	303
洗車	256	マイクロ波通信用 ウィンドウ	305
車内の清掃	258	8-3 適合宣言書.....	306
6-3 セルフメンテナンス.....	261	リモートキー	306
セルフメンテナンス	261	さくいん.....	307
車両の保管	265	略語一覧.....	313
ボンネット	266		

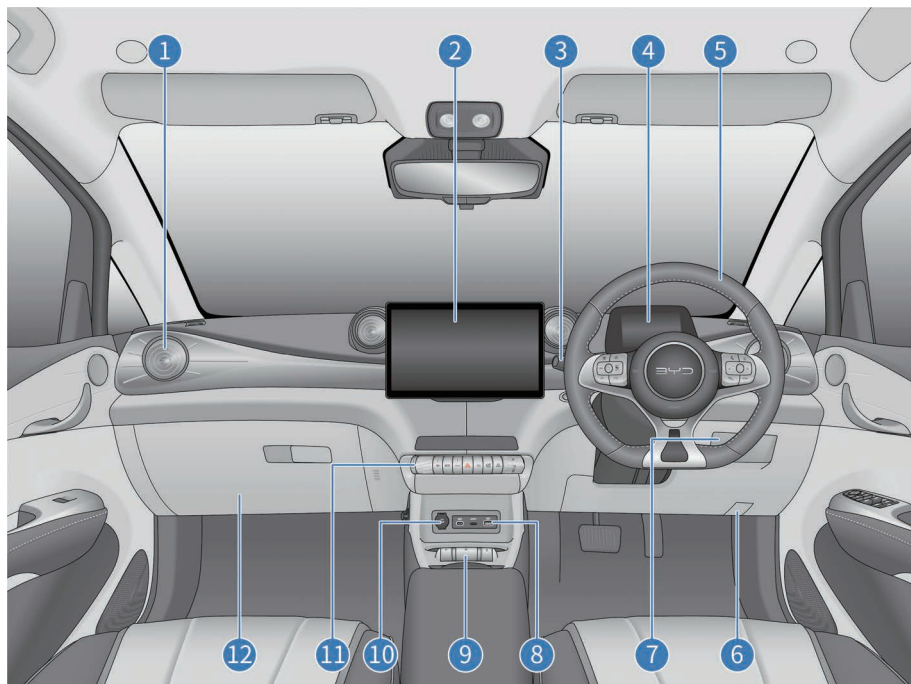
■ 車外



①	テールゲート	P 71
②	ワイパー	P 95
③	充電ポートフラップ	P 111
④	ドア	P 68
⑤	タイヤ	P 273
⑥	電動ドアミラー	P 215
⑦	コンビネーションランプ	P 90

8	ボンネット	P 266
	冷却システム	P 267
	ウォッシュ液	P 269
	ブレーキフルード	P 268
	モータールームフューズボックス	P 278

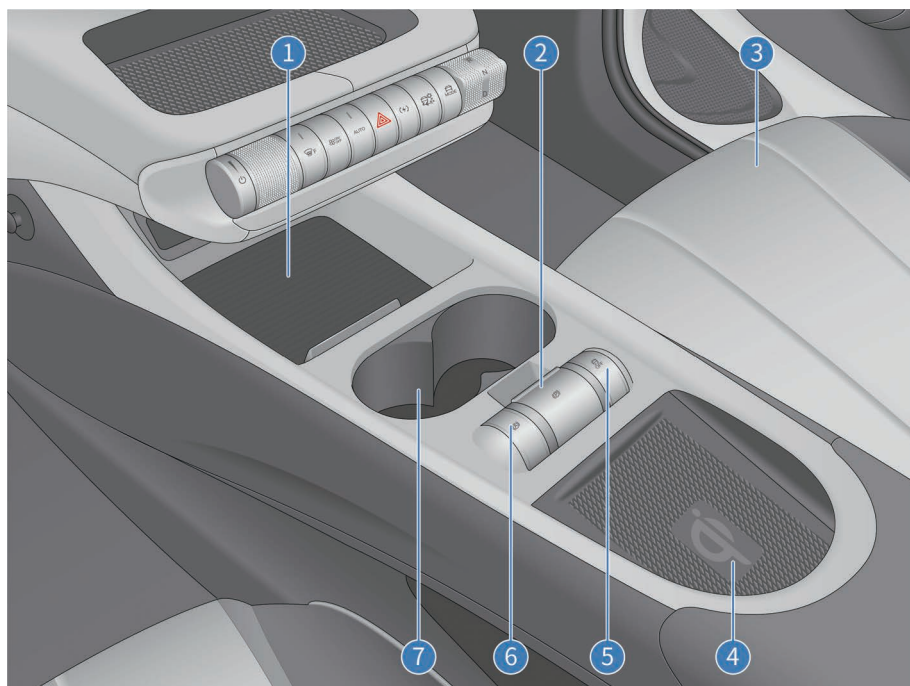
■ インストルメントパネル



- ① 吹き出し口…………… P 229
- ② マルチメディアタッチスクリーン…………… P 243
- ③ ワイパースイッチ…………… P 95
- ④ コンビネーションメーター…………… P 50
- ⑤ ステアリングホイール…………… P 89
ステアリングホイールコンビネーションスイッチ…………… P 84
- ⑥ ボンネットリリースレバー…………… P 266
- ⑦ 駐車券収納ボックス…………… P 229

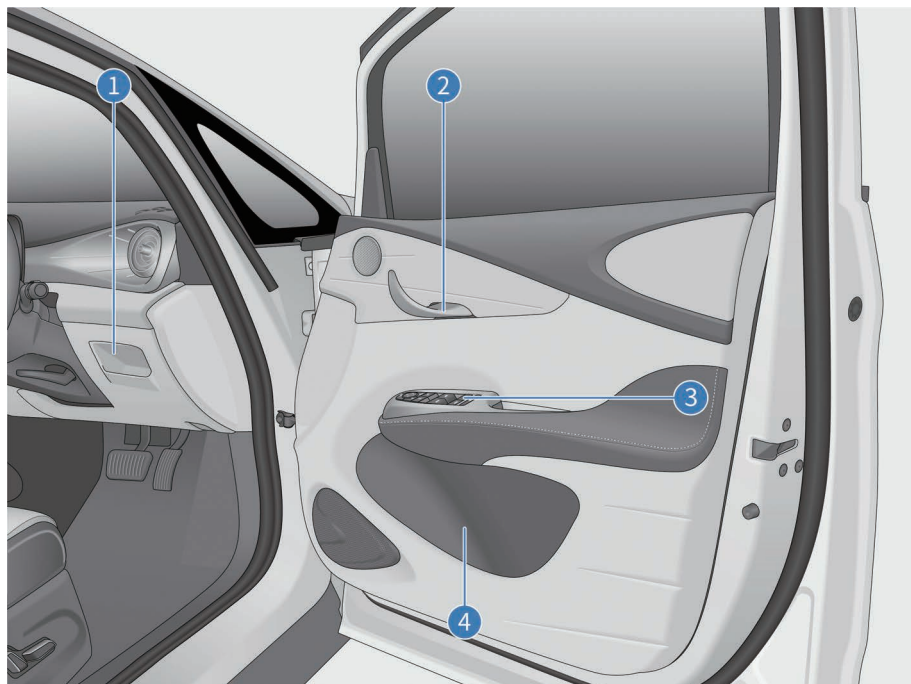
8	充電ポート	P 235
9	電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチ	P 155
	オートビークルホールド (AVH) スイッチ	P 159
	ESC ON/OFF スイッチ	P 207
10	12V アクセサリー電源	P 237
11	コンビネーションスイッチ	P 101
	シフト機構	P 153
	エアコン ON/OFF ボタン	P 222
12	グローブボックス	P 230

■ センターコンソール



① センターコンソールボックス	P 231
② 電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチ	P 155
③ シート	P 78
④ ワイヤレス充電エリア*	P 238
⑤ ESC ON/OFF スイッチ	P 207
⑥ オートビークルホールド (AVH) スイッチ	P 159
⑦ カップホルダー	P 232

■ ドア



- ① 駐車券収納ボックス…………… P 229
- ② ドアノブ…………… P 68
- ③ パワーウィンドウスイッチ…………… P 97
ウィンドウロックキー…………… P 99
集中ドアロック…………… P 100
ドアミラーの調整ボタン…………… P 215
- ④ ドアポケット…………… P 229

1-1 シートベルト	16
シートベルトについて	16
シートベルトを着用するとき	18
1-2 エアバッグ	22
エアバッグについて	22
運転席および助手席	
エアバッグ	23
前席サイドエアバッグ	24
サイドカーテンエアバッグ	25
エアバッグの作動条件および	
注意事項	26
1-3 幼児用補助装置	34
幼児用補助装置	
(チャイルドシート)	34
1-4 イモビライザー	41
イモビライザー	41
1-5 データの収集および処理	43
データの収集および処理	43

シートベルトについて

急ブレーキ、急ハンドル、衝突の際にシートベルトを正しく使用することで、乗員の死傷者数を大幅に減らすことが研究により明らかになっています。以下をよくお読みになり、厳守してください。

警告

- 車の走行中は、常にシートベルトを着用してください。
- 事故による傷害または重傷を起こさないように、BYD は、ドライバーと乗員全員がいつでもシートベルトの着用を徹底するようお願いしています。
- 車を発進させる前に、乗員全員が確実にシートベルトを締めていることを確認してください。シートベルトを締めていないと、急ブレーキ時や衝突事故時に、乗員の生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。
- 車のシートベルトは、大人のサイズに合わせて設計されており、お子様向けではないため、お子様の年齢や体格にあった、適切な幼児用補助装置（チャイルドシート）を選定してください（詳細は「[幼児用補助装置（チャイルドシート）](#)」の区分をご参照ください）。
- お子様を必ずリアシートに乗せ、シートベルトや幼児用補助装置（チャイルドシート）を確実に締めてください。緊急ブレーキ時や衝突発生時に幼児用補助装置を利用していないと、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。また、お子様の安全を守るために膝の上に乗せないでください。
- お子様リアシートに立つ、またはひざまずくことがないようにしてください。緊急ブレーキ時や衝突発生時に、幼児用補助装置を利用していないお子様は、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。緊急ブレーキ時や衝突発生時にお子様が確実に守られるように、お子様を膝の上に乗せないでください。
- シートベルトの破損または異常がある場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検や処置を依頼してください。それまでは該当シートを使用しないでください。

シートベルトの緊急ロック機能

- 急ハンドル、緊急ブレーキ、衝突があったとき、または乗員の身体が勢いよく前へ傾いたとき、シートベルトは自動的にロックされ、乗員への有効な拘束と保護が可能になります。
- 車がスムーズに走行しているときは、シートベルトは乗員の動きに合わせて伸縮しますので、身体の動きへの支障はありません。
- シートベルトの引き出し方が速く、シートベルトがロックされた場合は、シートベルトを少し巻き戻してから、ゆっくり引っ張り出すと、シートベルトをスムーズに引き出すことができます。

シートベルトのプリテンション / ロードリミット機能

重大な正面衝突事故が発生し、プリテンショナーの作動条件が揃ったとき、プリテンショナーは、シートベルトの緩みを瞬時に巻き取ってロックし、乗員の身体を拘束します。ロードリミッターは、シートベルトの乗員への過度にかかる負荷を回避するため拘束力を一定レベルに保ち、拘束力の強さにより乗員にかかる衝撃を緩和させます。

警告

- プリテンショナーの部品や配線を修理したり、テスターを使用してシステム回路を検査したりしないでください。誤作動を起こし、正常な作動をしなくなるおそれがあります。

シートベルトを着用するとき

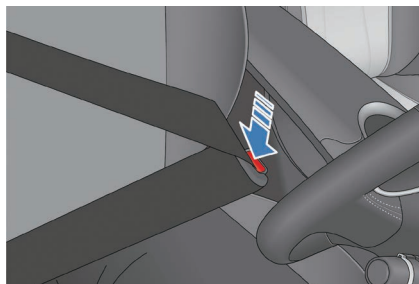
1. シートを適切な位置に、シートバックを適切な角度に調節します。（詳細は「[フロントシートの調節](#)」を参照してください）。

2. 3点式シートベルトの位置を調節します。

■ 正しい姿勢で肩部を斜めに通すようにシートベルトを引っ張り出し、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置にかけてください。その際、首にかかっていたり肩部から外れていることがないようにしてください。



3. タングプレートをバックルに「カチッ」と音がするまで挿し込んでから、反対方向にタングプレートを引っ張り、確実にロックできたかを確認します。シートベルトにねじれがないように注意してください。



4. シートベルトのロックを解除します。

■ バックルの赤い解除ボタンを押すとタングプレートが外れ、シートベルトが自動的に戻ります。シートベルトがスムーズに戻らない場合は、再度引っ張り出し、ねじれがないかをチェックしてください。



警告

- 肩ベルトは、肩の真ん中を通さなければいけません。シートベルトは首から遠く離し、かつ肩から簡単に外れないようにしてください。そうしないと、シートベルトが急ブレーキ時や事故時に十分に機能せず、乗員への重大な傷害につながるおそれがあります。
- 事故時に、お腹にベルトがかかったことによる乗員への傷害を避けるため、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置にかけなければいけません。
- シートベルトの保護機能がより発揮できるように、身体に密着させなければいけません。身体とシートベルトの間にもものを挟まないでください。
- ベルトはねじれたままで着用しないでください。ねじれによりベルトの幅が狭くなり、事故のときに衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
- リアシートのシートベルトが保護機能を確実に発揮できるように、タンクプレートを対応するバックルに確実に挿し込んでください。ドライバーには、乗員にシートベルトを正しく着用させる責任があります。
- 車を発進させる前に、乗員の全員が確実にシートベルトを締めていることを確認してください。
- シートベルトは1人用です。お子様も含め、2人以上で1本のシートベルトを使ってはいけません。
- シートバックの倒しすぎがないようにしてください。シートバックが直立している場合に、シートベルトの保護機能を十分に発揮することができます。
- シートベルト、タンクプレート、バックルは、ドアや後部席シートバックに挟まれないようにしてください。シートベルトが破損するおそれがあります。
- シートベルトを定期的に点検してください。切れ、摩耗、緩みなどの異常がないかを点検します。異常がある場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場にチェックや処置を依頼してください。それまでは該当シートを使用しないでください。
- シートベルトの取り外し、分解、改造を絶対にしないでください。
- 事故が発生した後は、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場でのシートベルトの点検を推奨します。プリテンション機能が作動した場合は、シートベルトおよび座席上の火薬式ラッププリテンショナーを交換してください。*
- シートベルトの交換する場合は、必ず適合するシートベルトに交換してください。

⚠ 警告 (続き)

- 重大な事故が発生した場合は、明らかな損傷がなくても、シートアッセンブリと一緒にシートベルトを交換し、エアバッグシステムを十分に点検してください。
- 廃車にするときや、プリテンショナー、シートベルトを廃棄するときは、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場へご相談ください。
- 妊娠中の方も他の乗員と同じようにシートベルトを正しく着用してください。事故が発生したとき、お腹にベルトがかかったことによる本人や胎児への重大な傷害を起こさないように、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置にかけるように注意してください。
- タングプレートとバックルを確実に結合させるために、バックルには、コイン、クリップまたは他の異物を入れないでください。

シートベルトリマインダー

車を始動させた後、ドライバーまたは乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルトを着用するまで音声・光警報システムが作動します。

■ シートベルト非着用警告灯

どの位置のシートベルトも使われていないとき、シートベルト非着用警告灯が点滅します。

■ 非着用座席の表示

シートベルトが使われていない座席の表示灯が点灯します。

■ 前部座席シートベルトリマインダー

電源ポジションを「OK」にしたとき、運転席シートベルトが使われていない、または助手席に着座している乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルト非着用警告灯が点灯し該当座席の表示灯も点灯します。走行中もシートベルトが着用されていない場合は、シートベルト非着用警告灯が点灯すると同時に警告音を鳴らし、ドライバーや乗員に注意喚起します。

■ 後部座席シートベルトリマインダー

電源ポジションを「OK」にしたとき、リアシートに着座している乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルト非着用警告灯が点灯し該当座席の表示灯も点灯します。走行中、リアシートにのみ着座している乗員がいる状況でシートベルトを着用していない場合は、シートベルト非着用表示灯のみが点灯し警告音は鳴りません。

■ ドライバーまたは乗員がシートベルトを締めると、シートベルト非着用警告灯は消灯し、該当座席の表示灯もすべて消灯します。

⚠ 警告

- エアバッグ故障警告灯が点灯しているときは走行しないでください。電源ポジションを「ON」にすると点灯し、システムチェック後に消灯となるため、必ず消灯してから走行してください。
- 助手席やリアシートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警告灯が点灯することがあります。

ℹ アドバイス

- 上記機能の異常または故障がある場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場まで連絡し、機能が正常に戻るまでは、該当シートを使用しないでください。
- 走行中、乗員はシートに座り、シートベルトを確実に着用しなければいけません。着用しないと、急ブレーキ時や衝突事故時に、乗員の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

エアバッグについて

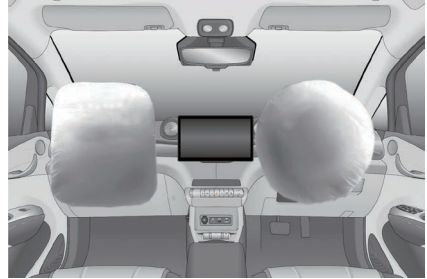
- エアバッグシステムは補助拘束システムの一部で、シートやシートベルトの働きを補助します。大きな衝突事故が発生し、システムの作動する条件が揃うと、エアバッグは瞬時に膨張し、シートベルトと併用することでドライバーや乗員の頭部と胸部などを保護し、負傷や死亡の確率を軽減させます。
- エアバッグシステムは、衝突の種類によって、フロントエアバッグとサイドエアバッグに大別されます。フロントエアバッグは、運転席エアバッグ、助手席エアバッグがあり、サイドエアバッグには、シートサイドエアバッグとファーサイドエアバッグ、サイドカーテンエアバッグがあります。
- エアバッグシステムはシートベルトに取って代わるものではなく、パッシブセーフティシステムの構成部分です。シートベルトが確実に締められていなければ、エアバッグシステムは、保護機能を最大限に発揮することができません。

⚠ 警告

- シートベルトとエアバッグシステムの保護機能を最大限に発揮できるように正しい姿勢でシートベルトを着用してください。
- エアバッグの部品を取り外さないでください。
- BYD が装着を認めていないシートカバーでは、エアバッグ性能の低下につながったり、乗員に思わぬ傷害をおよぼす、当該サイドエアバッグの展開を妨げるおそれがあります。
- サイドエアバッグと乗員との間には、絶対にものを置かないでください。
- サイドエアバッグが搭載されているシートの側面には、大きな力を加えないでください。
- 衝突事故発生後、エアバッグモジュールが膨張せずプリテンションシートベルトがロックされなくても、乗員を思わぬ膨張から保護するため、エアバッグコントロールユニットは暗号化されることがあります。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でチェックするようにおすすめします。
- エアバッグ故障警告灯で下記状況のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。走行をやめて、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、車の点検を依頼するようおすすめします。
 - 電源ポジションを「OK」にしたとき、警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

運転席および助手席エアバッグ

車には運転席エアバッグと助手席エアバッグが搭載されています。走行中、エアバッグシステムの電子コントロールユニット（ECU）が中程度から重度の正面衝突を感知し、エアバッグを作動させる条件が揃うと、エアバッグは瞬間的に膨らみ、上体への衝撃を軽減します。

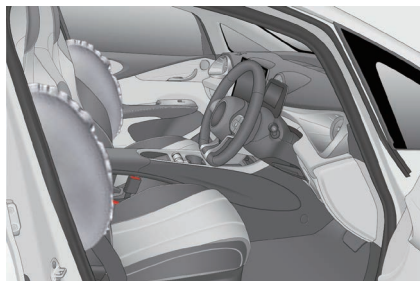


フロントエアバッグの作動プロセス

- 中程度から重度の正面衝突が発生すると、センサーは、車の急激な減速を検知して、コントロールユニットに信号を発信し、フロントエアバッグを瞬時に膨張させます。
- 正面衝突が発生したとき、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束します。エアバッグは、エアクッションに相当するもので、頭部や胸部の拘束や保護をアシストします。
- 衝突の強さがエアバッグ作動のしきい値に達しない場合、シートベルトが主な保護機能を発揮します。エアバッグは、最小限の補助保護を提供します。
- フロントエアバッグは膨張するとすぐに収縮しますので、ドライバーの視線やステアリングホイールまたはその他の制御装置の操作を妨げることはありません。
- エアバッグは、千分の一秒以内に作動できるため、事故発生時にドライバーや乗員をさらに保護することができます。
- エアバッグは、作動時に大きな音がしますが、通常人に傷害をおよぼすことはありません（耳鳴りまたは一時的な聴力障害を起こすことがありますが、すぐに回復します）。
- 衝突後、煙のようなものが見える場合があります。これは、エアバッグ表面の貼り付き防止の粉末です。この粉に毒性はありませんが、呼吸器疾患がある乗員は、一時的な不快感を覚える場合があります。
- フロントエアバッグの ON/OFF は、助手席エアバッグスイッチにより制御されます。詳細は「[助手席側エアバッグスイッチ](#)」を参照してください。

前席サイドエアバッグ

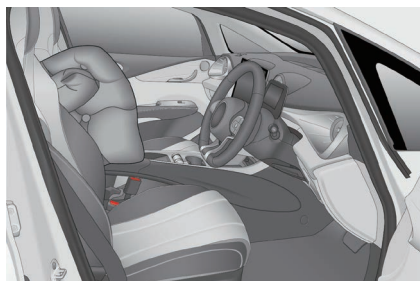
車の左右のフロントシートにサイドエアバッグが搭載されている場合（図のようにこのエアバッグがフロントシートバックの外側に取り付けられ、2箇所とも「AIRBAG」の表示があります）。



- 走行中に発生した中程度から重度の側面衝突により、エアバッグの作動条件が揃うと、エアバッグは作動し、衝突を受けた側の乗員の胸部を保護し、怪我を軽減します。
- 側面衝突が発生したとき、通常衝突を受けた側のエアバッグのみ作動します。
- 助手席側が衝突された場合、シートには乗員が乗っていないなくても、助手席側のエアバッグは作動します。
- シートサイドエアバッグの機能を最大限に発揮させるために、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢を保ったまま身体をシートバックに密着させなければなりません。

前席ファーサイドエアバッグ：

- 自車には前席ファーサイドエアバッグが搭載されています（図のように、当該エアバッグが運転席シートバックの内側に備えられ、「AIRBAG」との文字が表示されています）。



- 走行中に発生した中程度から重度の側面衝突または斜め方向からの衝突を受けて、ファーサイドエアバッグの作動条件が揃うと、ファーサイドエアバッグは作動し衝突を受けた側の運転席および助手席乗員の頭部や肩部を保護して怪我を軽減します。
- 助手席側が衝突された場合、シートには乗員が乗っていないなくても、助手席側のファーサイドエアバッグは作動します。

- 運転席に搭載されているファーサイドエアバッグの機能を最大限に発揮させるため、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢を保ったまま身体をシートバックに密着させてください。

シートサイドエアバッグが搭載されている車について

- シートバックを濡らさないでください。雨または水しぶきでシートバックが濡れた場合、サイドエアバッグシステムは正常に動作できなくなるおそれがあります。
- 絶対にシートバックにカバーをかけたり、自分でシートバックのカバーを交換したりしないでください。不適切なシートバックカバーの交換または不適切なカバーの使用は、衝突が発生したとき、サイドエアバッグの作動を妨げる可能性があります。

サイドカーテンエアバッグ

- 図のように、左右サイドカーテンエアバッグが搭載されています（ボディサイドとヘッドライニングとの結合部に内蔵され、Aピラーパネル、Bピラーパネル、Cピラーパネルのいずれにも「CURTAIN AIRBAG」との表示が付いています）。



- 走行中に発生した中程度から重度の側面衝突を受けて、サイドカーテンエアバッグの作動条件が揃うと、サイドカーテンエアバッグが作動し、衝突を受けた側の乗員の頭部を保護して怪我を軽減します。

i アドバイス

- 側面衝突が発生したとき、通常衝突を受けた側のエアバッグのみ作動します。
- サイドカーテンエアバッグの機能を最大限に発揮させるために、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢を保ったまま身体をシートバックに密着させなければなりません。

エアバッグの作動条件および注意事項

エアバッグ作動条件

- エアバッグの作動条件：衝突発生時、エアバッグを作動させる決定的な要素は、衝突発生時の衝撃力の強さ、事故パターン、衝突角度、障害物および速度がかかっています。特別な衝突事故が発生したときは、エアバッグシステムが作動することがあります。
- エアバッグシステムは、すべての事故において機能するわけではありません。軽度な正面衝突や後面衝突、または横転事故が発生したときは、エアバッグシステムが作動しません。この場合、ドライバーや乗員は、確実に保護を受けられるようにシートベルトを正しく着用してください。
- エアバッグシステムを作動させる決定的な要素：衝突時に発生し、ECUから得られる減速度曲線と設定値に対し、全面的にインテリジェントな比較を行ったうえで判断します。衝突時に発生し、検知される減速度曲線などの信号がECU内部にあらかじめ設定された関係参照値より弱い場合は、車が衝撃で大きく変形したとしてもエアバッグは作動しません。
- BYDのエアバッグシステムのECUは、設定時によくあるそれぞれの誤作動や道路状況が十分に考慮されています。衝突事故の発生には、いろいろな原因およびモードがあります。安全のために、本オーナーズマニュアルの記載を遵守し正しくご使用ください。そうしないと、エアバッグが正しく機能しないおそれがあります。

エアバッグが作動するとき

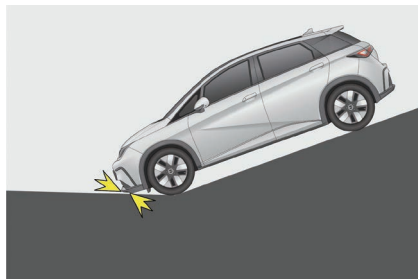
深い溝を通り、車の先端部が地面にぶつかったとき。



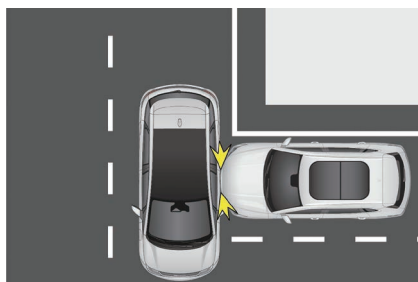
路肩の突起物、縁石などにぶつかったとき。



急な下り坂を走り、車の先端部が地面にぶつかったとき。



車両側面に他の車がぶつかったとき。

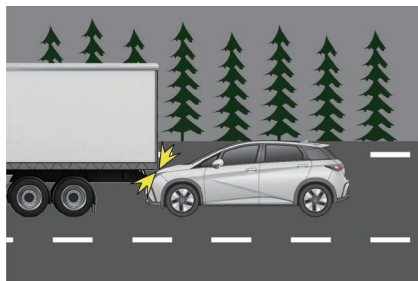


エアバッグが作動しないとき

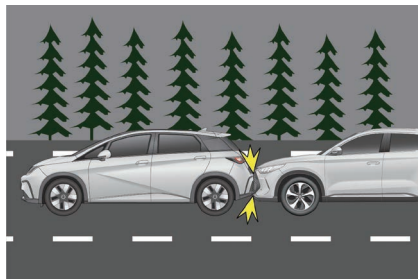
コンクリートの柱、樹木または他の細長いものにぶつかったとき。



トラックの荷台の下に潜り込んだとき。



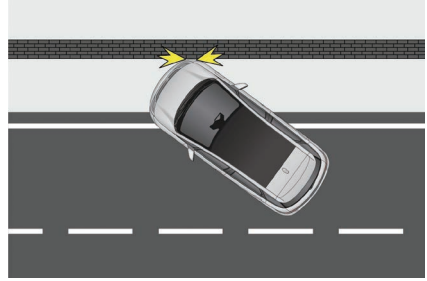
後方から追突されたとき。



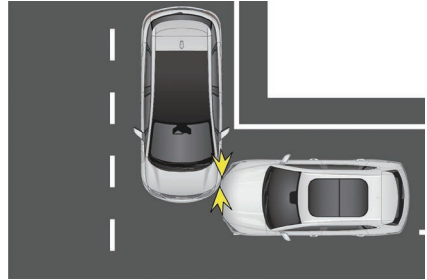
車が横転したとき。



壁または車に斜めにぶつかったとき。



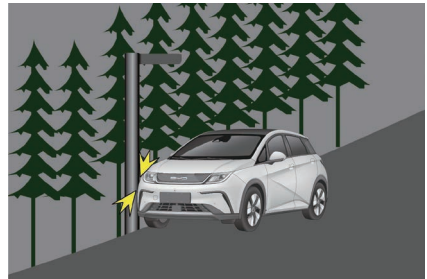
車室以外の部位で側面から衝突を受けたとき。



側面が斜め方向から衝突されたとき。



側面が柱のようなものに衝突したとき。



▲ 警告

- エアバッグは、指定車種を対象に開発されているもので、サスペンション、タイヤ寸法、バンパー、シャーシおよびオリジナルデバイスを変更すると、エアバッグシステムに悪影響をおよぼします。また、エアバッグシステムのどの部品も、他の車種に流用しないでください。エアバッグシステムが故障し、身体に危害をおよぼすおそれがあります。
- ドライバーの場合、当該システム作動時に自身を最も効果的に保護するには、胸部からステアリングホイールの間を 25cm 以上離してください。
- 走行中、シートベルトを確実に着用し、正しい姿勢を保ってください。シートベルトを着用せず、前かがみになるなど正しく着席していない場合、事故によるエアバッグの作動により、怪我をする危険性が高まります。
- ステアリングホイールキャップの表面、インストルメントパネル右側エアバッグ近くの表面、A、B、C ピラーパネルの表面と、シートのドア側エアバッグ部およびその周りの表面に何かを貼り付けたり、何かで覆ったり、装飾を施したりしないでください。汚れは乾いた布、または水で湿らせた布で拭き取ってください。また、強く叩かないでください。
- お子様は補助装置なしで、または大人が抱いてフロントシートに座ることを禁止します。事故の発生でエアバッグが作動した場合は、生命にかかわる重大な怪我につながるおそれがあります。
- チャイルドシートは後席シートに取り付けてください。エアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- 助手席エアバッグの格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。お子様も近づかせないようにしてください。エアバッグ作動時に衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- スマホホルダー、コップ、灰皿などのアクセサリは、エアバッグカバーの上またはエアバッグが機能する範囲内に取り付けしないでください。取り付けた場合、事故が発生しエアバッグが展開することで、怪我をする危険性が高まります。
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは、展開速度が速く、かつ衝撃力が強いので、このエアバッグを搭載している車の走行中は、乗員はドアに寄りかかたりしないでください。寄りかかった場合、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。


▲ 警告 (続き)

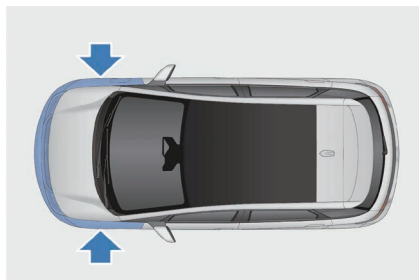
- ウィンドウガラス、ドアガラス、A ピラーパネル、ヘッドライニング、B ピラーパネル、C ピラーパネルおよびアシストグリップなど、サイドカーテンエアバッグが機能する範囲内にアクセサリーなどのものを置かないでください。サイドカーテンエアバッグの展開により、アクセサリーなどのものが強く飛ばされたり、サイドカーテンエアバッグが正常に展開できなくなることで、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車を譲渡する場合は、購入時に入手したすべての資料を新しいオーナーに渡してください。
- シート、またはドア側エアバッグ付きシートのトリム部品を改造したり、交換したりしないでください。改造や交換によりシステムが機能できなくなる、またはサイドエアバッグが予期せず作動し、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- サイドカーテンエアバッグが内蔵されている A ピラーパネル、ヘッドライニング、B ピラーパネル、C ピラーパネルの分解や修理をしないでください。それらの分解や修理により、システムが機能できなくなり、またはサイドカーテンエアバッグが予期せず作動し、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- エアバッグシステムのすべての構成部品は、関連ラベルを含め、いかなる変更もしないでください。エアバッグに対するすべての作業は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- 展開したエアバッグは部分的に熱くなっています。やけどをするおそれがありますので、熱がさめるまで触れないでください。
- エアバッグが作動するときは微粉末が放出されます。目や皮膚に付着したときは、完全に水で洗い流してください。
- 展開したエアバッグが破裂して怪我をすることがありますので、エアバッグモジュールの上に身体を載せないでください。
- エアバッグは、1 回限りの使い捨てです。エアバッグが作動、または破損したら、当該システムを交換しなければなりません。
- 車またはエアバッグシステムの各部品を廃棄処分する場合は、関係する安全規定および廃却処分手順を守ってください。
- エアバッグシステムは、その周りの電磁環境に対し強い耐干渉性と耐妨害性を有します。事故を防ぐため、国が許可した電磁環境以外で車を使わないでください。
- 一般的な誤操作や、道路状況を考慮しているエアバッグシステムとなっていますが、事故を防ぐために、車の底部をぶついたり、悪路での乱暴な運転をしないでください。

⚠ 警告 (続き)

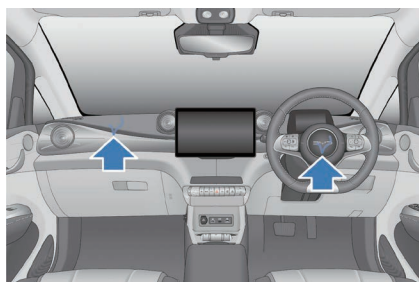
- ドアが壊れるぐらい強く閉めないでください。エアバッグが誤作動するおそれがあります。
- 十分な検証を受け、オリジナルワイヤーハーネスシステムとエアバッグシステムが完全にマッチングしているエアバッグシステムとなっていますので、車全体のワイヤーハーネスの改造や変更は、エアバッグの誤作動、または衝突発生時の不作為につながるおそれがあります。

下記のいずれかの場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- エアバッグが展開したとき。
- コンビネーションメーターのエアバッグ故障警告灯が異常点灯しているとき。
- 車の前方（図の網かけ部）で衝突事故が発生したが、フロントエアバッグが展開していないとき。

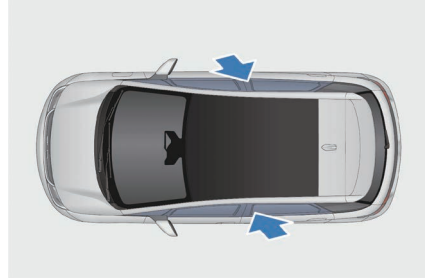


- エアバッグカバーに、破れ、割れまたは他の破損があるとき。



- エアバッグの取り外し、分解、取り付け、修理を行う必要があるとき。
- サイドエアバッグやサイドカーテンエアバッグが展開したとき。

- 事故で車両のドア部分に衝撃がかかり、エアバッグの展開に至らなかったとき。



- サイドエアバッグが格納されているシートの表面に傷、割れ、またはその他の類似破損があったとき。
- カーテンエアバッグが格納されている A ピラー、ルーフレール、および C ピラーの装飾（パッド）部に傷、割れ、またはその他の類似破損があったとき。

幼児用補助装置（チャイルドシート）

幼児用補助装置は、事故発生時にお子様を適切に保護することができます。お子様の安全を確保するため、幼児用補助装置を取り付ける前に幼児用補助装置メーカーからの取扱説明書、および本オーナーズマニュアルをよくお読みください。

⚠ 警告

- 走行中はお子様を抱かないでください。
- お子様に合った幼児用補助装置を選んでください。
- 幼児用補助装置メーカーおよび本オーナーズマニュアルの取扱説明にしたがい、幼児用補助装置を正しく取り付けてください。そうしないと、事故の際にお子様がかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。
- 幼児用補助装置をシートから取り外した後は、安全な置き方で車内に収納してください。
- 事故時や急ブレーキ時に、お子様を確実に守れるように、お子様の年齢や体格にあった、シートベルトまたは幼児用補助装置を使用しなければいけません。お子様を腕に抱くことは、幼児用補助装置の代わりにはなりません。事故が発生したとき、お子様は、ウィンドウガラスにぶつかったり、保護者と車の間に挟まれたりするおそれがあります。
- フロントシートに幼児用補助装置を取り付けしないでください。助手席に幼児用補助装置を後ろ向きに取り付けると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトが首や顔に当たり、適正な着用ができないお子様には、幼児用補助装置を使用してください。

お子様が車に乗る場合は、適切な幼児用補助装置を使用して安全を確保してください。幼児用補助装置は、正しい方法で取り付けて使用してください。

幼児用補助装置の選定で考慮すべき重要なこと

- 幼児用補助装置のタイプやサイズは、お子様に適するものであること。
- 幼児用補助装置のタイプやサイズは、特定の着座位置に適するものであること。
- 幼児用補助装置は、ECE R44/R129 基準に適合していること。

助手席エアバッグスイッチ

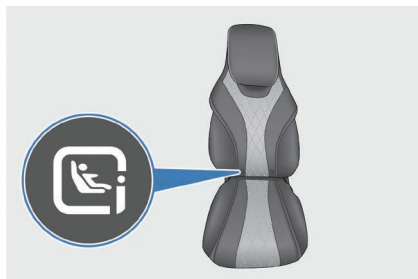
- 助手席側エアバッグスイッチは、助手席側のインストルメントパネルに設置されております。助手席側ドアを開けて操作してください。
- 詳細は「[助手席側エアバッグスイッチ](#)」を参照してください。

⚠ 警告

- 助手席側のフロントエアバッグを有効にした場合は、助手席に後向き装着タイプのチャイルドシートを設置しないでください。

幼児用補助装置アンカー**フロントシート**

- フロントシートには、ISOFIX/i-Size アンカーが装備されています。図のようにアンカー位置を表示するラベルは、シートバックの該当アンカーの上方に付いています。
- フロントシートバックの裏側には、トップテザー用アンカーが装備されています。

**⚠ 警告**

- トップテザーを利用する幼児用補助装置を取り付ける場合は、ヘッドレスト上の穴にトップテザーを通してから、トップテザーをシート底部のアンカレッジに固定して引っ張ってください。

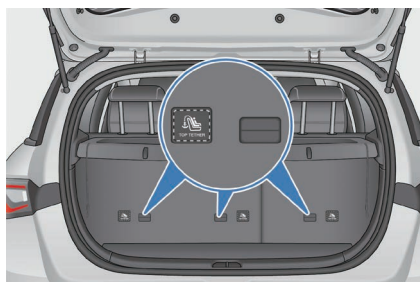
リアシート

- 外側のリアシートには、ISOFIX/i-Size アンカーが装備されています。
- 図のようにアンカー位置を表示するラベルは、シートバックの該当アンカーの上方に付いています。



⚠ 注意

- アンカーは、シートとシートバックの間隙間に設置されています。
- リアシートバックの裏側にはトップテザー用アンカーが装備されています。
- トップテザーアンカレッジによるシートベルト固定式幼児用補助装置は特定の市場でのみ使用できます。



警告

- リアシート外側席に取り付けられた幼児用補助装置にトップテザーが付いている場合は、リアパーセルシェルフを取り外さないと、トップテザーアンカーが見えません。
- リアシェルフに昇らないでください。リアシェルフの破損やお子様の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- それぞれの方向に幼児用補助装置を揺らし、確実に取り付けられていることを確認します。
- ロアアンカーを使う場合は、アンカーの周りに異物がなく、シートベルトが幼児用補助装置の裏側に引っかかっていないようにしなければいけません。また、幼児用補助装置が確実に固定されているようにしなければいけません。確実に固定されていないと、緊急ブレーキ時や事故時に、お子様に生命にかかわる重大な傷害を負わせるおそれがあります。
- 運転席の後方のシートに幼児用補助装置を取り付けている場合、リアシートとの間隔が狭くなると、運転席を動かすときにお子様の足に当たったり、幼児用補助装置を押してしまったりするため、確認してから動かしてください。
- 1つのアンカーポイントに2つの幼児用補助装置を取り付けしないでください。事故が発生したとき、1つのアンカーポイントでは2つの幼児用補助装置を支えきれないおそれがあります。

幼児用補助装置の取り付けについて

助手席に幼児用補助装置を取り付ける場合は、必ず次の説明にしたがってください。

- 助手席側のフロントエアバッグを有効にした場合は、助手席に後向き装着タイプのチャイルドシートを取り付けしないでください。後向き幼児用補助装置を助手席から取り外した場合は、助手席フロントエアバッグを有効にしてください。
- お子様かトリムに触れないよう、必要に応じて助手席を後方へスライドしてください。
- 助手席シートバックの角度を必要に応じて調整し、座席に幼児用補助装置をしっかりと押し付けてください。
- 幼児用補助装置に幼児用補助装置ヘッドレスト上のシートベルトガイドが付いている場合は、ガイドを前向きに設置し、Bピラー上のシートベルトアンカーアッパーに合わせるようにしてください。
- 助手席に前向き幼児用補助装置を取り付ける場合は、後方へシートを最大限にスライドさせ、ONになっているエアバッグから遠く離してください。

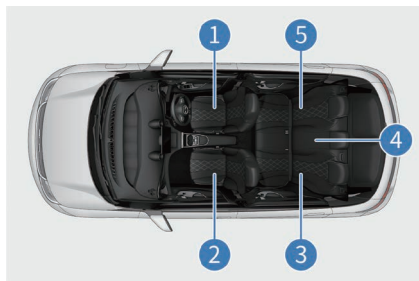
- ねじれがなく、ガイドの端部で曲がりがないようにシートベルトをガイドに通してください。

リアシートに幼児用補助装置を取り付ける場合は、必ず次の説明にしたがってください。

- リアシートに幼児用補助装置を取り付けている場合は、お子様がフロントシートに触れないようにフロントシートを前方へスライドさせてください。より広いスペースを確保するため、前席シートバックの角度を調節することもできます。
- シートバックで幼児用補助装置を安全に支えるため、ヘッドレストの高さを調整したり外したりすることができます。
- 幼児用補助装置にシートバックが付いていない場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。また、同時にヘッドレストをロック位置に合わせてください。
- リアシートでトップテザーを利用する場合は、トップテザーをヘッドレストシャフトの外側に通してください。
- リアシートに取り付けられた幼児用補助装置にトップテザーが付いている場合は、リアパーセルシェルフを取り外さないと、トップテザーアンカーが見えません。外したリアパーセルシェルフは安全な置き方で車内に収納してください。
- 取り付け方の詳細については、幼児用補助装置に付いている取扱説明書をよくお読みください。

幼児用補助装置の取り付け方：

- ① 運転席
- ② 助手席
- ③ リアシート左側席
- ④ リアシート中央席
- ⑤ リアシート右側席



	座席					
	1	2		3 ^{b)}	4 ^{b)}	5 ^{b)}
		助手席フ ロントエ アバッグ ON ^{a)}	助手席フ ロントエ アバッグ OFF ^{a)}			
汎用型シートベルトを使用している座席に適用します (はい/いいえ)	X	はい 前向きのみ	はい	はい	はい	はい
i-Size 座席 (はい/いいえ)	X	はい 前向きのみ	はい	はい	いいえ	はい
横向き固定装置に適用する座席 (L1/L2/ いいえ)	X	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
適用の最大後向き固定装置 (R1/R2X/R2/R3/ いいえ)	X	いいえ	R1/R2X/ R2/R3	R1/R2X/ R2/R3	いいえ	R1/R2X/ R2/R3
適用の最大前向き固定装置 (F2X/F2/F3/ いいえ)	X	F2X/F2/ F3	F2X/F2/ F3	F2X/F2/ F3	いいえ	F2X/F2/ F3
適用の最大かさ上げ固定装置 (B2/B3/ いいえ)	X	B2/B3	B2/B3	B2/B3	B2/B3	B2/B3
^{a)} シートを前後ヘスライドしたり、シートバックの角度を必要に応じて調整したりすることができます。 ^{b)} ヘッドレストの高さを調整したり、外したりすることができます。お子様がフロントシートに触れないようにするために、必要に応じてフロントシートの位置を調節することができます。						

×：このシートの位置は、この重量グループのジュニアシートに適合していない。

1-3 幼児用補助装置

- 推奨の幼児用補助装置：
 (身長によるお子様のグループ分けは、ECE R129 基準による)

お子様の身長 (cm)	メーカー	幼児用補助装置	備考
< 83	Maxi-Cosi	Pebble 360	シートベルトを締め ます
76 ~ 105	Britax Römer	Trifix 2 i-Size	ISOFIX、シートベル トを締めます
100 ~ 150	Britax Römer	Kidfix i-Size ^{a)}	ISOFIX、シートベル トを締めます

^{a)} : 必ず SecureGuard および XP-PAD でシートベルトを固定してください。

体重によるお子様のグループ分けは、ECE R44 基準による

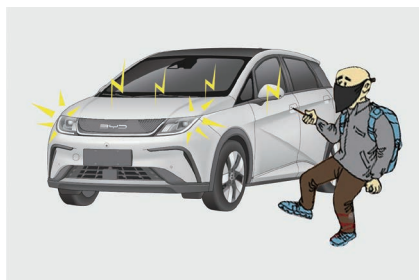
お子様の体重 (kg)	メーカー	幼児用補助装置	備考
22 ~ 36	Graco	Booster Basic	シートベルトを締め ます

- ① 40 ~ 83cm
- ② 76 ~ 105cm
- ③ 100 ~ 150cm
- ④ 22 ~ 36kg



イモビライザー

盗難防止機能が作動している状態でいずれかのドアを開けると、システムは車の盗難を防ぐために警報音を鳴らし、同時にターンシグナルランプが点滅します。



1

安全

イモビライザーを設定する

1. 電源ポジションを「OFF」にします。
2. すべての乗員が車から降ります。
3. すべてのドアを施錠します。このとき、セキュリティ表示灯は点灯し続け、8秒後にイモビライザーが自動的に設定されます。システムの設定が完了すると、セキュリティ表示灯は点滅します。
4. 表示灯が点滅していることを確認し車から離れます。車内からドアを解錠するとシステムが作動するため、設定中は車内に残らないでください。

警報の作動

- 下記のいずれかの場合、システムは警告音を鳴らします。
 - リモートキーを使わずに機能を ON にし、ドアやテールゲート、ボンネットを解錠した場合。
 - リモートキー始動機能を使用せずに車の電源を入れた場合。

盗難防止警報の解除

- 下記の操作を行うと警報を解除できます。
 - リモートキーでドアを解錠する。
 - NFC キーでドアを解錠する。
 - マイクロスイッチでドアを解錠する。
 - リモートキーの遠隔操作でテールゲートを解錠する。
 - リモートキーの遠隔操作で車を始動させる。
 - リモートキーを携帯した状態で「スタート/ストップ」ボタンを押す。

⚠ 警告

■ 変更や追加によるイモビライザーの改造をしないでください。このような変更は、システム故障につながるおそれがあります。

セキュリティ表示灯

イモビライザーの設定中は、セキュリティ表示灯は 8 秒間点灯します。



データの収集および処理

- 本節では、BYD の車両をご利用いただく際の、システムが個人データを収集および処理する方法について重要な情報を提供します。
- データ処理、データ保護およびデータ主体の権利についての詳細は、マルチメディアシステムで最新版の車両プライバシーポリシーをご覧ください（**車両設定** → **システム設定** → **更なる詳細** → **プライバシーポリシー**）。
- 本車は、欧州法規に適合するイベントデータレコーダー (EDR) を備えています。主に特定の衝突事故またはこれに類する衝突事故が発生した場合（例：エアバッグの展開または障害物への衝突時）、安全関係のシステムの状態データを記録し、以下の車両システムの稼働状況を把握するために使用します。
 - 車両速度
 - タイヤ空気圧の状態
 - アダプティブクルーズコントロールシステムの状態
 - シートベルトの着用状態
- 衝突またはこれに類する衝突事件がある程度に達した場合のみ、車両が EDR データを記録します。車両が正常に走行している間は、EDR はいかなるデータも記録しません。
 - EDR システムに記録された関係情報をもとに事故分析がうまくできるよう、事故発生時の車両安全に関するシステムの状態を把握します。
 - EDR データは、特別な機器で車両にアクセスして読み出す必要があります。BYD は、法律で許可されている、またはお客様の同意を得た場合にのみ第三者に対し個人データを開示します。車両メーカー以外に、専門機器を所有する第三者機構（例：政府機構）が車両 EDR にアクセスする権限、および機器を持っている場合は、EDR データ情報を読み出すこともできます（例：エアバッグコントロールユニットのデータを読み出して事故分析を行います）。

車両データの処理

- 車両センサーまたはコントロールユニットが収集、または送信するデータなど、車両利用時にシステムが収集したデータは、車の安全運転に必要なものです。
- 場合によって、収集されたデータは、運転支援（ドライバー補助システム）や、特定の快適機能、インフォテインメント機能の作動に利用されます。
- 収集、処理される個人データは、主に車載データ、遠隔サービス関係のデータおよび他のデータを含みます。詳細は次のとおりです。

車載データ

走行データ

- 車を使用している間、システムは、それぞれの車両状態データ（例：速度、バッテリー残量、ブレーキシステム）または周囲のモード（例えば、距離センサー、温度など）の収集と処理を行います。
- それらのデータは、通常保存されませんが、コントロールユニット、センサーまたは車両に取り付けられた、データを記録する他のユニットは、メンテナンス要求、エラー情報、その他の情報の記録に用いられます。
- 車載データは、車載デバイスにのみ保存されますが、法律で義務付けられる OBD（「車載式故障診断装置」）のポートを介し、それらのデータを読み取ることができます（例：BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場、もしくは他の第三者がデータを読み取ることができます）。
- 車の整備中にシステムにアクセスする場合、それらの情報も品質検査保証、製品不具合報告またはユーザークレームの検証を目的として、BYD 技術者に提供されます。

遠隔サービス関係データ

遠隔監視サービス

- 車は遠隔監視サービス機能を備えています。
- これには、安全性を確保するための遠隔診断・無線通信（OTA）によるアップデートおよびアップグレード（オーナーの了承が必要）などの遠隔監視サービスが含まれます。
- この監視サービスの目的：サービスの提供（遠隔支援 / 診断）、製品開発とセキュリティ / パブリックセーフティ。
- 使用される国または設定により、車両位置情報、車両状態（例えば、電費、速度、シフトポジション、電源ポジション、エレクトロニクススピードコントローラーの状態、ステアリングシステムの状態、バッテリーの状態、パワーユニットの状態、車両の性能状態など）を含む各種の車両情報は、上記の目的で BYD のサーバーに送信されることがあります。

その他

インフォテインメントシステム

- 車両の仕様により、ドライバーは、自らインフォテインメントシステムでビデオを再生するためのメディアデータ、ナビゲーションシステムに用いられるアドレスデータ、またはオンラインサービスに用いられるデータなどのデータをインフォテインメントシステムに追加することができます。
- 車両の仕様により、車の個人設定にもアクセスできます。
- 車両に保存されているデータは、いつでも削除できます。
- BYD は、第三者に送信されたデータを管理することはできません（特にオンラインサービスの一部として第三者のコンテンツを使用した場合）。

モバイルデバイスの集積

- 車両の仕様により、車のインフォテインメントシステムを介して、モバイルデバイスの接続や制御を行うことができます。
- デバイスの画面または音声は、インフォテインメントシステムを介して表示 / 再生、またはインフォテインメントシステムにストリーミングする必要がある場合があります。
- 位置情報や車両情報のような付加データは、アプリケーションを介して送信し、ナビゲーションシステムや、通信または他の第三者サービスに用いることができます。
- データ処理の具体的なパターンは、それぞれの機能に依存し、ユーザーまたはデバイスや関係サービスを提供する第三者が制御します。

インターネットアクセスと接続サービス



- 車両の仕様により、車のインフォテインメントシステムのネットワークデバイスを介してインターネットにアクセスすることで、車の特定の機能、または BYD のサービスを実現することができます。
- BYD は、いかなる相手側が提供するこのようなサービスのすべてについて責任を負いません。
- そのような場合には、データ使用に関する情報について、関連するオンラインサービスプロバイダーにお問い合わせください。

カメラ映像の記録 / 周辺区域の監視

- 車には、複数のカメラ / センサーが搭載されています。
- 一部の機能は、車両の進路を感知して評価する必要があるためです。これは車両周辺のもの（障害物など）を感知するカメラにより行われます。
- オペレーティングシステムで必要なさらなる分析を行うために、映像は関連する制御モジュールに送信されます。

- 一部の映像は、ランダムアクセスメモリ (RAM) でのみ処理され、その他の映像は車両の装備に応じて保存されることがあります。
- 車両は、周囲の撮影に用いられる室外向きカメラ (OFC) を搭載していることがあります (ドライブレコーダー)。
- また車内の撮影に用いられる室内向きカメラ (IFC) を搭載することができます。
- この2種類の映像はすべて車内に保存されます。
- カメラを起動させる場合は、ドライバーは居住地の法律要求を確認する責任があります。
- OFC または IFC を起動させる前に、関係法律の要求を確認してください(国によっては、IFC の使用許可を得る必要があり、ドライブレコーダーに利用される OFC を厳しく制限する国もあります)。
- 搭載を考えられるカメラの詳細については、本オーナーズマニュアルにおける「BYD アラウンドビューシステム」のセクションを参照してください。

車の第三者への譲渡、およびオフラインモード

- 車の譲渡の場合、つまり、別の人が使用していた車を購入、または譲渡を受ける場合に、新所有者は、インフォテインメントシステムを介し設定されたカスタマイズ/ユーザー設定のすべてにアクセスできます (アドレステーブル、ナビゲーションシステムなど)。
- 車両をオフラインモードに設定することにより、車とBYD データサーバー間の通信、および車両の関係データ・個人データの処理を制限することができます。
- PAD をクリックし、 Wi-Fi を OFF にします。
- Wi-Fi は、次の操作でも OFF にできます。 → システム設定 → Wi-Fi → OFF の順にクリックします。

当局への個人情報開示

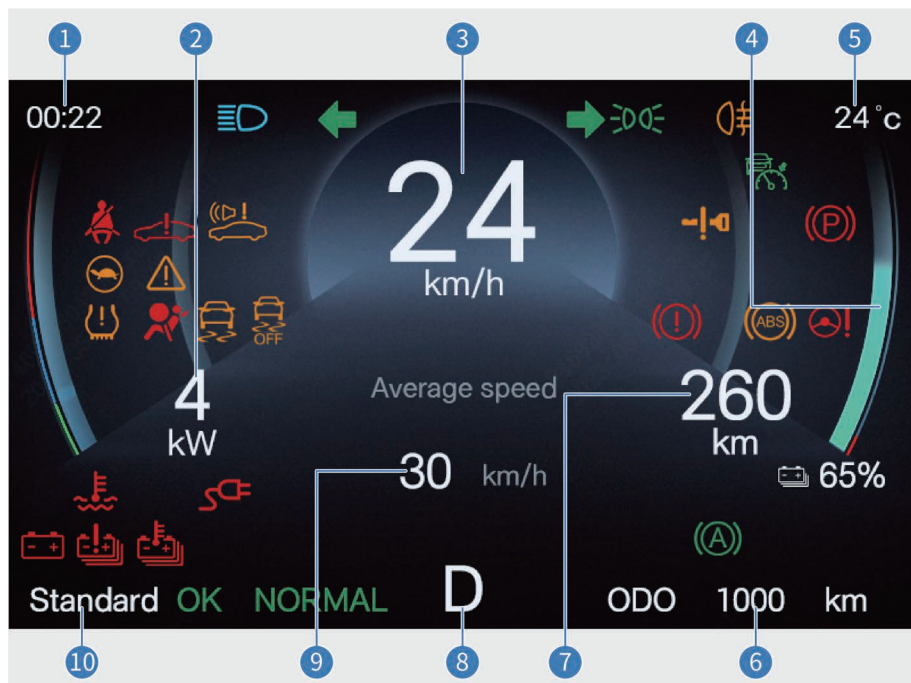
- BYD は、法律で許可されている、またはお客様の同意を得た場合にのみ第三者に対し個人データを開示します。
- ただし、適用される法律にしたがい、政府機関は車からデータを読み出す権限を付与されることがあります (例えば、事故究明のために、データをエアバッグコントロールユニットから読み出します)。
- 法律で義務付けられている場合、BYD は犯罪捜査などの要求にしたがい、お住まいの国 / 地域の政府当局に対しデータを開示する義務を負う場合もあります。

ユーザーのデータ保護の権利

- BYD は、お客様のプライバシーを尊重し、すべてのデータ保護法、特に一般データ保護規則（GDPR）および適用する現地の法律を厳しく遵守します。
- それらの法律によって個人データが処理される際に、オーナーは特定の権利を有します。
- データ主体は、情報の通知を受ける権利、アクセス権、訂正権、削除権（「忘れられる権利」）、および個人データの処理に異議を唱える、または制限する権利（または同意を撤回する権利、およびデータの移植性に対する権利）を有します。
- 場合によっては、それらの権利は制限されることがあります。例えば、お客様のデータを処理する法的義務があると表明できる場合、または情報の提供により、別の人物に関する個人データが開示される場合、もしくは法律によりそれらの情報の開示が禁止される場合です。
- 場合によっては、同意を撤回されたとしても、当社は関係データを保持できる場合があります。
- データ処理やデータ保護、およびオーナーが有する権利についての詳細については、マルチメディアシステムで最新版の車両プライバシーポリシーをご覧ください（[車両設定](#) → [システム設定](#) → [更なる詳細](#) → [プライバシーポリシー](#)）。

2-1 コンビネーション	
メーター	50
コンビネーションメーター	
イメージ	50
メーター表示灯	51

コンビネーションメーターイメージ






- | | |
|---------------|-------------|
| ① 時間 | ⑥ 総走行距離 |
| ② パワーメーター | ⑦ 航続可能距離 |
| ③ スピードメーター | ⑧ シフトポジション |
| ④ パワーバッテリー残量計 | ⑨ 平均速度 |
| ⑤ 外気温度 | ⑩ 回生ブレーキモード |

メーター表示灯

	方向指示表示灯		ポジションランプ表示灯
	ハイビーム表示灯	NORMAL	ノーマルモード
OK	OK 表示灯		ACC 動作状態表示灯 *
	オートビークルホールド表示灯 (待機状態に入ると、メーター表示灯は白色で点灯します)		駆動パワー制限警告灯
	マスターウォーニング表示灯		リモートキーシステム警告灯
	ABS 故障警告灯		ESC OFF 警告灯
	ESC 故障警告灯		タイヤ空気圧警告灯
	ドライバー眠気注意力警告灯 *		幼児置き去り検知表示 / 警告灯 *
	リアフォグランプ表示灯		AVAS (車両接近通報装置) 故障警告灯
	パーキングシステム故障警告灯		エアバッグ故障警告灯
	ステアリングシステム故障警告灯		シートベルト非着用警告灯
	モーター冷却水オーバーヒート警告灯		パワーバッテリー充電接続表示灯
	低電圧給電システム故障警告灯		パワーバッテリー過熱警告灯

2
コンビネーションメーター

	パワーバッテリー故障警告灯		パワートレイン故障警告灯
	電動パーキングブレーキ表示灯		

警告灯 / 表示灯について

リモートキーシステム警告灯

- リモートキーが車内にない状態で「スタート/ストップ」ボタンを押すと、警告灯が数秒間点灯すると同時にメーターのブザーが1回鳴り、コンビネーションメーターに「キー検出不可。車内にキーがあるか確認」と表示されます。
- リモートキーを所持して車に乗り込み「スタート/ストップ」ボタンを押すと、警告灯は点灯せずに電源ポジションを入れて車を始動させることができます。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押したときに警告灯が点滅している場合は、キーのバッテリー残量低下を表します。
- キーが車内にない場合、メーターに「キーが検知されていません。車内にあるかをご確認ください」と表示されます。

ABS 故障警告灯

- ABS（アンチロックブレーキシステム）故障警告灯は、電源ポジションを「OK」にしたときに点灯します。アンチロックブレーキシステム（ABS）が正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。システムに故障などが発生したときは、故障が解消されるまで警告灯は再び点灯します。
- ABS 故障警告灯が点灯（パーキングシステム故障警告灯は消灯）している場合は、アンチロックブレーキシステムは作動していませんが、ブレーキシステムは正常に作動します。
- ABS 故障警告灯が点灯（パーキングシステム故障警告灯は消灯）している場合は、アンチロックブレーキシステムが作動しないため、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にホイールがロックします。

- 下記状況のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、車の点検を依頼するようおすすめします。
 - 電源ポジションを「OK」にしたとき、警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

アドバイス

- 操作中に警告灯がしばらく点灯することは、異常ではありません。
- パーキングシステム故障警告灯とABS故障警告灯が同時に点灯した場合は、ブレーキをかけてもアンチロックブレーキシステムが機能せず、車両姿勢も極めて不安定な状態になるため、ただちに安全な場所に停車し、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- ABS（アンチロックブレーキシステム）表示灯とブレーキシステム表示灯が同時に点灯し、かつEPBが完全に解除された場合は、前後タイヤの制動力配分システムも効かなくなったことを表します。



タイヤ空気圧警告灯

- タイヤ空気圧警告灯は、電源ポジションを「OK」にしたときに点灯します。タイヤ空気圧モニタリングシステムが正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、警告灯が再び点灯します。
- タイヤ空気圧警告灯が点灯または点滅すると同時に、メーターのインフォメーションディスプレイに「チェック TPMS」と表示され、タイヤ空気圧表示画面の数値部に「---」が表示された場合は、タイヤ空気圧モニタリングシステムが故障していることを表します。
- タイヤから「信号異常」が発信された場合は、タイヤ空気圧信号が干渉を受けている、またはタイヤ空気圧モニタリングモジュールが破損している可能性があります。
- タイヤ空気圧警告灯が高速で点滅すると同時に、メーター内のインフォメーションディスプレイに表示される、タイヤ空気圧表示画面の数値表示部の一部が赤くなった場合は、該当タイヤに急激な空気圧の減少があることを表します。

- タイヤ空気圧警告灯が常時点灯すると同時に、コンビネーションメーターのタイヤ空気圧表示画面の一部が黄色になった場合は、該当タイヤの空気圧が少ない状態であることを表します。1 つまたは複数のタイヤの温度数値が黄色になった場合、タイヤ温度が高すぎることを表します。

上記のいずれかが発生した場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、車の点検を依頼するようおすすめします。



ESC 故障警告灯

- ESC（横滑り防止装置）故障警告灯は、電源ポジションを「OK」にしたときに点灯します。ESC 機能が正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、故障が解消されるまで警告灯は再び点灯します。
- 走行中に ESC 故障警告灯が点滅している場合は、ESC システムが作動していることを表します。
- ESC 故障警告灯が点灯（ABS 故障警告灯、パーキングシステム故障警告灯は消灯）している場合は、ESC の車両安定性制御は無効になりますが、アンチロックブレーキシステムおよびブレーキシステムは正常に作動します。
- ESC 故障警告灯が点灯（ABS 故障警告灯、パーキングシステム故障警告灯は消灯）している場合は、横滑り防止装置が作動しないため、急ハンドルや前方障害物の緊急回避時に、車両姿勢が極めて不安定な状態になります。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、車の点検を依頼するようおすすめします。
 - 電源ポジションを「OK」にしたとき、電源が入っても点灯しない（セルフテストなし）。
 - 運転中に警告灯が点灯し続ける。

i アドバイス

- 操作中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。
- ABS 故障警告灯、ブレーキシステム警告灯が点灯すると同時に、ESC 故障警告灯も点灯した場合、ブレーキをかけると車両姿勢が極めて不安定な状態になります。このとき、アンチロックブレーキシステムが完全に機能しないため、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。

**ESC OFF 警告灯**

- 「ESC OFF スイッチ」を押すと、ESC OFF 警告灯が点灯し続けます。この場合、横滑り防止装置は機能しません。再び「ESC OFF スイッチ」を押すと、ESC OFF 警告灯が消灯し、横滑り防止装置が機能するようになります。

i アドバイス

- ESC OFF 警告灯が点灯している場合は、ブレーキをかけても ESC システムが機能せず車両姿勢が不安定になります。ドライバーは急ハンドルや突然現れた障害物の緊急回避時に、必ず警戒感を高めながら低速で走行してください。

**駆動パワー制限警告灯**

- パワーバッテリー残量が低下し、車のパワーが制限されたときに点灯します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。

**マスターウォーニング表示灯**

- 表示灯が点灯している場合は、要注意であることを表します。また、インフォメーション表示部に故障や警告のメッセージが表示されます。



幼児置き去り検知表示 / 警告灯 *

- 幼児置き去り検知表示灯*：幼児置き去り検知システムを OFF にすると表示灯が点灯し、「OFF」のメッセージが5秒表示されます。「ON」または「遅延」をクリックすると表示灯が消灯し、幼児置き去り検知警告機能が正常に戻ります。
- 幼児置き去り検知警告灯*：故障している場合は、幼児置き去り検知システムの故障メッセージが5秒表示され、警告灯が点灯します。幼児置き去り検知システムが故障している場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での点検をおすすめします。



ドライバー眠気注意力警告灯 *

- ドライバーモニタリングシステムは、ドライバーの操作状態を検知してドライバーの疲労度合いを評価します。評価結果に応じて、リアルタイムにドライバーへ注意喚起することで運転の安全性を高めます。



AVAS（車両接近通報装置）故障警告灯

- AVAS（車両接近通報装置）が故障すると表示灯が点灯します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡するようにおすすめします。



シートベルト非着用警告灯

- 電源ポジション「OK」時、フロント側およびリア側のシートベルトが未着用の場合に点灯します。シートベルトが確実に装着されるまで点灯し続けます。



エアバッグ故障警告灯

- 電源ポジション「OK」時に点灯し、エアバッグシステムが正常に作動している場合は、数秒後に警告灯が消灯します。エアバッグ ECU、衝突センサー、インフレーター、警告灯、結線、および電源をモニタリングするものです。
- 下記状況のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めに BYD 正規ディーラー

または BYD 指定サービス工場に連絡し、車の点検を依頼するようおすすめします。

- 電源ポジションを「OK」にしたとき、警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
- 運転中に警告灯が点灯する。

パーキングシステム故障警告灯

- ブレーキフルードの液量が低下している、またはブレーキシステムが故障している場合に警告灯が点灯します。下記状況のいずれかが発生した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
 - 電源ポジションが「OK」の状態でもブレーキフルードの液量が低下している場合に警告灯が点灯します。

アドバイス

- ブレーキフルードの液量が低下している状態で運転し続けることは、非常に危険であるため、運転を続けしないでください。
- 車を始動後、ブレーキフルードの液量に問題がなく、電動パーキングブレーキシステムが正常に作動している（電動パーキングブレーキスイッチをスムーズに引き上げたり、解除することができ、「電動パーキングブレーキシステムを確認」のメッセージが出ていない）場合、警告灯は常時点灯します。
- パーキングブレーキ故障警告灯と ABS 故障警告灯が同時に点灯している場合。

アドバイス

- 操作中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。

ステアリングシステム故障警告灯

- ステアリングシステム警告灯が常時点灯している場合は、ステアリングシステムが故障しているため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での点検をおすすめします。

アドバイス

- ステアリングシステムは、モーターによりステアリングホイールを回すための力を軽減するものです。
 - ステアリングホイールを回すとき、モーターの動作音（「ぶんぶん」のような音）が聞こえることがありますが、故障ではありません。
 - ステアリングホイールを 5 秒以上全切り（限界位置を保持）のままにしないでください。5 秒を超えると、過熱保護機能が作動し、操舵力が重くなる、または損傷します。
- 長時間頻繁に据え切りをした場合、ステアリングシステム故障警告灯が点灯していないのに操舵が重く感じられることがありますが、故障ではありません。
 - 長時間頻繁に据え切りした場合、システムの過熱による操舵が重く感じられることがないようにステアリングシステムのアシスト力が低下します。このような状況があった場合、頻繁なハンドル操作を避けるか、停車して電源を切ってください。システムは 10 分以内に正常な状態に戻ります。

警告

- ステアリングシステム故障警告灯が点灯している場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡をおすすめします。

低電圧給電システム故障警告灯

- 運転中に警告灯が点灯している場合は、低電圧給電システムに不具合があることを表します。そのまま運転を続けると、突然停止するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。エアコン、ファン、ラジオなどを止めて安全な場所に停車し、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に救援を依頼をおすすめします。

- 警告灯が点灯している場合は、充電および放電を停止します。
- 走行中は警告灯が点灯し続け、車の速度を制限します。
- 充電または給電しないときは、DC モジュールおよび低電圧バッテリーモジュールの作動状態を知らせます。

パワートレイン故障警告灯

- パワートレインが故障した場合に点灯します。
- 下記状況のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡して、車の点検を依頼するようおすすめします。
 - 電源ポジションを「OK」にしたとき、警告灯が点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

注意

- できるだけ警告灯が点灯している状態で運転しないでください。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、車の点検および問題の確認を依頼するようおすすめします。

パワーバッテリー過熱警告灯

- 警告灯が点灯している場合、パワーバッテリーの温度が高すぎることを表します。車を停車し温度を下げてください。パワーバッテリー過熱警告灯が点滅している場合は、ただちに安全な場所に車を停車し、早めに車を離れるようおすすめします。
- 下記条件で走行した場合、パワーバッテリーは過熱することがあります。
 - 炎天下や長時間・長距離で上り坂を走行する。
 - 長時間にわたり発進・停止を頻繁に繰り返すような交通状況、頻繁に急加速・急ブレーキを繰り返す、または長時間の連続走行をする場合。



パワーバッテリー故障警告灯

- 電源ポジション「OK」時に点灯し、パワーバッテリーシステムが正常に作動している場合は、数秒後に警告灯が消灯します。システムの故障があった場合は、警告灯が再び点灯します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、車の点検を依頼するようおすすめします。
- 下記状況のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、車の点検を依頼するようおすすめします。
 - 警告灯が電源ポジション「OK」時に点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が常時または時々点灯する。










モーター冷却水オーバーヒート警告灯

- 警告灯が点灯している場合、モータークーラントの温度が高すぎることを表します。ただちに安全な場所に駐車し、警告灯が消灯するまでお待ちください。

メーターのその他故障について

メーターには次のような故障メッセージが表示されることがあります。その都度、推奨される対応方法にしたがって操作してください。

アイコン表示	故障メッセージ	対応方法
	車載充電システムを確認してください	車載充電システムが故障しています。充電設備の接続異常がないか確認したうえで、新たな充電設備に接続してください。解消しなかった場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
	ネットワーク故障 安全に停車し、BYD サービスに連絡してください	車のデータネットワークが故障している可能性があることを表します。周囲の安全を確認したうえでただちに停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
	EV 機能が制限されています	EV 機能が制限されていることを表します。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場点検を行うようおすすめします。
	ヘッドライトシステムを確認	ヘッドライトシステムが故障していることを表します。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
	運転支援機能が制限されています *	衝突予測警告システムや自動緊急ブレーキシステムが故障していることを表します。車を停車させ、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
	運転支援機能が制限されています *	ブラインドスポットアシストシステムが故障していることを表します。車を停車させ、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
	運転支援機能が制限されています *	ナビゲーションパイロットが故障していることを表します。車を停車させ、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。

アイコン表示	故障メッセージ	対応方法
	インテリジェントカメラ機能制限あり 利用不可*	インテリジェントカメラが利用できないことを表します。フロントガラスに搭載されているカメラの撮影範囲内に異物、曇りがないかを点検してください。上記の故障がない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場までご連絡ください。
	シフト機構を確認してください*	シフトコントローラーが故障していることを表します。ただちに停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。

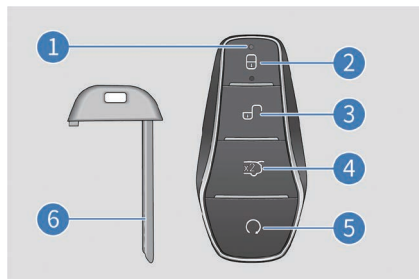
3-1 ドアおよびキー	64
キー.....	64
ドアの施錠 / 解錠.....	68
スマートエントリー& スタートシステム.....	75
チャイルドロック.....	77
3-2 シート	78
シートについて.....	78
フロントシートの調節.....	80
リアシートの収納.....	82
ヘッドレスト.....	83
3-3 ステアリングホイール	84
ステアリングホイール コンビネーションスイッチ.....	84
ステアリングホイールの 手動調節.....	89
3-4 スイッチ	90
ライトスイッチ.....	90
ワイパースイッチ.....	95
助手席側ウィンドウ スイッチ.....	100
走行距離切替スイッチ.....	100
運転支援スイッチユニット...	101
助手席側エアバッグ スイッチ.....	103
自動緊急通報システム E-Call.....	105
ハザードランプスイッチ.....	106
サンシェードスイッチ*.....	106
ルームランプスイッチ.....	107

キー

リモートキー

リモートキーを携帯し、フロントドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアの解錠 / 施錠ができます。ボタン操作でもドアの解錠 / 施錠、テールゲートのオープンおよびリモートスタートなどができます。

- 1 表示灯
- 2 ロックボタン
- 3 アンロックボタン
- 4 テールゲートオープンボタン
- 5 スタート / ストップボタン
- 6 メカニカルキー



警告

- リモートキーの中に入っているボタン電池は危険なため、電池の新旧を問わずお子様の手の届かないところに置いてください。
- 電磁波による電子機器への影響があるため、植え込み型心臓ペースメーカーまたは植え込み型除細動器を使用されている方は、スマートエントリー&スタートシステムのアンテナから遠く離れてください。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器、またはそれ以外の医療電子機器を使用されている方は、電磁波がそうした機器におよぼす影響を製造メーカーに確認してください。電磁波は、そのような医療機器の使用に予測できない悪影響をおよぼすおそれがあります。

▲ 注意

- リモートキーは電子部品です。リモートキーの破損を防ぐため次の説明にしたがってください。
 - リモートキーをインストルメントパネルなどの温度が高いところに置かないでください。
 - リモートキーを勝手に分解しないでください。
 - リモートキーで他のものを強く叩いたり、キーを落としたりしないでください。
 - リモートキーを水に浸けたり、超音波洗浄機で洗浄したりしないでください。
 - リモートキーを携帯電話などの電磁波が発生する装置と一緒に置かないでください。
 - リモートキーに電磁波を遮断するものを付けしないでください（例：金属シール）。
 - 同一の車にエマージェンシーキーを登録することができます。詳細な説明については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- リモートキーの作動範囲内でドア操作ができない、またはキーの表示灯が暗く点灯しない場合：
 - 近くにリモートキーの動作を干渉するラジオ局や航空無線発信機がないかを確認してください。
 - リモートキーのバッテリーが切れている可能性があります。リモートキーのバッテリーを点検してください。バッテリーの交換が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- リモートキーを紛失した場合は、車の盗難事故や予期せぬ事故がないようにできるだけ早く BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- 送信周波数の変更、送信電力の増加（送信周波数アンプの追加を含む）、アンテナの外付けや他の送信アンテナの流用をしないでください。
- 使用時に、合法的な様々な無線通信業務に干渉がないようにしてください。干渉が見つかった場合は、ただちに使用を停止し、干渉の解消措置を取ってから使用するようにしてください。
- 小電力無線機を使用するときは、様々な無線通信業務の干渉、または産業用、研究用および医療用設備の放射干渉を避けてください。
- 飛行機や空港の近くで使わないでください。機内でスイッチが押されると電波が発信され、飛行機の運航に支障をきたすおそれがあります。
- 車から離れるときは、必ずキーを携帯し、施錠してください。また、絶対に人（特にお子様）を 1 人で車内に残さないでください。

メカニカルキー

メカニカルキー（リモートキー内）：運転席側ドアの解錠および施錠ができます。使わないときは、メカニカルキーをリモートキーに確実に収めてください。

メカニカルキーの取り出し

図のようにリモートキー上の「PUSH」ボタン②を押し、矢印①方向にメカニカルキーを取り出します。



- メカニカルキーを使用した後は、「PUSH」ボタン②を押しながらメカニカルキーを戻してください。

NFCカードキー*

- NFCキー:NFCカードキーを運転席側ドアミラーのマークが付いている部分にかざすと、電源ポジションが「OFF」の状態ですべてのドアの解錠/施錠ができます。



⚠ 注意

- NFCカードは電子機器です。NFCカードが機能しなかったり破損したりしないように次の説明にしたがってください。
 - ワイヤレス充電器をONしている場合は、NFCカードを充電エリアに置かないでください。
 - NFCカードを使用するとき、電磁波を遮断するものを付けしないでください（例：金属シール、携帯電話の金属製バックカバーなど）。
 - NFCカードをインストルメントパネルなどの高温部に置かないでください。
 - NFCカードを強く曲げないでください。
 - NFCカードを他の固いものと一緒に置かないでください。
- NFCカードは近距離無線通信を行うもので通信距離は2cm以内です。確実な認識のため、NFCカードをドアミラーに1～2秒ほどかざしてください。
- NFCカードは、NFC通信規格に基づき用意したキーです。車の安全性を確保するために、大切に保管してください。紛失した場合、紛失したカードの作動を解除するために、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で新たにカードを作製するようおすすめします。

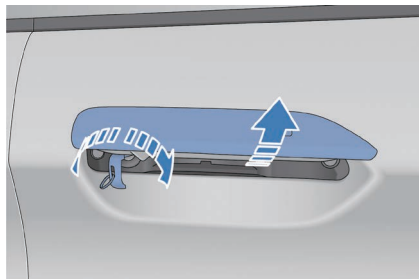
ドアの施錠 / 解錠

メカニカルキーでの施錠 / 解錠

上のほうにフロントドアハンドルを起こし、キーを鍵穴に挿し込んでから回します。

- 解錠：時計回りにキーを回します。

- メカニカルキーで解錠した後、キーを抜き出してから、ドアを開けます。



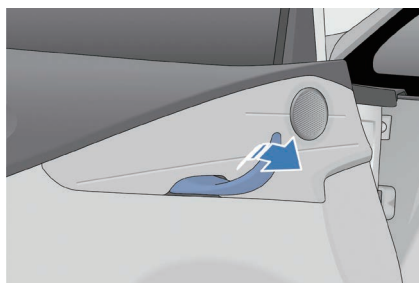
- 施錠：反時計方向にキーを回します。

- 右側フロントドアが右側リアドアと同じ高さ、または右側リアドアより低いことを確認してから右側フロントドアを閉め、手でドアを押し付けながら反時計回りにキーを回してドアを施錠します。

ノブ操作でドアを開けるとき

- 解錠した状態でノブを1回引き上げると、車内でドアが開けられません。

- 施錠した状態で2回連続でノブを引き上げなければ、車内でドアを開けることができません。



⚠ 警告

- 誤ってドアを開け、予期せぬ事故を起こすことがないようにお子様にノブを触らせないでください。
- 車にお子様を乗せている場合は、必ずチャイルドロック機能を ON してください。

⚠ 注意

- チャイルドロックが搭載されているため、チャイルドロックを解除しなければ、車内でノブを引き上げても、リアドアを開けることができません。

リモートキー操作での施錠 / 解錠

- ワイヤレスリモートコントロール機能は、作動範囲内であればすべてのドアの解錠や施錠、付加機能が操作できます。
- 登録済みのリモートキーを携帯し、作動範囲内でリモートキーのボタンを押すと、すべてのドアの施錠または解錠ができます。

施錠

- 車の電源ポジションが「OFF」で、すべてのドアおよびボンネットが閉まっているときにロックボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠され、ターンシグナルランプが1回点滅します。施錠後、すべてのドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- ドアのいずれかが開いている場合は、ターンシグナルランプが点滅せず、ホーンが1回鳴ります。
- 電源ポジションを「OFF」にしていない場合は、ターンシグナルランプが点滅せず、ホーンが1回鳴ります。



3

リモートコントロールの操作

解錠

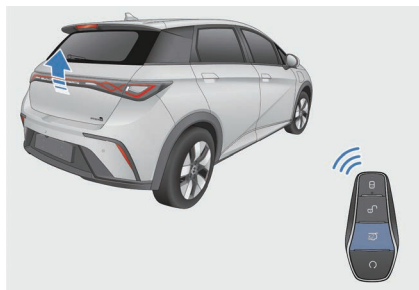
- アンロックボタンを押すと、すべてのドアが同時に解錠され、ターンシグナルランプは2回点滅します。
- リモートキーの操作で同時にすべてのドアを解錠する場合は、ドアが開いていなくてもルームランプが15秒間点灯してから消灯します。
- 盗難防止機能が作動している状態でリモートキーの操作によりドアを解錠した場合は、30秒以内にドアを開けてください。そうしない場合は、すべてのドアは自動的に施錠されます。
- 「ロック」または「アンロック」ボタンを押し続けても、施錠または解錠することはできません。ボタンから指を離し、再度「ロック」または「アンロック」ボタンを押してください。

自動下降

- リモートキーのアンロックボタンを長押しすると、すべてのドアガラスを自動で開けることができます。

リモートキーのリモコン操作でテールゲートの開 / 閉

- 2回連続でリモートキーの「テールゲートオープン」ボタンを押すと、ターンシグナルランプが2回点滅しテールゲートが開きます。

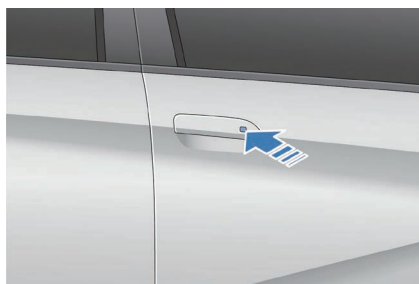


- キー閉じ込め防止機能
 - 施錠された状態で、キーを車内やトランクルームに置いたままテールゲートを閉めた場合、キーの車内への置き忘れを防ぐため、自動的にドアを解錠しターンシグナルランプを2回点滅させます。

マイクロスイッチ操作での施錠 / 解錠

施錠

- 車の電源ポジションが「OFF」で、ドアを閉めた状態で施錠されていない場合、リモートキーを携帯しながらフロントドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアが同時に施錠され、ターンシグナルランプが1回点滅します。



- 電源ポジションを「OFF」にしていない場合は、ターンシグナルランプが点滅せず、ホーンが1回鳴ります。
- ドア、ボンネット、テールゲートのいずれかが開いている状態でも、マイクロスイッチ操作により、閉まっているドアを施錠することができます。ただし、ターンシグナルランプは点滅せず、ホーンが1回鳴ります。


解錠：

- 施錠されている状態でリモートキーを携帯し、作動範囲内でフロントドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアが同時に解錠され、ターンシグナルランプが2回点滅します。
- 盗難防止機能が作動している状態で解錠した場合は、30秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアは自動的に再度施錠されます。
- 次のいずれかの場合は、マイクロスイッチを押しても解錠/施錠されません。
 - ドアを開け閉めしているときに、マイクロスイッチを押した場合。
 - リモートキーが車内に置かれている場合。

自動下降

フロントドアハンドルのマイクロスイッチを長押しすると、ドアを解錠して窓ガラスを下すことができます。

アドバイス

- リモートキーがアウトドアハンドル、またはウィンドウに近すぎる場合は、この機能が有効にならず操作ができないことがあります。
- マイクロスイッチの長押しでウィンドウガラスを開閉させる機能は、**マルチメディア**  **→ 車両設定 → ドア・窓とロック** の設定画面で開閉操作を行うことができます。(詳細は車の実際の仕様によります。)

マイクロスイッチ操作でのテールゲート解錠

- 車が施錠されている状態でリモートキーを携帯し「テールゲートマイクロスイッチ」を押すと、テールゲートを解錠させることができます。
- 車が解錠されている状態で「テールゲートマイクロスイッチ」を押すと、テールゲートを開けることができます。

NFCカードでの施錠/解錠

- NFCカードを運転席側ドアミラーのNFCマークが付いているところに近づけます。

ドアの施錠：

- 車の電源ポジションを「OFF」にしてドアを閉じ、施錠していない状態で NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざすと、すべてのドアが同時に施錠されます。このとき、ターンシグナルランプが 1 回点滅します。

ドアの解錠：

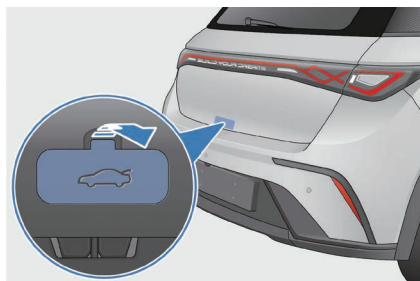
- イモビライザーが機能している状態で NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざすと、すべてのドアが同時に解錠されます。このとき、ターンシグナルランプは 2 回点滅します。
- イモビライザーが機能している状態で NFC カードで解錠した場合、30 秒以内にドアを開けてください。そうしない場合、すべてのドアは自動的に再度施錠されます。
- NFC カードで解錠してから 4 分間はドライバーに操作権限を与えます。この権限は電源ポジションを「OFF」にしたときに解除されます。
- 以下の場合は、NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざしても解錠 / 施錠がされません。
 - ドアの開閉を操作すると同時に、NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざす場合。
 - 車の電源ポジションが「OFF」以外のポジションに入っている場合。

⚠ 注意

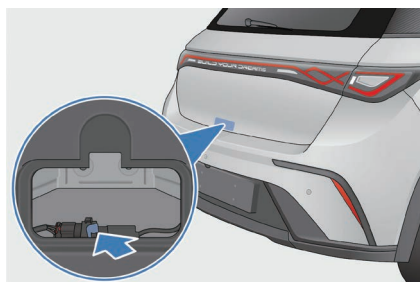
- キーレス操作権限の有効時間は最大 4 分間です。

車内からのテールゲートの緊急時解錠

1. テールゲートプロテクターからテールゲートロック用ハンドホール蓋を外します。



2. レバーを動かすと、テールゲートが解錠されます。



3

コントロールローラーの操作

i アドバイス

- 車が停電した場合は、車内からテールゲートの緊急時解錠ができます。

集中ドアロックの施錠 / 解錠

集中ドアロックスイッチでの車の施錠 / 解錠

詳細は「[集中ドアロック](#)」を参照してください。

ドアの自動施錠 / 解錠

- 速度が約 8km/h を超えると、すべてのドアは自動的に施錠します。
- 「スタート / ストップ」 ボタンを押して、車の電源ポジションを「OK」から「OFF」にすると、すべてのドアが自動的に解錠されます。

すべてのドアを同時に施錠 / 解錠する

- 車が盗難防止モードに入らずに施錠されると、集中ドアロックの施錠ボタンのバックライトが点灯します。車が解錠されると、バックライトが消灯します。

- 集中ドアロックの施錠ボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠されます。その場合、車の外側からの解錠操作ができなくなります。ドアを開けるには、インナードアノブを1回引く必要があります。ロックが解錠されてから、再びインナードアノブを引くと、ドアが開きます。

i アドバイス

- 車が強い衝突を受けたときは、すべてのドアは自動的に解錠されます。自動的に解錠されるかどうかは、衝撃の強さや事故などのパターンにより決定されます。

メカニカルキーでの全ドア緊急施錠

- 集中ドアロックが機能しない場合は、ロック状態になるまでキー操作で運転席側以外のドアの緊急ロック用ツマミを回します（時計回りに左側ドアのツマミを回し、反時計方向に右側ドアのツマミを回します）。その後、ドアを閉じてメカニカルキーで運転席側ドアを施錠します。このとき、車が施錠されている状態で、4ドアのアウトドアハンドルを操作してもドアを開けることができません。



- 解錠するときは、メカニカルキーで運転席側ドアを解錠します。解除後、車に乗り込んでから他のドアのインナードアノブを操作してドアを解錠し、それからアウトドアハンドルを引くとドアを開けることができます。またはインナードアノブを1回引き上げてドアを解錠させるか、もう1回インナードアノブを引き上げるとドアを開けることができます。

i アドバイス

- 操作時、キーの変形や折れがないように力を控えてください。

スマートエントリー&スタートシステム

機能を ON にする場合

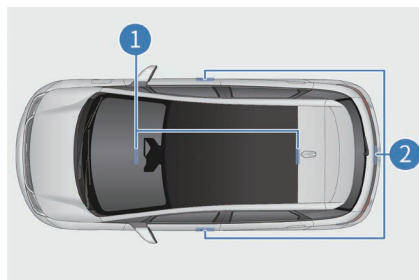
リモートキーを携帯し「ロック / アンロック」ボタンを押すことで、ドアを解錠 / 施錠できます（詳細は「[リモートキー操作での施錠 / 解錠](#)」または「[マイクロスイッチ操作での施錠 / 解錠](#)」をお読みください）。

車を始動する場合

リモートキーを携帯し、ブレーキペダルを踏み込みながら「スタート / ストップ」ボタンを押すことで車を始動させます（詳細は「[車の始動](#)」を参照してください）。

アンテナの搭載位置

- ① 室内アンテナ
- ② 室外アンテナ



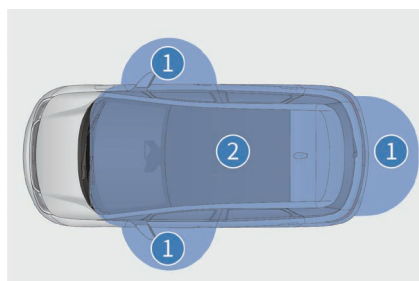
3

コントロールの操作

作動範囲

登録済みのリモートキーが作動範囲内になれば、スマートエントリー&スタートシステムは機能しません。

- ① 機能が ON になる作動範囲——運転席側ドアハンドルおよびテールゲートオープンスイッチから約 1m の範囲内。
- ② 機能が作動する作動範囲——室内。



他車のリモートキーが本車のリモートキーに近づいている場合、ドアの解錠時間が普通より長くかかりますが、異常ではありません。

i アドバイス

次の場合は、スマートエントリー&スタートシステムは、正常に作動しないことがあります。

- 近くにテレビ塔、発電所、ラジオ放送局などの強い電磁波を発生する施設がある場合。
- リモートキーを双方向無線電話や携帯電話などの通信装置と一緒に携帯している場合。
- リモートキーが金属に接触したり、覆われたりしている場合。
- ドアハンドルを素早く操作している場合。
- リモートキーがドアハンドルに近づいた場合。
- 近くにある別の車の中でワイヤレスリモートコントロール機能进行操作している場合。
- リモートキーのバッテリーが切れている場合。
- リモートキーが高電圧設備、またはノイズが発生する設備の近くにある場合。
- リモートキーを他車のスマートエントリー&スタートシステムのキーや無線電波を発する他の装置と一緒に携帯している場合。
- 作動範囲内であっても、一部の場所（インストルメントパネルの上、グローブボックスの中、床）では、リモートキーが正常に作動しないことがあります。

- スマートエントリーシステムが正常に作動せず車に乗り込めない場合、リモートキーに内蔵されているメカニカルキーで運転席側ドアの解錠・施錠を操作する、またはワイヤレスリモートコントロール機能ですべてのドアの解錠・施錠を操作することができます。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押したとき、スタート機能が正常に作動しない場合は、下記に示す要因が考えられます。
 - リモートキーが作動せずにコンビネーションメーターのリモートキーシステム警告灯が点灯し、コンビネーションメーターに「キーのバッテリー残量が少なくなっています。できるだけ早くバッテリーを交換してください」とメッセージが表示されている場合は、リモートキーのバッテリーが切れていることが考えられます。
- スマートエントリー&スタートシステムがシステム故障で正常に作動しない場合は、すべてのリモートキーを携帯し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での修理をようおすすめします。

節電

- 車を運転しなくても、リモートキーと車との通信は常に行われています。そのため、リモートキーを車内、または車から 2m 以内のところに置かないでください。
- リモートキーは、長時間強い電磁波を受信するとバッテリーを急速に消耗するため、以下のような機材から 1m 以上離してください。
 - テレビ
 - パソコン
 - ワイヤレス充電器
 - 電気スタンド
 - 電気蛍光灯スタンド

チャイルドロック

チャイルドロックは、リアシートに座っている子供が不注意でリアドアを開けるのを防ぐための機能です。左リアドア、右リアドアの側面にチャイルドロック装置が備わっています。

- ① チャイルドロックボタン OFF
- ② チャイルドロックボタン ON

チャイルドロックボタンを ON にすると、乗員は、内側からリアドアを開けることができません。リアドアを開けるには、外側のドアハンドルを使用してください。



⚠ 注意

- 運転前には、特にお子様を車に乗せている場合、ドアが閉まり、かつチャイルドロック機能が作動していることを確認してください。
- シートベルトを正しく着用し、チャイルドロックを作動させることで、交通事故によるドライバーや乗客の車外放出を防止すると同時に、ドアが不意に開くことも防止します。

シートについて

- 走行中、シートバックを垂直に立てることが、最も有効な保護対策です。身体をシートバックにもたれるように座り、シートベルトを適切な位置に調整してください。
- 走行中に移動しないように荷物は適切に固定してください。荷物の積み込み高さはシートバックを超えないようにしてください。

警告

- 格納されているシートバックの上やトランクルームの中、荷物の上に座らないでください。そうしないと、緊急ブレーキ時や衝突発生時に、シートに正しく着座していない、またはシートベルトを正しく着用していない方は、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 走行中に、乗員を立たせたり、シート間を移動させたりしないでください。そうしないと、急ブレーキ時や衝突発生時、乗員は、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートの下にものを置かないでください。シートロック機構の機能に影響をおよぼしたり、不意にシート調節レバーを持ち上げたりすることでシートが急に動き出し、車を制御できなくなるおそれがあります。
- シートを調節する際は、手をシートの下に入れたり、動作中の部品に近づけたりしないでください。手や指が挟まれるおそれがあります。
- シートバックを調節した後、後ろへ身体を寄せてシートバックがロックされていることを確認してください。確実にロックされていない場合は、緊急ブレーキや事故の原因となり傷害を受けるおそれがあります。
- 運転中または走行中はシートバックを倒さないでください。シートベルトの肩ベルト部分が身体を正しく止めていない場合は、事故発生時にドライバーや乗員が肩ベルト部分にぶつかり、頸部などに重大な傷害を受けるおそれがあります。また、腰ベルトから滑り出して重大な傷害を受ける可能性があります。
- シートバックと背中間にクッションなどを入れないでください。運転姿勢が安定せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 折りたたんだシートバックの上に乗らないでください。シートを損傷したり、転んだりして思わぬ怪我をするおそれがあります。
- シートの思わぬ移動によって車が制御不能にならないように、走行中に運転側のシート調節をしないでください。
- 乗員が正しく着座するまでは、車を発進させないでください。

⚠ 注意

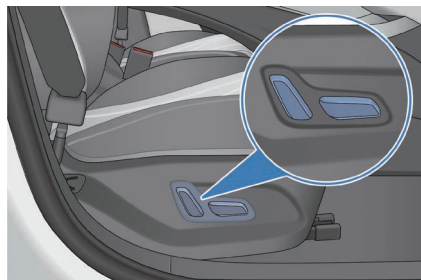
- ペダル、ステアリングホイールおよびインストルメントパネル上のコントローラーがドライバーの操作しやすい範囲内に入るように運転側シートを調節してください。
- シートを調節する前にシートベルトを締めないでください。
- シートを調節するときは、シートが乗員または荷物に当たらないようにしてください。

フロントシートの調節

フロントパワーシート位置の調節は、シートの前後位置、シートクッションの高さ*、シートバック角度調節を含みます。車に搭載されている機能に応じ、次の調節方法で対応してください。

シートポジション調節スイッチ

- 前後方向にシートポジション調節スイッチを操作すると、シートポジションを前後方向に調節することができます。
- スイッチの後部を上下方向に操作すると、シートクッションの高さを調節することができます。



シートバック角度調節スイッチ

- 前後方向にシートバック角度調節スイッチを操作すると、シートバックの角度を調節することができます。

アドバイス

- スイッチから手を離すと、シートは、現在の位置に止まります。シートの下にものを置かないでください。シートの動作を妨げるおそれがあります。

ヒーターシステム

- ヒーターシステムは、マルチメディアディスプレイ → エアコンボタン → シートヒーターボタンで ON または OFF を制御します。
- マルチメディアのトップページの「プルダウンメニュー」でシートヒーター設定アイコンを読み出すことができます。



ヒーターシステムの調節

- ドライバーは、マルチメディア内のヒーターアイコンの操作から、シートヒーターの動作を制御します。ヒーター機能は、2 段切替となっています。
- 電源ポジションを「ON」にするたびに、シートヒーター機能はデフォルトの OFF 状態となります。

リアガラスおよびドアミラーのヒーター

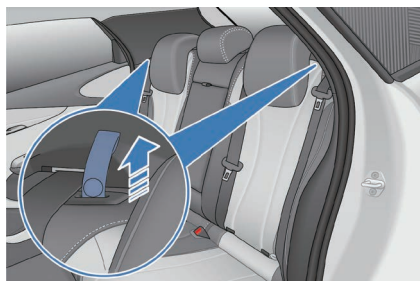
- ドライバーは、リアガラスおよびドアミラーのヒータースイッチの操作から、リアガラスおよびドアミラーのヒーター機能を ON または OFF にします。

警告

- 長時間連続して使わないでください。低温やけどの原因になります。特に乳幼児、高齢者、身体の不自由な方、薬を服用された方、糖尿病などの症状が原因で痛みを感じる機能が低下している方は注意してください。
- 突起があるものをシートに載せたり、ピンなどのとがったもので突き刺したりしないでください。

リアシートの収納

リアシート上のストラップを引っ張ると、リアシートのシートバックを倒すことができます。



⚠ 警告

- シートバックを起こすときは、ゆっくりと手で戻してください。急に戻すと身体に当たり、思わぬ怪我をするおそれがあります。
- シートバックを起こすときは、シートベルトを挟み込まないでください。挟み込まれているとシートベルトを正しく着用できません。

ℹ アドバイス

- シートバックの倒し方や起こし方が速すぎるとリアシートおよびシートバック上のシートベルトの破損や機能の異常が起きる場合があります。そのため、リアシートを倒すまたは起こすときは、ゆっくりと操作してください。
- リアシートを展開させるときは、勢いよくシートバックを後方へ押し付けないようにしてください。シートバックに力がかかり解錠できない場合があります。
- シートバックを起こしているときにバックルからシート上の開口部が正しく露出していないかをチェックしてください。
- シートベルトのタングプレートをバックルに差し込むときは、シートを反転させないでください。

ヘッドレスト

ヘッドレストの調節

1. ヘッドレストを高くする
ヘッドレストを適切な位置まで引き上げ、ロック音が聞こえたら手を離します。
2. ヘッドレストを低くする
ヘッドレストの高さ調節ノブを押したままヘッドレストを適切な位置まで下げ、ロック音が聞こえたら手を離します。
3. ヘッドレストの取り外し
ヘッドレストの高さ調節ノブを押したままヘッドレストを抜き出してからノブを離します。
4. ヘッドレストの取り付け
ヘッドレストの足を元の位置に差し込み、切り欠きが前に向くように保ちます。ヘッドレスト高さ調節ノブを押したまま、ヘッドレストを適切な位置まで下げてから手を離します。



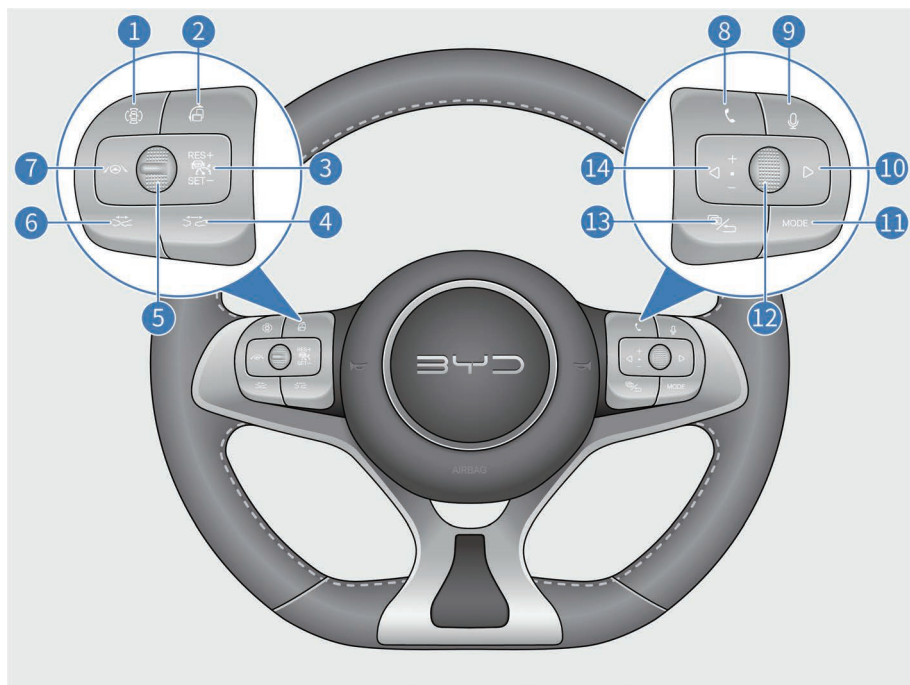
3

コントローラーの操作

警告

- ヘッドレストは、首や頭部の傷害を避けることができます。後頭部がヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節しないと、ヘッドレストの効果を最大限に発揮しませんので、乗員の身長に合わせてヘッドレストを適切な位置に調節してください。
- ヘッドレストの中心が耳の上部になるように位置を調節します。
- ヘッドレストの調節後、調整した位置で確実にロックされていることを確認してください。
- ヘッドレストが装着されていない車を運転しないでください。
- ヘッドレストのステーにもものをかけないでください。

ステアリングホイールコンビネーションスイッチ



- | | |
|-----------------------|----------------|
| ① BYD アラウンドビューシステム | ⑧ 電話ボタン |
| ② スクリーン回転ボタン | ⑨ 音声制御ボタン |
| ③ アダプティブクルーズコントロールボタン | ⑩ 右矢印ボタン |
| ④ 車間距離+ | ⑪ モードボタン |
| ⑤ 設定速度レバー | ⑫ ホイールボタン |
| ⑥ 車間距離- | ⑬ メーター/リターンボタン |
| ⑦ ナビゲーションパイロットボタン | ⑭ 左矢印ボタン |

電源ポジションを「OK」にすると、オーディオコントロールスイッチが使えるようになります。

左側ボタン

BYD アラウンドビューシステム

- BYD アラウンドビューモードの場合は BYD アラウンドビューシステムを OFF にします。BYD アラウンドビューモード以外の場合は、BYD アラウンドビューシステムを ON にします。

スクリーン回転ボタン

- スクリーン回転ボタンを押すと、マルチメディアタッチスクリーンを回転させることができます。

RES + (設定速度レバーを上方向に)

- ACC を有効にして、前回のシステム設定値を呼び出します。
- 設定速度は 5km/h ずつ加速します。

アダプティブクルーズコントロールボタン

- アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) の ON・OFF を操作します。

SET - (設定速度レバーを下方向に)

- 設定速度は 5km/h ずつ減速します。

車間距離 +

- ACC 追従走行機能作動中に、前の車との車間距離を 4 段切替で調整できます。1 回押すと 1 段上がります。

車間距離 -

- ACC 追従走行機能作動中に、前の車との車間距離を 4 段切替で調整できます。1 回押すと 1 段下がります。

ナビゲーションパイロットボタン

- ナビゲーションパイロット機能の ON・OFF を操作します。

アドバイス

- アダプティブクルーズコントロール機能の使い方については、詳細は「[アダプティブクルーズコントロール \(ACC\) システム](#)」および「[ナビゲーションパイロット \(ICC\)](#)」をお読みください。

右側ボタン

ホイールボタン

- 非メーターメニューモードでのマルチメディアの音量調節：
 - 上方向にホイールを回す場合：最大音量になるまで音量を1段ずつ上げます。
 - 下方向にホイールを回す場合：最小音量になるまで音量を1段ずつ下げます。
 - ホイールを押す場合：ミュートモードになります。
- メーターメニューモードでの調節：
 - 上方向にホイールを回す場合：スクロールアップで第2階層/第3階層メニューを選びます。
 - 下方向にホイールを回す場合：スクロールダウンで第2階層/第3階層メニューを選びます。
 - ホイールを押す場合：現在のオプションの詳細メニューに入るか、現在の設定を確定します。

注意

- メーターメニューモードをONにした後、マルチメディアシステムはミュートモードに入ります。マルチメディアの音量を調節する場合は、メーターメニューモードをOFFにしてください。

左矢印 / 右矢印ボタン

- マルチメディアラジオモードの場合：
 - ◀ボタンを押すと、前の放送局を選局します。
 - ▶ボタンを押すと、次の放送局を選局します。
- マルチメディア USB/Bluetooth 音楽 / サードパーティ音楽 APP などのモードの場合：
 - ◀ボタンを押すと、前の曲を再生します（曲番号 - 1）。
 - ◀ボタンを押すと、Bluetooth 通話記録、電話帳画面が表示され、スクロールアップで希望の項目を選びます。
 - ▶ボタンを押すと、スクロールアップで次の曲を再生します（曲番号 + 1）。
 - ▶ボタンを押すと、Bluetooth 通話記録、電話帳画面が表示され、

スクロールダウンで希望の項目を選びます。

- メーターメニューモードの場合：
 - ◀ ボタンを押すと、左へメインメニューおよびそのサブメニューを切り替えます。
 - ▶ ボタンを押すと、右へメインメニューおよびそのサブメニューを切り替えます。

電話ボタン

- 電話をかける / 電話を受ける（このボタンを押すと、オーディオシステムがミュートモードに入ります）。
- システムが Bluetooth と関係のない画面を表示し、Bluetooth を接続していない状態で短く押すと、システムが電話機選択メイン画面に切り替わります。Bluetooth に接続されている場合は、システムがダイヤル画面に切り替わります。
- ダイヤル画面に電話番号を入力するか、通話記録、電話帳画面で電話番号を選び、ボタンを短く押すと、ダイヤル機能が作動します。
- Bluetooth に接続した状態でダイヤル画面に番号が入力されていない場合、ボタンを短く押すとシステムが通話記録画面における発信履歴画面に直接切り替わります。再びクリックすると、システムが発信履歴画面の一番上の電話番号を自動的にダイヤルします。

音声制御ボタン

- ボタンを押すと、マルチメディアタッチスクリーンが音声制御画面に切り替わり、音声機能进行操作することができます。
- ボタンを再び押すと、新たに音声コマンドが入力されます。

メーター / リターンボタン

- メーターがメニューモード以外の場合、メーター / リターンボタンを押すと、メーターメニューが表示されます。
- メーターがメニューモードの場合、メーター / リターンボタンを押すと、前の画面に戻ります。前の画面がなければ、メニュー画面が閉じます。
- Bluetooth 通話画面の場合は、短く押すことで通話を終了させることができます。

モードボタン

- モード選択：モードボタンを押すと、メディア APP、周辺機器、プリインストール APP を切り替えることができます。

ホーンボタン

- ホーンのパッド面を押すと、ホーンが鳴ります。手を離すと、ホーンが止まります。

注意

- 長時間ホーンのパッド面を押さないでください。ホーンの破損につながるおそれがあります。

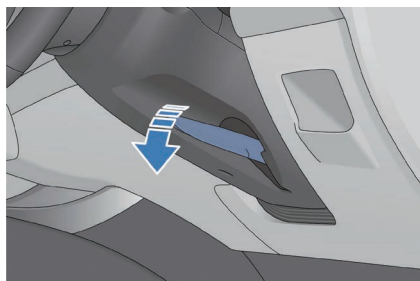
アドバイス

- 交通ルールを守り、ホーンを適切に使ってください。

ステアリングホイールの手動調節

ステアリングホイールの位置を調節するときは、ステアリングホイールを握りながら次の操作を行います。

- ステアリングホイールの調節レバーを下に押し、ステアリングホイールを必要な位置に調節してから、調節レバーをロック位置に戻します。




3

コントロールローラーの操作

⚠ 警告

- 走行中にステアリングホイールの調節をしないでください。操縦の誤りにより、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- ステアリングホイールを調節した後、上下方向に動かし、確実に固定されていることを確認してください。

パワーステアリングモードの設定

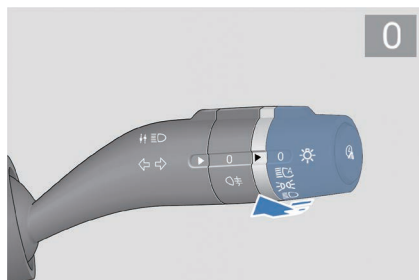
- パワーステアリングの感触は、人によって異なります。ドライバーにより、パワーステアリングの感触の評価やニーズも異なります。
- ドライバーは、 → **車両設定** → **スマートシャーシ** → **ステアリングアシスト** の設定画面を出し、**コンフォート/スポーツ** の操舵モードのオプションを選びます。

ℹ アドバイス


- 車が高速で走行しているとき、ステアリングホイールの操作力が軽く感じられた場合は、ステアリングアシストの設定をスポーツモードに設定するようおすすめします。

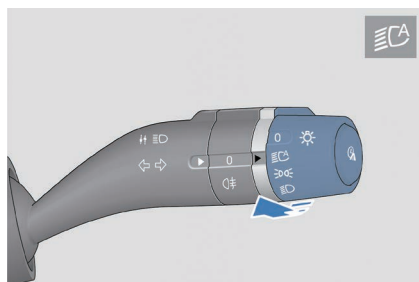
ライトスイッチ

ライトスイッチを 0 に回すと、デイトタイムランニングライト以外のすべてのライトが消灯します。



オートライト


ライトスイッチを  に回すと、BCM (Body Control Module) が照度センサーで周囲の明るさを取得し、自動的にポジションランプやロービームの ON・OFF を制御します。

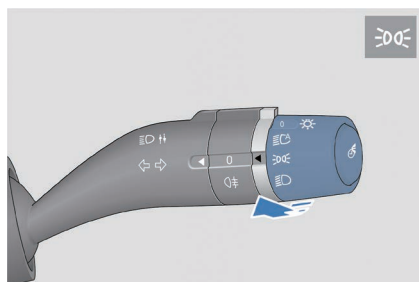


⚠ 注意

- 照度センサーは、インストルメントパネルの上端部にあり、センサーが遮られたり、その上に液体がかかったりすることを避けてください。

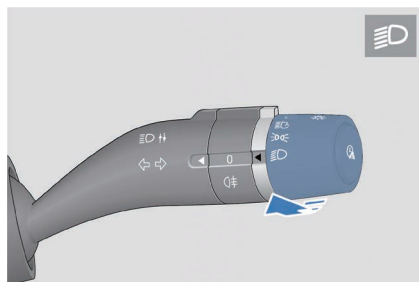
ポジションランプ

ライトスイッチを  に回すと、ポジションランプが点灯します。





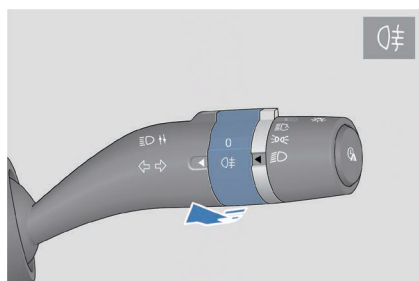
ロービーム

ライトスイッチをに回すと、ロービームが点灯します。



リアフォグランプ

ライトスイッチをに回し、リアフォグランプスイッチをに回すと、リアフォグランプが点灯します。




3

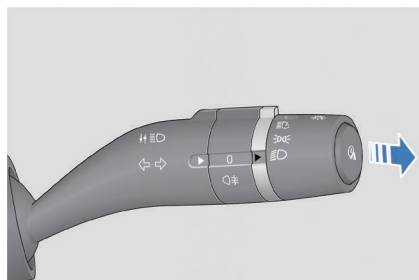
コントローラーの操作

⚠ 警告

- 晴天時には使用しないでください。後方車の視界を悪化させるおそれがあります。
- リアフォグランプは、霧や雨、雪などの悪天候で視界が悪いときに使用してください。

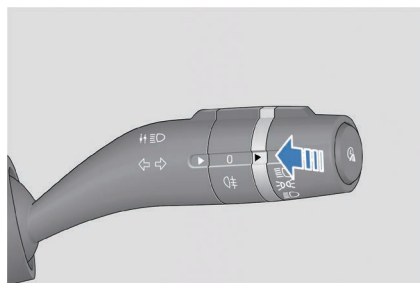
ハイビーム

ライトスイッチをに回し、ライトスイッチのレバーを前方（ステアリングホイールから離れる方向）に押し、ハイビームが点灯します。ライトスイッチのレバーを手前（ステアリングホイールに近づく方向）に引くと、ハイビームが消灯します。「前、後」方向にライトスイッチのレバーを操作する、ロービームを OFF にする、または「OK」レンジをシフトするとハイビームが消灯します。



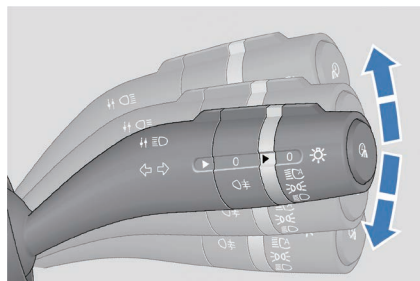
パッシングライト

ライトスイッチのレバーを手前（ステアリングホイールに近づく方向）に引くと、パッシングライトが点灯し、手を離すとライトスイッチは自動的に戻り、パッシングライトが消灯します。





ターンシグナルランプ

- コンビネーションスイッチのレバーを上方向に上げると、左ターンシグナルランプとメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。
- コンビネーションスイッチのレバーを下方向に下げると、右ターンシグナルランプとメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。
- ターンシグナルランプをつけた後に手を放しても、ターンシグナルランプは点滅し続けます。曲がり切った後は、自動的に消灯します。ドライバーの運転の違いにより、特別なケースでは、ステアリングホイールを1回転させないとリセットしない場合があります。










オート OFF 機能


- オート OFF 機能の作動条件：ライトスイッチを「」、または「」に回し、電源を「スタート」から「ストップ」に切り替えたとき ON になります。
- オート OFF 機能が ON の状態で運転席側ドアが閉まっていると、オート OFF 機能により、10 秒後に点灯中のヘッドライトおよびポジションランプが消灯します。
- オート OFF 機能が ON の状態で運転席側ドアが開いていると、オート OFF 機能により、10 分後に点灯中のヘッドライトおよびポジションランプが消灯します。
- 自動的に消灯した後にライトスイッチのポジションを切り替えた場合、切り替えたポジションに応じてライトが点灯します。このとき、オート OFF 機能の作動条件が揃うと、再度オート OFF 機能が作動します。
- オート OFF 機能の解除：車の電源を入れると、オート OFF 機能は OFF になります。ライトスイッチを通常通り操作できます。

- オート OFF 機能によりランプを消灯し、イモビライザー作動後に再度イモビライザーを OFF にすると、消灯したランプが自動的に再び点灯します。運転席側ドアが開けていなければ、オート OFF 機能により 10 秒後にランプが再び消灯します。ドアを開けるとオート OFF 機能によりランプが 10 分後に消灯します。

ヘッドライト残照機能

- 降車後のヘッドライト点灯機能：
 - ドライバーは、マルチメディアタッチスクリーンで降車後のヘッドライト点灯機能の点灯時間を設定することができます。点灯時間の初期値は 10 秒です。ドライバーがライトスイッチを「」、「」、または「」に回し、電源ポジションを「OFF」ですべてのドアが施錠されている状態で車を離れようとする、該当ライトが 10 秒（または設定された時間）点灯します。
- 乗車前のヘッドライト点灯機能：
 - ドライバーは、マルチメディアタッチスクリーンで乗車前のヘッドライト点灯機能の点灯時間を設定することができます。点灯時間の初期値は 10 秒です。ドライバーがライトスイッチを「」、「」、または「」に回し、解錠された車に接近しようとする、該当ライトが 10 秒（または設定された時間）点灯します。
- ライトの点灯時間および消灯時間は、マルチメディア  → 車両設定 → ライトおよび雰囲気 の画面で設定値を変更することができます。

ヘッドライトの高さ調節

ロービームを ON している場合は、
 → 車両設定 → 照明&アンビエント → ヘッドライト高さ調整 の順にクリックし、ヘッドライトの照射角を調節します。



車の負荷状況	ライトの推奨グレード
ドライバーのみ	0 ~ 2
ドライバーおよび助手席の乗員	
満員	0 ~ 2
満員、トランクルーム満載（均一分布で、技術上許容される最大負荷で計算します）	1 ~ 3
ドライバーのみ、トランクルーム満載（均一分布で技術上許容される最大負荷で計算します）	1 ~ 3

■ 車により、負荷状況が異なる場合があるので、実際の車の状況に応じて調整してください。

ワイパースイッチ

フロントワイパーとウォッシャー

レバーを使い、ワイパーとウォッシャーを操作します。このレバーは、5段切り替えとなっています。

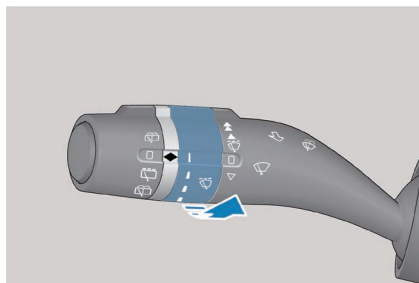
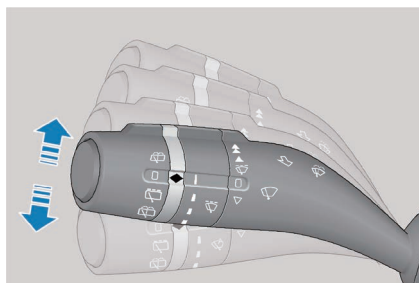
- ▲：高速モード
- △：低速モード
- ☒：間欠モード
- 0：停止
- ▽：ミストモード

モードの切り替えは、上にレバーを上げる、または下にレバーを下げます。

低速や高速モードの場合は、ワイパーは連続的に作動します。

ミストモード「▽」でワイパーを作動させるには、「0」位置からレバーを下方方向に下げます。ワイパーは、レバーを離すまで低速で作動します。

間欠モード「☒」の場合に、ワイパースイッチの間欠時間設定ツマミを回すと、間欠時間は雨量マークの幅が狭くなるほど長くなります。

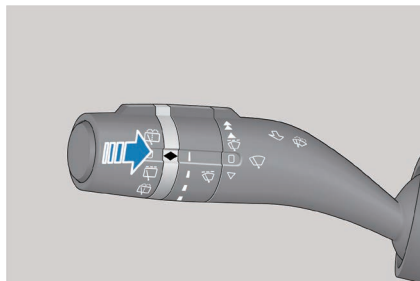


3

コントロールローラーの操作

フロントウォッシャー




- フロントガラスを洗淨する場合は、レバーを手前（ステアリングホイールに近づく方向）に引きます。ウォッシャー液が噴射すると同時にワイパーが作動します。
- コントロールスイッチを動かす時間が1秒より短い場合、ワイパーは今回の動作が完了してからもう1回作動します。1秒を超えている場合は、ワイパーが2回作動します。

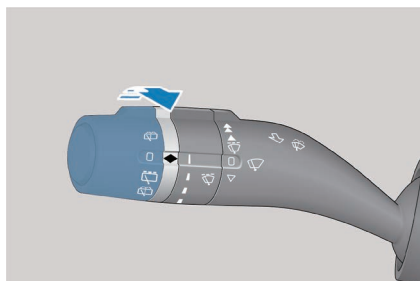
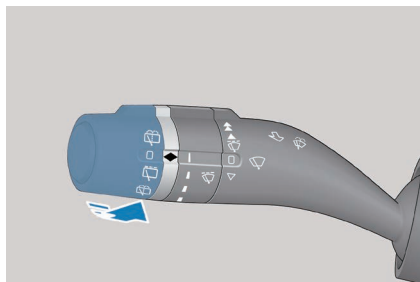


⚠ 警告

- 寒冷時は、ガラスに噴射したウォッシャー液が凍結して、視界が妨げられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。ウォッシャー液を噴射する前に、ガラスをヒーターで温めるようにしてください。
- 寒冷地では不凍剤の含まれたウォッシャー液を使用してください。不凍剤が入っていないウォッシャー液を使用すると、ガラスの視界が妨げられることがあります。

リアワイパーおよびウォッシャー*

- ワイパースイッチのつまみを「」の位置に回すと、リアワイパーが作動します。つまみを「0」に回すと、ワイパーが止まります。
- つまみをリアワイパーの「」の位置に回すと、リアワイパーとウォッシャーが同時に作動します。
- つまみをリアワイパーの「」の位置に回し、ウォッシャー液が噴射された後、ワイパーが2回作動します。



⚠ 注意

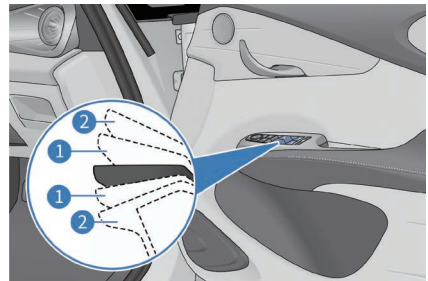
- ウォッシャーを 10 秒以上連続作動させたり、ウォッシャー液が切れている状態で作動させたりしないでください。オーバーヒートによりモーターが破損するおそれがあります。
- 車両仕様の違いにより、ワイパー機能は、車の実際の仕様によります。

ℹ アドバイス

- 定期的にブレードを点検し、ブレードの汚れを除去してください。
- 雨が降り出したとたんワイパーを作動させると、雨水に土砂やほこりが混じっていて、ウィンドウガラスをきれいに拭き取らないばかりか、視野も一瞬でぼやけて、安全運転に影響します。
- ガラス洗淨液を使ってください。水や他の洗淨液を使うと、ワイパーモーターの破損につながるおそれがあります。
- テールゲートが開いている状態で、または確実に閉まっていない場合は、ワイパースイッチでリアワイパーを制御する機能が作動しなくなります。テールゲートをきちんと閉じると、リアワイパーの機能が復帰します。

パワーウィンドウスイッチ

- 運転席側のウィンドウスイッチは 4 つのボタンがあり、それぞれの 4 ドアのガラス開閉を制御します。
 - 下降：スイッチを押す。
 - 上昇：スイッチを引き上げる。

**自動操作**

- 自動下降：2 段階までスイッチボタンを押し込んでから手を離すと、ドアガラスが自動的に下がります。
- 自動上昇：2 段階までスイッチボタンを引き上げてから手を離すと、ドアガラスが自動的に上がります。
- 途中で止めたい場合は、反対方向に軽く押ししてください。

手動操作

- 手動下降：1段階までスイッチボタンを押している間、ドアガラスは下がり続けます。
- 手動上昇：1段階までスイッチボタンを引いている間、ドアガラスは上がり続けます。

電源ポジション OFF 後の作動機能

- 電源ポジションを「OFF」にした後、フロントドアを開けない場合、10分以内まではドアガラスを開閉する機能を使用してドアガラスの開閉操作ができます。フロントドアを開けるとドアガラス開閉操作ができなくなります。

警告

- パワーウィンドウを閉じるとき、手や指を挟まないように手をドアガラスの上に置かないでください。
- 走行中は顔や身体を車外に出さないでください。車外のものに当たり、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ドアガラスを開閉するときはお子様に声をかけ、手や腕などを挟まないことを確認してから操作してください。
- リアシートにお子様に乗っている場合は、リアウィンドウスイッチをロックすることをおすすめします。

挟み込み防止機能*

ドアガラス上昇中に人やものが挟まれると、ドアガラスの上昇が止まり、自動的に下がります。

挟み込み防止機能の初期化*

- ドアガラスの上昇または下降中に起動バッテリーの接続を解除すると、ドアガラスの自動上昇および挟み込み防止機能が無効となります。次の操作で初期化を設定してください。
 - ガラスを全閉にしてからホールドするまで0.5秒間パワーウィンドウスイッチを引き上げ続けます。
 - 自動でドアガラスを全閉する場合、ガラスがガラスランラバー上部付近に上昇している際、一定の抵抗が検知されるとガラスは挟み込み防止のために下がります。

⚠ 警告

生命にかかわる重大な傷害を防止するため、ドアガラスを閉じる場合は、下記の注意事項を守ってください。

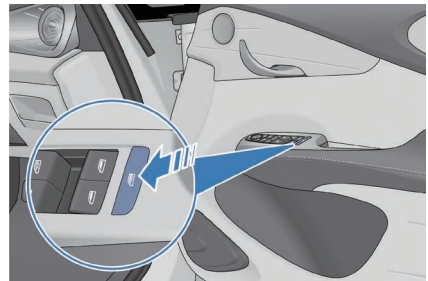
- ドアガラスを操作するとき、ドライバーや乗員の身体が挟まれないようにきちんと確認したうえで操作してください。
- 絶対にお子様にパワーウィンドウを操作させないでください。
- 身体の一部で挟み込み防止機能を故意に作動させないでください。
- ドアガラスが閉まり切ろうとすると、挟まれるものによっては挟み込み防止機能が作動しない場合があります。

⚠ 注意

- 挟み込み防止機能の初期化を頻繁に行うと、パワーウィンドウモーターの過熱保護機能が作動します。
- ドアガラス自動上昇機能と挟み込み防止機能が作動しない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検を依頼するようおすすめします。

ウィンドウロックキー

- ウィンドウロックキーを押すとウィンドウロック表示灯が赤色に点灯し、ドライバー側のスイッチだけで4ドアのドアガラスの開閉を操作することができます。リアウィンドウスイッチでは各席のドアガラスの開閉はできません。
- 再度ウィンドウロックキーを押すとウィンドウロック表示灯が消灯し、リアウィンドウスイッチで開閉を操作することができます。



集中ドアロック

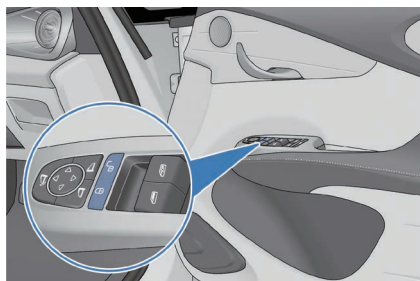
運転席側のドアには、電動ドアロックスイッチを搭載しています。この2つのスイッチですべてのドアの施錠や解錠ができます。

施錠

「集中ドアロック施錠」ボタンを押すと、4ドアのロックは同時に施錠され、施錠の表示灯が赤く点灯します。

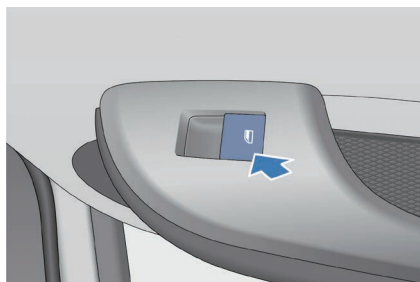
解錠

「集中ドアロック解錠」ボタンを押すと、4ドアのロックは同時に解錠され、施錠の赤の表示灯が消灯します。



助手席側ウィンドウスイッチ

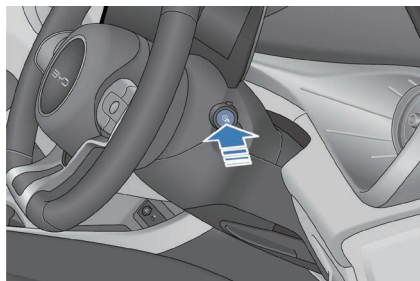
車の電源ポジションを「OK」にしている場合は、助手席側およびリアドアのウィンドウスイッチで助手席側ドアガラスおよびリアドアガラスの上昇/下降をそれぞれ操作することができます。



走行距離切替スイッチ

「走行距離切替」スイッチを押すと、「総走行距離」——「走行距離1」——「走行距離2」——「総走行距離」の切り替えができます。それと同時に、メーターには切替状態が表示されます。

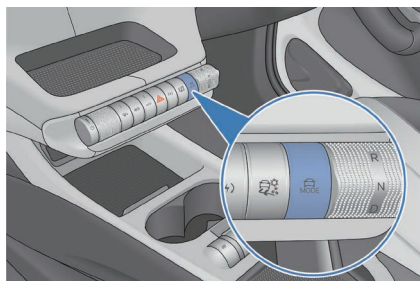
「走行距離1」、「走行距離2」を長押しすると、走行距離がリセットされます。



運転支援スイッチユニット

【MODE】 走行モードボタン

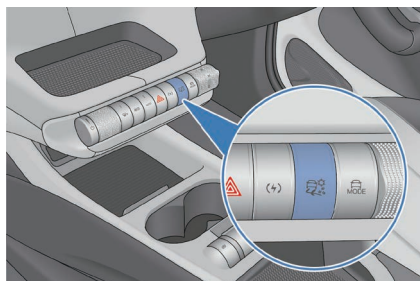
上方向または下方向へこのホイールボタンを回すと、NORMAL/ECO/SPORT モードに切り替えることができます。



- エコモード (ECO)：モーター出力を抑制し電費を向上させ、快適なドライブ体験が得られるモードです。
- ノーマルモード (NORMAL)：標準設定モードで、システムのデフォルトとして設定された走行モードです。
- スポーツモード (SPORT)：良好なモーター出力が得られますが、バッテリーの残量が少なく、車が高温や低温などの環境である場合は、加速性能がやや低下します。

スノーモードボタン

- 上方向にホイールボタンを回すと、車はスノーモードに入ります。下方向へホイールボタンを回すと、スノーモードが OFF になります。
 - 表面が固いものや滑りやすいもの（草、雪、氷や砂利など）で覆われている路面の場合に使用します。
 - 滑りやすい状況でのトラクション、乗り心地、ハンドリング特性、アクセルペダルの慎重な操作を最適化します。



3

コントローラーの操作

⚠ 注意

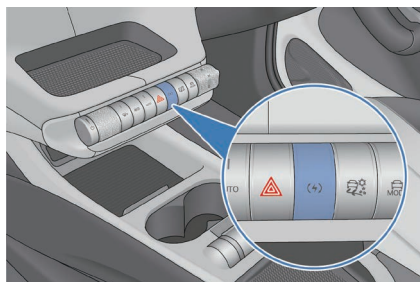
- 雪道走行時、ダイナミックスタビリティコントロールが作動することでモーター性能が低下する場合は、ESC システムを OFF にすれば、改善されることがあります。解消した後、ESC は新たに ON する必要があります。

i アドバイス





- ドライバーが「ECO モード」、「NORMAL モード」、「SPORT モード」、「スノーモード」の切り替えを操作し、アクセルペダルを完全に離すと、モーターの出力特性がドライバーのニーズに応じて変わるため、安全に注意してください。
- 「ECO モード」、「NORMAL モード」、「SPORT モード」、「スノーモー」では、電源 OFF 時の記憶機能を備えており、電源を切ってから再始動した場合、前回電源 OFF 時のモードを維持します。

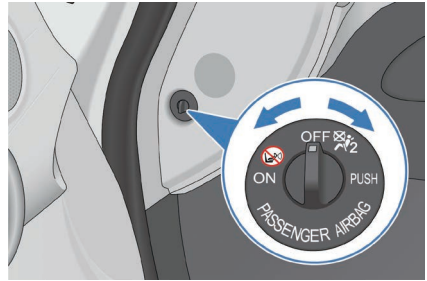
「回生ブレーキ」モードボタン

上方向または下方向へこのホイールボタンを回すと、標準回生ブレーキ / 強い回生ブレーキの回生ブレーキモードを切り替えることができます。



助手席側エアバッグスイッチ

- 助手席側エアバッグカット OFF スイッチが備わっている場合は、スイッチ操作で助手席側フロントエアバッグを OFF にすることができます。
- 助手席側エアバッグスイッチは、助手席側のインストルメントパネルに設置されております。助手席側ドアを開けて操作してください。
- 助手席側フロントエアバッグ状態表示灯は車のヘッドライニングに付いています。
- 運転時は、スイッチが要求される位置に入っているかをチェックしてください。
- 助手席の使用状況により、助手席側フロントエアバッグの ON または OFF を操作してください。
 - スイッチが「ON」の位置に入っている場合は、助手席側フロントエアバッグが ON になります。助手席側フロントエアバッグ状態表示灯「PASSENGER AIRBAG」が常時点灯して、「ON」が点灯し「OFF」が消灯します。中程度から重度の衝突事故が発生し作動条件が揃うと、助手席側フロントエアバッグが展開します。
 - スイッチが「OFF」の位置に入っている場合は、助手席側フロントエアバッグが OFF になります。助手席側フロントエアバッグ状態表示灯「PASSENGER AIRBAG」が常時点灯して、「ON」が消灯し「OFF」が点灯します。中程度から重度の衝突事故が発生し作動条件が揃っていても、助手席側フロントエアバッグが展開しません。



⚠ 警告

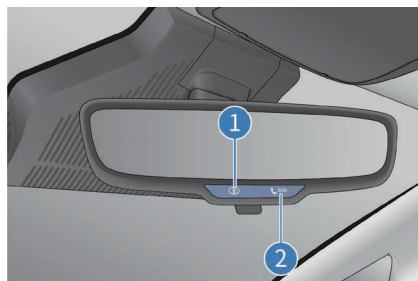
- 助手席側エアバッグを ON にした場合は、助手席に後向き装着タイプのチャイルドシートを取り付けないでください。生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- 大人が助手席側シートに座る場合は、必ず助手席側エアバッグスイッチを「ON」にしてください。
- 助手席側エアバッグスイッチを「OFF」にしているが、助手席側エアバッグスイッチが「ON」の状態になっている場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場までご連絡ください。

⚠ 注意

- エアバッグシステムの破損を防ぐため、イグニッションスイッチを OFF のときに助手席側エアバッグスイッチを操作してください。
- ドライバーは、助手席側の乗員のために助手席側エアバッグスイッチが正しい位置にあることを確認してください。

自動緊急通報システム E-Call

- ① E-Call 状態表示灯
- ② SOS ボタン



- E-Call とは、緊急通報システムのことです。E-Call を手動で利用する場合には、SOS と表記された呼び出しボタンを 2 秒以上押してください。
- エアバッグが展開したり、激しい衝突を検出した場合、E-Call は自動的に緊急通報を行います。
- E-Call は、緊急通報専用のコールセンターへ手動または自動で通報し、緊急通報を行います。オペレーターの問いかけに応答できる場合には、質問に合わせて状況の説明をお願いいたします。

3

コントローラーの操作

⚠ 警告

- SOS の呼び出しボタンを押すときは、安全なところに停車してから行ってください。走行中に押そうとすると注意が散漫になり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。



⚠ 注意

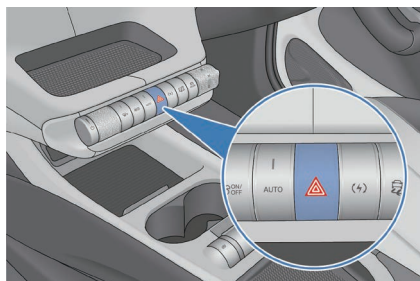
- E-Call を発報すると、以下の条件以外で車両側からの操作で E-Call をキャンセルすることはできません。
 - E-Call システムから 10 回以上 E-Call 専用コールセンターを呼び出しても応答がない。
 - E-Call 専用コールセンター側から E-Call を終了する。

ℹ アドバイス

- E-Call とは、事故や急病などの緊急時に、消防や警察、医療機関への連絡を補助するサービスです。
- エアバッグが展開する自動緊急通報後は、自動通報機能が使用できなくなりますので、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場までご連絡ください。





ハザードランプスイッチ

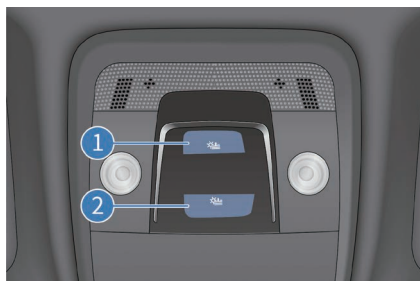
上方向または下方向へホイールボタン  を回すと、すべてのターンシグナルランプが点滅し、同時にメーター内の方向指示表示灯も点滅します。上方向または下方向へホイールスイッチ  を再度回すと、点滅が止まります。







サンシェードスイッチ *

サンシェードを開ける場合

- サンシェードオープンボタン  を押し続けて、手動でサンシェードを開けます。途中でボタンを離すとサンシェードは現在の位置で止まります。
- サンシェードオープンボタン  を押した直後に離すと、サンシェードは自動的に開きます。途中でボタン  またはボタン  を押すと、サンシェードは現在の位置で止まります。



サンシェードを閉める場合

- サンシェードクローズボタン  を押し続け、手動でサンシェードを閉めます。途中でボタンを離すと、サンシェードは現在の位置で止まります。
- 初期化ができている場合、サンシェードクローズボタン  を押した直後に離すと、サンシェードは自動的に閉まります。途中でボタン  またはボタン  を押すと、サンシェードは現在の位置で止まります。

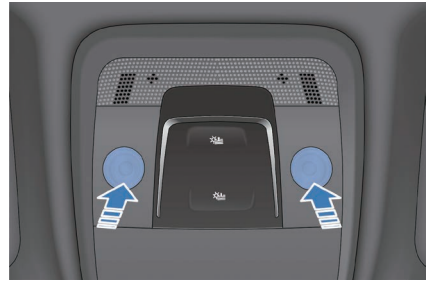
注意

- サンシェードの開閉中に、サンシェードの破損を避けるために、サンシェードに強い外力を与えないでください。

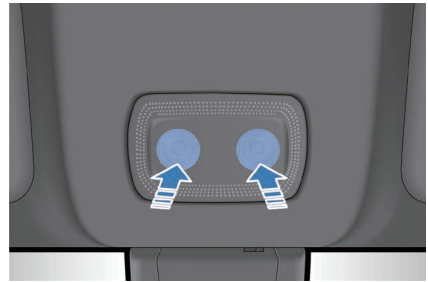
ルームランプスイッチ

電源ポジションを問わず、フロントルームランプのレンズに触るとランプが点灯します。

仕様 1



仕様 2



3

コントローラーの操作

i アドバイス

- いずれかの電源ポジションで DOOR スイッチを ON にしている場合、ドアが開いている状態でスイッチに触ると、ルームランプの高照度・低照度を切り替えることができます。
- 車の電源ポジションを「OFF」にして DOOR スイッチを ON にしている場合は、ドアが開いている状態でしばらくすると、ルームランプが消灯します。

4-1 充電 / 放電について	111		
充電について	111		
充電方法	117		
充電ポート盗難防止			
ロック機能	127		
外部給電方法	129		
4-2 バッテリー	132		
パワーバッテリー	132		
起動バッテリー (12V)	136		
4-3 ご利用要領	139		
慣らし運転期間	139		
トレーラーのけん引	139		
安全運転上のご注意	140		
荷物の積み込み	141		
冠水路の走行	143		
火災の予防	145		
電気の省エネで車を			
長持ちさせる方法について ..	147		
4-4 始動および運転	149		
車の始動	149		
車の運転	151		
シフト機構	153		
電動パーキングブレーキ			
(EPB)	155		
オートビークルホールド			
AVH	159		
運転要領	161		
4-5 運転支援機能	163		
アダプティブクルーズコント			
ロール (ACC) システム ..	163		
		ナビゲーションパイロット	
		(ICC)	170
		衝突予測警告 (PCW) および	
		自動緊急ブレーキ (AEB)	173
		フロントクロスストラフィック	
		アラート (FCTA) および	
		フロントクロスストラフィック	
		オートブレーキ (FCTB)	178
		交通標識認識システム	
		(TSR)	180
		インテリジェントスピード	
		リミットコントロール	
		(ISLC)	182
		ハイビームアシストシステム	
		(HMA)	184
		レーンサポートシステム	
		(LDA)	186
		緊急時車線維持支援	
		(ELKA)	189
		ブラインドスポットアシスト	
		システム (BSA)	191
		ドライバー眠気注意力警告	
		(DAW)	194
		幼児置き去り検知 (CPD)	195
		タイヤ空気圧モニタリング ..	197
		車両接近通報装置 (AVAS) ..	199
		BYD アラウンドビュー	
		システム	200
		駐車支援システム	202
		安全運転支援システム	207

4-6 他の主要機能について…	214
ルームミラー……………	214
電動ドアミラー……………	215
ワイパー……………	217
タイヤチェーン……………	219

充電について

⚠ 警告

- 充電設備は高電圧がかかっているために、お子様だけで充電作業を行ったり、充電設備を使ったりすることがないようにしてください。充電時はお子様を近づけないでください。
- 充電が医療電子機器や植え込み型電子機器におよぼす影響については、電子機器メーカーへ確認してから充電作業を行ってください。
- 安全な場所で充電してください（液体、火元、熱源などがある環境を避けるなど）。
 - 雨の中で充電する場合は、水がかからないように充電装置の保護に心がけてください。
 - 雷が鳴ったら、車、充電器、充電ケーブルに触れない。落雷で感電するおそれがあります。
- 充電前の設備点検および操作について
 - 給電設備、充電コネクタ、充電ポート、車載充電ケーブルなどには、ケーブルの摩耗、ポートの錆、ケースの割れ、またはポート内の異物付着などの異常がないことを確認してください。
 - プラグ / ソケット、または充電コネクタ / 充電ポートの金属端子が錆や腐食で破損している、または緩みがある場合は、充電しないでください。
 - 充電コネクタ / 充電ポートおよびプラグ / ソケットが明らかに汚れたり、濡れたりしている場合は、きれいな乾燥している布で拭きまします。
 - プラグやコード、ケーブルを動かすと充電が停止する場合は、使用を中止してください。コードやケーブルが断線して発熱し、発火するおそれがあります。
 - コードやケーブルを引く、ねじる、曲げる、踏むなどしないでください。コードやケーブルが断線して発熱し、発火するおそれがあります。
 - コードやケーブルを、コネクタやコントロールボックスなどに巻き付けたりしないでください。コードやケーブルが断線して発熱し、発火するおそれがあります。
 - 給電プラグは本体部分を持ち、コンセントに対し真っすぐ奥まで差し込んでください。確実に差し込んでないと発熱し、発火するおそれがあります。

⚠ 警告 (続き)

- 規格に適合する充電設備で充電してください。
 - 充電用コンセントは、電気工事の資格を有する専門業者が施工したものをお使いください。間違った使用方法では感電のおそれがあります。
 - アースが繋がっている充電用コンセントをお使いください。間違った使用方法では感電のおそれがあります。
 - 故障や火災を防ぐため、充電設備および関係ポートの改造や取り外し、または修理をしないでください。
 - 安全基準を満たさない、または潜在的危険性がある充電設備で充電しないでください。充電中は、お子様やペットを充電設備に近づけないでください。
- 濡れた手で操作しないでください。感電による傷害につながるおそれがあります。
- 充電時、車や充電設備に異常が見つかった場合は、ただちに充電を停止し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- 充電時は、モータールームを開けて行う修理はご遠慮ください。
- 充電完了後、濡れた手や水の中などに入った状態で充電設備を切り離さないでください。感電による傷害につながるおそれがあります。
 - 車を発進させる前には、充電設備が充電ポートから切り離されていることを確認してください。

充電上のご注意

- コンビネーションメーター内のパワーバッテリー残量 (SOC) 表示が赤になった場合は、パワーバッテリー残量が低下していることを表します。残量が低下している場合は、パワーバッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあるため、早めに充電してください。
- 家庭用 AC 普通充電とは、車に装備されている車載 AC 充電ケーブルで充電することです。規格に適合する専用交流回路と電源ソケットを使用して充電してください。専用回路は、回路の破損またはパワーバッテリーへの高出力充電による回路トリップから安全を守るためのものです。専用回路を使わない場合は、回線上の他の機器の作動に影響するおそれがあります。
- 充電設備の破損を防ぐため (充電設備利用上のご注意)
 - 充電設備に衝撃を与えないでください。落下や外部からの衝撃などによる機械的破損がないように注意してください。
 - 充電設備をヒーターや他の熱源の近くに置かないでください。

- 充電前に、充電コネクタを挿し込む：
 - 充電前に、充電コネクタと充電ポートに異物が付着していない、充電コネクタ端子の絶縁キャップに緩みや変形がないことを確認します。
 - 充電コネクタを持ち、充電コネクタを充電ポートに合わせてから押し込み、充電コネクタを充電ポートに確実に取り付けます。
- 充電が完了し、充電コネクタを抜き出す：
 - 充電を停止し、充電ポートのロックが解錠されていることを確認します。
 - 充電コネクタを持ち、充電コネクタ上のボタンを押しながら充電コネクタを抜き出します。
 - 充電ポートがロックされたまま充電コネクタを抜き出さないでください。充電ポートを破損させるおそれがあります。
- 充電上のご注意：
 - 充電電力を確保するため、充電中はエアコンを使用しないことをおすすめます。
 - 充電時は車から降りることをおすすめます。
 - 充電時は換気の良いところに車を止めることをおすすめます。
- パワーバッテリーがフル充電になると、システムが自動的に充電を停止します。充電ポートには盗難防止ロックが装備されているため、ロックを解錠してから充電コネクタを抜き出してください。
- DC 充電を停止する場合は、充電器を OFF にしてから充電コネクタを切り離してください。家庭用 AC 普通充電で充電する場合は、車側の充電コネクタを切り離してから電源側のプラグを抜き出してください。
- 充電が完了し充電コネクタを抜き出した後、充電ポートキャップおよび充電ポートフラップを確実に閉じてください。水や異物が充電ポートに入ると正常に使用できなくなるおそれがあります。
- 車を始動させる前に、充電設備が切り離されていることを確認してください。充電コネクタを最後まで挿し込まないと充電設備のロック機構が機能しないため、充電コネクタをつないだまま車を発進させると、充電設備および車の破損につながるおそれがあります。
- バッテリー温度が低すぎるまたは高すぎる場合、バッテリーの充電性能に影響をおよぼすことがあります。
- 低温の環境で充電する場合、温度コントロールシステムでバッテリー低温時の充電能力を改善させることができます。充電スタンド出力の制限により、充電時間や加熱時間が延び、加熱による電気消費が増えますが異常ではありません。

- DC 充電時に気温が低く残量が多い場合は、バッテリーの低温特性により充電電流が小さくなります。残量が少ない状態でバッテリーを充電すると、充電スピードを上げることができます。
- 利便性向上のため、車を使用した直後に充電することをおすすめします。使用直後は、バッテリーの温度が相対的に高く充電性能が優れているためです。
- 低温の環境で充電している間にエアコンを使う場合は、バッテリー温度コントロールシステムの性能および充電性能に影響をおよぼすことがあります。
- 充電中にバッテリー温度コントロールシステムが作動した後、コンビネーションメーターには充電電力の一時的な変動を表示することがありますが異常ではありません。
- バッテリーを長持ちさせるため、充電が完了する前にバッテリー補正機能が作動することがあります。バッテリー補正機能が作動すると充電時間が長くなる場合があります。
- 高温の環境で DC による高出力充電を行う場合は、バッテリー温度コントロールシステムの充電性能がエアコンの使用により低下し、充電時間が長くなる場合があります。充電効率を確保するために、充電中はエアコンを使用しないことをおすすめします。
- 充電中に加熱や冷却を行う場合、充電時間が延び、充電中の電気消費も増えますが異常ではありません。
- 充電中にバッテリー冷却システムが作動すると、コンプレッサーやファンなどの部品が作動するため、モータールームから作動音が聞こえますが異常ではありません。
- 充電時、コンビネーションメーターにフル充電の所要時間が表示されます。温度や残量または充電施設などにより、フル充電目安時間は多少異なりますが異常ではありません。
- 充電ポートフラップが天候などにより凍り付いた場合は無理に開けず、温水で溶かしてから充電ポートフラップを開けてください。

i アドバイス

- 充電ポートフラップが解錠されるまでは、充電ポートフラップを強制的に開けないでください。
- 充電ポート盗難防止ロックを解錠せずに充電コネクタを強制的に挿し込まないでください。
- 充電ポートキャップを外した状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。
- 車を充電すると、放熱ファンとエアコンのコンプレッサーは、パワーバッテリーの加熱や冷却の必要性により自動的に作動することがありますが、異常ではありません。

一般充電故障の診断

症状	考えられる原因	対処方法
充電されないとき：充電設備に接続して充電をスタートしている	パワーバッテリーがフル充電になっている	パワーバッテリーがフル充電になっている場合、自動的に充電を停止します。
	パワーバッテリーの温度が高すぎる / 低すぎる	車を温度が適切な場所に停車させ、温度が正常になるまで待ってから充電してください。
	起動バッテリーが過放電になっている	起動バッテリーを交換してください。
	充電設備が故障している	充電設備の電源表示灯が正常に点灯していない、またはその他の異常表示がないかを確認してください。別の充電設備で充電を行うか、スタッフにご連絡ください。
充電が途中で止まった	車両表示故障	コンビネーションメーターに充電システム故障メッセージが表示されている場合は、充電を停止してBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡することをおすすめします。
	交流回路が停電している	電源が復旧すると、自動的に充電を再開します。
	充電コネクタがきちんと接続されていない	充電コネクタが確実に接続されていることを確認してください。
	充電コネクタスイッチが押し込まれている	充電コネクタスイッチが押し込まれると、充電が停止するため、充電コネクタを新たに接続して充電をスタートする必要があります。
	パワーバッテリーの温度が高すぎる	コンビネーションメーター内のパワーバッテリー過熱警告灯が点灯すると、充電が自動的に止まります。バッテリーを冷却してから充電を再開してください。
車や充電スタンドが故障している	充電スタンドや車の故障メッセージが表示されていないかを確認してください。BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡するようおすすめします。	

充電方法

■ 充電前の点検：

- 充電装置のキャビネットの割れ、ケーブルの摩耗、プラグの錆、または異物の付着などの異常がないこと。
- 充電コネクタを挿し込んでも緩みがある場合は、充電しないこと。
- 充電ポートに水または異物がないこと、金属端子に錆や腐食がないこと。

■ 以上のことがある場合は充電しないでください。ショートや感電などにより身体に危害をおよぼすおそれがあります。

家庭用 AC 普通充電

1. 充電器について

- 車と規格に適合するコンセントを接続し、車のバッテリーを充電します。AC200V 仕様となっています。
- ソケットは、高出力充電による回路焼損や、自動保護ブレーカーが誤作動し、他の設備へのご利用に影響を与えることを避けるため、規格に適合する家庭用コンセントを選択してください。
- 車載された装置は AC200V 用で、規格に適合する給電プラグ、充電コネクタ、コントロールボックス、充電ケーブルで構成された、Mode 2 タイプです。給電プラグを家庭用コンセントに挿し込み、充電コネクタを車の充電ポートに挿し込みます。
- 充電時間：コンビネーションメーターに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。

⚠ 警告

- 充電に関係する警告の詳細は、「[充電について](#)」における充電関係の警告を参照してください。
- 周囲温度：最大 50℃までとし、使わないときは、本製品を乾燥した冷暗所に保管してください。
- 充電しているとき、充電装置をトランクルーム、車の前部の下、およびタイヤの近くに置かないでください。
- 使用中は車にひかれたり地面に落とす、または人に踏まれないようにしてください。
- 落下禁止。この充電装置を移動するために、直接ケーブルを引っ張ることは禁止されています。
- 充電装置の移動の際は取り扱いに注意してください。充電設備や関係ポートに対する改造や取り外し、修理は禁止されています。
- 後付けの電線やアダプター / コンバーターを使わないでください。
- 家庭用給電コンセントのコードが柔らかくなったり、充電コネクタケーブルの摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損があったりする場合は、充電設備を使用しないでください。
- 充電コネクタや給電プラグ、家庭用コンセントの断線や破裂、または表面の破損がある場合は、この設備を使用しないでください。
- 電動式充電ポートフラップの故障を防ぐため、必要以上に充電ポートフラップの開閉を繰り返さないでください。充電ポートフラップの開閉操作 2 回の時間間隔 ≥ 1 秒。

⚠ 注意

- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場や認定技術者に連絡し、充電設備の要求事項にしたがって、適切な電源を選ぶことをおすすめします。
- 充電設備のアースについて：設備のアース工事を確実にしてください。充電設備に故障や破損が起きた場合、アース線は最小抵抗の回路を介し電流を逃し、感電の危険性を下げてください。
- 給電プラグは、安全基準に適合し正しく設置されており、アースを確実に取っている家庭用コンセントと合っているものを使用してください。

ℹ アドバイス

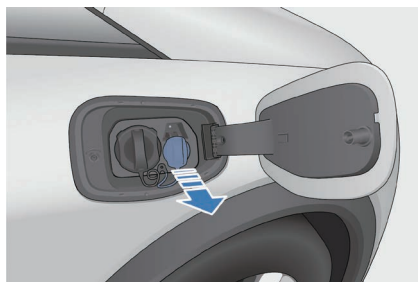
- 放熱性をよくするために、充電しているときは充電ケーブルを巻いたままの状態にしないでください。
- 充電に関係するご注意の詳細は、「[充電について](#)」を参照してください。

2. 充電をする場合

- 電源ポジションを「OFF」にしてからドアロックを解錠し充電ポートフラップを押し込むと、充電ポートフラップは自動的に開きます。




- 充電ポートキャップと充電コネクタのカバーを開け、充電コネクタのプラグと車側コンセントの部分に障害物がないように確保してください。



4

使用および運転

i アドバイス

- 充電ポートフラップが解錠されるまでは、充電ポートフラップを強制的に開けないでください。
 - 充電ポートフラップが天候などにより凍り付いた場合は無理に開けず、温水で溶かしてから充電ポートフラップを開けてください。
- 給電ポート側の接続：
 - Mode 2 タイプの給電プラグを家庭用コンセントに挿し込みます。
 - 車側の接続：
 - 充電コネクタを車側充電ポートに確実に挿し込みます。
 - 充電コネクタを確実に挿し込むと、コンビネーションメーター充電接続表示灯  が点灯します。

▲ 注意

- 充電ポート盗難防止ロックを解錠せずに、充電コネクタを無理やり挿し込まないでください。
- 充電時、コンビネーションメーターには関係充電パラメーターが表示され、同時に充電画面も表示されます。
 - このとき、マルチメディアの設定から充電を予約することができます。設定手順の詳細は「[充電予約](#)」を参照してください。
- 予約充電の設定がされていると、普通充電はできません。
- 充電時、コンビネーションメーターやマルチメディアにはフル充電までの所要時間が表示されます。温度、残量、充電施設などによりフル充電目安時間は多少増減しますが異常ではありません。
- バッテリー残量が少ない場合は、予約充電機能が使用できません。

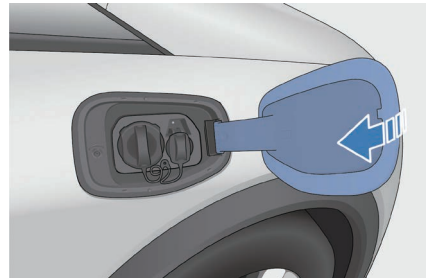
3. 充電を停止する場合

- 充電が完了する：
 - フル充電になると、自動的に充電が完了します。
- 充電ポートの接続を切る：
 - 盗難防止機能がOFFの場合は、実際の状況に応じて充電コネクタ上のメカボタンを押してから充電コネクタを抜き出すか、そのまま充電コネクタを抜き出してください。
 - 盗難防止機能が有効になっている場合、リモートキーのアンロックボタンまたはドアハンドルのマイクロスイッチを押して、充電コネクタを外します。

i アドバイス

- 車を解錠させ、リモートキーの解錠ボタンを押す（電源ポジション OFF で充電する場合）、またはフロントドアハンドルのマイクロスイッチを押します（リモートキーが近くにあるとき）。
- 盗難防止ロック機能を作動させている場合は、充電コネクタを抜き出す前に、車の解錠操作で充電ポートの盗難防止ロックを解錠させてから、30 秒以内に充電コネクタを抜き出してください。抜き出さないと、充電ポートの盗難防止ロックが再度施錠されます。
- 盗難防止ロックの作動モードは、マルチディスプレイで設定することができます。設定手順の詳細は、本セクションの「[充電ポート盗難防止ロック機能](#)」を参照してください。
- ロック解錠を操作したが、充電コネクタを抜き出せない場合は、数回解錠操作を繰り返してください。それでも抜き出せない場合は、非常解錠を操作してください。操作手順は「[充電ポート盗難防止ロック機能](#)」を参照してください。
- 充電ポート盗難防止機能を OFF にしても充電コネクタを抜き出せない場合は、車を解錠してから再度操作してください。

- 給電プラグを外します。
- 車の充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。
- 使用した充電設備を元に戻します。



! 警告

- Mode 2 タイプは落下させないでください。この充電装置を移動するために、そのままケーブルを引っ張ることを禁止します。設備の移動の際は取り扱いに注意してください。使用した後、設備を冷暗所に保管してください。

i アドバイス

- 充電ポートキャップを全開している状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。

AC 充電スタンドでの充電

1. 充電器について

■ 単相 (AC) 壁掛け式充電ボックス *

- 基準に適合する家庭用充電ボックスで車のバッテリーを充電します。充電設備の使い方は、使用する充電設備のマニュアルを参照するか、このオーナーズマニュアルにしたがって操作してください。
- 単相 (AC) 壁掛け式充電ボックス：この装置は、充電ボックス、充電コネクタ、およびケーブルで構成されています。断路器、非常停止スイッチなどについては、充電ボックスの取扱説明書を参照してください。

■ 単相 AC 充電スタンド

- 公共の場に設置される AC 充電スタンドで車のバッテリーを充電します。
- 充電時間：コンビネーションメーターまたはマルチメディアに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。

2. 充電する

■ 車を解錠し、充電ポートフラップを開けます。

- 「[家庭用 AC 普通充電](#)」の充電を参照し、充電ポートフラップを解錠して開けます。

■ 車側の接続：

- 充電装置の充電コネクタを車の充電ポートに挿し込み、確実に施錠します。

■ 充電の設定：

- 認証を必要とする AC 充電スタンド / ボックスについては、カードをかざすか、QR コードをスキャンしなければなりません。取り扱い方法の詳細は、充電スタンド / ボックスの取扱説明書を参照してください。

■ コンビネーションメーター充電接続表示灯 が点灯します。

■ 充電時、コンビネーションメーターには関係充電パラメーターが表示され、同時に充電画面も表示されます。

3. 充電を停止する

- 充電完了：
 - 充電設備に対し事前に終了が設定されている、または充電が完了すると充電器は自動的に充電を終了し車の充電が完了します。
- 充電ポートの接続を切る：
 - 「家庭用 AC 普通充電」の充電を参照し、充電ポートの接続を切り離します。
- AC 充電ポートフラップを閉めます（「家庭用 AC 普通充電」についての説明を参照してください）。
- 充電設備を整理し、適切に保管してください。
 - AC 充電スタンド / ボックスの場合は、充電コネクタを充電スタンド / ボックスの指定位置に戻します。


DC 急速充電

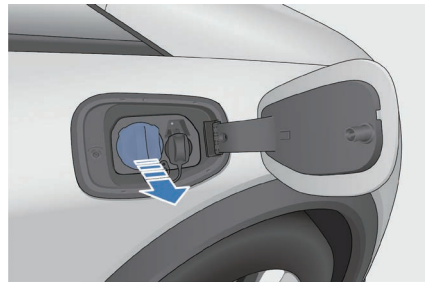
1. 充電器について

- 公共の DC 急速充電器で車のバッテリーを充電します。DC 急速充電器は、通常特定の充電スポットに設置されています。
- 充電時間：コンビネーションメーターに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。
- 設備規格：CHAdeMO 対応。充電器関連の説明を読んでください。

2. 充電する

CHAdeMO の充電コネクタを使い、車と DC 充電スタンドを接続し、DC 急速充電を行います。

- 車を解錠して充電ポートフラップ、充電ポートキャップを開けます。
- 車側の接続：
 - CHAdeMO の充電コネクタを車の充電ポートに確実に差し込みます。
- 充電設備の操作手順で操作し、充電を開始します。
- コンビネーションメーター充電接続表示灯  が点灯します。



- 充電時、コンビネーションメーターには関連する充電パラメーターが表示され、同時に充電画面も表示されます。

3. 充電を停止する

- 充電が完了する：
 - 充電器に対し事前に終了が設定され、または充電が完了すると充電器は自動的に充電を終了させ、車の充電が終了します。
- 充電ポートの接続を切る：
 - DC 充電コネクタ上のメカニカルロックボタンを押し、充電コネクタを抜き出します。
- 充電器で DC 急速充電が完了し、充電設備を整理し、充電コネクタを充電器の指定位置に戻します。
- DC 充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。

警告

- 充電に関する警告の詳細は、「[充電について](#)」を参照してください。

注意

- 充電完了後、ロック解錠の操作をしても充電コネクタが抜き出せない場合は、数回解錠操作を繰り返してください。それでも抜き出せない場合は非常解錠を操作してください。操作手順は「[充電ポート盗難防止ロック機能](#)」を参照してください。
- DC 充電の場合のロック解錠は、3 秒以内に 2 回連続でアンロックボタンを押さなければ解錠できません。
- 充電に関するご注意の詳細は、「[充電について](#)」を参照してください。

アドバイス

- 充電ポートキャップを外した状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。




スマート充電機能

- 本車はスマート充電機能を搭載しているため、長時間にわたり車を駐車する場合は、起動バッテリーの負極（-）端子を取り外す必要はありません。
- 左ボディーメインコントローラーが起動バッテリーの残量低下を検知した場合は、パワーバッテリーから起動バッテリーを充電することができます。

i アドバイス

- 長時間にわたって車を放置すると、制御プログラムにより自動的にスマート充電機能を行います。故障ではありません。
- スマート充電に必要な電気エネルギーは、パワーバッテリーパックから取り出すもので、車のスマート充電機能が作動すると、パワーバッテリー残量の低下を起すことがあります。車両の故障ではありません。
- スマート充電機能によるパワーバッテリーの過放電を避けるため、車のバッテリー残量が少ない場合は、スマート充電機能を利用できません。バッテリー残量が少ない状態での長時間にわたる駐車は避けて早めに充電してください。

充電予約

- マルチメディアで充電モードを設定することができます。設定は次の操作で行います。
 - **マルチメディア**  → **エネルギー** の操作で「充電予約」の設定画面に入ります。
- リターンボタン  /home ボタン  をクリックして、充電予約画面を閉じることができます。

設定画面

- 1 充電予約スイッチ
- 2 充電時間
- 3 繰り返しサイクル
- 4 設定



- デフォルトとして車両は即充電できるように設定されており、充電予約スイッチは OFF になっています。
- 充電予約を行う必要がある場合は、充電予約スタートボタン①をクリックし、充電の開始時間②および繰り返しサイクル③を設定します。設定後、「確定」をクリックして設定を保存します。
- 予約設定後、充電待ち時間内に充電コネクタを接続するか、車両の電源ポジションを「OFF」にすると、マルチメディアは、現在充電を予約していることを知らせます。必要に応じて即時充電に変更することができます。
- ドライバーは、充電予約設定アイコン④をクリックし、「充電予約通知」の画面で充電コネクタ接続通知およびパワー OFF 通知機能を OFF にすることができます。

⚠ 注意

- 充電予約機能は、BYD の AC 普通充電設備を対象に開発したものです。BYD 純正部品以外の AC 普通充電設備を利用するときは、この機能を OFF にしてください。充電設備が非対応のため予約ができない、即座に充電することで車のバッテリー残量が低下したり、電圧不足につながったりするおそれがあります。

i アドバイス

- 通知画面の「即充電に変更」は、今回の予約に限るものです。すべての予約をキャンセルする場合は、設定画面で充電予約スイッチを OFF にしてください。
- バッテリー残量が低下している場合は、充電予約に入る前に最小限のバッテリー残量を確保するための充電を行います。最小限のバッテリー残量を確保するための充電を行うときは、マルチメディアはパワー OFF 通知および充電コネクタ接続通知を発信し、メーターの下側に該当のお願いのメッセージが表示されます。
- DC 充電コネクタ* に接続すると、充電予約の設定が無効になり即座に充電を開始します。

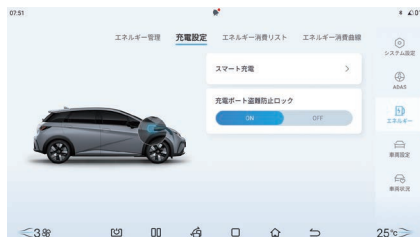
充電ポート盗難防止ロック機能

充電コネクタの盗難事故を防ぐため、充電ポートには車に対する充電・給電中の盗難防止機能が備わっています。この機能のデフォルトは **OFF** の状態となっていますが、盗難防止機能を ON にする場合は、**マルチメディア** → **エネルギー** → **充電設定** の順に設定画面に入り、ON を選択して盗難防止機能を作動させてください。

■ **ON** モードにおいて充電する場合、ドライバーは次の方法で盗難防止機能を解除し、充電コネクタを抜き出すことができます。

- リモートキーのアンロックボタンを押して解錠します。
- 運転席ドアのアウトハンドルにあるマイクロスイッチを押して解錠します。
- 運転席ドアガラス内側の下にある集中ドアロックを押して解錠します。

■ 下記表のとおり、車両が No.2、3、4 の状態にある場合は、ドライバーが上記解錠操作以外に充電コネクタボタンを操作し解錠することで、充電コネクタを抜き出すことができます。ただし、この操作は充電ポートや充電コネクタの使用寿命を縮めるおそれがあるため、緊急時以外にこの操作を頻繁に行うことは避けてください。



4

使用および運転

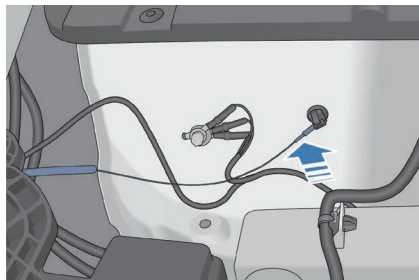
番号	「充電ポート盗難防止ロック作動モード」設定状態	4 ドア盗難防止ロック状態	充電コネクタ抜き出しの可否
1	ON	施錠	不可
2	ON	ON	可能
3	OFF	施錠	可能
4	OFF	ON	可能

▲ 注意

- 充電コネクタのロックを解錠してから 30 秒以内に充電コネクタを抜き出すことができます。30 秒経過後、盗難防止ロックが再び施錠されるため、新たに解錠したうえで充電コネクタを抜き出してください。
- 盗難防止ロック作動モードを OFF にした場合は、充電停止によって自動的に解錠します。盗難防止ロック作動モードを ON にした場合は、車両を解錠する必要があります。

交流充電ポートの非常解錠

- 充電ポート盗難防止ロックの故障で充電コネクタを抜き出せないとき、手で非常解錠の操作を行い、充電コネクタを抜き出してください。
- ボンネットを開けると、モータールーム内に充電ポート盗難防止ロックを解錠するためのワイヤーがあります。このワイヤーを引くと、充電コネクタを解錠することができます。

**▲ 注意**

- 非常解錠機能のご利用は、交流充電コネクタにのみ限ります。
- 上記機能の異常または故障がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡するようにおすすめします。

外部給電方法

■ 本車には外部給電機能を備えています (V2L)。

⚠ 警告

- 外部給電中に、外部給電用ソケットや車両側ポートの金属端子を触らないでください。
- 外部給電中に、異臭や煙立ちなどの異常がある場合は、ただちに外部給電を停止してください。
- 外部給電についての警告は、充電警告と同じです（「[充電について](#)」を参照してください）。
- 使わないときは、本製品を乾燥した冷暗所に保管してください。
- 外部給電しているときは、設備をトランクルームや車の前部の下、タイヤの近くに置かないでください。
- 使用中は車にひかれたり地面に落とす、または人に踏まれないようにしてください。
- 落下禁止。この充電装置を移動するために、直接ケーブルを引っ張ることは禁止されています。
- コンセントのコードが柔らかくなったり、給電コネクタケーブルの摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損がある場合は、外部給電設備を使用しないでください。
- 給電コネクタや給電コンセントの切れや破裂、または表面の破損がある場合は、外部給電装置を使用しないでください。

⚠ 注意

- 外部給電器 * 使用時の注意事項については、「[充電上のご注意](#)」を参照してください。
- 外部給電の前に車のパワーバッテリー残量を確認し、外部給電後の航続可能距離を見込んでください。
- 外部給電の前には、負荷が OFF になっていることを確認してください。
- V2L 外部給電装置は、規格 EVPS-004:2014 に適合しなければなりません。V2H 外部給電装置は、規格 EVPS-002:2014、または EVPS-002:2018 に適合しなければなりません。
- 外部給電中に給電コネクタを抜き出さないでください。外部給電が完了した後は、外部給電装置の作動が止まっていることを確認したうえで給電コネクタを外してください。

i アドバイス

- 外部給電は、できるだけパワーバッテリー残量が多いときに使用してください。
- パワーバッテリー残量が少ないときは、外部給電機能の使用が制限されます。
- 電源ポジションを「OFF」にし、長時間外部給電器を接続したまま電気エネルギーを出力しない場合、車の漏洩電力が多くなるため、給電コネクタを外すようおすすめします。

外部給電方法

外部給電の開始について

- 給電前に、イモビライザーを OFF にしているか確認します。
- 充電ポートフラップのロックを解錠し、車の充電ポートフラップと DC 充電ポートフラップを開けます。
- 外部給電前の点検：
 - 自車のパワーバッテリー残量が 15% 以上であることを確認する。
 - V2L 接続装置のキャビネットの割れ、プラグの錆、および異物の付着などの異常がないかを確認する。
 - 充電ポートに水分または異物がない、金属端子に錆や腐食による破損や影響がないことを確認する。
 - 上記 2 つ目、3 つ目に記載されている状態の場合は、外部給電をしないでください。ショートや感電などにより身体に危害をおよぼすおそれがあります。
- 外部給電器の接続：
 - V2L 外部給電器を充電ポートに接続しコンセント上の表示灯が常時点灯した場合、コンセントに電気が流れ正常に使用できていることを表します。
- 外部給電を開始する：
 - 外部給電器に接続すると外部給電が開始します。コンビネーションメーターには外部給電に関するデータや給電画面が表示されます。

外部給電を停止する

- 外部給電を終了する：
 - 負荷を切り離します。
- 外部給電器を切り離す：
 - 外部給電器を抜き出します。
 - 充電ポートキャップおよび充電ポートフラップを閉めます（「[家庭用 AC 普通充電](#)」についての説明を参照してください）。
- 給電装置を片づける：
 - 外部給電完了後、外部給電器を収納します。

パワーバッテリー

- パワーバッテリーは車の動力源で充放電を繰り返すことができ、また、外部電源でパワーバッテリーを充電します。制動時や惰性走行時には、回生ブレーキによりパワーバッテリーの充電もできます。
- パワーバッテリーはボディの底部にあるため、悪路や冠水した道路を走る場合は、バッテリーの破損がないように慎重に運転してください。

バッテリー特性

- バッテリー本体の電気化学特性の影響およびパワーバッテリーを保護する目的で、以下の条件下では、車の性能に一定のばらつきがありますが、異常ではありません。
 - パワーバッテリーの残量が多い場合は、車の回生ブレーキ性能が低下することがあります。
 - フル充電に近づくまでパワーバッテリーを充電すると、トリクル充電モードに切り替わるため、メーターに表示されるフル充電までの予測時間が変化します。
 - パワーバッテリーの残量が少ない場合は、車の加速性能が低下します。
 - パワーバッテリーの残量が少ない場合は、V2L* が正常に使えないため、早めに充電してください。
 - 高温や低温の環境では、パワーバッテリーの充放電能力が弱くなるため、充電時間が延びますが異常ではありません。この場合、高出力充電設備で充電するようおすすめします。気温が極端に低い状態で走行する場合は、動力性能が低下することがあります。
 - 温度制御機能により、低温の環境でパワーバッテリーを充電する場合の充電能力を大幅に改善しています。低温時の充電については、「[充電上のご注意](#)」を参照してください。
 - バッテリー温度制御機能は、低温の環境で車を運転する際に適切なタイミングで自動的に加熱を開始し、低温走行時の動力性能や放電性能を確保することで走行性能を向上させます。走行距離が短い場合は、加熱が十分にできないため、電気消費が増えてしまい航続可能距離が短くなる可能性があります。

- パワーバッテリーが通常通りに使用されている場合、車の航続可能距離は以下の要因により影響を受けます。
 - 運転習慣：一定速度で走行する場合に比べ、加速や減速を頻繁に行う方が航続可能距離は短くなります。また低速よりも高速の方が航続可能距離が短くなります。
 - 道路状況：悪路が続く道路や長い上り坂を走行する場合の航続可能距離は、平坦で乾燥している路面を走行する場合より短くなります。
 - 気温：低温の環境で走行する場合の航続可能距離は、通常の環境で走行する場合より短くなります。
 - 電気機器の使用状況：運転中にエアコンを付ける場合の航続可能距離は、エアコンを使わない場合より短くなります。
 - 低温の環境では、パワーバッテリーの利用可能な残量が低下し、温度が下がるとともに低下します。低温の環境に停車しているバッテリー残量が多い車に対してバッテリーを充電する場合は、パワーバッテリー残量が急に 100% になることがあります。

バッテリーの使い方について

- 周囲温度 -10 ~ 40℃の範囲内で車を使うことをおすすめします。バッテリー残量が少ない場合は、十分な航続可能距離や良好な加速性能を確保するため、早めに充電してください。
- 長期間性能を維持するためには、高温や極端な低温の環境に 24 時間以上駐車することは避けてください。
- 周囲の温度が低い環境で長時間車を駐車する場合は、バッテリーの熱放散を低減させ車の使用性能を確保するために、地下駐車場や暖房付き駐車場など温度が高いところに駐車してください。
- 運転中に頻繁な急加速や急減速を避ける、平坦で乾燥している道路を走行する、または必要に応じてエアコンなどの消費電力の大きい電装部品を消す、エアコンの温度を上げるなどを行い航続可能距離を伸ばすことをおすすめします。
- 普通充電は、パワーバッテリーを長持ちさせる方法です。
- 初めて車を使う場合や長時間放置した後に再び車を使用する場合は、メーターに表示されるパワーバッテリー残量がばらつくことがあります。始めに、パワーバッテリーをフル充電するようおすすめします。
- 日常的に車を使用する場合、定期的に車のバッテリーをフル充電してください (推奨: 充電は週に 1 回以上)。また、3 ヶ月~半年毎にバッテリー残量が少ない状態 (10% 以下) からフル充電するようおすすめします。

- 極端な走行（急加速や急減速の繰り返しなど）によりパワーバッテリーの温度が高くなりすぎた場合、パワーバッテリーの放電能力が徐々に低下していきませんが異常ではありません。バッテリーの温度が高くなりすぎると、メーター内の警告灯が点灯します。この場合はBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- パワーバッテリーの残量が異常に上がったたり、下がったりする場合は、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場での点検を行うようおすすめします。

警告

非常時や事故発生時、次の警告に注意してください。

- 怪我などを避けるために、パワーバッテリーに直接触らないでください。早急にBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- パワーバッテリーが破損し、液体が漏れ出した場合は、絶対にその液体に触らないでください。不注意で皮膚や目に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流し、ただちに医師の手当てを受けてください。
- 車両火災が起きた場合は、専用消火器で火を消してください。水系消火器を使わないでください。
- パワーバッテリーは専門の技術者でないと整備できません。ご自身でバッテリーの蓋を開けたり、改造したりしないでください。

▲ 注意

- パワーバッテリーの安全を確保するためには、引火性・爆発性があるもの、火元および各種の危険化学品から遠く離れたところに車を駐車してください。
- 利用可能なバッテリー残量は、車の使用時間の増加につれて多少低下します。
- 駐車は、熱源から遠く離れ、長時間日光が当たるところを避けてください。パワーバッテリーの寿命を短縮させるおそれがあります。
- 車を長期間（7日以上）使用しない場合、パワーバッテリーを長持ちさせるためにバッテリーの充電を40%～60%に保つことをおすすめします。車を3ヶ月以上使用しない場合は、パワーバッテリーを3ヶ月毎にフル充電し、その後40%～60%まで放電してください。そうしないと、パワーバッテリーの過放電によるバッテリー性能の低下、または破損を引き起こすおそれがあります。このような車両の故障は、品質保証の対象外となります。
- パワーバッテリーはボディーの底部にあるため、悪路を走る場合は慎重に運転してください。
- パワーバッテリーが何かにぶつかった場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場での点検を行うようおすすめします。

パワーバッテリーの回収

廃車やパワーバッテリーの処分については、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に問い合わせてください。

起動バッテリー（12V）

起動バッテリーはリアシートの下部に格納されています。バッテリーの点検カバーは、リアシート中央席に着座している乗員のくるぶし部に設置されています。点検カバーを開けると、バッテリーの負極（-）端子および負極（-）側アースハーネスが見えます。

- 起動バッテリーの電圧不足を避けるため、条件（車の電源ポジションが「OFF」でパワーバッテリーから給電ができ、起動バッテリーの電圧が設計値以下）を満たしている場合は、自動的に「スマート充電」機能を作動させます。
- 起動バッテリーの電圧が低すぎると車の低圧電源として使えないことがあるため、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- 車を使用してから 3～5 年後、サービス工場での通常のメンテナンスを行うときに、サービス工場のスタッフにバッテリー端子部の腐食状況、バッテリーおよび端子が確実に固定されているかなどの点検をご依頼することをおすすめします。

警告

- 起動バッテリーの中には腐食性のある溶液が入っています。起動バッテリーを破損させたり、人身事故を起こしたりしないように無断で起動バッテリーの分解や修理をしないでください。
- 起動バッテリーの取り外し、分解を勝手にしないでください。環境汚染や事故を起こした場合は、相応の責任を負わなければなりません。
- 起動バッテリーは可燃性・爆発性のある水素ガスが発生します。工具を使う場合は、起動バッテリーからの火花の発生を避けてください。起動バッテリーの近くでタバコを吸ったり、火を付けたらしないでください。
- 電解液が目や皮膚、服に付着しないよう注意してください。電解液が皮膚や目に付着した場合は、重曹水で皮膚を洗い、多量の水で目を洗い流し、ただちに医師の手当てを受けてください。
- 誤って電解液を飲み込まないでください。
- お子様を起動バッテリーに近づけないでください。

⚠ 注意

- 起動バッテリーを点検する場合、始めに負極（-）端子に付いているアース線を外し、取り付ける際は最後に取り付けてください。
- 起動バッテリーを洗浄する場合、液体が起動バッテリーの中に入らないように注意してください。

i アドバイス

- 電源ポジションが「OFF」になり、スマート充電が行われる場合は、車から電源ポジションを「OK」にしたときの音が聞こえますが、異常ではありません。
- スマート充電中に修理作業をしないでください。
- 車から離れる場合は、きちんとドアを閉め切り、すべての電気機器をOFFにしてください。
- 長期間車を放置する場合は、ご自身で起動バッテリーの負極（-）端子を外しておいてください。

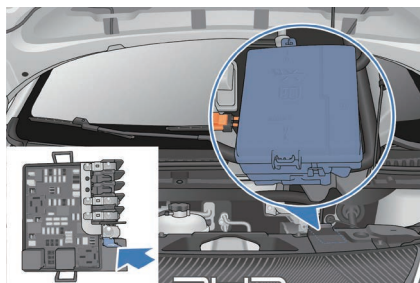
起動バッテリーの電圧不足時のスリープ解除機能

- 本車は、起動バッテリーのスリープ解除機能を搭載しています。長期間車を放置したことで、起動バッテリーがスリープ状態になっている場合は、リモートキーの操作では解錠することができません。この場合、リモートキーを運転席側ドアに近づけ、2回連続で運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、起動バッテリーのスリープ状態を解除することができます。車を解錠後、正常に利用することができます。上記操作で起動バッテリーのスリープ状態が解除できない場合は、起動バッテリーの残量が少ない可能性があります。

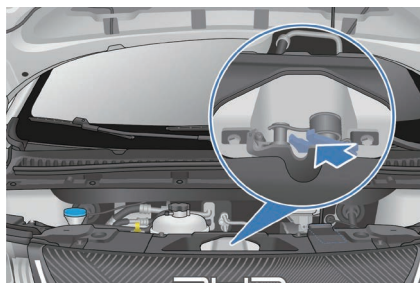
ジャンピングスタートによるスリープ解除*：

運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押しても、起動バッテリーのスリープ状態が解除できず、車の電源が入らない場合は、他の12V仕様のバッテリーによるジャンピングスタートで車を始動させることができます。

- ジャンピングスターター用の正極 (+) 端子: モータールームのフューズボックスの中にあります。



- ジャンピングスターター用の負極 (-) 端子: ボンネットストライカーのところにあります。



⚠ 注意

- モータールームのフューズボックスでは、ジャンピングスターターのためのスペースが狭く、感電などの危険もあるため、専門家の指導により、ジャンピングスタート作業を行うことをおすすめします。

⚠ 警告

- 他車を救援するためにジャンピングスタートを行わないでください。起動バッテリーの破損を引き起こすおそれがあります。
- 起動バッテリーの電圧不足や正常に利用できないなどで、ジャンピングスタート作業を行う場合は、オーナーズマニュアルの該当内容をよく読み、必ず記載にしたがってブースターケーブルを接続し、関連操作を行ってください。
- 起動バッテリー内部にはインテリジェントコントロールモジュールが内蔵されています。起動バッテリーの破損を防ぐために、緊急時以外では、無断で取り外したり破壊させたりしないでください。
- 部品交換や車両整備の前には、起動バッテリーの負極 (-) 端子を外してください。
- 起動バッテリーは、乾燥したウエスなどで拭き、水洗いはしないでください。

慣らし運転期間

- パワーユニットが起動しにくい、または回転がよく止まってしまう場合は、ただちに車を点検してください。
- パワーユニットから異音が発生している場合は、安全なところに停車し、点検してください。
- パワーユニットから冷却水、潤滑油が漏れている場合は、安全なところに停車し、点検してください。
- パワーユニットは慣らし運転が必要です。エコモードで最初の約2000kmは高速走行を避けて、できるだけ一定の速度で走行して慣らし運転を行うようおすすめします。下記の操作を避けることで車を長持ちさせることができます。
 - 始動や運転時、アクセルペダルを強く踏み込むことを避けてください。
 - スピードを出し過ぎないでください。
 - 長時間、一定速度での高速走行や低速走行をしないでください。

トレーラーのけん引

- 本車は乗用車として設計されています。自分や他人の安全のために、定員超過で人を乗せたり、トレーラーをけん引したりしないでください。
- トレーラーのけん引では、車両の操縦、性能、制動、耐久性、エコ運転および電気消費などに悪影響をおよぼします。
- リアバンパークロスメンバー（リンフォースメント）の無断での取り外し・取り付け、およびトウバーマウント型サイクルキャリアの後付けをしないでください。リアバンパークロスメンバーの無断での取り外し・取り付けによる不具合は、品質保証対象外となります。
- トウバーマウント型サイクルキャリアの後付けをご希望される場合は、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場でのハードウェアのアップグレードを行ってください。
- 運転の安全や快適性は、正しい設備の使い方や慎重な運転習慣により決まります。
- BYDは、商用目的でのトレーラーけん引による破損や故障を保証しません。

安全運転上のご注意

飲酒運転厳禁

少量の飲酒でも、交通条件の変化に対する反応が遅くなります。飲酒量が多いほど反応が鈍くなるため、飲酒運転は絶対にしないでください。




速度の抑制

スピードの出し過ぎは、衝突事故や死傷事故を引き起こす主な原因です。通常は速度が速いほど危険性が高まります。道路状況に応じて安全な速度で走行してください。

車を安全運転可能な状態に保つ

タイヤのバーストや機械の故障は非常に危険です。故障の確率を下げるために、常に車の状況を点検し、定められた点検を行ってください。

注意

-  疲れているときは運転しないでください。
-  運転時、必ず交通ルールを守ってください。
-  運転中、必ず運転に集中し、運転と無関係の操作をしないでください (携帯電話の使用、ボタンの調整など)。

荷物の積み込み

- 本車は、複数の便利な格納スペースを用意しています。積み込む荷物が
多い、または積み込み方が不安定な場合は、車の操縦性、安定性および
正常な運転に影響をおよぼし、車の安全性を低下させることがあります。
- 荷物を積み込む場合は、車両本体、乗員全員および荷物の総重量が車両
総重量を超えてはなりません。

⚠ 警告

- 積載オーバー、不適切な積み込み方は、車両の操縦性および安定性に
影響をおよぼし、衝突事故を招くおそれがあります。
- 本マニュアルに記載される車両総重量や、他の積載ルールを守ってくだ
さい。
- 車の正常な運転への干渉を避けるために、強い磁気を持つものを車に
搭載しないでください。

客室に荷物を積み込む場合

⚠ 警告

- 衝突時に車内に投げ出され、乗員に怪我を負わせる可能性のあるもの
は、確実に収納または固定しなければなりません。
- リアシェルフにもものを置かないでください。車両後方の安全確認の妨
げになり、衝突時には車内に投げ出される場合があります。
- フロントシート後部の床に置いているものは、ドライバーのペダル操
作やシートの調整の妨げにならないように、シートの下で転がらない
ようにしてください。荷物の積み込みはフロントシートバックを超え
てはいけません。
- 運転時はグローブボックスをきちんと閉めてください。グローブボッ
クスが開いていると、衝突時や急ブレーキ時に乗員のお膝などに怪我を
負わせるおそれがあります。

📌 アドバイス

- お子様のおもちゃを車内に積み込まないでください。急ブレーキや衝
突事故などが発生した場合、おもちゃが安全走行を妨げるだけでなく、
お子様に怪我をさせるおそれがあります。

トランクルームに荷物を積み込む場合

警告

- 走行中に移動しないように紐やチェーンで荷物をきちんと固定します。荷物はシートバック高さ以上に積み込まないでください。

- 荷物をトランクルームに均一に入れ、最も重い荷物は一番下に置き、できるだけ前側の方に置きます。

冠水路の走行

- 冠水路に進入する前に水の深さをきちんと確認してください。水の深さはボディー下部の縁部を超えてはいけません。
- 冠水路を通り抜ける場合は、発進前にエアコンを消して低速で走行し、アクセルペダルを軽く踏み続けながら、ゆっくり走り抜けてください。
- 車を水の中で絶対に停車させないでください。また、水の中でバックしたり、モーターをOFFにしたりしないでください。
- 無事に冠水路を走り抜けた後、ブレーキペダルを数回軽く踏んでブレーキディスクに付着した水を落とし、できるだけ早く通常の制動性能に戻してください。
- 深い冠水路を通り抜ける場合は、ブレーキを濡らすことがあるため、慎重に運転してください。



警告

- ブレーキシステムに水や泥などが侵入すると、ブレーキの効きが悪くなり制動距離が延びるため、事故につながるおそれがあります。
- 冠水路を走り抜けた後は、できるだけ急ブレーキを避けてください。
- 車がくぼんでいる冠水路を走る場合は、モーターへの水侵入がないように注意してください。モーターの重大な破損につながるおそれがあります。それによる車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- 冠水路を走り抜けた後、ドライブトレインシステム、走行システムおよび電気システムなどの部品も大きな被害を受けるおそれがあります。それによる車両故障および破損も、品質保証の対象外となります。
- 水位がドアガラスよりも高くなり、緊急脱出ハンマーを使用した場合、割れたガラスが室内に入り、怪我をするおそれがあります。フロントウィンドウと前席ドアのガラスは合わせガラスで割れないため、後席ドアかテールゲートのガラスを割って脱出してください。

高電圧部品の内部に水が侵入した場合：

- 高電圧部品は電子部品のため、車が水の中に浸かった場合、高電圧部品は乾かしても十分に水切りできる保証はありません。
- 高電圧部品の内部に水が侵入すると、部品自体の絶縁性に大きな影響を与えます。また、水分に多く含まれる導電性物質により高電圧部品の内部ショートや高電圧システムのショートが引き起こされるおそれがあります。このような場合、車の安全性能や使用性能に重大な影響を与えます。
- 高電圧部品の内部に水が侵入すると、製品の IP 保護等級、耐電圧などの性能はいずれも大きな影響を受けるため、大きな危険性があります。
- 台風などの荒れた天候では、可能な限り雨が降らない場所で充電するように注意してください。サイドシルの高さ以上に車が水に浸かったり、冠水路を走行するときに浸水したりすると、高電圧部品の内部に水が侵入するおそれがあるため、侵入した場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での点検や処置をしてください。タイヤの半分以上が水に浸かる冠水路での走行はしないでください。

火災の予防

車両火災を有効に防止するために、車を使用する際、下記のことにご注意してください。

- 車内に引火性・爆発性のあるものを格納しないでください。
 - 炎天下、日が当たるところに駐車する場合は、車内の温度が60～70℃以上に達することがあります。車内にライター、洗浄剤、香水などの引火性・爆発性のあるものを置くと、火災、ひいては爆発が発生するおそれがあります。
- 喫煙後、吸い殻は火が完全に消えていることを確認してください。
 - 喫煙は、身体の健康を害するだけでなく、火災を引き起こすおそれもあります。火が完全に消えていない吸い殻は、火災を引き起こすおそれがあります。
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にて定期点検を行うようおすすめします。
 - コネクタとワイヤーハーネスとの接続、絶縁および固定位置などに異常がないかを確認するために車両全体の配線の定期点検を行う必要があります。不具合が見つかった場合は、早めに処置してください。
- 車両の配線の改造、電装品の後付けを禁止します。
 - 電装品（ハイパワーオーディオ、照明器具など）の後付けは、回路に過大な負荷がかかり、ワイヤーハーネスの発熱による火災の原因になります。
 - 基準外の電器・配線の改造により抵抗が大きくなり、異常に発熱して火災を引き起こすおそれがあります。電装品の定格から外れたフューズや金属ワイヤーをフューズの代わりに使うことを厳禁します。
- 正しい駐車場所を選びます。
 - 停車時、できるだけ日にさらされるところを避けてください。
- 車に車載用の消火器を搭載することをおすすめします。
 - 車の安全を確保するため、車に消火器を搭載する場合、定期的な点検や交換を行ってください。また、消火器の使い方を熟知し、非常時に迅速に対応できるようにしてください。
- 車の修理やメンテナンスを行う場合、起動バッテリーの負極（-）端子を外します。

- 車両火災が起きた場合は、迅速かつ冷静に効果的な方法で対処し、被害を最小限にしなければなりません。
 - 火災の発生は、ボディーからの異音や異臭などのような前兆があります。異常を感じたら、できるだけ風が当たらないところに車を停車し、車載用消火器で初期消火を行います。
 - 早めに 119 番に通報すると同時に、該当の保険会社にも通報し現場対応を要請します。
 - 火元を特定します。モータールームから煙が立った場合はすぐにボンネットを開けないでください（ボンネットを開けると、大量の空気が入り火の勢いが強くなるためです。ボンネット閉めておくことで火の勢いを抑え、消火を助けることができます）。車載用消火器を使い、ボンネットの隙間から火元に向け消火剤を噴射します。または外部に助けを求め、複数の消火器を借りることができれば、外部から火が見えない状態で、ボンネットを開けて消火剤を噴射し続けることができます。
 - 事故発生後、早めに保険会社に対応などを依頼します。


アドバイス

- 車で思わぬ被害が発生することを防ぐために、車両保険に加入することをおすすめします。

電気の省エネで車を長持ちさせる方法について

- 節電はシンプルで簡単、しかも車の寿命を延ばすことにもつながります。
- 電気エネルギーや修理代を節約する要領を次に示します。

1. 回生ブレーキ設定：

- 本車は、回生ブレーキ機能および回生ブレーキ強さの設定機能を搭載し、マルチメディア  → エネルギー → エネルギー管理 で設定することができます。回生ブレーキ強度が強と設定された場合は、制動・惰行中に回収するエネルギーを増やすことができます。運転習慣に合わせて設定してください。

2. 速度維持：

- 一定速度での運転は電気の省エネに役立ちます。急アクセルや急ハンドル、および急ブレーキはより多くの電気エネルギーを消費します。
- アクセルペダルを踏むたびに余分な電気エネルギーを消費するため、交通状況に応じてできるだけ一定速度で走行してください。
- 急発進、急アクセル、急ブレーキを避け、アクセルペダルゆっくりを踏んでください。
- 一定の速度を維持しながら車を運転することや、信号が設定されていない道路を走行しながら前車との車間距離を適切に保ち急ブレーキを避けることは、ブレーキの摩耗の軽減につながります。
- 渋滞している道路はなるべく避けてください。
- 高速道路を走行する場合は、適切な速度を維持してください。速度が速いほど、電気エネルギーの消費が多くなります。速度をエコ走行になる範囲内に保つことで、省エネにつながります。

3. 負荷の軽減：

- エアコンの作動によりモーターに余分な負荷がかかるため、より多くの電気エネルギーが消費されます。エアコンを消すことで電気エネルギーの消費を減らします。快適な外気温度の場合は、外気導入モードにして外気を取り入れてください。
- 車に不要な荷物を積むことは避けてください。荷物が多すぎると車への負荷が増えるため、より多くのエネルギーが消費されます。

4. その他：

- タイヤの空気圧を適切に保ってください。タイヤの空気圧不足は、タイヤの摩耗や電気エネルギーの消費につながります。

- フロントタイヤの正しいアライメント（取り付け角度）を保ってください。道路の縁石へ乗り上げることを避け、悪路ではゆっくり走行してください。フロントタイヤのアライメントが良くない場合は、タイヤの早期摩耗につながるだけでなく、電動パワートレインへの負荷も大きくなるため、電気エネルギーをより多く消費します。
- 泥などの付着がないようにシャーシを清潔な状態に保ってください。ボディ重量を軽減するだけでなく、腐食を防ぐこともできます。

アドバイス

- 走行中の、ニュートラルギアでの惰性走行を厳禁します。

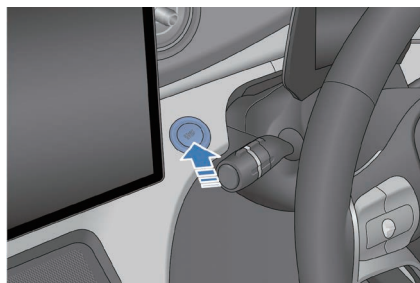
車の始動

通常の始動方法：

- 必要のないランプやアクセサリを OFF にします。
- リモートキーを携帯します。



- ブレーキペダルを踏み込んだ状態で「スタート/ストップ」ボタンを押します。
- メーターの「OK」表示灯が点灯すると、車は走行できる状態になります。



- 次の場合は、車の始動ができません。
 - 「スタート/ストップ」ボタンを押したとき、リモートキーシステム警告灯が点灯し車のスピーカーから警告音が鳴ります。同時にコンビネーションメーターの中央部インフォメーションディスプレイに「キー検出不可」と表示された場合は、リモートキーが車内にない、または干渉によりキーが検知できないことを表します。
 - リモートキーは車内にあるが、正しい位置に置かれていない場合（例：床面、トランクルーム内または収納箱内など）は、車を始動することができません。

緊急時の始動方法

- パーキングブレーキを確実にかけます。
- 必要のないランプやアクセサリを OFF にします。
- シフトレバーを「P」または「N」に入れます。
- 車の電源ポジションを「OFF」にします。
- リモートキーを車内に置きます。
- 「スタート/ストップ」ボタンを 15 秒以上長押しすると、車が始動します。

警告

- 運転時、「スタート/ストップ」ボタンを触らないでください。
- ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながるため、始動する前にペダルの位置を確認し、その位置を確実に覚えてください。
- 始動するときは、必ず運転席に座ってください。運転席以外から始動を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リモートスタート機能**始動前**

1. 電源モードを「OFF」にします。
2. シフトレバーを「P」レンジに入れます。
3. 速度を5km/h以下にします。

リモートキーの「リモートスタート機能」

1. リモートキーの「リモートスタート/ストップ」ボタンを2秒ほど長押しすると、車を始動させることができます。始動後、ターンシグナルランプが3回点滅します。
2. リモートスタート後、10分以内に有効な操作を行わない場合は、電源ポジションが「OFF」になり、ターンシグナルランプが2回点滅します。
3. 始動後、リモートキーの「リモートスタート/ストップ」ボタンを2秒ほど長押しすると、電源ポジションが「OFF」になり、ターンシグナルランプが2回点滅します。



車の運転

運転前の点検

車の外部

- **タイヤ**：タイヤの空気圧、タイヤトレッドに割れ、破損、異物の噛み込みがないか、タイヤに異常、過度な摩耗がないかを点検します。過度な摩耗や偏摩耗がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場ホイールのアライメント調整および関係点検を行うようにおすすめます。
- **ホイールナット**：ナットの緩みや外れがないかを点検します。
- **漏れ**：車を止めてからしばらく待ち、車の下にオイルや冷却水、その他の液体が漏れていないかを点検します（エアコンの作動により発生する水は異常ではありません）。
- **照明**：ヘッドライト、ポジションランプ、ターンシグナルランプおよび他のライトの作動に異常がないことを確認します。ヘッドライトの明るさを点検します。

車の内部

- **シートベルト**：バックルがしっかりロックできることを点検します。シートベルトに摩耗や擦り傷がないことを確認します。
- **コンビネーションメーター**：特にメンテナンス表示灯、メーター照明とデフロスターの作動に異常がないことを確認します。
- **ブレーキペダル**：ブレーキペダルの操作に必要なスペースが充分であることを確認します。
- **起動バッテリーとケーブル**：つなぎ目のところに腐食や緩み、外れがない、バッテリーケースに割れ目がないことを点検します。

モータールーム内部

- **バックアップ用フューズ**：それぞれのフューズのバックアップがあることを確認します。フューズボックスに各種の定格電荷量に対応する仕様が記載されている必要があります。
- **冷却水の量**：冷却水の量が正しい範囲であることを確認します。
- **ブレーキフルードの量**：ブレーキフルード量が正しい範囲にあることを確認します。

始動後の点検

- コンビネーションメーター：故障を示す警告灯およびスピードメーターの作動に異常がないことを確認します。
- ブレーキ：安全な場所でブレーキをかけたときに偏りがないことを確認します。
- 他の異常な現象：緩んだ部分や漏れ、異常な騒音がないかを点検します。

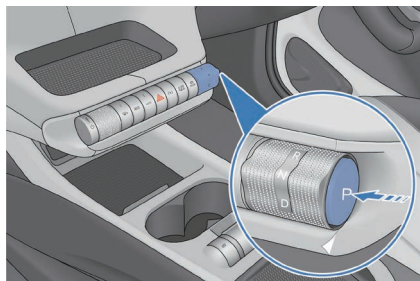
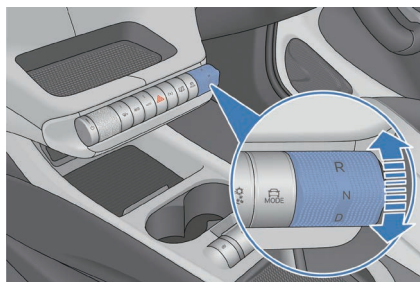
運転前の準備について

- 車に乗り込む前に、車の周りの状況を確認してください。
- シートポジション、シートバック角度、シートクッションの高さ、ヘッドレストの高さ、ステアリングホイールの角度を調節します。
- ルームミラーとドアミラーを調節します。
- すべてのドアを閉めます。
- シートベルトを確実に締めます。

シフト機構

図に示すようにギアアクチュエーターのレンジマークは、インストルメントパネル内のコンビネーションメーターに表示されています。

- 「R」レンジ：リバースレンジで、車が完全に止まってから使用してください。
- 「N」レンジ：ニュートラルレンジで、一時的に停止する場合に使用します。車から降りる場合は、必ずパーキングレンジに切り替えてください。
- 「D」レンジ：ドライブレンジで、走行時に使用します。
- 「P」レンジ：パーキングレンジで、ボタンを押すと駐車できます。車をスタートまたはストップさせるときは、シフトレバーをパーキングレンジに入れてください。ブレーキペダルを踏み込むと、「P」レンジからその他のレンジに切り替えることができます。



⚠ 警告

- モーターを OFF にしている場合は、制動力不足による事故を避けるために、絶対にシフトレバーを「N」レンジに切り替えた状態で車を移動しないでください。
- モーターが作動していて、かつシフトレバーを「R」 / 「D」レンジに入れるときは、必ずブレーキペダルを踏み込み、車を停止させてください。ニュートラルの状態でも、トランスミッションがまだ動力を伝達しているため、車がゆっくり動きます。
- 事故を防ぐために、前進時にシフトポジションを切り替えるときは、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- 事故を防ぐために、走行中にシフトレバーを「R」に入れたり、「P」ボタンを押したりすることは絶対にやめてください。
- 事故を防ぐため、発進するときはアクセルペダルを踏んだままシフトレバーを操作しないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。
- 車が始動していない状態で、「N」レンジのままで坂を下ることはしないでください。
- 自然発車を防ぐために、車がきちんと止まってからパーキングブレーキをかけ、「P」ボタンを押します。
- シフトレバーにもものをかけないでください。思わぬシフトチェンジが起き、車が突然発進するなど事故の原因になるおそれがあります。

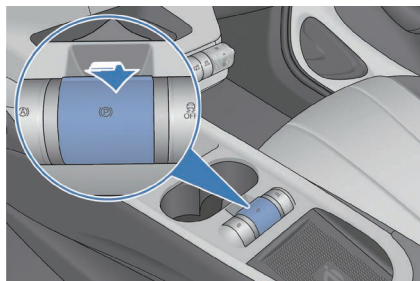
⚠ 注意

- トランスミッションの破損を防ぐために、「P」ボタンを押すときは、車が完全に止まってから押してください。

電動パーキングブレーキ (EPB)

電動パーキングブレーキスイッチ

パーキング時、および車から離れるときは、EPB スイッチを引き上げてください。



手動で EPB をかける

EPB スイッチを引き上げると、EPB は適切な制動力を適応します。メーターの表示灯(Ⓟ)は、最初に点滅してから点灯状態になり、EPB がかかり「電動パーキングブレーキ ON」の文字が表示されます。

⚠ 注意

- (Ⓟ)が点滅している場合は、EPB 作動中を表します。坂道では自然発車を防ぐために、できるだけ(Ⓟ)が点灯してから、ブレーキペダルを離してください。

自動で EPB がかかる

ストップ時に自動的に EPB がかかる

- 電源ポジションが「OK」から「OFF」に入ったときに、EPB が自動的にかかり、メーターの表示灯(Ⓟ)が点灯します。

[P] レンジ時に自動的にかかる

- ブレーキペダルを踏み込み、車を止めて「P」レンジに入れると、EPB は自動的にかかります。メーターの表示灯が点滅してから点灯状態に入り「電動パーキングブレーキ ON」の文字が表示されたらブレーキペダルを離します。

⚠ 注意

- EPB スイッチを押して同時にストップボタンを押した場合、EPB は自動的にかかりません。車が故障などで走れなくなりレッカーなどで車を移動する場合に使用されます。
- 車が坂道で停止しているときは、ブレーキペダルを早めに離さないでください。少し離しただけでも車が自然に動いてしまうおそれがあります。
- この機能は、車の自主安全性を上げるためのもので、それを過信したり、頻繁に使ったりしないようにおすすめします。安全を確保するために、必ずシフトレバーをPレンジにする、またはEPB スイッチを引き上げてから車から降りてください。
- 車を始動させてからの数秒以内は、EPB システムは、電源投入時のセルフテストをしているところであり、すべての機能には応答しません。

手動で EPB を解除する

- 車の電源ポジションが「OK」またはスタート状態にあり、「P」レンジ以外のレンジに入っている場合、ブレーキペダルを踏み続けながらメーターの表示灯が消灯するまで EPB スイッチを押すと、電動パーキングブレーキは解除され「電動パーキングブレーキ OFF」と表示されます。

⚠ 注意

- 「P」レンジは、駐車するためのレンジで、そのマークは、車が安定な駐車状態にあることを表しているものです。それに対し、EPB は、本車の主なパーキング装置で、安全な駐車を確保するために、EPB スイッチでパーキングブレーキをリリースさせる操作は、「P」（パーキングレンジ）以外のレンジにした前提に限られます。

発車時に自動的に EPB を解除する

- パーキング状態で車を始動させ、ブレーキペダルを踏み続けながら、レンジを「P」または「N」から「D」あるいは「R」などのドライブレンジに切り替えると、EPB は自動的に解除され、表示灯(Ⓟ)が消灯し「電動パーキングブレーキ OFF」の文字が表示されます。

⚠ 注意

- 正しいシフトチェンジをしてください。シフトチェンジ操作中、最後までブレーキペダルを踏み続け、メーターに目的のレンジが表示されたから、ブレーキペダルを離してください。

- 車が始動し、シフトレバーが「D」または「R」などのドライブレンジに入っているとき、手動で EPB スイッチを引き上げてから、アクセルペダルをある程度までゆっくり踏み込むと、EPB は自動的に解除されて、表示灯 (P) が消灯し「電動パーキングブレーキ OFF」の文字が表示されます。

⚠ 警告

- できるだけ EPB による制動の利用を避けてください。緊急ブレーキ機能の使用は、フットブレーキがかからない、またはかかりにくいなどの緊急時に限られます。
- EPB は路面の摩擦力の物理限界を超えることはできませんので、カーブや危険な道路、渋滞時、悪天候時の走行時に緊急ブレーキ機能を作動させると、スリップや横滑り、またはコースアウトを引き起こすおそれがあります。事故につながらないように注意してください。

故障時のリリース機能

- 手動で EPB を解除することができない場合は、EPB スイッチを 2 秒以上押し続けてください。EPB が解除された場合は、最寄りの BYD 正規ディーラーでブレーキランプスイッチ信号、および関係部品、回路などを点検してください。EPB スイッチを 2 秒以上押し続けても解除できない場合は、すぐに BYD 指定サービス工場までご連絡ください。

フットブレーキが効かない場合の緊急ブレーキ機能

- 走行中にフットブレーキが効きにくい、または効かない場合は、EPB スイッチを引き上げ続けることで緊急ブレーキ機能が作動します。また、走行中の安全を確保するため、正常に走行している場合は EPB による緊急ブレーキを可能な限り避けてください。インテリジェントパワーブレーキシステムの故障やフットブレーキが効きにくいなどの緊急時は、車両に対する制御を常に維持しながら、正常運転状態で緊急ブレーキ機能を利用するようにしてください。

EPB システム表示灯

- EPB スイッチが引き上げられている状態で電源スイッチを ON にすると、メーターの表示灯 (P) が点灯状態になります。
- EPB スイッチが引き上げられている状態で電源スイッチを OFF にすると、メーターの表示灯 (P) が点灯してから約 3 秒後に消灯します。
- 電源スイッチを入れると、EPB システムはセルフテストを行い、メーターの表示灯 (!) が点灯してから約 3 秒後に消灯します。もし消灯しない場合は、EPB システムまたはブレーキシステムに不具合が発生している可能性があります。すぐに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場までご連絡ください。

EPB 作動音

- EPB スイッチが引き上げられた、または EPB が解除されると、EPB モーターの作動音が聞こえます。
- 緊急ブレーキ機能を有効にしてから、焦げた臭いがする、異常な音がする場合は、すぐに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場までご連絡ください。

警告

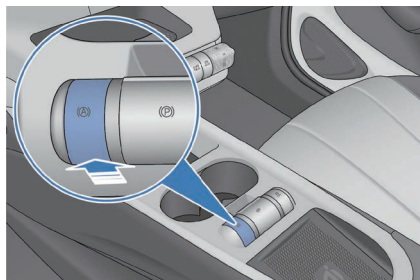
- 車が坂道で下がることを防ぐために、車から離れるときは、EPB の代わりにシフト機構で駐車しないでください。必ず EPB を使用して駐車し、シフトレバーを「P」レンジに入れてください。
- 重大な事故の発生を避けるために、走行中 EPB スイッチの操作をしないでください。
- EPB の制動力不足時の自然発車、それによるシフト引っかかりなどの異常を防ぐために、EPB のスイッチを引き上げる、または解除する途中は、できるだけブレーキペダルを踏まないでください。
- 急斜面や積雪、凍結した場所などでの駐車は避けてください。

オートビークルホールド (AVH)

オートビークルホールド (AVH) : 渋滞や信号待ちなどの長い間停車する必要がある場合、自動でブレーキを掛けることで長時間の停車を維持します。

オートビークルホールド (AVH) 待機状態

- 車両の電源ポジションが「OK」の場合、オートビークルホールド (AVH) スイッチを押して機能を ON にすると、メーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(Ⓐ)が点灯します。
- 再びオートビークルホールド (AVH) スイッチを押すと、機能が OFF になります。



オートビークルホールド (AVH) 機能の有効化

- メーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(Ⓐ)が点灯している状態でブレーキペダルを踏み停車すると、オートビークルホールド (AVH) 機能が作動します。このとき、車両は自動で停車してメーターのオートビークルホールド表示灯(Ⓐ)が点灯します。

⚠ 注意

- オートビークルホールド (AVH) 機能の作動に必要な条件 (同時に満たす必要があります) :
 - ドライバーがシートベルトを確実に締め、かつドアが閉まっていること。
 - インテリジェントパワーブレーキシステムおよび電動パーキングブレーキ (EPB) システムの故障がないこと。
- アクセルペダルを踏んで「P」レンジに切り替えたり、EPB スイッチを引き上げたりすると、オートビークルホールドが解除されて待機状態に戻ります。
- 電源ポジション「OK」時のオートビークルホールド (AVH) 機能は、デフォルトで OFF に設定されています。

オートビークルホールド (AVH) 機能の作動

- オートビークルホールド (AVH) 機能が作動すると、ブレーキランプとハイマウントストップランプが点灯します。メーターのオートビークルホールド表示灯(Ⓐ)が常時点灯していれば、オートビークルホールド (AVH) 機能が正常に作動しています。

- 車両が 10 分以上停車していると、システムは自動的にオートビークルホールド (AVH) を解除して待機状態に入ります。メーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(A)が点灯し、自動的に「P」レンジへ切り替わります。
- オートビークルホールド (AVH) 機能を有効にするには、「D」レンジに切り替えて走行した後、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

▲ 注意

- 電源ポジションを「OK」にしたときの AVH 機能はデフォルトで OFF と設定されています。待機状態に入ると、メーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(A)が点灯します。

オートビークルホールド (AVH) 機能のキャンセル

- オートビークルホールド作動中に以下の操作を行うと、自動的に「D」レンジから「P」レンジへシフトします：
 - 運転席ドアを開ける。
 - 運転席シートベルトを解除する。
 - 「D」レンジで停車中に、電動パーキングブレーキ (EPB) を ON にする。
 - ブレーキペダルを離れたときにオートビークルホールド (AVH) スイッチを押して、オートビークルホールド (AVH) 機能を OFF にする。

オートビークルホールド (AVH) 機能の抑制

- 「R」レンジに切り替えて低速移動モードになると、オートビークルホールド (AVH) 機能が移動モードに入ります。「R」レンジで低速で後退したり「R」レンジから「D」レンジに切り替え低速で走行すると、オートビークルホールド (AVH) の作動が抑制されるため移動しやすくなります。
- 低速移動モードは、オートビークルホールド (AVH) スイッチを押すか、速度が 10km/h を超えると自動的に解除されます。このとき、オートビークルホールド (AVH) 機能が待機状態になり使用できるようになります。

▲ 警告

- 人が乗降したり、荷物の積み下ろしを行ったり、洗車機を使用したりするときなどは、AVH 機能を OFF してください。不意に動き始めて、事故につながるおそれがあります。
- ブレーキペダルを離す前に、オートビークルホールド表示灯(A)が点灯していることを確認してください。
- AVH 機能によりブレーキが保持されているときに OFF する場合は、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。ブレーキが解除された途端に車両が動き始め、事故につながるおそれがあります。

運転要領

- 敷石が設置されている道路を走行する場合は、車をゆっくり走行させながら正しい角度を保ってください。とがっているものや障害物の上を走り抜けることを避けてください。タイヤを大きく破損させるおそれがあります。
- 悪路を走行する場合はスピードを落としてください。衝撃でホイールを大きく破損させるおそれがあります。
- 濡れた路面を走行する場合は、深い水たまりを避けて走行してください。
- 逆風の中では、車のコントロールができるようにゆっくり走行してください。
- 洗車や深い水たまりを通り抜けてブレーキが濡れている場合は、慎重に運転しながらブレーキペダルを軽く踏んでブレーキを乾かしてください。
- 氷雪、砂石、水濡れのタイル・エポキシ樹脂系塗床などの路面の摩擦係数が低い場合は、自然発車がないようにできるだけ坂道での駐車を避けてください。

アドバイス

- バッテリーは車の底部にあるため、ぶつけないように注意しながら運転してください。
- 運転前、電動パーキングブレーキが十分に解除され、電動パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。
- 電源ポジションが「OK」となっているときは、車から離れないでください。
- 車から離れる場合は、リモートキーを携帯してください。
- 長距離の下り坂を走行する場合は、スピードを落としてください。頻繁にブレーキをかけると、ディスクローターが高温になり、正常に機能しない場合があります。
- 滑りやすい路面で加速したり、ブレーキをかけたりする場合は、充分注意してください。車がスリップしたり、横滑りを引き起こすおそれがあります。
- 走行中に、生命にかかわる交通事故の発生を避けるために、窓から頭や手を出さないでください。特に車の中にお子様を乗せている場合、充分注意してください。
- モータールームに大量の水が侵入すると、パワートレインや電気部品の破損につながります。

⚠ 警告

- ドライバーは、お子様などの乗員の誤った操作を防ぐために、乗員に車の各機能の使い方を伝え、乗員の安全確保を心がけてください。

冬期の運転について

1. 冷却液が凍結防止の保護機能を発揮していることを確認します。
 - 自車に使われているオリジナル冷却水の型番と同じのものを使います。冷却システムに冷却水を補充する場合、周囲温度に応じて、適切な冷却水の型番を選びます。
 - 不適切な冷却水を使うと、冷却システムの破損につながります。
2. バッテリーやケーブルの状況を点検します。
 - 寒い気候は起動バッテリーの電圧を低下させます。そのため、起動バッテリーには十分な電圧を持たせ、始動ができるようにします。
3. 氷雪によるドアロックの凍結を避けてください。
 - 凍結を防ぐために、ドアロックの鍵穴の中に除氷剤やグリセリンを吹き付けます。
4. 不凍液を含んだウォッシュ液を使います。
 - このような製品は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場やすべての自動車部品販売店で販売されています。
 - 水と不凍液の混合比は、メーカーの指示にしたがってください。




⚠ 注意

- ウォッシュ液として冷却水や他の代替品を使わないでください。車の塗装の早期劣化などにつながるおそれがあります。
5. マッドガード下側への氷雪の付着を避けてください。
 - マッドガード下側に氷雪が付着すると、ハンドル操作が難しくなります。厳冬期の走行時はこまめに停車し、マッドガードの下に氷雪が付いていないかを点検してください。
 6. 走行道路によっては、必要な非常用装備やアイテムを用意しておくことをおすすめします。

アダプティブクルーズコントロール (ACC) システム

- アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) は、従来のクルーズコントロールをベースに、レーダーおよびマルチファンクションビデオコントローラーで先行車と自車の相対距離、および相対速度を計測し、自車の走行速度を自動的に調整し、先行車との車間距離を一定に保ちながら走る追従走行を可能にした機能です。先行車の有無により、システムがクルーズコントロールと追従型クルーズコントロールの自動切替を行います。
- クルーズコントロールボタンで自車の巡航速度および先行車との車間距離を設定することができます。30～150km/hの範囲内で巡航速度を設定することができ、また自車と先行車の車間距離を設定し、0～150km/hの範囲内で車間距離を一定に保ちながら追従走行することができます。

作動状況説明

- ACC 待機の場合：
 - システムを ON にした後、デフォルトの待機状態となり、ドライバーの手動操作によってシステムを有効にすることができます。ただし、アクティブ状態に必要な条件が揃っていないこともあるため、ドライバーが車を点検し、システムを有効化する条件を揃える必要があります。このとき、メーターには  アイコンが表示されます。(巡航速度は変数)。
- ACC が有効になっている場合：
 - このとき、システムは、通常の作動状態にあります。車が設定速度で定速走行する、または先行車との車間距離を自動的に調節して、追従走行します。このとき、メーターには  アイコンが表示されます。(巡航速度は変数)。
- 追い越し時の加速の場合：
 - ドライバーが ACC を有効にした状態でアクセルペダルを踏むと、車はその操作に反応し速度を上げます。このとき、ACC の機能が一時的に停止します。ドライバーがアクセルペダルを離すと、ACC が自動的に元のモードに戻ります。
- ACC 故障の場合：
 - このとき、システムは故障状態にあり、いかなる操作もできません。メーター内の ACC システム警告灯  が点灯します。

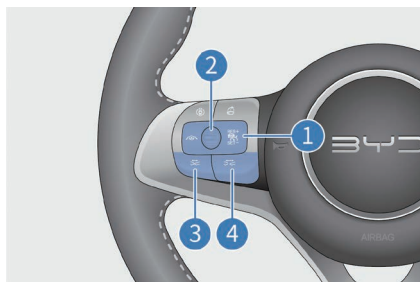
ACC システムの作動条件

- 電動パーキングブレーキ（EPB）は解錠されている状態。
- シフトポジションは、ドライブレンジ「D」状態。
- 車はバックしない状態。
- 車の4ドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ドライバーはシートベルトを着用。
- ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。
- 車のスピードが ≤ 150km/h のとき。
- スピードが 0km/h の場合はブレーキペダルを踏み込んだ状態、またはスピードが 0km/h でない場合はブレーキペダルを踏み込んでいない状態。
- メーターには車のネットワーク通信故障のインフォメーションが表示されていない状態。
- 自動緊急ブレーキ機能は ON となっていない状態。

使い方

ACC ON/OFF ボタン

- ボタン①を押すことにより（作動条件を満たしている場合、システムはスタンバイ状態）、ACC ON/OFF の切り替えができます（ボタンを押し ACC を有効にすると、デフォルトとして現在の速度を巡航速度と設定されます。速度が 30km/h 未満の場合は、30km/h と設定されます）。



ACC リセット /RES

- 連続走行中にクルーズコントロールがスタンバイ状態にある場合、システムは最後に設定された巡航速度を記憶します。このとき、上方向にレバー②を操作することで、前回クルーズコントロールを OFF にしたときに記憶した速度に戻すことができます。

設定速度の+ / -

- ACC 機能を ON にしてからレバー②を操作すると、30 ~ 150km/h の範囲内で巡航速度を設定することができます。上下方向にレバー②を操作することで、設定速度は 5km/h ずつ加速または減速します。

⚠ 警告

- 走行中の道路の速度制限を厳しく遵守し、絶対に速度超過にならないように速度を抑え、安全に運転してください。

ACC の解除

- ACC が ON 中に再びボタン①を押す、またはブレーキペダルを踏み込むと、ACC は作動状態からスタンバイ状態に入ります。

車間距離の設定

- ドライバーは、安全な車間距離を選択する責任があります。
- このシステムは、同一車線を走行する先行車と適切な距離を保つように速度を調整することができます。ドライバーは、ステアリングホイールの③と④ボタンの操作により、4段階で車間距離を調整することができます。各段階では、車間距離は速度に比例し変化します。速度が速いほど、車間距離が広がります。

ACC システム使用時の自動加速 / 減速

- ACC が作動している状態でドライバーは自らアクセルペダルを踏み込み、スピードを上げることで、早めに設定速度を達成することができます。この場合、システムは追い越し時の加速状態になります。このように設定速度で走行中に、ドライバーがアクセルペダルを踏み込み、自らスピードを上げ、なおかつ他の操作を行わない場合は、スピードを上げた後で車は加速するまでに設定されていた速度に戻ります。
- ACC が作動している状態でブレーキペダルを踏み込むと、車が減速し続けるため、ACC システムは自動的にスタンバイ状態になります。ブレーキペダルを離れた後は、新たに ACC を作動させる必要があります。

先行車に追従しての停止 / 発進

- ACC システムは、車が通常の走行モードで先行車に追従し停車することができます。30秒以内の停車の場合、車は自動的に先行車に追従し発進します。
- 30秒～3分以内の停車の場合、ドライバーがアクセルペダルを踏み込むか、レバー②を上方向へ操作して ACC を作動させる必要があります。

システムの限界

- 車の前部に設置されているフロントミリ波レーダーは、汚れにより視界が遮られると本来の機能が発揮できなくなります。特に積雪でセンサーが覆われるとシステムがOFFになります。システムはHMI（ヒューマンマシンインターフェース）を通じて、ドライバーにシステムOFFのメッセージを伝えます。この場合、汚れをきれいに除去し、車両を再始動させるか通常の道路を一定距離走行すると、システム機能が回復します。
- 円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行する場合、フロントミリ波レーダーは、感知範囲の限界によりしばらく機能しないことがあります。この場合、車両を再始動させるか通常の道路を一定距離走行すると、システム機能が回復します。
- カーブに進入したりカーブを抜け出すときに、対象先行車の選定が遅れたり干渉を受けることがあります。この場合、ACCが期待通りに作動しない、または作動が遅れることがあります。
- 曲がりくねった道などの急カーブでは、センサーが感知する前方の車両が数秒数秒間消えることにより、ACCの走行速度が自動的に上がるおそれがあります。
- ドライバーは、前方の車の流れ、雨や霧など現在の天候に合わせて、追従走行時の車間距離を調整し、ACCシステムを適切に設定してください。ACCシステムが適切に設定された後、ドライバーは、いつでも車の速度を減速して停止できるようにしておく必要があります。
- ACCは、静止またはゆっくり移動している物体（例：車両、渋滞の後方、料金所、自転車や歩行者）を認識できずに衝突事故を引き起こすおそれがあるため、ドライバーは常に周りの状況に気を付ける必要があります。
- ACCシステムは、歩行者や対向車を認識することはできません。
- ACCは、制動力が限られているため、急ブレーキに対応できません。
- フロントミリ波レーダーは、レールや道路工事用金属板などの金属物が中距離レーダーに干渉して、正常に作動しないことがあります。
- フロントミリ波レーダーセンサーは振動や衝突の影響を受けたことにより、システム性能が低下することがあります。BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場までご連絡ください。

⚠ 警告

- ACC はセーフティシステムや障害物検知システム、衝突警告システムではなく、快適な運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは常に車をコントロールし自己責任で運転してください。
- ACC 機能は、ドライバーを支援することはできませんが、ドライバーの代わりに運転するものではありません。ドライバーは常に交通ルールにしたがい車をコントロールし、自己責任で運転してください。
- ACC 機能は、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じてアダプティブクルーズコントロール機能を使うかどうかを判断してください。

ご注意

- 安全上の理由から、ESC を ON にしていない状態では、ACC を有効にすることができません。
- ACC は、高速道路や状況が良好な公道で走行する場合に適しています。複雑な市街地や山道での走行には適していません。
- 先行車との車間距離を保つことはドライバーの責任です。ACC システムの車間距離は、現地の運転環境に要求される最小車間距離に適合しています。
- ACC 作動時、ドライバーがアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むと、車のコントロールはドライバーに引き継がれます。このとき、ACC システムの車間距離制御機能は作動しません。
- 先行車が急ブレーキをかけたとき（緊急停車）、ACC が反応できなかったり、先行車への反応が遅れてブレーキが遅れたりする可能性があります。このような場合には、ドライバーに車両制御への介入を要請するメッセージが届きません。
- 場合によっては（自車の速度に対して、先行車が遅すぎる、車線変更速度が速すぎる、安全距離が短すぎるなど）、システムが相対速度を落とすのに十分な時間がないことがあります。そのような場合には、ドライバーが適切な操作をしなければなりません。システムは、どんな場合でも音声や映像で警告を出すことができるわけではありません。
- 車が停止している状態で ACC を有効にすると、システムは前方にある静止物を車として認識し、車を停止状態に維持します。それは、発進時の安全を確保し、予期せぬ発進による対象物への衝突を避けるためです。ただし、この機能はすべての障害物に対応できるわけではありません。そのため、ドライバーは車の真正面に障害物や他の車両がないことを確認しなければなりません。




- ACC 付き車両が隣接車線を走行する他車との車間距離が狭い（隣接車線を走行する他車が ACC 付き車両に近すぎた）場合、ACC は作動することがあります。
- 車が ACC 付き車両の進路に車線変更し、かつフロントミリ波レーダーの検知範囲内に入っている場合、その車両を対象車両として認識し、対象車両に応じた反応をするため、強力な制動力がかかったり、ブレーキが遅れたりすることがあります。
- 環境によっては、検知に影響を受けたり遅れたりすることがあります。対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、バイク、歩行者など）場合、システムは前車との距離を検知できないおそれがあります。この場合、対象物に対して反応が遅れたり反応できなくなったりします。このような場合には、ドライバーが速度をコントロールしなければなりません。また、ノイズや電磁波による干渉などの影響を受け、検知の遅延や干渉が発生することがあります。
- 自車が先行車とほぼ一直線上に走行していないとき、ACC システムは先行車を対象車両として認識できません。このとき、ドライバーは常に車をコントロールしなければなりません。
- 先行車に追従し停止する際、まれに先行車の後端を検知できず、下端（車高の高いトラックの後軸や車のバンパーなど）を検知することがあります。システムは適切な停止距離を確保することができなくなるため、ドライバーは常に注意を払い、いつでもブレーキをかけられる準備をしておかなければなりません。
- 車高を下げたり、ナンバープレート取り付けブラケットを変更したりするなど、車両の構造的な改造は ACC システムに影響を与えるおそれがあります。
- 視界が悪い場所、坂道やカーブが続く道路、滑りやすい路面（雪道、濡れた道路や水浸しの道路など）を走行する場合は、絶対に ACC システムを使わないでください。
- 車のけん引 / 雪道 / むかるみ / 砂道 / 山地などの特別な運転モード* を ON にしている場合は、ACC を作動させることができません。

- 次の場合は、必ずBYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場
でフロントミリ波レーダー、マルチファンクションビデオコントローラー
の校正、点検を行うようおすすめします。
 - フロントミリ波レーダー、フロントバンパー、フロントガラスを取り外す場合。
 - 車輪の振れにより、新たにホイールアラインメント調整を行った場合。
 - 車が衝突した場合。
 - ACC システムの性能低下、またはメーターからのシステム異常のメッセージに気づいた場合。

ナビゲーションパイロット (ICC)

- ナビゲーションパイロット (ICC) は、アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) とレーンキープアシストシステム (LKS) の機能を組み合わせたシステムで、速度 0 ~ 120km/h 以内において前後左右方向への制御を支援し、ドライバーの運転負荷を軽減し、安全で快適な運転環境を提供します。
- 機能が作動している場合、ドライバーは常にステアリングホイールを手に取り、必要ときに車の制御を行わなければなりません。
- 前後方向制御支援は ACC システムによって行われ、一定の速度で自車を走行させ、先行車と一定の車間距離を保ちながら走行することができます。

作動状況説明



- ICC 待機の場合：
 - ICC システムはデフォルトの待機状態となり、ドライバーの操作でシステムを有効にすることができます。アクティブ状態に必要な条件が揃っていない場合は、ドライバーが車を確認し、システムを有効にする条件を揃える必要があります。このとき、メーターには  アイコンが表示されます。
- ICC が有効になっている場合：
 - システムは通常の作動状態にあります。車両が設定速度で定速走行する、または先行車との車間距離を自動的に調節しながら追従走行します。このとき、メーターには  アイコンが表示されます。
- ICC 故障の場合：
 - システムは故障状態のため機能が利用できません。メーター内の ICC システム警告灯  が点灯します。

ICC システムの作動条件

- 電動パーキングブレーキ (EPB) は解錠されている状態。
- シフトポジションは、「D」(ドライブ) レンジ 状態。
- 車はバックしない状態。
- 車の 4 ドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ドライバーはシートベルトを着用。
- ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。

- 車のスピードが $\leq 120\text{km/h}$ のとき。
- スピードが 0km/h の場合はブレーキペダルを踏み込んだ状態、またはスピードが 0km/h でない場合はブレーキペダルを踏み込んでいない状態。
- メーターには車のネットワーク通信故障のインフォメーションが表示されていない状態。
- 自動緊急ブレーキ機能は ON となっていない状態。
- 双方向車線が明瞭に表示され、かつ自車が車線の中央部を走行している状態。

使い方

- ドライバーは、ステアリングホイールのスイッチボタンによりナビゲーションパイロット機能の ON・OFF 操作を行うことができます（機能が ON になると、デフォルトとしてクルーズ速度が設定されます。現在の車速がデフォルトのクルーズ速度となります。速度が 30km/h 未満の場合は、 30km/h と設定されます）。
- クルーズ速度および車間距離の設定は、ACC 機能の使い方を参照してください（詳細は「[アダプティブクルーズコントロール \(ACC\) システム](#)」を参照）。
- ドライバーは、 → **ADAS** → **インテリジェントドライビング** の設定画面でナビゲーションパイロットの ON・OFF 操作を行うことができます（ソフトスイッチング機能が ON になっているとき、シフトレバーが P レンジに入っている場合に限り、OFF にすることができます）。車が始動する際、ファンクションスイッチの状態は前回の電源を切る前の状態となります。

ご注意

- ナビゲーションパイロットは、アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) とレーンキープアシストシステム (LKS) の機能を組み合わせたシステムのため、ご利用の際は、ACC 機能上の注意を必ず守ってください（詳細は「[アダプティブクルーズコントロール \(ACC\) システム](#)」を参照）。
- 機能を ON にして作動させた後、自車の速度が $0 \sim 120\text{km/h}$ の範囲内の場合：
 - 前方に車線境界線がない場合は、システムの横方向制御が抑制され、アダプティブクルーズコントロールシステムのみ機能します。このとき、メーター内の ICC システム作動状態表示灯が灰色で点灯します。

- 前方の車線境界線が明瞭に認識される場合は、システムの横方向制御が自動的に機能します。このとき、メーターにシステムの作動状態表示灯が有効状態であることを表示します。
- ナビゲーションパイロットは、天気、照明の明るさや車線境界線の明瞭さの影響を受けるため、日陰、夕日、路面の積雪および著しい摩耗がある路面の場合に、性能が著しく低下します。
- 急カーブが連続する道、凍結して滑りやすいカーブ、または悪天候（濃霧、大雨、大雪など）により、フロントミリ波レーダーやマルチファンクションビデオコントローラーの視野が遮られる場合は、ナビゲーションパイロットの利用を避けてください。
- 機能が使えない場面：
 - センサーが遮られている場合。
 - 悪天候の場合。
 - 能動的な安全システムが機能している場合。
 - 走行速度の範囲を超えている場合。
 - 車のけん引 / 雪道 / むかみ / 砂道 / 山地などの特別な運転モード * を ON にしている場合は、ICC を作動させることができません。







警告

- ナビゲーションパイロットは、運転を支援するためのシステムで、自動運転ではありません。ドライバーは常に車を制御し、長時間ステアリングホイールから両手を離さないでください。そうしないと、警告メッセージの後、システムが OFF になります。
- ナビゲーションパイロット機能は、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じてアダプティブクルーズコントロール機能を使うかどうかを判断してください。

衝突予測警告 (PCW) および自動緊急ブレーキ (AEB)

衝突予測警告システム (PCW) および自動緊急ブレーキシステム (AEB) は、レーダーとマルチファンクションビデオコントローラーにより、自車線の前の車と歩行者を検知します。システムは、車が前方の車両または歩行者と正面衝突するおそれがあると判断したとき、音声・視覚警告を出してドライバーへ回避行動を取るよう促すと同時に、潜在的な制動力を強くし充分に対応できるための反応時間を確保することができます。このシステムは、衝突の可能性が高くなりつつあると判断したときには、自動的にブレーキをかけ、ドライバーが衝突を回避できるようにアシストし、衝突の被害を軽減させるようにします。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → アクティブセーフティ の設定画面で衝突予測警告機能および自動緊急ブレーキ機能を ON または OFF にすることができます。
- 衝突予測警告機能の警告方式は、音声警告、文字警告、ポンピングブレーキ警告があります。
- 衝突予測警告機能が作動したときは、緊急度合いによりメーター内の警告灯が緑 、または赤  で点灯しメッセージが表示されます。
- AEB が作動したときは、メーター内の警告灯が赤  で点灯しメッセージが表示されます。
- 機能に故障がある場合は、メーターに  アイコンが表示されます。
- AEB 機能をボタン操作で OFF にした場合は、メーターに  アイコンが表示されます。

PCW システムの作動条件

- 車両設定から機能を ON にする。
- 自車の速度が、16km/h ~ 150km/h の範囲。
- シフトポジションは、「D」(ドライブ) レンジ 状態。
- 車がバックしない状態。

AEB システムの作動条件

- 車両設定から機能を ON にする。
- 自車の速度が、4km/h ~ 150km/h の範囲。
- 電動パーキングブレーキ (EPB) が解錠されている状態。
- シフトポジションは、「D」(ドライブ) レンジ 状態。
- 車がバックしない状態。
- 車の 4 ドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ドライバーはシートベルトを着用している状態。
- ESC システムは ON で、作動していない状態。

システムの限界

- 環境によっては、検知に影響を受けたり遅れたりすることがあります。対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる (自転車、バイク、歩行者など) 場合、システムは前方対象物との距離を検知できないおそれがあります。それにより、対象物に対して反応が遅れたり反応できなくなります。
- 次の場合は、システムが影響を受けるか、機能しないことがあります。
 - 雨、雪、霧、または大きな水しぶき、反射光、直射日光、もしくは照明の明るさの急激な変化。
 - センサーの汚れ、曇り、破損、または遮断。
 - レーダーが他のレーダー源の干渉により (例えば、立体駐車場での強いレーダー反射) 故障する。
- 交通状況が複雑な場合、システムは下記の場面に正しく対応できないことがあります。
 - ハイスピードでセンサーの検知範囲に現れた歩行者や車。
 - 他のものに遮られている歩行者。
 - 背景と見極めができない歩行者の輪郭。
 - 特殊な衣服、または他のものに覆われているなどで検知されない歩行者。
 - 半径が小さいカーブ。
- 対向車がいる場合：
 - 対向車との衝突リスクを検知すると、システムは自動的に緊急ブレーキを掛けます。事故の発生が回避出来ない場合は、システムの作動によって、衝突速度が下がります。

ご注意

- 自動緊急ブレーキシステムの作動は、走行速度が一定の速度より速い場合に限られます。このシステムは、いかなるモードでも正しく作動できるわけではないので、慎重に運転してください。
- ESC システムが OFF になる、または警告灯が点灯している場合は、自動緊急ブレーキシステムが正常に作動できません。
- 衝突予測警告システムが警告を出している場合、ドライバーは、交通状況に応じてブレーキ操作でスピードを落とす、またはハンドル操作で障害物を回避しなければなりません。
- 長時間接近して走行すると、安全距離警告システムは、距離を空けるように警告を出します。先行車が急ブレーキをかけると、衝突は避けられません。
- 緊急警告時、ドライバーが気づいている場合（ドライバーがハンドルを切ったり、アクセルペダルやブレーキペダルを踏んだりするなど）、システムは、自動緊急ブレーキを作動させません。
- 円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行する場合、フロントミリ波レーダーは、感知範囲の限界によりしばらく機能しないことがあります。この場合、車両を再始動させるか通常の道路を一定距離走行すると、システム機能が回復します。
- フロントミリ波レーダー、マルチファンクションビデオコントローラーの表面に汚れや異物が付着すると、コンビネーションメーターディスプレイに関係メッセージが表示されます（表面の汚れ、異物の付着によりセンサーが感知できなくなった）。このような場合は、センサー表面の異物を取り除いてください。センサーがエラーの間は、衝突予測警告と自動緊急ブレーキシステムが OFF になります。エラーが解消されると、衝突予測警告と自動緊急ブレーキシステムが正常に作動できるようになります。
- 歩行者保護システムは、克服できない物理的な条件の制限があるため、危険モードに対し、ドライバーは車両制御に素早く介入しなければなりません。
- 歩行者保護は、システムそのものに頼っていると、事故や重大な傷害を完全に避けることはできません。
- 歩行者保護システムは、曲がっている幹線道路などの複雑な状況では、不必要な警告発信やブレーキ操作を行うことがあります。
- システムに故障がある場合は、間違った警告発信やブレーキ操作を行うことがあります（例：フロントミリ波レーダー、マルチファンクションビデオコントローラーの角度ずれ）。

- 自動緊急ブレーキが作動すると、ブレーキペダルの操作フィーリングが重くなります。短時間でブレーキキャリパーを動かすのに大きな油圧が必要となるため、ドライバーは「ズズ」という音が聞こえることがあります。
- 自動緊急ブレーキシステムの作動は、ドアが閉まり、シートベルトを着用している場合に限定されています。次の場合は、自動緊急ブレーキシステムが機能しなくなります。
 - ドアが閉まっていない、または走行中にドアが開いた場合。
 - シートベルトを着用していない、または走行中に、シートベルトを外した場合。
 - ドライバーによる急アクセルや急ブレーキまたは急ハンドルの場合。
 - 半径が小さいカーブ。
- 次の場合は、このシステムが常に最適な性能を発揮することができない可能性があります。
 - 事故や他の原因により、フロントバンパーが強い衝撃を受けた場合。
 - タイヤ空気圧の過不足、またはタイヤの過度な摩耗がある場合。
 - 規定に合わないタイヤを装着した場合。
 - タイヤチェーンを装着した場合。
 - 小型スペアタイヤ、または緊急用パンク修理キットを使った場合。
- 次の場合は、必ずBYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場でのフロントミリ波レーダーおよびマルチファンクションビデオコントローラーの校正を行ってください。
 - フロントミリ波レーダーまたはマルチファンクションビデオコントローラーを取り外した場合。
 - ホイールアライメント調整中に、トーインやリアタイヤのキャンバー角を調節した場合。
 - 衝突事故が発生した後、フロントミリ波レーダー、またはマルチファンクションビデオコントローラーの位置が変わった場合。
- 紙箱、鉄板、ダミー人形などで自動緊急ブレーキシステムの作動試験を勝手に行わないでください。システムが正常に機能せず事故を引き起こすおそれがあります。




⚠ 警告

- 自動緊急ブレーキシステムは、いかなる状況でも衝突の回避ができるわけではありません。交通状況が複雑な場合、システムは車と歩行者の認識にきちんと対応することができない場合があります。自動緊急ブレーキシステムは、マンホールカバー、鉄板や道路標識に反応し、誤って警告を発したり、ブレーキをかけたりする可能性があります。
- 必ず安全運転を心がけ、周りの交通状況に注意しなければなりません。いかなる場合も通常のブレーキ操作の代わりに自動緊急ブレーキを使ってもいけません。
- 自動緊急ブレーキシステムを過信しないでください。事故が起こり、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。このシステムは運転を支援するためのもので、ドライバーは自己責任で前車との車間距離を適切に保ち、スピードを制御しなければなりません。必要に応じてブレーキをかけたり、ハンドルを切ったりする準備をしてください。ドライバーは常に車をコントロールし、自己責任で運転しなければなりません。
- 歩行者保護は、システムそのものに頼っていると、事故や重大な傷害を完全に避けることはできません。
- 衝突予測警告および自動緊急ブレーキ機能は、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で安全運転を運転してください。
- 衝突予測警告および自動緊急ブレーキ機能は、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じて衝突予測警告および自動緊急ブレーキ機能を使うかどうかを判断してください。

フロントクロストラフィックアラート (FCTA) および フロントクロストラフィックオートブレーキ (FCTB)

フロントクロストラフィックアラート (FCTA) およびフロントクロストラフィックオートブレーキ (FCTB) は、フロントバンパーの左右両側に搭載されるミリ波レーダーにより、自車の先方を横切る車を検知してドライバーに知らせ、必要に応じて自動的にブレーキをかけます。自車が低速で走行しているときに、先方を横切る車と衝突する危険を検知した場合は、視覚・音声警告でドライバーに知らせます。衝突事故が発生しそうなときは、自動的にブレーキをかけることにより衝突事故の発生を避けることができます。

使い方

- ドライバーは、 → **ADAS** → **アクティブセーフティ** の設定画面でフロントクロストラフィックアラートおよびフロントクロストラフィックオートブレーキ機能を ON または OFF にすることができます。
- FCTA 機能を有効にしたときは、ドアミラー警告灯が点滅し音声警告を出します。
- FCTB 機能が作動したときは、メーター内の警告灯が赤で点灯し、音声警告を出すと同時に車が自動的に緊急ブレーキをかけます。
- FCTA/FCTB 機能に故障があったときは、メーターにアイコンが表示されます。

ご注意

- システムは前方の監視を支援するものですが、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車をコントロールし自己責任で運転してください。
- 対象車両が側面からハイスピードで自車に接近してきた場合、システムは警告機能が十分に発揮できないことがあります。
- ドライバーはシステムが正常に作動するように、泥や雪などの付着物を早めに取り除き、フロントバンパー左右両側のミリ波レーダーの設置部位を良好な状態に維持しなければなりません。
- ノイズや電磁波による干渉などの影響を受け、システムの検知が遅れたり干渉を受けたりすることがあります。

- 状況によっては、感知システムが影響を受けたり遅れたりすることでシステムが運転を支援できないことがあります。考えられる状況は、次に示す場合を含みますが、それらに限られません。
 - 側面から接近してきた車が最後のタイミングで車線を切り替える場合。
 - 対象車両が遮られた場合。
 - 対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、バイク、歩行者など）場合。
 - 雨、雪などの悪天候の場合。
 - ミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉がある場合。
 - 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑な場合。
- 次の場合は、システムが機能しなくなります。
 - 対象物がミリ波レーダーの検知範囲外にある場合。
 - FCTA/FCTB スイッチが OFF になっている場合。
 - シフトポジションが「D」以外のレンジに入っている場合。
 - 4つのドアが閉まっていない場合。
 - システムの初期化が完了していない場合。
 - ミリ波レーダーに故障がある場合。
 - 急カーブ、坂道などで先方の横から接近してきた車の感知が遅れた場合。
- ミリ波レーダーセンサーの校正が振動や衝突の影響を受けたことにより、システム性能が低下する可能性があります。このような場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめます。








警告

- フロントクロスストラフィックアラート/オートブレーキ機能は、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で安全運転を運転してください。
- フロントクロスストラフィックアラート/オートブレーキ機能は、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じてフロントクロスストラフィックアラート/オートブレーキ機能を使うかどうかを判断してください。

交通標識認識システム (TSR)

交通標識認識システム (TSR) は、マルチファンクションビデオコントローラーおよび地図 * により、道路の速度制限標識を認識します。また、メーターを通して認識した速度制限標識をドライバーに知らせ、速度が制限情報を越えたときは警告情報を発信します。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → ドライビングアシスト → 交通標識認識システム の設定画面で交通標識認識システム機能の ON または OFF にすることができます。
- 交通標識認識システムが交通標識を認識すると、メーターには赤の  アイコンが表示されます。
- TSR により認識された制限速度が現在の道路環境に適用するかが交通標識認識システムでは判断できない場合、メーターには赤の  アイコンが表示されます。
- 交通標識認識システムの性能が低下した場合、メーターには黄色の  アイコンが表示されます。
- 交通標識認識システムの性能が低下し、かつ TSR により認識された制限速度が現在の道路環境に適用するかが判断できない場合、メーターには黄色の  アイコンが表示されます。
- 交通標識認識システム故障時：メーターには黄色の  アイコンが表示されます。
- 交通標識認識機能がボタン操作で OFF にされたとき、メーターには  アイコンが表示されます。
- 上記の数字は、実際の交通標識に合わせ表示されます。

ご注意

- 交通標識認識システムは、制限速度標識のみ認識でき、車のアクティブ制御に関与しません。ドライバーは、常に車を制御するため、適切なスピードで運転してください。
- 定められたサイズに一致していない重量制限標識の場合は、誤って制限速度標識として認識されることがあります。

- 制限速度標識が不明瞭で、歪み、傾き、反射、部分的な遮断などがあるとき、マルチファンクションビデオコントローラーは認識能力が低下するか、認識できなくなります。
- 交通標識認識システムの性能は、天気、照明の明るさおよび道路標識の明瞭さの影響を受けます。夜、日陰、夕日、雨天、霧、もや、氷雪付着、砂塵、明るさの急激な変化などで、認識能力が低下し、制限速度標識を認識できない場合があります。
- 衝突事故が発生した、またはマルチファンクションビデオコントローラーセンサーの脱着をした後は、システム性能への支障がないようにBYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にセンサーの校正を依頼してください。

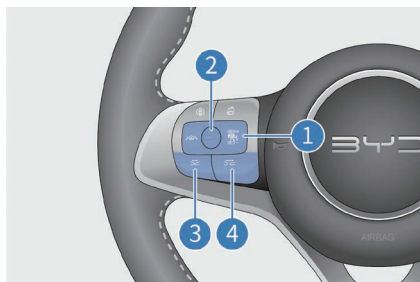
警告

- 交通標識認識システムは、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で安全運転を運転してください。
- 交通標識認識システムは、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じて交通標識認識システムを使うかどうかを判断してください。


インテリジェントスピードリミットコントロール (ISLC)

インテリジェントスピードリミットコントロール (ISLC) は、アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) と速度制限標識認識機能 (TSR) を組み合わせた機能です。機能を ON にすると、速度制限標識が認識され自車が速度超過になっている場合は、認識された制限速度に ACC 巡航速度を調節するかを知らせます。ドライバーの操作（下方向へ ACC 速度制御レバー^②を操作）により、システムは車が制限速度以下で走行するよう、認識された制限速度に ACC 巡航速度を自動的に調節します。

ドライバーは、速度 30km/h ~ 150km/h の範囲内で機能を ON にすることができます。



使い方

ドライバーは、 → ADAS → ドライビングアシスト → 交通標識認識システム → インテリジェントスピードリミットコントロール の設定スイッチでインテリジェントスピードリミットコントロール機能の ON または OFF を操作することができます。

交通標識認識システムを OFF にしたとき、ISLC 機能スイッチのアイコンが灰色になり、ドライバーは操作することができなくなります。この場合は ISLC 機能が OFF になります。再度、交通標識認識システムを ON にすると、ISLC 機能スイッチを操作することができます。

インテリジェントスピードリミットコントロール機能を作動させる前提条件は、ACC 機能が ON になっていることです。

ご注意

- インテリジェントスピードリミットコントロールシステム (ISLC) は、アダプティブクルーズコントロール (ACC) 機能と速度制限標識認識 (TSR) 機能を組み合わせたシステムです。ご利用の際は、ACC 機能および TSR 機能上のご注意を守ってください (詳細は「[インテリジェントスピードリミットコントロール \(ISLC\)](#)」および「[交通標識認識システム \(TSR\)](#)」を参照)。
- インテリジェントスピードリミットコントロールシステムは、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは常に車をコントロールする必要があります。
- インテリジェントスピードリミットコントロールシステムの性能は、天気や照明の明るさ、道路標識の明瞭さなどに影響を受けます。夜、日陰、夕日、雨天、霧、もや、氷雪の付着、砂塵、明るさの急激な変化などにより、認識能力が低下し制限速度標識を認識できない場合があります。

警告


- インテリジェントスピードリミットコントロール機能は、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で安全運転を運転してください。
- インテリジェントスピードリミットコントロール機能は、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じてインテリジェントスピードリミットコントロール機能を使うかどうかを判断してください。

ハイビームアシストシステム (HMA)


ハイビームアシスト (HMA) は、マルチファンクションビデオコントローラーセンサーにより、現在の運転環境を判断し速度が 35km/h 以上になったときにハイビームを自動的に ON または OFF します。

作動状況説明


■ HMA 待機の場合：

- 機能は ON になっているが作動しない状態です。このとき、メーターに  アイコンが表示されます。


■ HMA が有効になっている場合：

- 機能を ON にしてライトスイッチがオート的位置にある場合、速度が 35km/h を超えている状態で明るさが条件を満たすと自動的に作動します。このとき、メーターに  アイコンが表示されます。

■ HMA 故障の場合：

- 機能故障が起きている状態です。このとき、メーターに  アイコンが表示されます。

使い方

■ ドライバーは、 → **ADAS** → **ドライビングアシスト** の設定画面でハイビームアシストシステム機能の ON または OFF を操作することができます。車を始動するとき、システムのデフォルト設定は前回の設定になります。

■ 機能を ON にしてライトスイッチがオート的位置にある場合、速度が 35km/h を超えている状態で明るさが条件を満たすと、システムは実際の走行状況に応じてロービーム / ハイビームを自動的に切り替えます。

ご注意

■ ハイビームアシスト (HMA) システムは、ライトを制御するための支援機能であり、高速走行中はこの機能を利用することをおすすめします。ただし、このシステムはドライバーに完全に取って代わるものではないため、常に道路交通規則を遵守し、道路環境の変化に合わせてハイビームとロービームを適切に切り替えてください。

■ ABS や ESC の作動など、車がハイダイナミックレンジな状態にある場合、ライトの切り替えが制限されます。

- ドライバーがフォグランプ、ターンシグナルランプを付ける、ワイパーを高速作動モードに切り替える、バックで車を走行させる、ライトスイッチをオート以外に切り替える、環境光が強すぎる場合は、HMA システムが OFF になります。
- 衝突事故が発生した、またはカメラセンサーの脱着をした後は、システム性能への支障がないように BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にセンサーの校正を依頼してください。

⚠ 警告

- 下記の場合、ハイビームアシストシステムが誤作動したり、作動しなかったりするおそれがあります。手でライトを操作するようおすすめします。
 - 照明が弱い交通参加者（歩行者や自転車など）や、鉄道や水路に近隣する道路または野生動物が出没している道路を走行したりする場合。
 - ウィンドガラスに霧や汚れが付いていたり、ラベルやアクセサリなどで遮られている場合。
 - 光を強く反射するものがある場合（高速道路上の交通標識、路上の水たまり、先行車のトレーラーの反射する後端など）。
 - 雨や雪、強風などの悪天候の場合。
 - パンクなどによりタイヤの空気圧が低下して傾いている場合。
- ハイビームアシストシステムは、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で安全運転を運転してください。
- ハイビームアシストシステムは、天候や道路環境などにより、機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じてハイビームアシストシステムを使うかどうかを判断してください。

レーンサポートシステム (LDA)

車線逸脱警告 (LDW)

車線逸脱警報システム (LDW) は、マルチファンクションビデオコントローラーにより前方車線を検知します。速度が 60km/h ~ 150km/h のとき、ドライバーの不注意で車が車線から逸脱した場合、システムがステアリングホイールの振動、音声、メーターへの表示などにより、ドライバーに車線からの逸脱を知らせます。

車線逸脱防止 (LDP)

車線逸脱防止 (LDP) は、マルチファンクションビデオコントローラーにより前方車線を検知します。速度が 60km/h ~ 150km/h で、ドライバーの不注意で車線から逸脱しようすると、電動パワーステアリングシステム (EPS) の制御により、反対方向にステアリングホイールを軽く回し車線からのみ出しを防ぎます。


車線逸脱防止 (LDP) が作動し、作動時間が 5 秒を超えた場合は、システムが 5 秒後に警告を出します。警告はシステムが作動状態を終了するまで続きます。

警告の出し方：音声警告、視覚警告。180 秒以内に 2 回、またはそれ以上にシステムを連続的に作動させた場合はただちに警告を出します。3 回目の作動（およびその以後の作動）から、警告時間は、前の警告より 12 秒以上延びます。


使い方


ドライバーは、 → ADAS → ドライビングアシスト → レーンサポートシステム の設定画面で機能の ON または OFF を操作することができます。

レーンサポートシステムの警告パターンは、音声警告のみ、ステアリングホイール振動のみ、音声警告 + ステアリングホイール振動の 3 つがあります。

LDW 機能や LDP 機能を ON にすると、メーターに  アイコンが表示されます。

LDW 機能が作動すると警告を出し（警告の出し方：音声警告、視覚警告、ステアリングホイール振動による警告）、メーターの車線境界線が赤色になります。

LDP 機能が作動すると警告を出し（警告の出し方：音声警告、視覚警告）、メーター内の  アイコンが 2 回点滅し、車線境界線が緑色になります。

■ 機能に故障があったときは、メーターにアイコンが表示されます。

システムの限界

複雑な交通環境では、レーンサポートシステムが検知を誤ったり、車線を検知できなかつたりすることがあります。次の場合、システムが機能しない、または性能が著しく低下するおそれがあります。

- 雪、雨、霧により、視界が悪くなった場合。
- フロントガラスの汚れや曇り、またはマルチファンクションビデオコントローラーの前方への異物付着。
- 直射日光、路面の水たまりの反射、対向車などからの反射光。
- トンネルの出入口など周囲環境の明るさの急激な変化。
- 直射日光が路面に当たり、木陰が車線に干渉した場合。
- 道路と道端の草・土壌・道端などとの境界線が認識できない場合。
- 機能の頻繁な作動による操作の妨げを防ぐため、比較的狭い車線を走る場合は、当該機能が抑えられることがあります。

ご注意

- ドライバーがターンシグナルランプを点灯させ、かつターンシグナルランプが指示した方向に車線を切り替える場合は、レーンサポートシステムが無効になります。
- 車線境界線上での走行によって、車線境界線が目立たない、細すぎる、摩耗している、不明瞭になっている、または汚れ / 氷雪が付着している場合は、レーンサポートシステムが無効になることがあります。
- 車線が広すぎる / 狭すぎる、車線の数が多く / 少なくなる、誘導路や高速道路の出口など短時間で境界線が切り替わる、または複雑な車線を切り替える場合は、レーンサポートシステムが無効になることがあります。
- 坂道や曲がった道路を走行し、先行車との距離が近すぎる、または車線境界線が先行車に遮られた場合は、レーンサポートシステムが無効になることがあります。
- 走行中、道路事情により激しいデコボコ路があり、急アクセルや急ブレーキ、または急ハンドル操作をする場合は、レーンサポートシステムが無効になることがあります。マルチファンクションビデオコントローラーの視界範囲内のガラス割れ、フロントガラスの着色、規則に適合しない塗膜、インストルメントパネルの上に置いた光を反射するもの、およびマルチファンクションビデオコントローラーの視界を妨げる後付け部品は、システムの正常な作動に影響をおよぼすおそれがあります。

- 安全運転のために、自らレーンサポートシステムの作動試験を行わないでください。マルチファンクションビデオコントローラーの視界が、ものに遮られたり、強い光に干渉されたりしないようにしてください。視野が一時的に遮られたり、強い光に干渉されたりすると、機能が一旦OFFになります。視野が正常に戻ると、機能が自動的に復帰します。自動的に復帰しなかった場合は、BYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- 下記の場合は、レーンサポートシステムをOFFにするようおすすめします。
 - スポーティーな走りの場合。
 - 悪天候の場合。
 - 悪路を通り抜ける場合。
- 次の場合は認識される保証がありません。次のシーンを含みますが、それらに限りません。
 - 不明瞭な車線。
 - 部分的に消えている車線。
- 以下の場合は、マルチファンクションビデオコントローラーの機能障害、または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。次のシーンを含みますが、それらに限りません。
 - マルチファンクションビデオコントローラーの緩みや外れ、干渉がある場合。
 - 雨、雪、PM2.5 など極端な気象の場合。
 - マルチファンクションビデオコントローラーのレンズの一部、または全部が遮られている場合。





⚠ 警告

- レーンサポートシステムは、前方不注意または視界不良による危険を回避するものではなく、運転を支援するためのシステムです。システムには限界があるため、過信せず安全運転を心がけてください。
- レーンサポートシステムは、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で安全運転を運転してください。
- レーンサポートシステムは、天候や道路環境などにより、機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じてレーンサポートシステムを使うかどうかを判断してください。

緊急時車線維持支援 (ELKA)

緊急時車線維持支援 (ELKA) システムは、マルチファンクションビデオコントローラーで前方の車線を検知し、リアコーナー部のミリ波レーダーで隣接車線を走行する後続車を検知します。速度が 50km/h ~ 150km/h の範囲内で、車が実線の車線境界線から逸脱して道路をはみ出す、対向車や隣接車線を走行する車と衝突するおそれがあるとき、電動パワーステアリング (EPS) を作動させ、反対方向にステアリングホイールを軽く回し現在の車線を維持します。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → ドライビングアシスト → レーンサポートシステム の設定画面で機能の ON または OFF を操作することができます。
- ELKA を ON にしたときは、メーターにアイコンが表示し点滅します。
- ELKA が故障したときは、メーターにアイコンが表示されます。
- ボタン操作で ELKA 機能を OFF にしたときは、メーターにアイコンが表示されます。

システムの限界

- 複雑な交通環境では、緊急時車線維持支援システムが検知を誤ったり、車線を検知できなかつたりすることがあります。次の場合、システムが機能しない、または性能が著しく低下するおそれがあります。
 - 雪、雨、霧により、視界が悪くなった場合。
 - フロントガラスの汚れや曇り、またはマルチファンクションビデオコントローラーの前方への異物付着。
 - 直射日光、路面の水たまりの反射、対向車などからの反射光。
 - トンネルの出入口など周囲環境の明るさの急激な変化。
 - 直射日光が路面に当たり、木陰が車線に干渉した場合。
 - 道路と道端の草・土壌・道端などとの境界線が認識できない場合。
- 機能の頻繁な作動による操作の妨げを防ぐため、比較的狭い車線を走る場合は、当該機能が抑えられることがあります。

ご注意

- 次の場合は認識される保証がありません。次のシーンを含みますが、それらに限りません。
 - 歩行者、動物、特殊車両、または異形車。
 - 不明瞭で、部分的に消えている車線。
- 以下の場合、マルチファンクションビデオコントローラーの機能障害、または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。次のシーンを含みますが、それらに限りません。
 - マルチファンクションビデオコントローラーの緩みや外れ、干渉がある場合。
 - 雨、雪、PM2.5 など極端な気象の場合。
 - マルチファンクションビデオコントローラーのレンズの一部、または全部が遮られている場合。
- 以下の場合、ミリ波レーダーの機能障害、または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。次のシーンを含みますが、それらに限りません。
 - ミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉がある場合。
 - 雨、雪、PM2.5 など極端な気象の場合。
 - 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑な場合。

警告

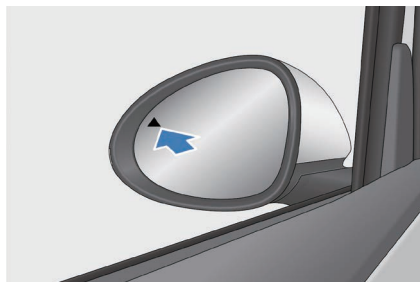
- 緊急時車線維持支援は、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で安全運転を運転してください。
- 緊急時車線維持支援は、天候や道路環境などにより、機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じて緊急時車線維持支援を使うかどうかを判断してください。

ブラインドスポットアシストシステム (BSA)

■ ブラインドスポットアシストシステムは、ブラインドスポットインフォメーション (BSD)、リアクロストラフィックアラート (RCTA)、リアクロストラフィックブレーキ (RCTB)、後方衝突予測警告 (RCW)、ドアオープンワーニング (DOW) の機能を備えています。主にリアバンパーの左右両側に搭載されるミリ波レーダーで自車後方の交通状況を判断し、ドライバーに安全運転を心がけるように早めに知らせます。

ブラインドスポットインフォメーション (BSD) *

速度が 15 ~ 150km/h のとき、リアコーナー部のミリ波レーダーにより隣接車線の死角領域内に車が入る、または隣接車線で急接近する車両が検知された場合、該当のドアミラーのインジケータを点灯させます。このとき、検知した側のターンシグナルランプを ON にすると、これ以上の車線変更は危険なため、ドアミラー警告灯の点滅で安全に注意するように知らせます。



4

使用および運転

リアクロストラフィックアラート (RCTA) *

車が後退し、かつ速度が 15km/h 未満のとき、リアクロストラフィックアラートシステムは、リアコーナー部のミリ波レーダーにより後方の死角領域を走行する車を検知します。後方から接近している車が自車と衝突するおそれがあると判断した場合、両サイドのドアミラー内のインジケータを点灯させると同時に音声警告も出し、ドライバーに注意喚起し衝突の可能性を低減させます。

リアクロストラフィックブレーキ (RCTB) *

車が後退し、かつ速度が 9km/h 未満のとき、リアクロストラフィックブレーキシステムは、リアコーナー部のミリ波レーダーにより後方の死角領域を走行する車を検知します。後方から接近している車が自車と衝突するおそれがあると判断したときに、自動的に緊急ブレーキをかけます。





後方衝突予測警告 (RCW) *

速度が 5 ~ 146km/h で走行中、リアコーナー部のミリ波レーダーにより後続車の急接近を検知します。追突のおそれがある場合は、ハザードランプが点滅して後続車のドライバーに知らせます。

ドアオープンワーニング (DOW) *

ドアオープンワーニングシステムは、リアバンパーの左右コーナー部に搭載されるミリ波レーダーにより作動します。自車が停止しており、かつドアが解錠されている状態で自転車や自動車などの移動物が後方の隣接車線から自車に接近している場合、ドアミラー警告灯が常時点灯し、後方から来た車などをドライバーに知らせると同時に、メーター内のアイコンが警告を出します。このとき、ドライバーがドアを開けようとするとドアミラー警告灯が点滅すると同時に音声警告を出します。

機能ボタンの操作

- ドライバーは、 → ADAS → アクティブセーフティ → ブラインドスポットアシスト の設定画面でブラインドスポットインフォメーション、リアクロストラフィックアラート、リアクロストラフィックブレーキ、後方衝突予測警告、ドアオープンワーニングの機能を ON または OFF にすることができます。
- ブラインドスポットアシストシステムを OFF にしたとき：メーター画面内の関係機能の表示灯が消えます。
- ブラインドスポットアシストシステムが待機しているとき：速度、シフトポジションなど自車の条件が機能のいずれかを満たしていない場合、メーター内の表示灯が灰色になり、機能が作動しません。
- ブラインドスポットアシストシステム故障時：メーターには、黄色のアイコンが表示されます。
- ブラインドスポットアシストシステムを ON にしたとき：メーター内の表示灯が緑色になり、機能が有効な状態のため、いつでも作動できる状態を表します。

警告

- ブラインドスポットインフォメーションは、左右ドアミラー死角領域の監視を支援するものですが、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車をコントロールし、自己責任で運転しなければなりません。
- ブラインドスポットアシストシステムは、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で安全運転を運転してください。
- ブラインドスポットアシストシステムは、天候や道路環境などにより、機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じてブラインドスポットアシストシステムを使うかどうかを判断してください。


▲ 注意

- 対象車両が後方からハイスピードで自車に接近してくるとき、ブラインドスポットインフォメーションは、警告機能が十分に発揮できないことがあります。
- ドライバーは、ブラインドスポットインフォメーションが正常に作動するようにしなければなりません。早めに泥、雪などの付着物をきちんと取り除き、リアコーナー部のブラインドスポットインフォメーションレーダーの設置部位を良好な状態に維持しなければなりません。
- 道路補修工事時、道路工事中の道路脇の大型防護柵、道路脇の大型看板、反射断面積が大きい物体など、後側方や後方の無関係の対象物が誤って対象車両として認識されたとき、ブラインドスポットインフォメーションは警告を出します。
- 環境によっては、感知が影響を受けたり、遅れたりすることがあります。もし対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、バイク、歩行者など）場合、システムは、対象物を認識できず誤って警告を出すことがあります。また、ノイズや電磁波による干渉などの影響を受け、システムの検知が遅れたり、干渉を受けたりすることがあります。
- 状況によっては、感知システムが影響を受けたり遅れたりすることでシステムが運転を支援できないことがあります。考えられる状況は、次に示す場合を含みますが、それらに限られません。
 - 後方から接近してきた車が最後のタイミングで車線を切り替える場合。
 - 急カーブ、坂道などで後方から接近してきた車の感知が遅れた場合。
 - 対象車両が遮られた場合。
 - 後方から接近してきた車の相対速度が 80km/h を超えた場合。
 - カーブの半径が小さすぎる、またはカーブを出入りする場合。
 - 雨、雪などの悪天候の場合。
 - リアコーナー部のミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉がある場合。
 - 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑な場合。
 - 次の対象物に反応しないおそれがあります。歩行者、動物を含みますが、それらに限りません。
 - 周りに電磁波による干渉など影響が存在している。
- リアコーナー部のブラインドスポットインフォメーションレーダーセンサーの校正が振動や衝突の影響を受けたことにより、システム性能が低下することがあります。このような場合には、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。

ドライバー眠気注意力警告 (DAW)

ドライバーモニタリングシステムは、ドライバーの操作状態を検知してドライバーの疲労度合いを評価します。評価結果に応じて、リアルタイムにドライバーへ注意喚起することで運転の安全性を高めます。

使い方

車の電源ポジションが「ON」の状態、ドライバーは、 → **ADAS** → **ドライビングアシスト** → **ドライバーモニタリング** の設定画面で設定を行うことができます。設定は今回のみ有効です。次回運転時には、乗員の安全を確保するためデフォルトに戻ります。

警告

- 運転で疲れている場合は、早めに車を止めて休憩を取ってください。

注意

- ドライバーモニタリングは補助的なシステムであり、いかなる場合にも、危険を有効に認識し警告を出すことができるわけではありません。ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは、常に車をコントロールしすべての道路法を遵守して自己責任で運転してください。

幼児置き去り検知 (CPD)

車の電源ポジションを「OFF」にした状態でドアを閉じる、または施錠すると、システムはお子様が車内に置き去りにっていないかチェックします。お子様が車内に置き去りにされていることを検知すると、ランプを点滅させてホーンを鳴らして警告を出し、エアコンを作動させます。警告を出しているときは、ドアを解錠する、いずれかのドアを開けることで警告を消すことができます。

使い方

ドライバーは、マルチメディア  → ADAS → ドライビングアシスト の順に設定画面を出すことができます。機能スイッチの設定は「ON」、「OFF」、「遅延」の3つがあります。

- 車の電源ポジションを「ON」にすると、設定は「ON」になります。
- 「OFF」を選択すると、今回の運転のみ警告機能は「OFF」になります。
- 「遅延」を選択すると、今回の運転のみ警告は遅延して作動します（約5分）。
- 更なる詳細を調べるには、文字の先にある「！」マークを押してください。

システムの応答方法

- システムにより、お子様などが車内に置き去りにされていることを検知すると、10秒以内に初期警告を約6秒出し続けます（ランプの点滅およびホーンを鳴らす）。
- 警告を消していない場合は、90秒以内に警告レベルを上げ（ランプの点滅およびホーンを鳴らす）、警告を約25分間出し続けます。
- まだ警告を消していない場合は、警告レベルを上げてから約3分後、エアコンを約30分間作動します。

⚠ 警告

- システムは、ランプの点滅やホーンを鳴らす、APPによるプッシュ通知やエアコンの作動などで、車内置き去りによるお子様への傷害を軽減させることができますが、その傷害を完全に避けることはできません。
- さらなる傷害を避けるため、システムが警告を出した場合は、早めにお子様を車内に閉じ込められていないかを確認してください。

⚠ 警告 (続き)


- システムは、バッテリー残量 (SOC) が 15%以下になると、警告を出せず、エアコンも作動しなくなります。十分なバッテリー残量を保つようご注意ください。

⚠ 注意

- 幼児置き去り検知システムは、誤作動や誤警告を起こすことがあります。
- システムは、大人 / 子供 / ペットなどの生命体を検知し、警告を出すことができます。
- システムは、携帯用 APP による解錠で警告を消すことができません。

タイヤ空気圧モニタリング

直接式タイヤ空気圧モニタリング

- 直接式タイヤ空気圧モニタリングシステムは、リアルタイムにタイヤの空気圧をモニタリングし走行の安全性や快適性を向上させ、空気圧不足によるタイヤの早期摩耗や車のエネルギー消費量の増加を低減する支援システムです。
- ドライバーは、ステアリングホイール上の  ボタンを操作しメーターメニューに入ることができます。また、ボタン上のホイール操作でタイヤ空気圧の表示画面を選択することができます。

タイヤ空気圧モニタリングシステムの警告

- いずれかのタイヤの空気圧が、適正空気圧の 80% 以下になると、タイヤ空気圧警告灯が点灯しタイヤ空気圧の値が黄色になります。ドライバーは、車を止めて該当のタイヤからエアが漏れていないかを点検したうえで、空気圧が適正な範囲に入るように空気圧を補充してください。
- いずれかのタイヤの温度が 3 分間連続で 85℃ を超えた場合は、タイヤ空気圧モニタリングシステムが高温警告を出し関係タイヤの温度値が黄色になります。車を止めて該当のタイヤの温度が下がってから運転を再開することをおすすめします。
- システム作動中に故障が起きた場合、タイヤ空気圧警告灯が点滅してから常時点灯します。メーターには「信号異常」または「タイヤ空気圧モニタリングシステムを点検してください」と表示されるので、関係するタイヤ空気圧モニタリングモジュールが正常であるか、長い時間強い電界範囲に囲まれていないかを点検してください。警告灯が長時間点灯し続けている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に対応を依頼してください。

⚠ 注意

- モニタリングモジュールの使用時間は、毎日の走行距離などの要素に関係します。
- モニタリングモジュールはタイヤ空気圧などの情報を定期的にディスプレイに送信するため、走行中にタイヤ空気圧が急に低下したり、バーストが起きたりした場合、次回システムが立ち上がるまでデータをディスプレイに送信することができないため、運転が制御不能になる場合があります。タイヤ破損と共にモニタリングモジュールも破損させたことにより情報が発信できなくなる、またはタイヤが破損しているか疑いがある場合は、ディスプレイに警告が表示されてからの停車ではなく、ただちに車を安全な場所に停車してください。
- モニタリングモジュールの取り付けを誤ると、タイヤの気密性に影響をおよぼすため、モニタリングモジュールの取り付けや交換は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼するようおすすめします。
- タイヤ空気圧が外気温度により変わるため、メーターに表示された空気圧および適正空気圧に合わせ、必要に応じてエアを補充したり、抜いたりしてください。
- BYD 純正部品以外の電気部品を後付けしている場合、タイヤ空気圧モニタリングシステムが干渉を受けるおそれがありますが、タイヤ空気圧モニタリングシステムが故障しているわけではありません。
- アルミホイール、スペアタイヤの交換*、または四輪のタイヤローテーションを行うと、タイヤ空気圧モニタリングシステムに対するキャリブレーションを行う必要があります。この作業は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼するようおすすめします。

⚠ 警告

- タイヤ空気圧に異常があっても、システムは車両の走行を停止させないため、ドライバーは運転を開始するたびに、電源ポジションを「ON」にした状態でタイヤ空気圧がメーカー推奨の適正空気圧になっていることを点検してください。メーカー推奨の適正空気圧になっていない場合は、空気圧を調整したうえで運転してください。そうしないと、車両を破損させたり、自分や他人に怪我を負わせたりするおそれがあります。
- 運転時、タイヤ空気圧の異常が見つかった場合は、ただちに空気圧を点検してください。タイヤ空気圧警告灯が点灯している場合、急ハンドルや急ブレーキの操作をしないでスピードを落とし、安全な場所に車を停車してください。空気圧不足のまま走行し続けると、タイヤの破損、交換につながる場合があります。タイヤを大きく破損させた場合、死傷者が出るほどの交通事故につながるおそれがあります。

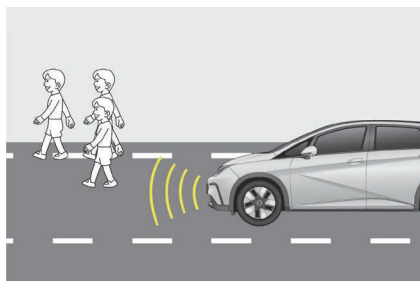
車両接近通報装置 (AVAS)

車両接近通報装置 (AVAS) は、車が低速で走行するときに、歩行者に車の接近を知らせるものです。


■ 前進時：

- 速度が $0\text{km/h} < V \leq 20\text{km/h}$ の場合、警告音がスピードアップにつれ強くなります。
- 速度が $20\text{km/h} < V \leq 30\text{km/h}$ の場合、警告音がスピードアップにつれ弱くなります。
- 速度が $V > 30\text{km/h}$ の場合、警告音は自動的に止まります。

■ 後退中は、車から一定間隔で警告音を出し続けます。




使い方

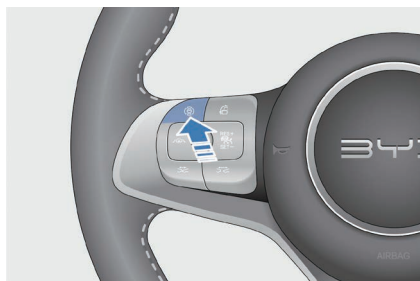
システムのデフォルトはONです。車両接近通報装置の音源はスタンダード、ブランドの2つがあり、**マルチメディア**  → **車両設定** → **インテリジェント警告** の設定画面で設定を行うことができます。

▲ 警告


- 低速走行中に車両接近通報装置の通報音が聞こえていない場合は、車を安全で静かなところに駐車し、ウィンドウを開けてから、シフトレバーを「R」レンジに切り替え、車両の先端から警告音が聞こえるかを点検します。それでも通報音が聞こえない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。

BYD アラウンドビューシステム

電源ポジションを「OK」にしているとき、ステアリングホイール  のボタンを押す、またはマルチメディアのトップページで「車両映像」をクリックするとアラウンドビューシステムになります。



■ 横画面表示の場合：

- 右図中の車のフロント側、リア側、ライト側、レフト側をクリックすると、左側の画面にはフロントビュー、リアビュー、ライトビュー、レフトビューのシングルビューが表示されます。
- フロントビュー、リアビューのシングルビューで映像領域をダブルクリックすると、180° 視角の全画面表示に切り替わります。
- BYD アラウンドビューシステムのレーダーアイコン  をクリックし、レーダー表示を ON にします。再びクリックすると、レーダー表示は OFF になります。レーダー表示を ON にした後、障害物に接近すると、映像には障害物が映り警告音が鳴ります。



■ 縦画面表示の場合：

- 左下側の前、後、左、右のいずれか 2 つの領域をクリックすると、上側と右下の映像領域に選択された 2 つのシングルビューが表示されます。
- 左側のボディビューをゆっくりクリックすると、透明ボディと現物ボディの切り替えができます。
- 車が始動後、透明の全景画面には前回電源 OFF 時の画像が表示されます。このとき、車の底や周りの死角領域にある異物は、実際のものとは異なることがあります。車の発進で車の底の画像はリアルタイムに更新され、ボディ長さ相当の距離以上を走行してから更新が完了します。新規、更新は車間距離を超えた後にのみ完了できます。

警告

- BYD アラウンドビューシステムは、車両底部の映像が見える透明全景機能を備えています。この機能は、駐車 / 走行時に車両底部の観察を支援するものです。車両底部の異物や危険を洗い出す場合は、人や車の安全を確保するために他の方法で洗い出しを行ってください。
- 低速走行中は、透明全景機能が速度の変化やブレーキ操作の繰り返しによる影響を受けるため、車両底部の画像位置が、車外の画像と一致しないことがあります。
- BYD アラウンドビューシステムは、駐車 / 走行を補助するためのものです。車の前後に死角領域が存在しているため、駐車や走行時にこのシステムだけに頼るのは危険です。事故を避けるために、駐車 / 運転時は他の方法で車の周りの状況を観察する必要があります。
- このシステムには広角魚眼カメラが搭載されているため、表示画面に映っているものに、若干の歪みが発生することがあります。
- ドアミラーが最後まで展開されていない場合は、BYD アラウンドビューシステムを使用しないでください。BYD アラウンドビューシステムを通じて車を操作するとき、すべてのドアが閉まっていることを確認してください。
- BYD アラウンドビューシステムの画面に映されている距離は、自分の目で確認した距離と違うことがあります。特に、障害物が車に近くなってきたとき、ドライバーは、複数の手段で車と障害物との距離を判断する必要があります。
- カメラは、フロントバンパー、左右ドアミラーおよびリアライセンスプレートの上側に搭載されています。必ずカメラの視界が異物などで遮られないようにしてください。
- 高圧洗浄機でボディを洗浄するとき、カメラ性能への影響を避けるため、できるだけ水をカメラに直接噴射しないでください。カメラに水分やほこりが付いているときは早めに拭き取ってください。
- カメラの故障や破損につながるおそれがあるので、カメラを叩かないでください。
- 車を始動した後のマルチメディアシステムがまだ完全に立ち上がっていないとき、BYD アラウンドビューシステムのスイッチを操作したり、シフトレバーをリバースレンジに入れたりすると、BYD アラウンドビューシステム表示画面への出力が遅れたり、画面がちらついたりしますが、これはカメラ起動時の電源投入プロセスで正常な現象です。
- システムの特定のカメラ、または複数のカメラが壊れている場合は、該当の画面がブラックになります。
- 動作可能なカメラがない場合は、画面がブラックになり「ビデオ信号が検知されていません」と表示されます。


駐車支援システム

- 駐車支援システムは、駐車時にマルチメディアディスプレイ*に表示された映像やスピーカーの警告音で、車と障害物の距離をドライバーに伝えます。このシステムは、センサーで障害物を検知します。
- 駐車支援システムは、バック駐車をアシストする機能です。バックする際は、車の後部や周りの状況をよく確認してください。

⚠ 警告

- 駐車支援システムは、ドライバーの駐車操作を支援するもので、ドライバー自身の判断に取って代わるものではありません。車両周囲を観察したうえで車を操縦してください。
- 「D」レンジで、速度が 11km/h まで上がった場合は駐車支援システムは作動を停止します。速度が 10km/h に下がると、駐車支援システムは作動を再開します。
- センサーの作動範囲内に他のものを取り付けしないでください。
- 洗車時、水や蒸気でセンサー部位を洗浄しないでください。センサーの故障につながるおそれがあります。

後方レーダーの電源スイッチ

- マルチメディア  → ADAS → パーキングアシスト → 後方レーダーの操作でバックソナーシステムの ON・OFF を設定することができます。
- 電源ポジションを「OK」にしたとき、EPB がリリース状態に入り、駐車支援システムが自動的に立ち上がります。
- システムを ON にし、車の周りに障害物が存在しているとき、警告メッセージが表示されます。システムを OFF にしたとき、警告メッセージは表示されません。

センサータイプ

- センサーが障害物を検知すると、障害物の方位や車と障害物との距離により、画像がマルチメディアディスプレイ*に表示されます。
- 縦列駐車や車庫入れをする際に、このセンサーは車と障害物との距離を検知し、マルチメディアディスプレイおよびスピーカーでお知らせします。当該システムをご利用の際には、必ず周りの環境に注意してください。

- ① 右前側面センサー
- ② フロント中央センサー
- ③ 左前側面センサー
- ④ 右後側面センサー
- ⑤ リア中央センサー
- ⑥ 左後側面センサー



距離表示ブザー

センサーが障害物を検知したときに、マルチメディアディスプレイには障害物の向きおよび車と障害物のおおよその距離が表示され、ブザーが鳴ります。

中央部センサーの作動例

おおよその距離 (mm)	マルチメディア表示例	警告音
約 700 ~ 1200		低速
約 300 ~ 700		高速
約 0 ~ 300		鳴り続ける

角度センサーの作動例

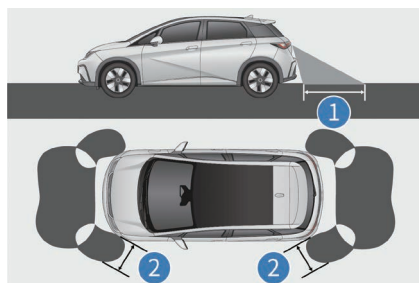
おおよその距離 (mm)	マルチメディア表示例	警告音
約 300 ~ 600		高速
約 0 ~ 300		鳴り続ける

作動するセンサーおよびその検知範囲

車が後進すると、すべてのセンサーが作動します。

図はセンサーの検知範囲を示しています。検知範囲は限られているため、後進前に車両周りの状況を観察し、ゆっくり車を後退させてください。

- ① 約 1200mm
- ② 約 600mm



⚠ 警告

- センサーは、車に近すぎる障害物が検知できないおそれがあります。
- 駐車支援システムは、ドライバーの駐車操作を支援するためのものであり、ドライバー自らの判断に取って代わるものではありません。観察したうえで車を操縦してください。
- センサーが障害物を検知するための場所にアクセサリーやその他のものを置かないでください。システムの正常な作動に影響をおよぼします。
- 状況によってはシステムが正常に作動せず、車が障害物に接近しても検知しないことがあります。そのため、常に車両周りの状況を観察し、システムだけに頼らないでください。

⚠ 警告 (続き)

- 後方レーダー故障時、メーター内に「後方レーダー故障 BYD サービスに点検」のメッセージが表示されてブザーが1回鳴ります。この場合は、早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、車の点検を依頼するようにおすすめします。

センサーからの検知情報

- 車両状況や周囲環境によっては、障害物を正しく検知するセンサー性能に影響をおよぼすことがあります。影響を与える可能性がある特定の状況を以下に示します。
 - センサーに汚れ、水分や曇りがある場合。
 - センサー上に雪や氷が付着している場合。
 - センサーが何かに覆われている場合。
 - 車が明らかに傾いたり、最大積載量を超えたりした場合。
 - デコボコが激しい道路、坂道、砂利道や草原を走っている場合。
 - センサーを新たに塗装した場合。
 - ホーンの音、バイクのエンジン音、大型車両のエアブレーキの作動音や超音波が発生するその他の騒音、車両付近が非常に騒がしい場合。
 - 近くに駐車支援システムを搭載した車がある場合。
 - 車にけん引フックを取り付けた場合。
 - バンパーやセンサーが強い衝撃を受けた場合。
 - 車が高い縁石または曲がりくねった縁石に接近した場合。
 - 炎天下や厳しい寒さの場合。
 - 純正品でない、車高の低いサスペンションキットを取り付ける場合。
- 上記の他に、障害物自身の形状により、センサーが実際の距離を感知できないことがあります。
- 障害物の形状、材料は、センサーの検知を妨げることがあります。特に下記に示す障害物に注意してください。
 - 電線、柵、ロープなど。
 - 綿、雪、その他の電波を吸収する材料。
 - 角がとがっているもの。
 - 低い障害もの。

- 上部が外側に向き、車の方に伸びている高い障害物。
 - バンパー下にあるもの。
 - 車に近づいているもの。
 - 車両近くの人（服装のパターンによる）。
- マルチメディアディスプレイ*に画像が表示されたり、スピーカーが鳴ったりしている場合、センサーが障害物を検知している、またはセンサーが外部からの干渉を受けている可能性があります。このような現象が続く場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での点検を行うようおすすめします。

⚠ 注意

- 水や蒸気でセンサー部位を洗淨しないでください。センサーの故障につながるおそれがあります。

ペダル踏み間違い時加速抑制装置

ペダル踏み間違い時加速抑制装置は、自動車の安全なスタート/ストップを促すための補助装置です。

- ペダル踏み間違いの防止：始動または低速走行時、走行方向の先に障害物がある場合は、ドライバーがアクセルペダルをブレーキペダルと間違えたときに、アクセルペダルの踏み込み量を抑えます。
- ペダル踏み間違い時加速抑制装置が ON の状態で走行方向の先に障害物がある場合は、アクセルペダルを強く踏み込んでも、急加速信号にตอบสนองせず、「走行方向に障害物を検知しているので、加速が抑制されています。そのまま走行するなら、アクセルペダルを軽く踏んでください」の文字メッセージが表示されます。
- 始動または低速走行時（速度 ≤ 10km/h）、走行方向 3 メートル以内に障害物がある場合は、急アクセル時の加速機能が抑制されます。

安全運転支援システム

走行の安全性を向上するために、以下の安全運転支援システムは、様々な走行条件に合わせて、自動的に作動します。ただし、それらのシステムは、補助的なものであり、車を運転する際に、それらのシステムに過度に頼るべきではないことにご注意ください。

インテリジェントパワーステアリングシステム

インテリジェントパワーステアリングシステムは、先端的な分離型電気油圧式ステアリングシステムで、マスターバック、電子真空ポンプおよび ABS/ESC などの機能を集積しています。システムは、ドライバーの制動操作上の必要性に応じて、車の制動を支援し、ABS、EBD、TCS、VDC、CST、HHC、HBA、CDP などの高度な制御機能で運転の安定性や快適性、制動エネルギーの回生効率を上げることができます。

ビークルダイナミクスコントロール (VDC)

走行中、急に方向を切り替えるとき、VDC システムはステアリングホイールの角度や走行速度などの情報により、ドライバーの意図を判断して車の実際の状況と比較します。車がドライバーの目的の車線から外れると、VDC はドライバーのサイドスリップの制御を支援し、車の方向安定性を保つために関係車輪に制動力を加えることにより修正を行います。

トラクションコントロールシステム (TCS)

TCS は、モーターのパワーを弱めることにより、加速走行時に駆動輪のスリップを防止します。また、必要なときに制動力を加えて駆動輪の空転を防止します。走行条件が悪いときは、TCS の作動により車の発進、加速、上り坂の走行が容易になります。

警告

- TCS は走行安定性を向上させるもので、急転回することで引き起こされる衝突事故を防止するものではありません。作動にも限界があるため、滑りやすい路面では速度を落とし安全運転を心がけてください。
- 下記の場合は、TCS の機能が効果的に発揮できないことがあります。
 - 滑りやすい路面を走行するとき、TCS システムが正常に作動しますが、方向が制御できなかったり、必要な駆動力が出なかったりすることがあります。
 - 安定性や動力が維持できなくなる状況で車を運転しないでください。

ヒルスタートホールドコントロール (HHC) システム

ブレーキペダルを離した後、HHC が約 1.5 秒間ブレーキ油圧を保持し、車の後退を防止します。

⚠ 警告

- 滑りやすい路面の坂道では、スリップして後退することがあります。HHC の機能を過信せず、安全運転に心がけてください。
- 駐停車に HHC を使用しないでください。停車するときは、ブレーキペダルを踏み続け、駐車するときは電動パーキングブレーキのスイッチを引き上げて、パーキングブレーキをかけてください。

ハイドロリックブレーキアシスト (HBA) システム

ドライバーが素早くブレーキペダルを踏んだとき、HBA がそれを緊急ブレーキと認識し、最大値になるまでブレーキ油圧を急速に高めることにより、ABS をより早く介入させ、制動距離を効果的に短くすることができます。

減速度制御 (CDP) システム

電動パーキングブレーキスイッチを引き上げると、CDP 機能が作動します。車が停止するまで一定の減速度 (ブレーキを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチを引き上げる場合の減速度が 0.4g、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げると同時にブレーキペダルを踏む場合の減速度が 0.8g) で制動します。ドライバーが電動パーキングブレーキスイッチをリリースすると、CDP 機能が停止します。

ESC システム操作について

インテリジェントパワーブレーキシステムは、従来の ESC システムに対して、次の機能を追加しています。

■ ブレーキペダル制御モード

- ブレーキペダル制御モードは、ブレーキペダルフィーリングを調整する場合に利用します。ブレーキペダルの深さと車両減速度の関係曲線がモードによって異なるため、ドライバーはお気に入りのブレーキペダルフィーリングを選ぶことができます。
- ドライバーは、**マルチメディア** → **車両設定** → **スマートシャーシ** の設定画面からブレーキペダルフィーリングを調整することができます。

■ コンフォートブレーキ (CST)

- コンフォートブレーキ機能：緊急時以外の減速・停止時に、インテリジェントパワーブレーキシステムが4つのブレーキの油圧を制御することにより、停車時のサスペンションの揺れや衝撃を軽減させ、ドライバーにスムーズなコンフォートブレーキを提供します。
- ドライバーは、**マルチメディア → 車両設定 → スマートシャーシ**の設定画面からコンフォートブレーキ機能のON・OFFを設定することができます。
- コンフォートブレーキ機能が作動すると、制動距離が2～5cmほど長くなることがあるため、停車前に前車や前方障害物との距離を適切に空けてください。

■ ブレーキディスクワイピング

- ディスクローターへの水分の付着によりブレーキ反応時間が長くなります。ブレーキディスクワイピング機能の目的は、湿気が多い環境で走行するときに水分を切ることです。低圧アクチュエーターの作動でブレーキパッドをブレーキディスクに当てることで、ディスクローターから湿気を拭き取ります。システムが雨滴や濡れている道路を検知すると、一定間隔でブレーキディスクの拭き取りを繰り返します。


■ ESCシステム作動時

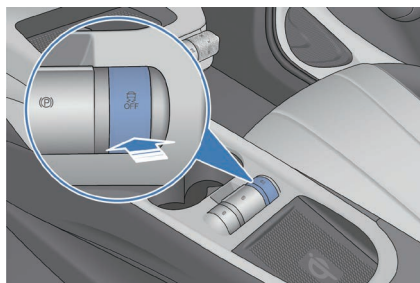
- 坂道発進時、車が滑ったり、後退したり、いずれかの駆動輪が空転する可能性がある場合は、ESC表示灯が点滅し、ESCシステムが作動していることを表します。

■ ESCシステムの使用禁止について

- 車が積雪やぬかるみでスタックすると、ESCシステムはモーターからホイールへの出力を下げる場合があります。スタック脱出のために、このシステムをOFFにする必要があります。

■ ESCシステムを OFF にするとき

- ESC OFF スイッチを押す、またはマルチメディア  → ADAS → アクティブセーフティ の画面で ESCシステムを OFFにすることができます。また、ESCはリアルタイムでその作動状態を点検します。ESCシステム作動中に ESCシステムを OFFにしても、ESCシステムはすぐに「OFF」にはならず、能動的に制御に介入します。制御介入が完了するまでは、ESCシステムが OFFになりません。



- ESCシステムが OFF になった後、再び ESC OFF スイッチを押すか、速度がしきい値（80km/h）を超えると、OFF になった ESCシステム機能の一部が再度 ON になります。ESCシステム機能が急に ON することがないように、ESCシステムが車両走行の制御に介入していない場合のみ、再び ESCシステム機能を ON にすることができます。

■ ESC OFF スイッチの誤操作

- ESC OFF スイッチを押し続ける時間が 10 秒を超えると、ESCシステムは、それを誤操作と判断します。ESCシステムはすべての内部機能の正常作動を保ちます。


■ モーター OFF 後の ESCシステム再開

- ESCシステムを OFF にしてから、再びモーターを ON にすると、ESCシステムの作動が自動的に再開します。

■ 速度連動による ESCシステムの作動

- ESCシステムが OFF になっているとき、速度がしきい値（80km/h）を超えると、車の姿勢が極めて不安定になります。このとき、ESCシステムは自動的に ON になります。

■ ESCシステム起動時

- ESC 故障警告灯  が点滅している場合、慎重に運転をしないと事故につながるおそれがあります。表示灯が点滅している場合は、特に気を付けてください。

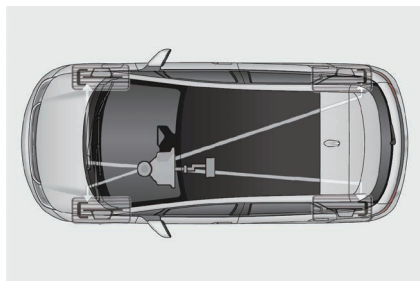
- ESC システムを OFF にしたとき
 - 細心の注意を払いながら、道路状況に応じた速度で運転しなければなりません。ESC システムは、車の安定性と駆動力を確保してくれるため、必要がなければ OFF にしないでください。
- タイヤの交換
 - すべてのタイヤは、寸法、ブランド、トレッドパターン、輪荷重を同一にしてください。また、推奨空気圧になるまでタイヤに空気を入れてください。
 - 車に異なる種類のタイヤを装着した場合、ABS と ESC システムが正常に作動できなくなります。
 - タイヤやホイールの交換については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。
- タイヤおよびサスペンションの処置
 - 不具合があるタイヤの使用、サスペンションの改造は、安全運転支援システムに影響をおよぼし、このシステムの故障を引き起こすおそれがあります。

多重衝突ブレーキ機能 *

- 事故でエアバッグが展開すると、車が自動的にブレーキをかけます。
- 車両減速、横滑り防止装置、アンチロックブレーキシステムなどの運転支援システムが共同で役割を果たし、車両の安定性を維持させて車が現在の車線を走り続けるようにします。
- 緊急警告灯およびブレーキランプが点灯し、対向車に警告して衝突の再発を防ぎます。
- 緊急救援やロードサービスに対応するため、事故が収束した後はブレーキが解除され、ブレーキランプが消灯します。
- ドライバーは、加速やブレーキ操作でいつでも多重衝突ブレーキ機能を一時的に解除することができます*。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

■ ABS の油圧システムは独立する 2 つの回路があり、それぞれの回路は対角線上にあります (右側フロントタイヤブレーキと左側リアタイヤブレーキとの接続など)。1 つの回路が故障しても、2 つのホイールに制動力を加えることができます。



■ ABS は、急ブレーキや滑りやすい路面でのブレーキ操作時に車輪のロックやスリップを防止し、ステアリング制御の維持に役立ちます。

■ フロントタイヤがスリップしたときはステアリングを制御できないため、ステアリングホイールを回しても車が直進します。脈動する急ブレーキが人間の反応よりはるかに速いため、ABS は車輪のロックを防ぎ、ステアリング制御の維持に役立ちます。

■ 絶対にブレーキペダルをポンピングして踏まないでください。ABS が効かなくなるおそれがあります。危険を回避するためにステアリングホイールを切るときは、ABS が作動するようにブレーキペダルを強く踏み続けてください。

■ ABS が作動すると、ブレーキペダルが振動し、その作動音が聞こえることがあります。それは、ABS がポンピングブレーキをかけているためで、異常ではありません。

電子制御制動力配分システム (EBD)

■ EBD 機能は ABS を支援する機能で、ABS が機能する前に後輪のスリップ率が高い場合は、ABS システムが後輪の制動力を調節し、安定した理想的な制動力配分を実現します。

⚠ 警告

- ABS（アンチロックブレーキシステム）は、車を停止させるのに必要な時間および距離を短縮させることができません。この装置は、ブレーキをかけるときのステアリング制御を支援するものです。常に他の車と安全な車間距離を保ってください。
- 軟弱な路面やデコボコ路（砂利道や積雪路面）を走行するとき、ABS搭載車はABSが搭載されていない車と比べると長い制動距離が必要です。この場合は、速度を落として他の車との車間距離をさらに取ってください。
- 下記の場合は、ABS機能を効果的に発揮できません。
 - グリップ力が弱いタイヤを使っている場合（雪が積もっている路面で過度な摩耗があるタイヤを使うなど）。
 - 高速で滑りやすい路面を走行するとき、車がスリップした場合。
- ABSは、車の制動距離短縮を目的として設計されたものではありません。次の場合は、必ず先行車との車間距離を取ってください。
 - ぬかるみ、砂利道や積雪路面を走行するとき。
 - へこみが深い道路、または平坦でない道路を走行するとき。
 - デコボコ路を走行するとき。

⚠ 注意

- ブレーキシステム警告灯が点灯すると同時に、ABS故障警告灯も点灯している場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- この場合、ABSが機能しないだけでなく車の姿勢も極端に不安定な状態になります。
- ABSは、急旋回や急な車線変更など急なハンドル操作によるスリップを防ぐことができません。路面状況および天気を問わず、常に安全な速度で慎重に運転してください。
- ABSは、安定性の低下を防ぐこともできません。急ブレーキ時は適切にハンドル操作を行ってください。大きなカーブや急カーブでは、対向車線に飛び出したり、道路からはみ出したりするおそれがあります。

ルームミラー

手動防眩機能

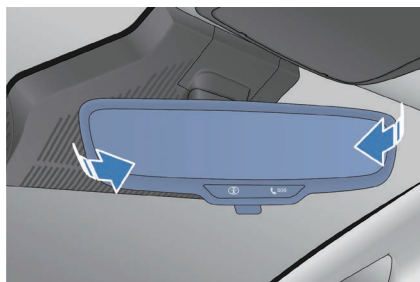
ルームミラーは、昼間走行および夜間走行に対応する2つのモードを搭載しています。夜間走行モードに合わせると、後続車のヘッドライトの光を軽減することができます。

- 昼間走行：レバーを①の位置に合わせると、ルームミラーの映りがきれいです。
- 夜間走行：レバーを②の位置に合わせると、夜間走行時に後続車のヘッドライトの光を軽減することができます。眩しさは軽減されますが、後方の視界や視認性が落ちるため注意してください。



ルームミラーの手動調節

上下、左右にルームミラーを回してルームミラーを適切な位置に調整します。



⚠ 警告



- 走行中に、ルームミラーを調節しないでください。ドライバーが運転に集中できず、死傷につながる思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ルームミラーに重量物をかけたり、力強く揺らしたり、引っ張ったりしないでください。
- 手でルームミラーを調節するときに引っかかりがある場合、ルームミラーが脱落しないよう絶対に乱暴に調整しないでください。

電動ドアミラー

ドアミラー調整ボタン

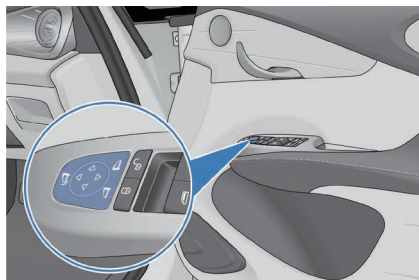
電動ドアミラースイッチを操作してドアミラーに車の両側がちょうど映るように調節してください。

サイドミラーの選択ボタン

-  左ドアミラー調整ボタン
-  右ドアミラー調整ボタン

ドアミラー調整ボタン

このボタンを押すと、ドアミラーを適切な位置に調節することができます。



4

使用および運転


警告


- 走行中にドアミラーを調節しないでください。ドライバーが車の操縦を誤り、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

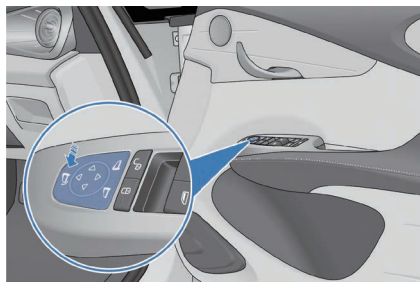
アドバイス

- ドアミラーが凍り付いた場合は、コントローラーを操作したり、ドアミラーの表面を削ったりしないでください。解氷スプレーでドアミラー表面の氷を落としてください。

可倒式ドアミラー

ドライバーは、マルチメディア  → **車両設定** → **ドアミラー** の設定画面で自動格納機能の ON または OFF を設定することができます。

-  ボタンを押すと、電動ドアミラーが格納されます。再度ボタンを押すと、電動ドアミラーが展開します。
- イモビライザーが作動すると、2つのドアミラーが自動的に格納されます。イモビライザーを解除すると、2つのドアミラーが自動的に展開します。



ワイパー

ワイパーブレードの交換

6 ヶ月、または 10000 キロ毎にフロント、リアワイパーブレードを点検し、ゴム部に割れや部分的な硬化がないかを確認してください。このような現象が見つかった場合は、ただちにブレードを交換してください。そのまま使用するとスジ状の線または拭きムラが残り、雨天時の視認性が悪くなります。

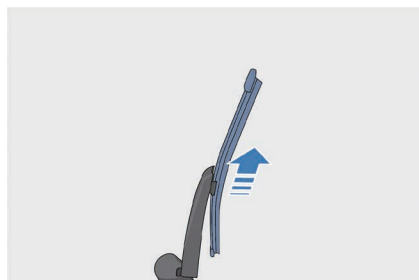
仕様 1

1. まずは、運転席側のワイパーアームを立て、それから助手席側のワイパーアームを立てます。
2. ブレードロックボタンを押します。
3. ブレード留め具を持ち、図に示す方向にブレードを取り出します。
4. 新しいブレードを取り付けるときは、ブレードの外し方と逆の手順で作業します。



仕様 2

1. まずは、運転席側のワイパーアームを立て、それから助手席側のワイパーアームを立てます。
2. 図に示す位置に来るまでリアワイパーブレードを反転させます。
3. ロックボタンを押しながら、アームから外れるように矢印方向にブレードを押し付け、ブレードを回転させながら取り出します。
4. 新しいブレードを取り付けるときは、ブレードの外し方と逆の手順で作業します。



▲ 注意

- ワイパーブレードは優しく取り扱ってください。ブレードがフロントガラスに直接ぶつかるようにワイパーアームを直接押し倒さないでください。
- ワイパー作動時、ワイパーブレードを折り曲げたり、手などでワイパーブレードの動きを阻止しないでください。
- ワイパーアームを立てているときは、ボンネットを開けないでください。ボンネットおよびワイパーアームを破損させるおそれがあります。
- ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを立てた後は手でしっかり支えてください。また、ブレードを交換した後はゆっくり倒してください。ブレードを取り付けていない状態で手が滑りワイパーアームがガラスに当たるとガラスを破損させるおそれがあります。

タイヤチェーン

- タイヤチェーンは、緊急時対応、またはチェーン規制が実施されている道路を通行するときを使用するものです。
- タイヤチェーンは、フロントタイヤに装着します。凍結路面や雪道でタイヤチェーンを装着した車を運転する場合は、細心の注意を払ってください。タイヤチェーンによっては、車両のタイヤ、ホイール、サスペンションおよびボディーを破損させることがあるため、適切なサイズのタイヤチェーンを選定し、タイヤとホイールハウス内の他部品との間に十分な空間を作り、タイヤチェーン本体の厚さや直径を6mm以下のものにしてください。
- 部品組立図およびタイヤチェーンメーカーの他の取扱説明書をよく読んでください。
- タイヤチェーンの購入やタイヤへ装着前には、お買い上げのBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に問い合わせてください。
- タイヤチェーンを装着した状態で雪道を走行する場合は、タイヤチェーンの種類に合った速度に抑えて走行してください。
- タイヤとタイヤチェーンとの摩擦を軽減するため、タイヤチェーンを装着したまま積雪路や凍結路以外の道路を走行しないでください。

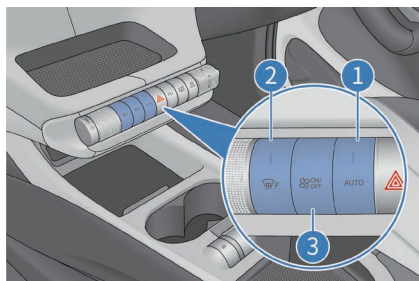
アドバイス

- 走行速度は、タイヤチェーンメーカーに推奨された速度を超えて走行しないでください。
- 突起物や穴、急カーブに注意しながら慎重に運転してください。乗り上げた場合、ジャンプするおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着している車は、制御不能による事故を避けるため、急ハンドルや急ブレーキを避ける、またカーブに進入する前にスピードを落としてください。
- タイヤチェーンから異音が聞こえる場合は、タイヤチェーンがサスペンションやボディー、ブレーキチューブなどに干渉しているため、ただちに車を止めて点検してください。
- タイヤチェーンは左右対称に装着し、積雪路を抜けたら、ただちに取り外してください。

5-1 空調システム	222
エアコンについて	222
5-2 小物入れ	229
吹き出し口	229
ドアポケット	229
駐車券収納ボックス	229
インストルメントパネル	
センターボックス	230
グローブボックス	230
センターコンソール	
ボックス	231
カップホルダー	232
サングラスホルダー *	233
シートバックポケット	233
5-3 その他の装置	234
サンバイザー	234
アシストグリップ	235
USB ポート	235
SD カードスロット *	236
12V アクセサリー電源	237
ワイヤレス充電エリア *	238
リアシェルフ	240
カーペット	240
フック	241
緊急脱出ハンマー	241
5-4 マルチメディア	
システム	243
マルチメディアコントロール	
パネル PAD	243

エアコンについて

- 1 オートボタン
- 2 フロントガラスデフロストボタン
- 3 エアコン ON/OFF ボタン



i アドバイス

■ エアコンリモートスタート機能：

- ユーザーは車のリモートキー、または「BYDクラウドサービス」APP でエアコンを付け、ユーザーに事前に快適な室内環境を提供することができます。



- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1 エアコン設定ボタン | 9 エアコン ON/OFF ボタン |
| 2 シートヒーターボタン | 10 オートモードボタン |
| 3 エアコン操作画面ボタン | 11 ファン ON/OFF ボタン |
| 4 換気ボタン | 12 助手席側エアコン温度調節 |
| 5 外気導入 / 内気循環切替ボタン | 13 運転席側エアコン温度調節 |
| 6 リアガラスおよびドアミラーデフロストボタン | 14 吹き出しモード選択ボタン |
| 7 フロントガラスデフロストボタン | 15 風量調整 |
| 8 最大エアコンボタン | |

オートモードボタン

- オートモードボタンを押すと、シフト機構パネル上のオートモードボタン表示灯が点灯し、コンプレッサーの状態、風量の強さ、吹き出しモードを自動的に調節します。
- 風量の強さや吹き出しモード、コンプレッサーの状態を設定すると、フルオート制御が OFF になります。その操作機能を除き、その他の機能はオートモードのままです。

ファン ON/OFF ボタン

- エアコンが ON の状態でファン ON/OFF ボタンを押すと、エアコンを OFF にすることができます。
- エアコンが OFF の状態でファン ON/OFF ボタンを押すと、エアコンを ON にすることができます。

風量調整

- ご希望の風量調整を押します。数が多いほど風量が強くなります。

フロントガラスデフロストボタン

- フロントガラスデフロストボタンを押すと、エアコンがフロントガラスデフロスト制御に入り、吹き出しモードがフロントガラスデフロストモードに切り替わります。再度このボタンを押すと、エアコンのフロントガラスデフロスト制御が OFF になります。
- このボタンを押すことで、フロントガラスデフロスト制御を ON すると同時にエアコンも作動します。

温度調整

- ディスプレイの上側の矢印を押す、または温度表示部を押しながら下へスライドすると、温度が高くなります。下側の矢印を押す、または温度表示部を押しながら上へスライドすると、温度が低くなります。
- 温度を最小に調節したときは「Lo」、温度を最高に調節したときは「Hi」を表示します。

最大エアコンボタン

- 最大エアコンボタンを押すとエアコンが最大冷房制御に入ります。温度は Lo、風量は最大、外気導入 / 内気循環状態が内気循環、吹き出しモードが上半身送風になります。
- 再びこのボタンを押すと、エアコンの最大冷房制御が OFF になります。

エアコン ON/OFF ボタン

- エアコン ON/OFF ボタンを押すと、アイコンが点灯しエアコンのコンプレッサーを ON にします。再度このボタンを押すと、アイコンが消灯しエアコンのコンプレッサーを OFF にします。

外気導入 / 内気循環切替ボタン

- 外気導入にしている場合、外気導入 / 内気循環ボタンを押すと外気導入モードから内気循環に切り替わります。再びこのボタンを押すと、内気循環モードから外気導入に切り替わります。

⚠ 警告

- 内気循環で長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなり、視界が損なわれて危険なため、一時的な使用にしてください。
- 吹き出し風が長時間あたらないように注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
- フロントガラスデフロストボタンを ON にしているときに、エアコンの設定温度を低くしないでください。フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。
- 湿気が多いときは、フロントガラスに冷風を吹き付けないでください。フロントガラスの車内外での温度差により、フロントガラスが曇ることがあります。
- お子様や介護を必要とされる方、ペットを車内に置き去りにしないでください。エアコンの設定をしても、自動停止などにより車内が高温または低温になることがあり、死亡につながるおそれがあります。

i アドバイス

- 駐車時オートリサキュレーションの設定が ON になっている場合は、車内の空気の質を確保するため、排気ガスが車内に入らないように駐車時循環モードが内気循環に切り替わります。

リアガラスおよびドアミラーデフロストボタン

- リアガラスおよびドアミラーデフロストボタンを押すと、リアガラスおよびドアミラーデフロスト機能を ON にすることができます。再びこのボタンを押すと、リアガラスおよびドアミラーデフロスト機能を OFF にすることができます。再度操作しない場合は、15 分間作動してから自動的に OFF になります。
- この機能は、雨滴を乾燥させたり、雪を溶かしたりするものではありません。

⚠ 警告

- ドアミラーの表面が熱くなるためリアガラスおよびドアミラーデフロストボタンを ON 後は、鏡面を触らないでください。

⚠ 注意

- リアガラス内側のクリーニングを行うときは、熱線や接続部を傷付けたり破損させないように注意してください。
- 起動バッテリーの放電を防ぐため、モーター稼働時はリアガラスおよびドアミラーデフロストボタンを OFF にしてください。

i アドバイス

- 長時間ドアミラー内蔵のヒーターで除霜する機能を使う場合は、ガラスの早期劣化につながるおそれがあるため、不要なときは、早めにリアガラスおよびドアミラーデフロストボタンを OFF にしてください。

換気

- 「換気」ボタンを押すと、エアコンの換気制御が ON になり外気が送り込まれます。
- 再度ボタンを押すと、エアコンの換気制御が OFF になりオートモードに入ります。

吹き出しモード選択ボタン

- PAD の該当ボタンを押して吹き出しモードを選択します。吹き出しモードは自由に組み合わせることができ、希望に応じて吹き出しモードを3つまで同時に ON することができます。

1. 主に上半身へ送風します。
2. 主にフロントガラスおよびドアガラスに送風します。
3. 主に足元へ送風します。

**ご利用要領**

- 炎天下に駐車後、車内の温度を素早く下げるには、窓を開け、数分間ほど運転してください。このように熱気を車外へ出すと、素早く車内を冷やせます。
- 車内の温度を素早く下げるには、温度を「Lo」に調節し、内気循環モードで数分間エアコンを稼働させます。

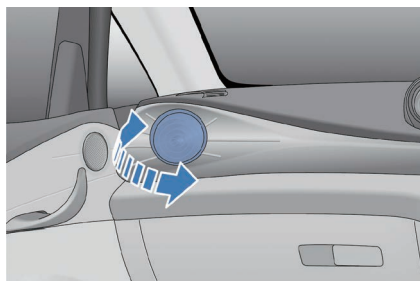
- フロントガラス前のエアインレットグリルが（落ち葉や雪などで）詰まっていないことを確認してください。
- 車内の空気が十分に循環できるようにフロントシートの下にものを置かないでください。
- 寒いときは、ドアガラスの曇りを低減させるために、エアコンの風量を強に設定して1分間稼働させ、吸気経路にある雪や湿気を取り除いてください。
- 寒いときは、車内の温度を素早く上げるために、内気循環モードで数分間エアコンを稼働させます。ドアガラスが曇らないように、車内が暖まった後は外気導入モードをONにします。
- ほこりが多い道路で他の車に追従して走行する、または風とほこりがある状況で走行するとき、すべてのドアガラスを閉めるようおすすめします。また、エアコンを内気循環に設定し、エアコンのファンをONにします。
- 暖房運転時、エアコンON/OFFアイコンを押し、アイコンを点灯（エアコンをON）させると、空気中の湿気を減らすことができます。
- 換気モードでは、車外の自然な空気を車内に導入するため、春や秋の運転に適しています。

i アドバイス

- エアコンの異臭について：
 - エアコンを付けたとき、吹き出してきた空気からカビの臭いがある場合がありますが、エアコンからの異臭発生は異常ではありません。エアコン使用中は、エバポレーターに結露が付着しやすく、フィルターにキャッチされなかった人体の汗やタバコの煙などは湿ったエバポレーターに吸着されます。暗く湿ったエバポレーター表面にはカビが発生しやすいため、カビが長期間にわたって発酵することにより、異臭が発生しやすくなります。
- 異臭の防止について：
 - 停車前にエアコンを消し、外気導入で換気することにより、比較的乾燥した状態を保つことができます。
 - エアフィルターを定期的に点検、清掃、交換します。
 - できるだけ車内を清潔にし、車内の空気をきれいに保ちます。
- 異臭対策を行っても異臭が発生する場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での修理を行うようおすすめします。
- エアコンからの異臭を改善させるために、エアコンを作動させた状態で電源ポジションを OFF にして施錠すると、エアコンのブロワーがしばらく作動を続けることがあります。ブロワーを回す目的は、エバポレーター表面の結露を乾かし、エバポレーター表面のカビによる異臭を避けることにあります。車両を施錠した後に、エアコンのブロワーが自動的に作動しても異常ではないためご安心ください。

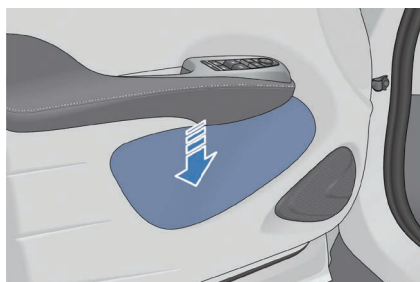
吹き出し口

調節レバーの操作で、風量や吹き出し口の開度を調節することができます。ノブを最後まで動かすと吹き出し口を閉じることができます。



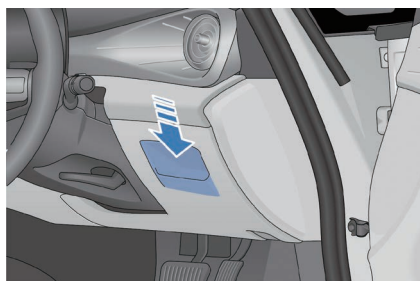
ドアポケット

- それぞれのドアには、ペットボトルや小物などを格納するためのドアポケットが付いています。



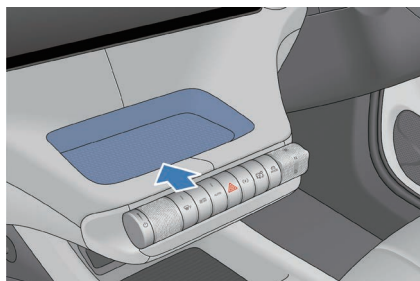
駐車券収納ボックス

- 運転席側インストルメントパネルにあり、駐車券などを入れることができます。



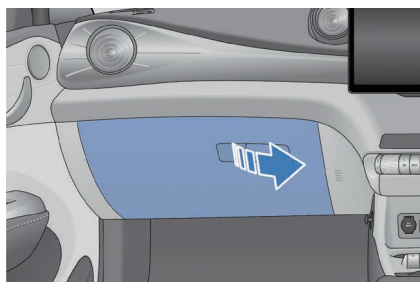
インストルメントパネルセンターボックス

- インストルメントパネルの中央部にあります。



グローブボックス

- ノブを引くと、グローブボックスを開けることができます。
- グローブボックスを押し上げると、閉めることができます。

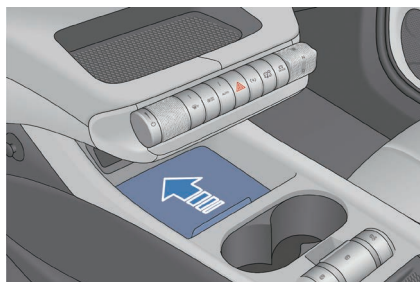


⚠ 警告

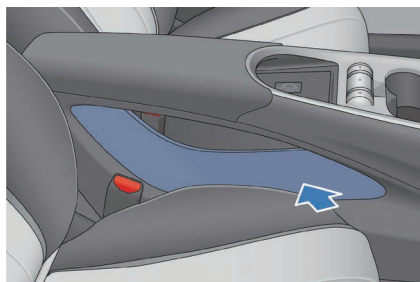
- 思わぬ事故や急ブレーキの際に怪我をする可能性を減らすために、運転時はグローブボックスを閉めたままにしてください。
- グローブボックスは、ゆっくり開けてください。開いたときに身体に当てて、怪我につながるおそれがあります。
- 可燃性ガスの入ったスプレー缶やガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れたままにしたり、床やシートの隙間に落としたままにしたりしないでください。引火して爆発したり、火災につながるおそれがあります。

センターコンソールボックス

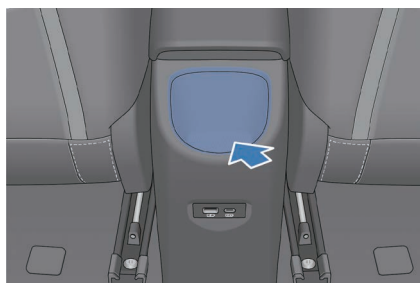
- インstrumentパネルセンターボックスの下側、センターコンソールの前方にあるボックスの蓋を開けると使えます。



- センターコンソールの下側にあります。



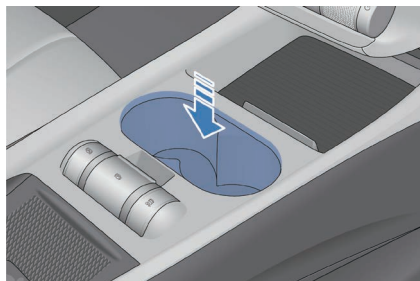
- センターコンソールの後部にあります。



カップホルダー

フロントカップホルダー

フロントシートのカップホルダーは、センターコンソールの中央部にあります。



リアカップホルダー

リアシートセンターアームレストを反転するとリアカップホルダーがあります。



⚠ 警告

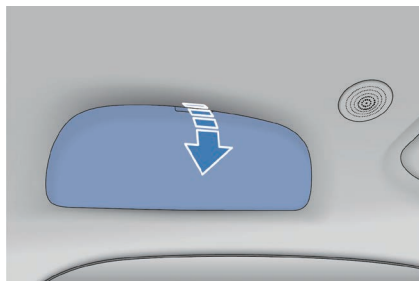
- 運転中にカップホルダーから飲み物を出し入れしないでください。前方不注意となるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中に飲み物がこぼれないように、蓋が付いていないカップやしっかり蓋をしていないボトルをカップホルダーに入れしないでください。スイッチや配線などの電気部品にかかると、故障や火災の原因となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告 (続き)

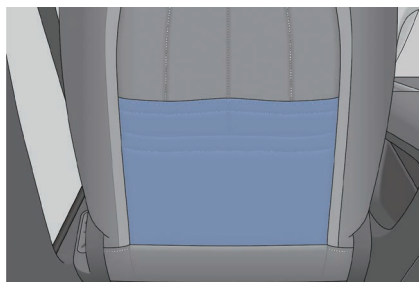
- 熱い飲み物を置かないでください。急発進や急ブレーキの操作によりこぼれて飛び散ると、乗員がやけどをするおそれがあります。
- ビンなどの硬いものは入れないでください。側面衝突のときに、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車内のスイッチやタッチスクリーンなどに飲み物をこぼさないでください。故障や火災の原因となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

サングラスホルダー *

- サングラスホルダーを引き下げると、サングラスを入れることができます。

**シートバックポケット**

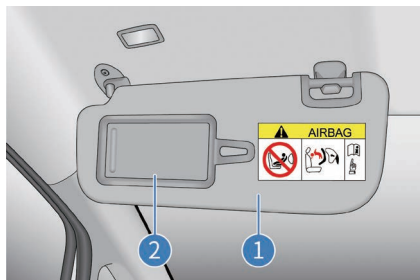
- フロントシートバックには、雑誌、新聞などを入れるためのシートバックポケットが付いています。



サンバイザー

- ① サンバイザー
- ② バニティーミラー

- 前方からの光を遮るには、サンバイザーを下方向に操作してください。
- 側方からの日差しを遮るには、サンバイザーを下げた状態でフックから外し、横へ回します。
- バニティーミラーは運転席側および助手席側サンバイザーにあります。サンバイザーを下方向に操作し、バニティーミラーの蓋をスライドすると使うことができ、同時にバニティーミラーランプが点灯します。バニティーミラーの蓋を閉じる、またはサンバイザーを上方向に操作すると、バニティーミラーランプは消灯します。

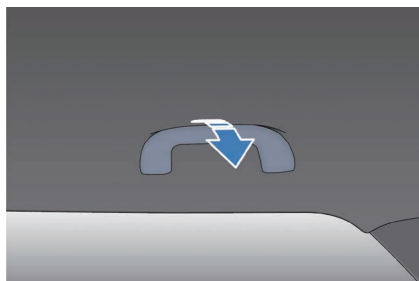


i アドバイス

- 正しく適切にサンバイザーを使うと、運転時の快適性や安全性を向上させることができます。

アシストグリップ

- アシストグリップを使うときは下に引き、使わないときは手を離すと自動で戻ります。



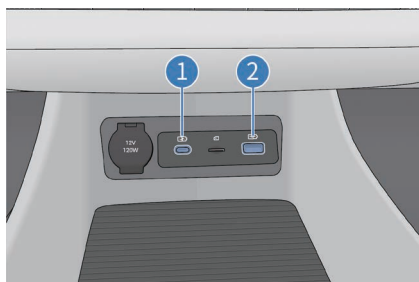
⚠ 注意

- 怪我やアシストグリップの破損を避けるために、アシストグリップに重量物をかけないでください。

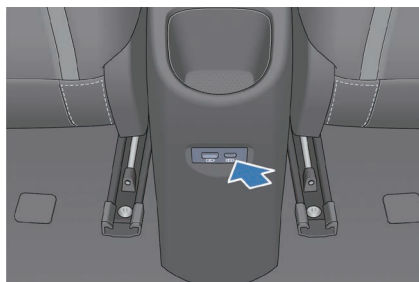
USB ポート

フロント側充電ポート：

- 1 USB 充電ポート
- 2 USB データ伝送インターフェース



リア側充電ポート



SD カードスロット *

センターコンソールボックスの上側にSDカードスロットが設定されています。マルチメディアシステムは、容量が最大128GBまでのTFカード(Micro-SD)メモリーカード(Class10およびそれ以上、FAT32ファイルシステム)を使い、カードからビデオや歌などを読み出すことができます。



⚠ 注意

- 互換性がないカードを使う場合は、マルチメディアシステムによる認識、読み出しができないおそれがあります。
- カードを差し込むときは真っすぐ差し込んでください。

12V アクセサリー電源

- 作動電圧 DC12V、かつ作動電流が 10A までのアクセサリに対応します。
- 12V アクセサリー電源を使うときは、蓋を開けて車の電源ポジションを「OK」にしてください。



⚠ 警告

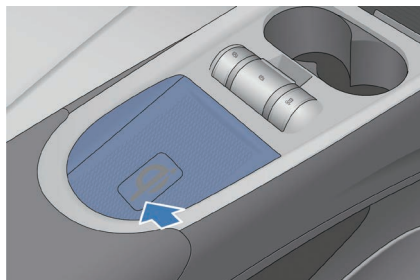
- 電源ソケットを使うときは、次のことを守ってください。不適切な使用によりフューズが切れるだけでなく、車両火災や乗員がやけどするおそれがあります。
 - 消費電力 120W 以下の電気器具を使用する
 - アクセサリのプラグは電源ソケットの奥まで挿入する
 - 電源ソケットに水をかけない
 - 電源ソケットに異物を入れない
- 電源ソケットやアクセサリのプラグは熱くなることがあります。

⚠ 注意

- フューズ切れを防ぐため、電気使用量が車の総負荷 12V/120W を超えないでください。
- 起動バッテリーが切れることを防ぐため、駆動モーターが稼働していない場合は、長時間 12V アクセサリー電源を使わないでください。
- 12V アクセサリー電源を使わない場合はカバーを閉じてください。また、電気のトラブルを引き起こすおそれがあるため、適切なプラグ以外を 12V アクセサリー電源に差し込んだり、液体が侵入したりすることがないようにしてください。

ワイヤレス充電エリア *

- ワイヤレス充電器は、電源ケーブルを使わずに電磁誘導で携帯電話に充電するものです。
- マルチメディアシステムのショートカットメニューをドロップダウンし、**ワイヤレス充電機能設定** アイコンを点灯させます。
- 車が始動後、携帯電話の画面を上向きにして携帯電話をワイヤレス充電エリアに置くと、携帯電話が自動的にワイヤレス充電モードに入ります。
- ワイヤレス充電機能を OFF にするとき:PADショートカットメニューをドロップダウンし、**ワイヤレス充電機能設定** アイコンをクリックすると、表示灯が消灯し、ワイヤレス充電機能が OFF になります。
- ワイヤレス充電機能は、すべての携帯電話ではなく、Qi 認証取得済みの携帯電話のみに対応しています。
- カードの焼損を防ぐために、充電中はキャッシュカードなどのチップ付きカードを携帯電話ケースと携帯電話の間に入れしないでください。



⚠ 警告

- 運転中に、携帯電話の充電状況を長時間確認しないでください。交通事故につながるおそれがあります。
- ワイヤレス充電時に携帯電話とゴムパッドの間に金属製の異物が入っている場合、やけどのおそれがあるため、異物を素手で取り除かないでください。

⚠ 注意

- ワイヤレス充電システムが作動しているとき、リモートキーをワイヤレス充電エリアから 25cm 以内のところに置かないでください。
- 事故にかかわるワイヤレス充電機能の異常を避けるために、コイン、金属キー、金属リングや金属成分を含んでいる他のものを携帯電話と一緒にワイヤレス充電エリアに置かないでください。

⚠ 注意 (続き)

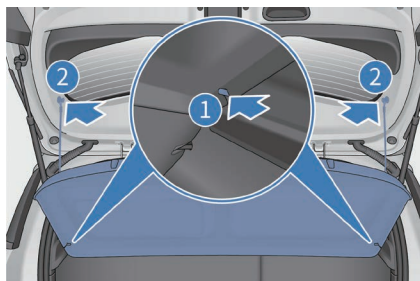
- 充電エリアの破損を避けるために、充電エリアに重量物を置かないでください。ワイヤレス充電システムが故障し、正常に使用できない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- 誤った使い方による問題について、当社はいかなる責任も負いません。製品の解体や改造があった場合、無償保証サービスが受けられなくなります。
- ドライバーが車内にいないときは、車内で携帯電話を充電しないでください。火災などにつながるおそれがあります。
- より良い充電効果を得るために、携帯電話のコイルの中心をワイヤレス充電器の中心（充電エリアの印字部）に合わせてください。合わせないと、充電できないことがあります。
- 充電エリアに水がかからないようにしてください。水がゴムパッドの隙間からワイヤレス充電器に侵入し、充電器が故障するおそれがあります。
- 温度が高すぎると携帯電話の充電が止まることがあります。温度が下がると充電が再開します。
- 外付けのワイヤレス充電コイルによる不具合について当社は一切保証できませんので、注意してご使用ください。

i アドバイス

- 一度に 1 台の携帯電話しか充電できません。
- 携帯電話ケースが厚すぎる場合は、充電できないことがあります。
- デコボコ路走行時、ワイヤレス充電機能が充電停止と充電再開を繰り返すことがあります。
- できるだけ携帯電話の裏側を充電モジュールに密着するように置いてください。携帯電話がワイヤレス充電エリアからずれて充電が止まった場合は、携帯電話をワイヤレス充電エリアに戻す必要があります。
- 携帯電話が正常に充電できない場合は、まずワイヤレス充電エリアに異物がないか確認し、ワイヤレス充電エリアが冷えてから充電を再開してみてください。まだ充電できない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- 電源ポジションを「OFF」にした後に携帯電話がまだ充電されている場合、運転席側ドアを開けると、メーター内のブザーが 1 回鳴り、「携帯電話を忘れないでください」のメッセージが 5 秒ほど表示されます。
- 充電するかしないかにかかわらず、携帯電話は横置きにご使用ください。携帯電話を縦置きにした場合は、充電エリアに入れられなかったり、R レンジへのシフトチェンジを妨げることがあります。

リアシェルフ

- プライバシーを守り、直射日光を避けるために、リアシェルフで荷物を覆うことができます。
- リアシェルフのフック部①を両側のCピラーパネル下部の突起にはめ込んでから、リアシェルフの紐②をかけます。
- リアシェルフの取り外し方は取り付けと逆の手順です。



⚠ 警告

- リアシェルフを取り付けるときは、リアシェルフがしっかり取り付けられていることを確認してください。
- リアシェルフにものを置かないでください。
- お子様をリアシェルフに上らせないでください、リアシェルフの破損やお子様の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

カーペット

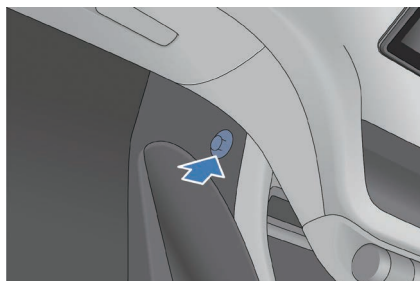
- 専用のカーペットが設定されていますので、正しく固定してご使用ください。

⚠ 警告

- 運転する前にカーペットが正しく固定されていることを定期的を確認してください。車内のクリーニング後は、必ず確認してください。
- 運転席にカーペットを敷くときは、カーペットでペダルを覆ったり、重ねて敷いたり、前後さかさまにしたり、裏返しにしたりして使用しないでください。
- タバコの火種をカーペットに落とさないでください。火災につながるおそれがあります。

フック

- 180度回転することができます。
- 3kg以下のもののみかけることができます。

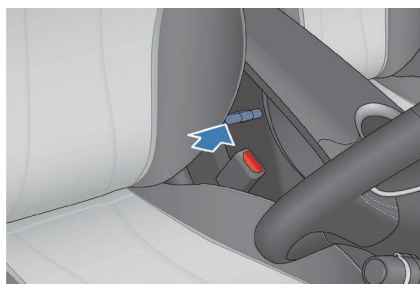


⚠ 注意

- フックの破損を避けるため、耐荷重以上の荷物をかけないでください。

緊急脱出ハンマー

緊急脱出ハンマーは、非常時に緊急脱出するためのツールでセンターコンソールボックスの近くに格納しています。車の火災や水没などで車内に閉じ込められた場合は、緊急脱出ハンマーを使用してウィンドウガラスを割り、車外へ脱出してください。



ガラスを割る方法について

1. ドアガラスを割る位置を決める

- 簡単に割ることができるドアガラスを選択してください。フロント/リアガラスの表面には、振動を防ぐため特殊な塗料をコーティングしています。
- ドアガラスの隅部分を選択してください。そうしないと、ドアガラスを素早く破壊することができません。

2. ドアガラスを割る

- 緊急脱出ハンマーをドアガラスの隅部分に当て、力強く底部を押してドアガラスを破壊します。ガラスが割れない場合は、割る位置は変更せず、割れるまで緊急脱出ハンマーの底部を力強く押ししてください。

3. ガラスを取り除く

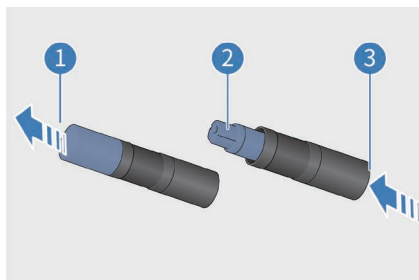
- ガラスがすべて割れず残るときがあります。この場合は、緊急脱出ハンマーでガラスを落とすように叩きます。
- ドアガラスにフィルムが貼り付いている場合は、足でガラスを蹴って開けてください。

4. 車外へ脱出する

- 脱出できる隙間ができたなら、ただちに車内から脱出し安全な場所に移動してください。

緊急脱出ハンマーの使い方について

1. 緊急脱出ハンマーのキャップ①を外します。
2. 緊急脱出ハンマーの先端②をドアガラスの隅部分に当てます。
3. 緊急脱出ハンマーの底部③を力強く押しします。



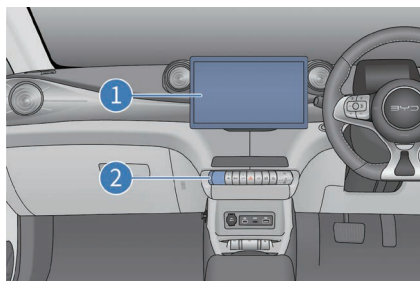
📌 アドバイス

- 緊急脱出ハンマーは、緊急時に車外へ脱出するためのツールです。紛失を避けるため、使わないときは取り外さないでください。
- ガラスを割る際に、ガラスで怪我をしないように注意してください。

マルチメディアコントロールパネル PAD

電源ポジションを「OK」にすると、初期画面を数秒ほど表示してからシステムが作動します。マルチメディア関連の機能（APP、インターネット通話など）を活用するには、インターネットに接続してから使用してください。

- 1 マルチメディアタッチスクリーン
- 2 ホイールボタン



- マルチメディアが作動している状態で1回押すと、オーディオがOFFになります。2回押すと、オーディオがONになります。3秒以上長押しすると、マルチメディアは再起動をします。
- マルチメディアが作動している状態で上方向（フロント方向）にホイールを回すと、音量が上がります。下方向（リア方向）にホイールを回すと、音量が下がります。音量は0～39の範囲内で変化します。音量が0の場合、ステータスバーにはミュートマークが表示されます。

工場出荷時設定に戻す場合

- 工場出荷時設定に戻すを押すと、マルチメディア機器に設定されているすべてのデータが工場出荷時の状態に戻ります。
 - 工場出荷時の状態に戻している間は、車の電源は切らないでください。また、エラーの発生を防ぐためマルチメディア機器のボタンに触れないでください。
 - 工場出荷時の状態に戻す作業は、2～5分掛かるためしばらくお待ちください。

⚠ 警告

- 車内でハイパワーインバーターを使わないでください。マルチメディアシステムの異常につながるおそれがあります。
- オペレーティングシステム入れ替えやRoot化は禁止です。マルチメディアシステムや車の異常につながるおそれがあります。
- 安全運転のために、運転中はマルチメディアタッチスクリーンを横向きにして使ってください。
- 運転中にオーディオなどのタッチスクリーンを操作すると、前方不注意となるおそれがありますので、絶対にしないでください。
- オーディオの音量を大きくしすぎると、車外の状況が分からないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンターテインメント機能の使用は、駐車中だけにしてください。運転中の使用は交通事故につながるおそれがあります。
- 運転中のテキスト送信の禁止やハンズフリーの使用義務など、電話の使用に関する法規にしたがってください。BluetoothをONにした状態でも、運転中の携帯電話の使用やプログラミングは交通事故につながるおそれがあります。
- アップグレードプロセス中は、車両は走行できず、ロック解除またはロック、室内ランプ、ウィンカーおよび窓の開閉機能を除いた車両機能は一時的に無効となります。

⚠ 注意

- タッチスクリーンの破損を防ぐために
 - 指でタッチスクリーンを軽くタッチしても反応がない場合は、タッチスクリーンから指を離してから再びタッチしてください。
 - タッチスクリーンを拭くときは、柔らかい布を使用してください。洗剤の利用はしないでください。
- タッチスクリーンを使うとき
 - ディスプレイの温度が低いとき、表示された画像が暗く見えたり、システムの作動がいつもより遅かったりする場合があります。
 - サングラスをかけてディスプレイを見ると、暗く見えたり、きれいに見えない場合があります。タッチスクリーンの角度を変えるか、サングラスを外してください。
 - 灰色のタッチスクリーンボタンは操作できません。
- タッチスクリーンの表示は参考表示であり、具体的には現物に準じません。

6-1	メンテナンス上の	
	ご注意	246
	メンテナンス周期および	
	メンテナンス内容	246
6-2	定期メンテナンス	253
	定期メンテナンス	253
	車両の防食について	254
	塗装メンテナンスのお願い	255
	洗車	256
	車内の清掃	258
6-3	セルフメンテナンス	261
	セルフメンテナンス	261
	車両の保管	265
	ボンネット	266
	冷却システム	267
	ブレーキシステム	268
	ウォッシャー	269
	空調システム	270
	ワイパーブレード	271
	タイヤ	273
	フューズ	277

メンテナンス周期およびメンテナンス内容

車両メンテナンス計画

- メンテナンス計画は、安定した走行、故障の低減、安全運転およびエコ運転を実現するために設計されています。
- メンテナンスの間隔は、メンテナンス周期表を参照し、オドメーターの表示値や時間間隔に合わせ判断します。いずれかの早い方に準じます。
- 期限切れのメンテナンス項目も、同じ時間間隔でメンテナンスを行う必要があります。
- ホース（冷暖房システム、ブレーキシステムなどに使われるホース）は、メンテナンス周期表にしたがい、専門の技術者に点検を依頼してください。
- それらは、特に重要なメンテナンス項目であるため、それぞれのメンテナンス間隔がメンテナンス周期表に記載されています。ホースに何らかの劣化や破損があれば、ただちに交換してください。
- メンテナンス周期表には、車を常に最適な運転状態に保つために必要なすべてのメンテナンス項目を記載しています。
- メンテナンス作業は、BYD の基準および規格にしたがい、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で実施するようおすすめします。
- メンテナンス周期表に記載されている点検項目および走行時間や走行距離は、車を通常の交通手段として乗員や荷物の搬送に使う用途を想定して設定しているため、過積載がないようにしてください。

注意

- BYD の「品質保証書およびメンテナンスノート」の記載内容にしたがって、定期的に車両メンテナンスを実施してください。

メンテナンス計画について

車は、通常のメンテナンス周期表にしたがって、メンテナンスを実施してください。

下記に示す 1 つ以上の特別条件のもとで車を操作する場合、メンテナンス計画の一部の項目は、頻繁にメンテナンスを実施する必要があります。

■ 路面状況

- 悪路、ぬかるんだ路面、融雪路
- ほこりの多い路面

■ 運転状況

- キャンピングトレーラーやルーフラックを含むトレーラーの使用

メンテナンス周期表

メンテナンス時の走行距離数と使用時間のうち、いずれか早い方に準じます。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
シャーシ各部固定ネジの確認および締付*	12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ブレーキペダルと電動パーキングブレーキスイッチの点検	初回は 6 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 24 ヶ月、または 40000km で点検する。その以後は 24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
ブレーキパッドとディスクの点検	12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
ブレーキシステムのラインおよびホースを点検	初回は 6 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 24 ヶ月、または 40000km で点検する。その以後は 24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
ブレーキキャリパー ASSY のガイドピンを確認	初回は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その後は 24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。
ステアリング、タイロッドの点検	初回は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その後は 24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。
ドライブシャフトダストブーツの点検	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
ボールジョイントダストブーツの確認	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
前後サスペンションの確認	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
タイヤと空気圧の確認 (TPMS を含む)	初回は 6 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
前後輪アライメントの点検	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
タイヤローテーション	毎月 1 回以上空気圧とタイヤを点検し、10000km 毎に位置を交換する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
ドアストッパーの確認	湿らせた柔らかい布でチェックロッドのほこりを取り除き、チェックロッド、リベットジョイント、回転軸に0.3～0.8gのグリスを塗布する。12ヶ月、または20000km毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ホイールベアリングの遊びを確認	24ヶ月、または40000km毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は3ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000kmで点検する。その後は12ヶ月、または20000km毎に点検する。
サブタンクのクーラントレベルを確認	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000km毎に点検する。その後は12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーモーター冷却水の交換	4年、または100000km毎にロングライフ有機酸系クーラントを入れ替える。いずれかの早い方に準ずる。
ブレーキフルードの点検	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000km毎に点検する。その後は12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ブレーキフルードの交換	2年、または40000km毎に入れ替える。
車両モジュールの故障コードを確認（記録後にクリア）	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーバッテリートレイ、ガード、クラッシュバー、取付部のトルクを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーバッテリーセルフキャリブレーション	72000km、または6ヶ月毎に（ アドバイス を参照）

メンテナンス項目	メンテナンス周期
トランスミッションギアオイルの点検および交換	ギアオイル入れ替えの初回は24ヶ月、または40000kmで、その後は24ヶ月、または40000km毎にギアオイルを入れ替える
パワートレインに液漏れや衝突などがないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
高電圧ワイヤーハーネスまたはコネクタの緩みがないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
高電圧モジュールの外観部品の変形、油の付着の有無を確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
各充電コネクタのインターフェースに異物、焼損などがないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
HECフィルター（クリーンエアフィルター）の確認*（HEC：High-Efficiency-Carbon）	12ヶ月、または20000km毎に定期点検を行う。いずれかの早い方に準ずる。 必要に応じて交換する。環境が極端に悪い地域では、6ヶ月毎に点検し、必要に応じて交換する。
電球とLEDが正常に点灯しているかを確認	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000km毎に点検する。その後は12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ハイビームアシストが正常かを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ロービームの高さ調整が正常かを確認	10000km毎に校正する
EPSグラウンドに異物や焼損がないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
EPS コネクタの緩みがないか、コネクタのピンが焼損していないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
EPS ECU が腐食していないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
EPS ECU とモーターの接続に異物や腐食がないかを確認 *	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
車両モジュールのソフトウェア更新をチェックし、あれば更新する	初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。破損がある場合は、早めに交換する。
高電圧部品に浸水の痕跡がないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ワイパーアームロックナットのトルクを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ボンネットヒンジのストッパボルトに付いているゴムブッシュは、破れていないかを点検	初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。破損がある場合は、早めに交換する
ボンネットロックおよびストライカーを確認	12 ヶ月毎に点検する
※ シャーシ各部固定ネジの確認および締付の点検をするとき、シャーシ部品に異常や破損が見つかった場合は、早めに交換してください。	

i アドバイス

- パワーバッテリーセルキャリブレーションとは、パワーバッテリーを最適な状態に保つため、定期的（最小6ヶ月、または72000kmで、いずれか早い方に準ずる）にフル放電とフル充電を行い、バッテリーの自己校正による活性化を目的とするものです。BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場にバッテリー容量のテストおよび校正を依頼することも可能です。

過酷な使用条件とは：

- ほこりの多い地域を走行する、または塩分を含む空気にさらされる場合。
- デコボコ路、浸水路や山道を走行する場合。
- 寒冷地を走行する場合。
- 頻繁にブレーキをかける、または急ブレーキをかける場合。
- トレーラーをけん引する場合。
- タクシーとして使用する場合。
- 32℃以上の気温で交通量の多い市街地を走行する時間が、総走行時間の50%を超える場合。
- 30℃以上の気温、120km/h以上の速度で走行する時間が、総走行時間の50%を超える場合。
- 過積載で走行する場合。

定期メンテナンス

■ 車の性能、音の変化、および点検を指示するための直観的な兆候に注意してください。次の状況がある場合は、できるだけ早くBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で調整や修理することをおすすめします。

- モーター始動時の異音。
- 冷却水の高温状態が続いている、冷却水が流れない、水漏れがある。
- モーターの引っかかりおよび異音。
- モーター回転時の振動が激しい。
- モーターが始動できない。
- 電動パワートレインからオイルが漏れている。
- 電動パワートレインから異臭がある。
- 動力が明らかに弱まっている。
- 車の下部から水漏れがある（エアコンからの水は異常ではない）。
- タイヤのエア漏れ、曲がるときの過度なタイヤ騒音。不均一なタイヤ摩耗。
- 平坦な道で直進すると車が片側に流れる。
- サスペンションにかかわる異音。
- ブレーキが効かない、ブレーキペダルが軽い、ペダルが床に接触する、ブレーキをかけたときに車が片側に流れる。
- モーター冷却水がやや熱い状態が続いている。
- バッテリー容量が明らかに下がっている。
- バッテリーの高温状態が続いている、過熱保護、出力が出ない。

⚠ 注意

- 未点検の車を運転しないでください。車が大きく破損したり、身体に危害をおよぼしたりするおそれがあります。
- BYDの「品質保証書およびメンテナンスノート」の記載内容にしたがって、定期的に車両メンテナンスを実施してください。

車両の防食について

車両腐食でよくある要因：

- 車の下へのアルカリ性土壌、ほこりや湿気の付着。
- 湿度が高い環境、または車両のある部位が長期間高湿高温にさらされる。
- 軽微な衝突、または小石や砂利で塗装や下地が傷付く。

車両腐食を防ぐために、下記のルールを守ってください。

- こまめに洗車します。
 - 冬場、塩分のある路上を走行する、または海沿いに住んでいる場合は、毎月1回以上、土や泥がよく付着するところを洗浄します。高圧洗浄機や蒸気でシャーシとホイールハウスを洗浄し、腐食を軽減させます。冬が終わったら、シャーシ部分を徹底的に洗浄してください。
- ボディーの塗装とアクセサリーの点検
 - 塗装の破片や塗装割れがある場合は、腐食を防ぐためにただちに補修してください。塗装剥がれがある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で補修するようおすすめします。
- 車内の点検
 - 水分やほこりのカーペット下への堆積は腐食につながるため、カーペットの下をよく点検し、それらの部位を乾燥状態に保ちます。
 - 化学品、洗浄剤、化学肥料、塩などを運ぶ場合には特に注意してください。適切な容器で運んでください。あふれや漏れがある場合は、ただちにきれいに洗浄し、乾かしてください。
- マッドガードの使用
 - アルカリ分が多い地域または砂利舗装路を走る場合は、マッドガードで車を保護してください。マッドガードは寸法が大きいほど、地面に近いほど効果があります。
- 車を十分に換気された乾燥した場所に駐車します。

塗装メンテナンスのお願い

- 色違いや配合不良を防ぐために、塗装に明らかな擦り傷がなければ、安易に再塗装しないでください。
- 長期間車を放置する場合は、車庫や風通しの良いところに駐車しなければなりません。冬場は、専用ボディーカバーで覆わなければなりません。一時的に駐車する場合、直射日光が当たらない涼しい場所を選びます。
- ボディーの塗装への強い衝撃、当たり傷や擦り傷を防ぎます。塗装に傷、へこみ、剥がれがある場合は、早めに補修してください。できれば、専門のカーケアショップで補修してください。
- 化学反応を避けるために、油で汚れた手でボディー塗装の表面を触ったり、油で汚れた布で塗装の表面を拭いたり、油汚れが付いている工具や有機溶剤を含んだ布をボディーの上に置かないように注意してください。
- 毎月 1 回またはボディー表面の撥水性が落ちたとき、車に専用ワックスを塗布し、定期的に（四半期毎に 1 回）手入れを行い、早めにボディー塗装の輝きを取り戻してください。
- なお、ボディーコーティングなどの BYD 商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

⚠ 注意

- 再度塗装が行われ、かつ高温の塗装ブースに置く間は、車の樹脂製バンパーを取り外す必要があります。高温でバンパーを破損させるおそれがあります。

洗車

- 下記の場合は、塗装剥がれ、またはボディーや部品の錆びを引き起こすおそれがあるため、早めに車を洗淨してください。
 - 沿海部で走る場合。
 - 凍結防止剤をまいている道路を走る場合。
 - コールタールが付いている道路を走る場合。
 - 樹脂、鳥の糞や虫の死骸が車に付いた場合。
 - 煙塵、石炭灰、ほこり、鉄くずや化学物質を大量に含んでいる地域で走る場合。
 - 車がほこりや泥で明らかに汚れている場合。
 - 雨が降った後。

手洗い洗車をするとき

日が当たらない涼しいところで車が十分に冷えてから車を洗淨します。

1. 洗車ホースで表面の汚れを洗い落とし、車の下回りやホイールの奥に付いているすべての泥や塩分汚れをきれいに洗い落とします。
2. 中性洗剤で車を洗淨するときは、洗剤の取扱説明書にしたがって洗剤を混ぜ合わせてください。柔らかい布に洗剤を浸け、水流方向に上から下へ拭きます。円を描くように拭いたり、横方向に拭いたりしないでください。
3. 十分に洗い落とします——洗剤が乾くと、痕が残ります。暑い時期に洗車した後は、水で各部分をきれいに洗い流します。
4. 水痕が残らないように、きれいで柔らかいタオルでボディーの水分を拭き取ってください。強く拭いたり、押し付けて拭いたりすることを避けてください。塗装が傷付くおそれがあります。

警告

- 下回りを洗うときは、手に怪我をしないように注意してください。
- 洗車のときは、モータールーム内に水をかけないでください。電気部品が故障するおそれがあります。
- 高圧洗淨機で、センサーやカメラ部に衝撃を与えないでください。精密機器のため、故障や感電につながるおそれがあります。

i アドバイス

- 強アルカリ性の粉石鹼、石鹼水、洗剤、脱脂洗剤、有機物質（ガソリン、灯油、揮発油、または強溶剤）を使わないでください。
- コンビネーションランプを洗浄するとき、ガソリン、アルコール、シンナー、希釈剤、四塩化炭素などの化学溶剤でコンビネーションランプの表面を拭かないでください。コンビネーションランプのレンズ割れにつながるおそれがあります。
- 沿海部や汚染が深刻な地域で走る車については、毎日1回洗い流すようおすすめします。
- ボディーの汚れをカッターで削ったり、ガソリンで洗ったりしないでください。有機物質によってプラスチック製ホイールトリムは簡単に損傷します。有機物質がホイールトリムに付いたとき、必ず水で洗い流したうえで部品の傷みがないかを点検してください。著しい破損があるプラスチック製ホイールトリムは早めに交換してください。車が移動中にホイールトリムが外れ、事故を起こすおそれがあります。
- 研磨剤を含んだ洗剤でバンパーを拭かないでください。
- メッキ処理の金属部品の洗浄は、専用の洗剤を使って、定期的に専用ワックスを塗布することをおすすめします。

自動洗車をするとき

自動洗車機で洗車するとき、ブラシのタイプ、ろ過されていない洗浄水、または洗車機に設定された洗浄プログラムに注意してください。塗装面に傷がつくおそれがあります。塗装表面の擦り傷は、特に色が濃い車で、塗膜の耐久性や光沢度を低下させます。洗車前に、できるだけ洗車専門店のスタッフに問い合わせ、塗装面に最も安全な洗車プログラムを確認してください。

車内の清掃

アドバイス

- 内外装を洗浄するとき、水が直接インストルメントパネル、床や近くの電気部品に流れ込まないようにしてください。水の侵入により、機能の異常につながるおそれがあります。
- ボディー腐食を避けるために、水で車の床を洗浄しないでください。

カーペット

- 高品質の泡タイプの洗剤でカーペットを洗浄してください。
- まずは、できるだけ掃除機でほこりをきれいに掃除します。使える泡タイプ洗剤が数種類あります。スプレーもあれば、粉末や液体で水と混合して泡を発生させるものもあります。泡立てたスポンジやブラシでカーペットを洗浄し、円を描くように拭きながら洗浄します。
- 水を使わず、できるだけカーペットを乾燥状態に保ってください。

警告

- カーペットがペダルに干渉しないように、運転席のカーペットが正しく固定されていることを確認してください。また、カーペットの上に別のカーペットやその他のカバーを重ねないでください。

シートベルト

- シートベルトは、中性石鹼水やぬるま湯でクリーニングすることができます。
- スポンジや柔らかい布でシートベルトを拭きます。洗浄中に、シートベルトに過度な摩耗、破れや切れがないかを点検してください。

注意

- 染色剤や漂白剤でシートベルトを洗浄しないでください。シートベルトの強度が落ちるおそれがあります。
- シートベルトは、乾燥するまで使わないでください。

ドアおよびドアガラス

- ドアおよびドアガラスは、一般家庭用の洗剤で洗浄できます。
- 定期的にドアチェッカーを点検します。チェッカーのロッドにほこりが明らかに付着しているとき、水で濡らした布でドアチェッカーのロッドを拭き、表面のほこりを落とす必要があります。

⚠ 注意

- リアガラス内側のクリーニングを行うときは、熱線およびその接続部を傷付けたり破損させないように注意してください。

エアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネルとスイッチ

- エアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネルとスイッチは、水で濡らした柔らかい布でクリーニングします。
- 水や温水で濡らしたきれいな布でほこりを軽く拭き取ります。

⚠ 注意

- 有機物質（溶剤、灯油、アルコール、ガソリンなど）、酸性やアルカリ性溶液を使わないでください。表面の変色、シミや剥がれにつながるおそれがあります。
- 洗剤や艶出し剤を使う場合は、その組成に上記の物質を含んでいないことを確認してください。
- 新規の液体洗剤を使う場合は、液体を車内の表面にこぼさないでください。液体に上記の成分を含んでいる可能性があるため、液体をこぼした場合は、素早くきれいに拭き取る必要があります。

車内の人工皮革部分

- 人工皮革部分は、毛織物に使える中性洗剤で洗浄することができます。
- 中性洗剤の溶液を浸けた柔らかい布でほこりを拭き取ってから、水で濡らしたきれいな布で残りの洗剤を完全に拭き取ります。
- 洗浄後、または人工皮革が濡れたとき、きれいで柔らかい布で水分を拭き取り、風通しが良い涼しいところで人工皮革を乾かします。
- 車の洗浄について、何かご質問がありましたら、現地のBYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場に問い合わせてください。

▲ 注意

- 中性洗剤で汚れが取れない場合は、有機溶剤を含まない洗剤で洗浄することができます。
- 揮発油、アルコール、ガソリン、酸性やアルカリ性溶液などの有機物質で人工皮革を洗浄しないでください。それらの物質は、人工皮革の色落ちにつながります。
- ナイロンブラシや人造繊維製の布などを使うと、人工皮革表面の模様が傷付きます。
- 汚れている人工皮革部分は、カビが生えます。特に油汚れに注意し、常に人工皮革部分を清潔に保ってください。
- 日光に長時間さらされると、人工皮革の表面が固くなったり、縮んだりします。そのため、特に夏場は車を日が当たらない涼しいところに駐車してください。
- 夏の暑い時期は、車内の温度が上昇しやすいので、人工皮革部分の上には、ポリエチレン製やワックスを含む材料で作られたものを置かないようにしてください。それらのものは、高温で人工皮革に固着してしまいます。
- 人工皮革部分の洗浄を誤ると、色が落ちたり、まだらになったりします。

セルフメンテナンス

セルフメンテナンス上のご注意

- 自らメンテナンスを行う場合は、本章に記載された手順で正しくメンテナンスをしてください。
- 不適切で不完全なメンテナンスは、車の正常な使用に影響をおよぼすことをご了承ください。
- 本章には、ユーザー本人が簡単に実施できるメンテナンスのみ記載しています。ただし、資格のある技術者が専用工具で行わなければならない項目は、まだ多くあります。
- 車のメンテナンスを行うときは、思わぬ怪我を防ぐために、細心の注意を払ってください。下記のいくつかの注意事項を必ず守ってください。

⚠ 警告

- パワーバッテリー充電接続表示灯が点灯・点滅しているときは、整備作業を行わないでください。高電圧システムで感電するおそれがあります。
- メンテナンスを行うときは、車両から充電コネクタを取り外してください。
- モータールーム内の作業時は、電源ポジションを OFF にしてください。EV システム作動中に手や工具などを入れると思わぬ怪我をするおそれがあります。
- ルーフに積もった雪は落としてください。ウィンドウガラスに滑り落ちる雪が視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車両を長期間駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があるので注意してください。

⚠ 警告 (続き)

- 規定の容量以外のフューズや、フューズの代わりに針金などを絶対に使用しないでください。電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。
- 自動車で使用される液体（バッテリー酸、バッテリー冷却水、ブレーキフルード、フロントガラスウォッシュ液など）の中には有毒なものがあり、これらの液を吸入または飲み込んだり、傷口に触れさせたりしないでください。安全のため、液体容器に表示されている説明を必ず読み、その指示にしたがってください。

⚠ 注意

- 車の一部の回路や部品には高電流や高電圧がかかっているため、ショートさせないように細心の注意を払ってください。
- 冷却水があふれた場合は、部品や塗膜の破損を防ぐために、乾燥した布や紙できれいに拭き取ってください。
- ブレーキフルードがあふれた場合は、部品や塗膜の破損を防ぐために、水できれいに洗い流してください。
- ワイパーブレードを交換するとき、ワイパーでガラス表面に傷が付かないようにしてください。
- ボンネットを閉めるとき、工具、布などがモータールーム内に残っていないかを点検してください。
- 車内や車外を問わず、異物や液体が目に入らないように、作業時は保護メガネをかけてください。
- ブレーキフルードは皮膚や目を傷めるため、ブレーキフルードを注入するとき、充分注意してください。ブレーキフルードが皮膚や目に付着した場合は、ただちに水で付着部位を洗い流してください。まだ手や目の痛みなどがある場合は、ただちに医師の手当てを受けてください。

点検

使用状況や推奨の走行距離にしたがって、下記に示す項目を点検してください。

- 冷却水レベル——充電のたびにラジエーターの冷却水レベルをチェックしてください。
- ウォッシュ液——毎月1回リザーブタンクのウォッシュ液の残量を点検してください。悪天候で頻繁にウォッシュ液を使った場合は、充電のたびにウォッシュ液の残量をチェックしてください。
- フロント・リアガラスワイパー——毎月1回ワイパーを点検します。ワイパーがフロント・リアガラスをきれいに拭き取れない場合は、摩耗、亀裂やその他の損傷がないかを点検してください。
- ブレーキフルードレベル——毎月1回レベルを点検してください。
- ブレーキペダル——ブレーキペダルがスムーズに操作できるかを点検します。
- 電動パーキングブレーキスイッチ——スイッチが正常に機能していることを点検します。
- 起動バッテリー——毎月1回バッテリーの状況および端子の腐食状況を点検してください。
- 空調システム——毎週エアコン装置の稼働状況を点検してください。
- タイヤ——毎月1回タイヤ空気圧を点検してください。タイヤレッドの摩耗状況および異物の挟み込みがないかを点検します。
- ガラスデフロスト——毎月、暖房装置やエアコンを使うときは、デフロスト装置の吹き出し口を点検してください。
- ライト——毎月1回ヘッドライト、ポジションランプ、テールライト、ハイマウントストップランプ、ターンシグナルランプ、リアフォグランプ、ブレーキランプおよびリアライセンスプレートランプの状況を点検してください。
- ドア——テールゲートおよび他のドア（リアドアを含む）のスイッチはすべて確実にスムーズに施錠できるかを点検します。
- ホーン——ホーンに異常がないかを点検します。

アドバイス

- 未点検の車を運転しないでください。車を大きく破損させたり、人に怪我を負わせたりするおそれがあります。

コンビネーションランプ

フロントコンビネーションランプの光軸調整

- 工場出荷時、フロントコンビネーションランプの光軸調整が行われています。重い荷物を運ぶことが多い場合は、新たにフロントコンビネーションランプの光軸調整を行う必要があります。フロントコンビネーションランプの光軸調整については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼するようおすすめします。

ライトの曇り

- 大雨や洗車の後、コンビネーションランプ、テールライト、またはドアミラーのターンシグナルランプには曇りが発生することがあります。これは、雨天時に車内側のドアガラスが結露することと似ていますが、車が故障しているわけではありません。
- ライトは、空間が相対的に密閉し、かつ狭く、点灯時の温度が高いため（レンズ、リフレクターなどが高温で変形しやすい）、放熱用の通気口が必要です。点灯時、放熱するために、ライトは、ケースに設置された放熱用通気口を通じて、周辺環境と対流を発生させます。温度差が高いほど、対流が活発になります。対流する中でどうしても空気中の水蒸気がライト内部に持ち込まれ、日光、対流、ランプ発熱量などによって、温度が低いところの表面に結露や水滴が発生します。その現象はライト曇りと呼ばれています。

⚠ 警告

- ヘッドライトの電球は点灯により非常に熱くなります。電球表面の油や汗、または擦り傷により電球が過熱して割れることがあります。
- 事故などで破損したライトのまま走行しないでください。内部に水が入ることにより、火災につながるおそれがあります。

ℹ アドバイス

- コンビネーションランプの内側、ドアミラー内のターンシグナルランプの内側に曇りが発生する場合、空気の湿度が高い、または車と周辺環境との温度差が大きいために考えられます。運転時、コンビネーションランプやターンシグナルランプをつけてしばらく走ると、ライト内の水蒸気は消えます。
- ライト内に水が明らかに入っている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検を行うようおすすめします。

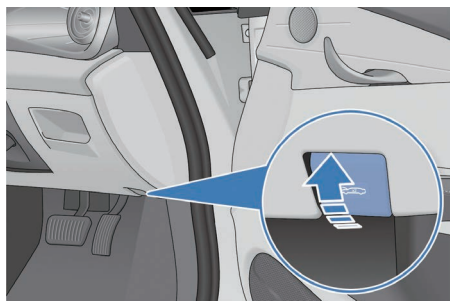
車両の保管

- 長期間（1 ヶ月以上）車を放置する場合は、下記に示す準備が必要です。適切な準備は、車の性能などの劣化を効果的に防止します。できれば、車を屋内に駐車してください。
- 推奨の時間通り充電します。
- ボディーの外部を徹底的に洗浄し、乾かします。
- 車内を掃除し、カーペット、床などを完全に乾かします。
- パーキングブレーキを解除し、シフトレバーをパーキングレンジに切り替えます。
- ドアガラスを一枚少し下げます（屋内駐車の場合）。
- 起動バッテリーの負極（-）端子を取り外します。
- フロントワイパーアームがウィンドウガラスに接触しないように、ワイパーアームの下に折りたたんだタオルや布を入れておきます。
- 固着を軽減させるために、すべてのドアのシール部にシリコン潤滑剤を塗り付け、ドアウェザーストリップ接触部の塗膜表面にボディーワックスを吹き付けます。
- 布のような「多孔質材料」で作られた通気性カバーでボディーを覆います。ビニールシートのような無孔質材料では、湿気が溜まり、ボディー表面の塗膜を破損させることがあります。
- できれば、定期的に車を始動させます（毎月1回を推奨）。車を1年間、またはそれ以上放置した場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で全面的なメンテナンスを行うようおすすめします。

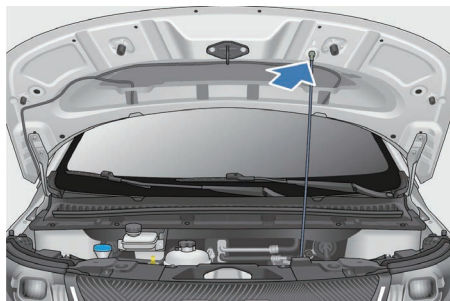
ボンネット

ボンネットの開け方

1. インストルメントパネル下の右側にあるボンネットリリースレバーを2回連続で引き上げると、ボンネットが解錠され、少し隙間ができるように開きます。



2. ボンネットを開けるとき：ボンネットを持ち上げて、ボンネットステーでボンネットを支えます。
3. ボンネットを閉めるとき：ボンネットを閉めるとき、フロントグリルから約 30cm 高い位置に下げたところから、両手を離し、自重で落下させ、ロックします。



4. ボンネットを閉めた後、確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 警告

- ボンネットが閉まり、しっかりロックされていることを確認します。しっかりロックされていない場合、運転中に、ボンネットが突然開き、事故につながるおそれがあります。
- 強風時は、ボンネットをしっかり持ちゆっくり開けてください。
- 開けたボンネットに頭などをぶつけないよう注意してください。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。

📌 アドバイス

- ボンネットを施錠する場合はボンネットを勢いよく落とさないでください。また、大きく開けた状態からでボンネットを落下させないでください。

冷却システム

- 液面がリザーバタンクの最大値 (MAX) と最小値 (MIN) の間であれば、問題ありません。
- 冷却水は、添加剤を入れずに BYD 指定の冷却水と同じ仕様のもので使ってください。異なるブランドや型番の冷却水を、混ぜ合わせて使用してはなりません。



- 下限の目盛りを下回る場合は、上限 (MAX) の目盛りに達するまで冷却水を補充してください。冷却システムの漏れがないかを点検します。

⚠ 警告

- ラジエーターなどの高温部に触れると、やけどをするおそれがあります。
- モーターが完全に冷えていないときにリザーバタンクの蓋を開けると、冷却水の噴出により、重度のやけどにつながるおそれがあります。

⚠ 注意

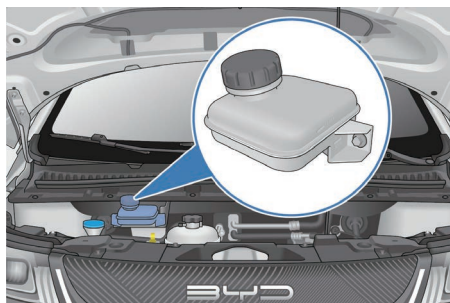
- 絶対に冷却システム内に防錆剤や他の添加物を追加しないでください。添加物は、冷却水やモーターの部品と相性が悪い可能性があるためです。
- リザーバタンクの蓋を開ける前に、モーター、集積型高電圧電気制御モジュール、リザーバタンクおよびラジエーターがすべて冷えていることを確認してください。
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場ではバッテリー専用の冷却水を注入するようおすすめします。

ℹ アドバイス

- バッテリー冷却水が直射日光などの紫外線が強い環境にさらされると、色が落ちる可能性があります。車の使用やメンテナンスのとき、ボンネットを開ける必要がある場合は、直射日光を避けるようにしてください。

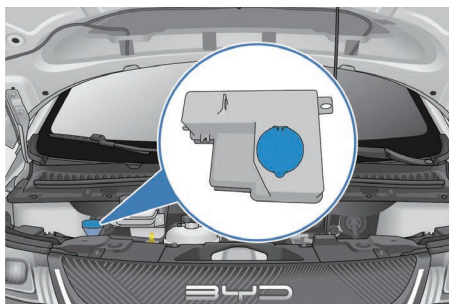
ブレーキシステム

- 毎月 1 回ブレーキフルードリザーバタンク内のフルードレベルを点検してください。ブレーキフルードは、定期メンテナンス表に記載された走行時間と走行距離にしたがい交換してください。
- ブレーキフルードは、純正品のブレーキフルードと同じ仕様のもので使ってください。また、規格外のブレーキフルードは、混ぜ合わせて使用しないでください。
- フルードレベルがリザーバタンクの「MAX」(最大値)と「MIN」(最小値)の間であれば、問題ありません。
- メーターにブレーキフルードレベルが低いと表示された場合は、ブレーキシステムからの液漏れやブレーキパッドの摩耗がないかを点検する必要があります。



ウォッシャー

- 通常の使用中は、毎月1回以上ウォッシャー液タンクのレベルをチェックしてください。
- 悪天候でウォッシャーをよく使う場合は、ウォッシャー液タンクのレベルを確認する頻度を増やしてください。
- 高品質のウォッシャー液を補充してください。汚れをよく落とし、凍結を防ぐことができます。
- ウォッシャー液補充時にこぼれたウォッシャー液は、きれいな布で拭きとってください。拭きとった布でワイパーブレードのゴム刃を清掃すると、ゴム刃を良好な状態に保つことができます。



⚠ 警告

- ウォッシャー液を補充するときは、ウォッシャー液を高温部にかけないでください。出火するおそれがあります。

⚠ 注意

- 絶対にウォッシャー液タンクに酢水溶剤を注入しないでください。
- 適合したウォッシャー液を使うようおすすめします。

空調システム

- 車の空調システムはクローズドシステムです。大事なメンテナンス作業のすべては、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場の整備士によって実施されるようおすすめします。
- 空調システムを正常に機能させるために、ご自身で作業できることを下記に示します。
 - ラジエーターおよびエアコンコンデンサーを定期的に点検します。
 - その前側の表面に詰まっている落ち葉、虫およびほこりを取り除きます。それらの異物が詰まると、空気の流れを妨げるため、冷房能力が落ちます。
 - 寒い季節は、毎週 1 回以上、毎回 10 分以上エアコンをつけてください。冷媒に含まれている潤滑油を循環させるためです。
- 空調システムの冷房能力が通常より落ちている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での点検を行うようおすすめします。

⚠ 注意

- 空調システムの点検では、確実に冷媒の再循環装置を使わなければなりません。この装置は、冷媒をリサイクルすることができます。冷媒を大気に出すと、環境汚染につながります。

ワイパーブレード

ブレードの材質は合成ゴムで、消耗品です。車両の使用環境やドライバーの使用習慣によりブレードが破損することがあるため、ブレードの寿命と安全を確保するために、下記に示すことに注意してください。

- ブレードでウィンドウガラスの表面に付いている氷を拭き取らずに車両専用のアイス・スクレーパーを使ってください。
- 汚れ、油やワックスが付着しているウィンドウガラスの表面をブラシでこすらないでください。
- ガラスの表面をきれいに保ちます。ガラスの表面に付着しているほこり、砂、虫や異物などを取るために、ガラスの表面をこすらないでください。
- 洗車時やボディー塗装のメンテナンス時、ウィンドウガラスに車用ワックスを吹き付けしないでください。暗いとき、ワックス層が光を反射し、視野や安全走行に影響をおよぼします。洗車後、水でブレードを洗い、専用のワックス除去剤でウィンドウガラスに付着したワックスを落としてください。
- 洗車時、強い水圧によるブレードの破損を防ぐために、高圧洗浄機でブレードに水を直接吹き付けしないでください。

メンテナンス細則

- 定期的にウィンドウガラスとブレードを洗浄します（1週間～2週間毎に1回を推奨）。
- 定期的にワイパーを作動させます（1日～2日毎に1回を推奨）。ブレードでウィンドウガラスをワイピングするとき、ガラスを十分に濡らさなければなりません（雨が降っていないときは、まずウォッシュ液をガラスに噴射します）。
- ウィンドウガラスを専用の洗剤で洗浄します。
- ウィンドウガラスに付着している泥、虫の死骸は、早めに布できれいに拭き取ってください。
- ウィンドウガラスに飛び石などによる傷が付いている場合は、早めにメンテナンスを行います（ウィンドウガラス修復用樹脂製品の使用を推奨。傷が多かったり、大きかったりする場合、ウィンドウガラスの交換を推奨）。
- ワイパーブレードを定期的に交換します。半年に1回をおすすめします。
- ウィンドウガラスを洗浄するとき、事前にワイパーアームを立てておかなければなりません。操作方法の詳細は次のとおりです。

1. **マルチメディア** → **車両状況** → **メンテナンス** 画面でフロントワイパー点検を ON にすると、ワイパーアームが立てられる位置に動きます。
2. ワイパーアームの上側を持ち、ワイパーアームとブレードアセンブリをしっかりと引き上げます。

タイヤ

安全運転のために、タイヤは自転車に適合する型番やサイズを選定します。また、トレッドパターンが良好で、適正空気圧になっていなければなりません。

⚠ 警告

- 過度な摩耗があり、空気圧が不足した、またはタイヤ空気圧が高すぎるタイヤを使うと、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- 本マニュアルに記載されている空気圧調整およびメンテナンスに関する内容にしたがわなければなりません。
- 著しく摩耗に差のあるタイヤや、空気圧が規定値と著しく異なるタイヤは装着しないでください。車の性能が発揮できず、安全性を損ない、故障の原因となるおそれがあります。

空気を入れるとき

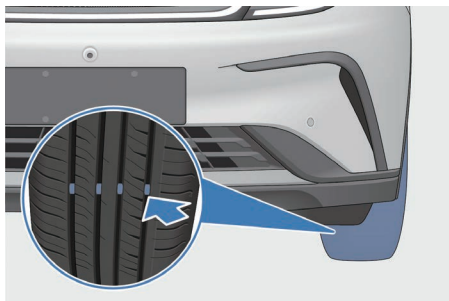
- タイヤ空気圧の適切な調整は、操縦性、タイヤトレッドの寿命および運転快適性の最適な組み合わせを実現します。
- 空気圧不足のタイヤを使うと、タイヤの偏摩耗が起こり、操縦性やエネルギー消費に影響をおよぼし、さらに過熱によるエア漏れにつながるおそれがあります。
- 空気圧が高すぎるタイヤを使うと、車の快適性が悪くなり、路面のデコボコにより、タイヤが傷付き、ひどい場合にバーストを引き起こすおそれもあります。それと同時に、タイヤの偏摩耗が起こり、タイヤの寿命を短縮させます。
- 冷間時（車にタイヤ空気圧モニタリングシステムを装備）、メーターに表示されたそれぞれのタイヤ空気圧により、空気補充の必要性を判断することができます。
- タイヤ空気圧は冷間時に測定しなければなりません。それは、少なくとも停車してから3時間後に測定することを意味します。タイヤ空気圧を測定する前に走らなければならないとき、走行距離が1.6kmを超えなければ、冷間時と考えて問題ありません。
- 温間時の（数kmほど走った後）タイヤ空気圧を点検する場合は、圧力計の指示値が冷間時より30～40kPa（0.3～0.4bar）高くなります。このような現象は異常ではありません。指示値が推奨の冷間時空気圧になるまでエアを抜かないでください。空気圧不足につながります。

i アドバイス

- 推奨するタイヤ空気圧のラベル（運転席側ドア開口部に貼ってあります）には、推奨の冷間時空気圧が明記されています。
- パンク時、チューブレスタイヤは一気に空気が抜けてにくい性質がありますが、エアがゆっくり漏れているため、タイヤ空気圧が下がり出したら、エア漏れの位置を特定しなければなりません。

点検

- タイヤ空気圧を点検するときは、タイヤの傷や摩耗状態、異物などが刺さっていないかも合わせて点検してください。
 - タイヤトレッドや側面の傷および膨らみ。いずれかがあった場合は、タイヤを交換しなければなりません。
 - タイヤ側面の擦り傷、割れや切れ。カーカスやビードワイヤーが見えた場合は、タイヤを交換しなければなりません。
 - タイヤトレッドの過度な摩耗。
- タイヤトレッド内部にスリップサインが設置されています。タイヤトレッドの摩耗によりスリップサインが現れると、溝の深さが 1.6mm 以下であることを意味します。摩耗がここまで進んだタイヤは、滑りやすい路面で走るときのグリップ力が悪くなります。
- タイヤトレッドにスリップサインが現れるまで摩耗したとき、タイヤ性能が著しく落ちるため、タイヤを交換してください。



メンテナンス

- 適切な空気補充以外に、正確なホイールアライメントもタイヤトレッドの摩耗を効果的に軽減させます。
- タイヤの偏摩耗が起きた場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのホイールアライメントの点検を行う必要があります。
- 工場出荷前に、ホイールアライメント調整が行われていますが、一定の時間走った後、ホイールアライメント調整を新たに行う必要があります。

- 比較的高い速度 (80km/h) で運転するときには継続的に振動を感じているが、低速時には振動を感じていない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でタイヤの点検を行うようおすすめします。
- 補修したタイヤが1つでもある場合は、必ずホイールアライメント調整を新たに行ってください。
- 新しいタイヤを装着したり、新しいホイールに交換したりする場合は、必ずホイールアライメント調整を行ってください。

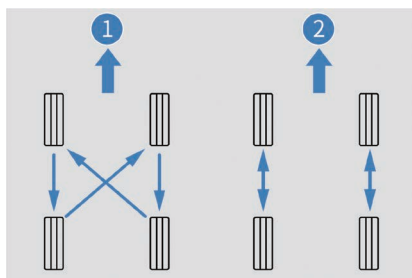
⚠ 注意

- バランスウェイトの取り付けを誤ると、ウェイトが脱落し、走行時に自車や周りのものを破損させるおそれがあります。
- バランスウェイトの取り付けを誤ると、車のアルミホイールを破損させるおそれがあります。バランスを確実に取るため、オリジナルバランスウェイトの使用をおすすめします。

タイヤの位置交換

- タイヤの摩耗を一定に保ち、タイヤを長持ちさせるため、タイヤの位置を定期的に交換すると同時に、ホイールアライメントの点検・調整を行う必要があります。
- 一時的にスペアタイヤもしくはテンパータイヤを利用する場合は、タイヤの位置交換をしないでください。
- 交換用タイヤを購入する際、「方向性」が決まっているタイヤがあります。このようなタイヤは、同じ回転方向で位置を交換しなければなりません。方向性が決まっているタイヤの位置交換する場合は、フロントタイヤ、リアタイヤの入れ替えしかできません。

- ① 方向性が決まっていないタイヤおよびホイール。
- ② 方向性が決まっているタイヤおよびホイール。



- タイヤを交換した後、専用診断機によるタイヤ空気圧に対するキャリブレーションを行う必要があります。実施する際は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場へお問い合わせください。

タイヤとホイールの交換

- 本車のオリジナルタイヤは、車両性能を最大限に引き出すために選定されたもので、それと同時に操縦性、乗り心地の良さおよび使用寿命の最適な組み合わせとなっています。
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にて指定タイヤに交換するようおすすめします。
- ABS (アンチロックブレーキシステム) は、タイヤの回転数を比較することで機能するものです。タイヤを交換するとき、オリジナルタイヤと同じサイズのものを使わなければなりません。タイヤのサイズおよび構造は、ホイールの回転数に影響をおよぼし、システムの動作不一致につながるおそれがあります。
- ホイールを交換する必要があるとき、新品ホイールは、オリジナルホイールの仕様に合っているものでなければなりません。新品ホイールは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場から購入することができます。ホイールを交換する前に、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせるようおすすめします。

警告

- サイズ、負荷範囲、定格回転数および最大の冷間時空気圧 (タイヤの側面に表示) が異なるラジアルタイヤに交換したり、ラジアルタイヤとダイアゴナル構造のテンパータイヤを混用すると、車の制動能力、駆動力 (グリップ力) および操舵精度の低下につながり、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを誤って装着すると、車の操縦性や安定性に影響をおよぼし、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- できれば 4 つのタイヤを同時に交換してください。1 つのタイヤだけを交換しないでください。車の操縦性に著しい影響をおよぼします。


アドバイス

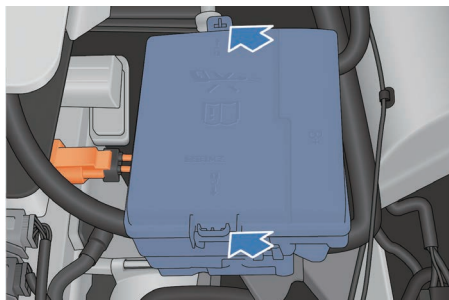
下記に示すことを守ってください。操縦上、代表的な危険を引き起こし、車が制御できなくなるおそれがあります。

- 車にはラジアルタイヤ、バイアスタイヤやダイアゴナル構造のテンパータイヤを混用しないでください。
- メーカーの推奨サイズ以外のタイヤを使わないでください。

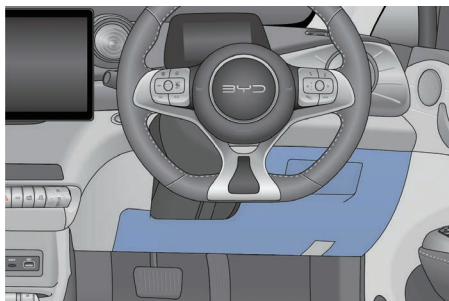
フューズ

ショートや過負荷を防ぐために、車の回路毎にフューズを設置しています。それらのフューズは、モータールームのフューズボックスとインストルメントパネルのフューズボックスに格納されています。フューズボックスの中にはフューズのラベルが貼ってあります。ラベルでフューズと電気部品との関係が特定できます。

- モータールームのフューズボックスは、モータールームの左側後部にあります。それを開けるには、まずモータールームの化粧板を取り外し、それからのようにクリップを押すと、フューズボックスが開きます。



- 車内の運転席側のインストルメントパネルのフューズボックスは、インストルメントパネルの右側にあります。インストルメントパネル下側を取り外すと、フューズの点検ができます。

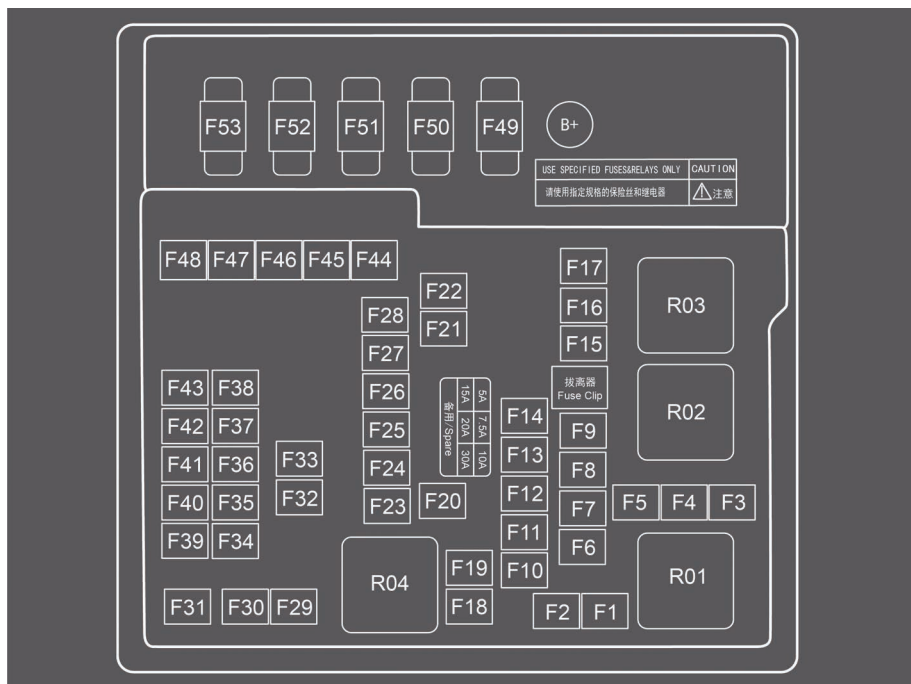


- アンペア数が高いフューズで切れたフューズを入れ替える場合は、対象電気システムを破損させる可能性が極めて大きくなります。
- 回路に適合するアンペア数の代替フューズがない場合は、代替品としてアンペア数が比較的小さいフューズを使ってください。

アドバイス

- 定格アンペア数より高いフューズを使わないでください。また、フューズの代わりに他のものを使わないでください。著しい破損を引き起こし、火災を招くおそれがあります。
- フューズが切れた後、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場点検や交換を行うようおすすめします。

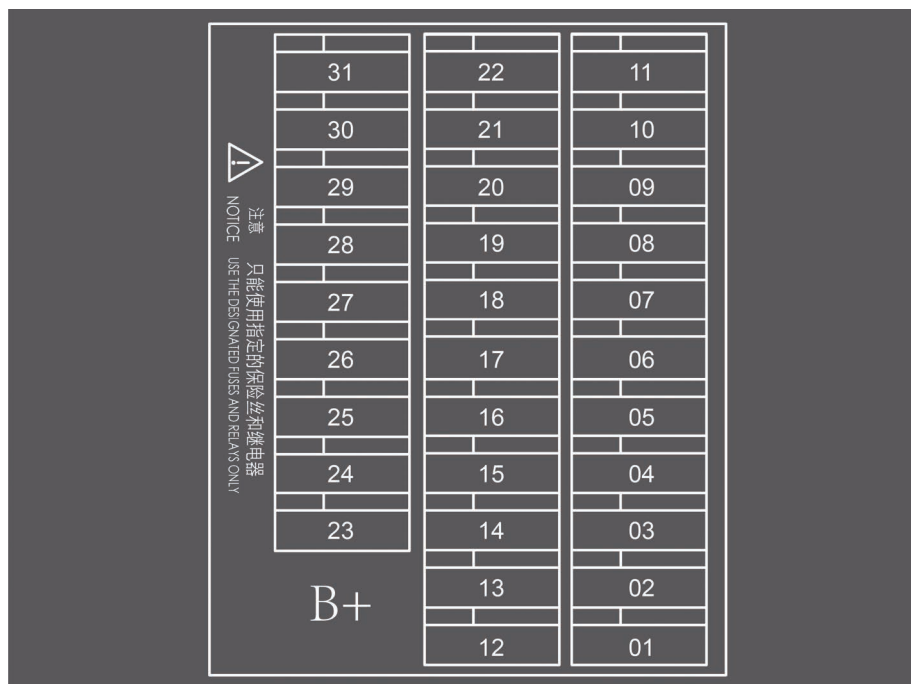
モータールームのフューズボックスラベル



番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
F1	60	PTC3
F2	-	-
F3	-	-
F4	-	-
F5	-	-
F6	-	-
F7	-	-
F8	-	-
F9	15	高電圧統合 PDC コントローラー
F10	15	左前コンビネーションランプ
F11	15	右前コンビネーションランプ
F12	7.5	コンプレッサー
F13	10	電子制御タイプ冷却水ポンプ
F14	10	モーターコントローラー
F15	7.5	サーマルマネジメント用統合モジュール

番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
F16	60	PTC2
F17	-	-
F18	30	PTC1
F19	-	-
F20	7.5	右側デイトタイムランニングライト
F21	30	フロントワイパー
F22	30	リアデフロスター
F23	15	12V アクセサリー電源
F24	15	USB
F25	10	USB
F26	-	-
F27	15	12V アクセサリー電源
F28	15	USB
F29	-	-
F30	60	ESC
F31	20	トレーラー用電源
F32	-	-
F33	15	高電圧統合 PDC コントローラー
F34	15	ステアリングホイールヒーター
F35	5	リアボディーコントロールモジュール
F36	5	コンビネーションメーター
F37	7.5	ETC
F38	10	SRS
F39	5	ADAS
F40	-	-
F41	5	EPS
F42	5	ESC
F43	-	-
F44	60	ESC
F45	40	ブローワー
F46	-	-
F47	-	-
F48	10	リアワイパー
F49	200	バッテリー
F50	70	CEPS
F51	-	-
F52	60	電子制御ファン
F53	-	-

インストルメントパネルのフューズボックスラベル



番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
01	30	汎用型コントローラー
02	30	トレーラー用電源
03	5	ブレーキランプスイッチ
04	10	診断用ポート
05	5	コンビネーションメーター
06	10	アルコールロック
07	5	シフトレバーパネル
08	20	マルチメディア
09	15	外付けアンプ
10	10	ADAS
11	7.5	コンビネーションスイッチ
12	30	リアボディーコントロールモジュール
13	30	リアボディーコントロールモジュール
14	10	CCS
15	20	左側フロントウィンドウ
16	20	右側フロントウィンドウ

番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
17	20	左側リアウィンドウ
18	20	右側リアウィンドウ
19	5	E-Call
20	7.5	ワイヤレス充電
21	30	左フロントパワーシート
22	30	右フロントパワーシート
23	-	-
24	-	-
25	-	-
26	-	-
27	-	-
28	-	-
29	-	-
30	-	-
31	-	-

アドバイス

- 車種仕様によっては、一部のフューズ（マルチメディア）のアンペア数が異なるため、修理や交換時は、現物に準じてください。

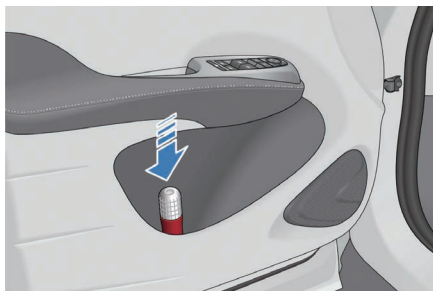
7-1 故障が発生したとき……	284
非常信号灯……………	284
リモートキーのバッテリーが 切れたら……………	285
緊急時シャットダウン システム……………	286
車両火災が発生したら……………	287
バッテリーの液漏れが 発生したら……………	288
レッカー移動が必要なとき…	290
タイヤのエア漏れが 発生したら……………	292

非常信号灯

高速道路や踏切などで故障・事故により緊急停車したときに使用します。

使い方

1. 非常信号灯を助手席側ドアポケットのホルダーから取り出します。
2. 本体のスイッチを入れ、点滅を確認します。
3. 底部のマグネットで車体に設置して、後続車に危険を知らせます。



⚠ 注意

- 強い衝撃を与えないでください。
- 底部のマグネットで車体に傷付けないようご注意ください。
- 取り付けのまま走行せず、元の保管場所に戻してください。
- 非常時に使用できるように、動作確認を定期的に行ってください。

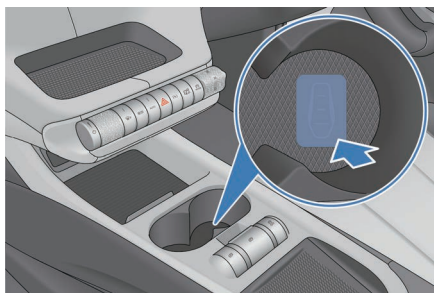
リモートキーのバッテリーが切れたら

リモートキー表示灯が点滅せず、スタート機能で車を始動させることができない場合、バッテリーが切れていることが考えられます。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場でのバッテリーを交換するようおすすめします。このとき、電池レスモードで車を始動させることができます。

⚠ 注意

- キーを温度が高いところに置かないでください。
- 固いものでキーを叩いたり、投げ付けたりしないでください。
- キーを磁気を帯びた機器から遠ざけてください。
- ドアが施錠され、イモビライザーが作動状態に入った後、車を使わない場合は、車からキーを遠ざけてください。車がキーに電波を自動的に送信し続けるため、起動バッテリーの電気エネルギーが消費されます。

1. メカニカルキーで解錠します。
2. ブレーキペダルを踏み込むと同時に、「スタート/ストップ」ボタンを押します。このとき、リモートキーシステム警告灯が点灯し、車内のブザーが1回鳴ります。
3. ブザーが鳴ってから30秒以内にリモートキーを電池レスモードのマークにかざすと、リモートキーシステム警告灯が消灯し、5秒以内に車を始動させることができます。



緊急時シャットダウンシステム

- 次の条件を満たした場合、緊急時シャットダウンシステムが ON になり、高電圧システムが自動的に OFF になります。
 - 前方衝突後、エアバッグが作動しなかった。
 - 後面衝突。
 - 車両システム故障。
- 以上の衝突や車両システム故障が発生すると、走行可能表示灯（「OK」表示灯）は OFF になります。
- 以上の衝突で緊急時シャットダウンシステムが作動することにより、傷害または思わぬ事件の発生リスクを最大限に低減することができます。
- 一度、緊急時シャットダウンシステムが ON になると、本車のシステムは走行可能状態に入らなくなります。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで救援を依頼するようにしてください。電源ポジションを「OK」に切り替えても、システムはすぐに OFF になるので、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場までご連絡ください。

車両火災が発生したら

車両火災が発生した場合、実際の状況に応じて以下の方法で車を操作してください。

1. 電源ポジションを「OFF」にし、車から離れてください。
2. 身の安全を確保する前提で、火勢が弱い場合には、乾燥粉末消火器で鎮火し、すぐに119番に通報してください。
3. 火勢が強く、勢いよく燃え広がる場合は、ただちに車から遠く離れ、消防や救援者に対して車にはパワーバッテリーパックが搭載されていることを伝え、救援をお待ちください。

注意

- 車を解体する際は絶縁手袋を着用してください。指定された消火器で火を消してください。水での消化や、消火器の使い方を誤ると、感電につながるおそれがあります。
- 特別な状況により部品など（内装部品、ガラスなど）が飛ばされるおそれがある場合は、車から離れてください。また、早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に現場対応を依頼するようおすすめします。

バッテリーの液漏れが発生したら

衝突後、バッテリーの液漏れが発生し、車内に酸性の液体の臭いがする、もしくは酸性の液体が明らかに流出し、バッテリーパック内部から煙が出ている場合：

1. 電源ポジションを「OFF」にし、可能であれば起動バッテリー（12V）を切り離してください。
2. ただちにBYD販売店またはBYD指定サービス工場までご連絡いただき、消防や救援者に対して車にはパワーバッテリーパックが搭載されていることを伝え、救援を要請するようにしてください。

衝突事故が発生したら

衝突事故が発生した場合に、実際の状況に応じ、以下の方法で車の操作をしてください。

1. 電源ポジションを「OFF」にし、可能であれば起動バッテリー（12V）を切り離してください。
 2. ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場までご連絡いただき、救援を要請してください。
 3. 状況が許せば、自ら簡単な点検を行ってください。例えば、パワーバッテリートレイの縁に割れがないか、明らかな液体の流出がないかなど。
- いずれの場合でも高電圧部品の破損が識別できるわけではないため、破損した部品やアクセサリーや他の金属品をそれらの部品に触れさせてはいけません。
 - 漏れた液体が身体に付着したときは、ただちに大量の水で10～15分ほど洗い流してください。痛みを感じた場合は、2.5%のグルコン酸カルシウムジェルを塗り付けるか、2～2.5%のグルコン酸カルシウム溶液に浸けて痛みを止めます。効果がなく気分が悪いときは、すぐに医師の手当てを受けてください。
 - 絶対にオレンジ色の高電圧ケーブルや他の高電圧部品に対し勝手に作業をしないでください。高電圧システム作業の資格を取得しているBYD指定サービス工場にのみ高電圧システムに対する作業を依頼してください。
 - 絶対にオレンジ色の高電圧ケーブルの破損、変更、取り外し、または高電圧配線網からの切り離しをしないでください。
 - 必ず消防隊員や救援者に対して車にパワーバッテリーパックが搭載されていることを伝えてください。

⚠ 警告

- 漏れ出した液体を触らず、液漏れした場所の車やパワーバッテリーから遠く離れてください。
- 漏れ出した液体は、水や土壌などへみだりに流さないでください。
- 本車のシステムは、高電圧の直流電源を使います。車を始動させる前後および車の電源ポジションをOFFにしたとき、システムには大量の熱が発生するため、高電圧や高温に気を付けてください。
- 高電圧のバッテリー部品および接続ケーブルに対し、解体、移設や変更をしないでください。コネクタによって、重度のやけどや感電が起こり、怪我や死亡につながるおそれもあります。オレンジ色の接続ケーブルは、高電圧ワイヤーハーネスです。ドライバーは、自ら車の高電圧システムを修理してはなりません。修理が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での修理を行うようおすすめします。
- 車のリモートキー、高電圧部品は、身体に医療機器が付いている方に影響をおよぼし、傷害を負わせるおそれがあります。
- 高電圧部品および高電圧ケーブルが露出しているときは絶対に触れないでください。
- 走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、安全な場所に停車し、損傷が無い点検してください。床下に損傷が見られる場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場までご連絡ください。
- 事故により車両が損傷した場合は、車両から離れて BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場までご連絡ください。
- 事故により車両が損傷し、板金・塗装による修理が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場までご連絡ください。

レッカー移動が必要なとき

レッカー車でけん引し移動する必要がある場合は、BYD 指定サービス工場またはけん引サービス専門業者、もしくはご入会のロードサービスに救援を依頼するようにしてください。

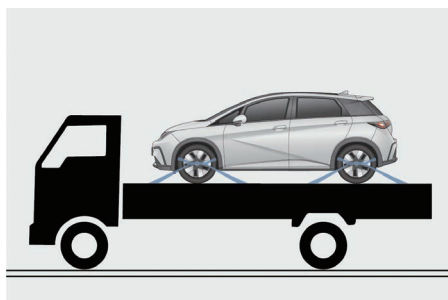
警告

■ ロープやチェーンだけでのけん引を他の車に依頼しないでください。

通常のけん引方法：

■ 積載車

- 故障で車をけん引する必要がある場合に、積載車を選ぶ方が最適です。前輪の回転により高電圧部品が破損するおそれがあります。



けん引フック

けん引フックの取り付け位置は図のとおりです。

1. けん引フック差し込み口の蓋を押し開けます。
2. けん引フックを差し込み口に取り付けます。



i アドバイス

- けん引フックによる車の搬送をおすすめしません。できればけん引サービス専門業者、またはご入会のロードサービスに救援を依頼するようにしてください。
- 車載工具に入っているけん引フックのみ使用してください。そうしないと、車を破損させるおそれがあります。
- 4輪接地で後部から車をけん引しないでください。車を破損させるおそれがあります。

タイヤのエア漏れが発生したら

- ゆっくり速度を落とし直線走行を保ちながら、交通量の多い場所を離れて車を安全な場所へ移動させます。
- 車を堅固で平坦な地面に駐車し、高速道路の中央分岐に停車しないようにしてください。
- 電動パーキングブレーキスイッチを引き、「P」ボタンを押します。
- 電源ポジションを「OFF」にし、ハザードランプを点滅させます。高速道路では三角表示板を置き、非常信号灯を使用して、後続車に危険を知らせてください。
- 乗員の全員が車を降り、ガードレールの外など安全な場所に避難します。
- 自然発車を防ぐために、車を確実に固定します。エア漏れのタイヤの対角線上にあるタイヤのところに輪留めを設置するようにしてください。



▲ 注意

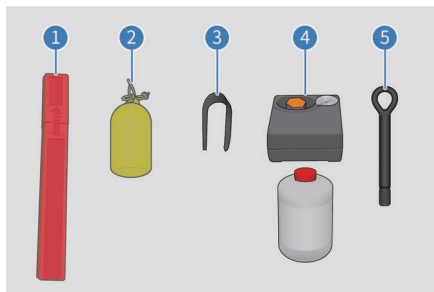
- タイヤからエアが漏れたまま車を運転し続けしないでください。短距離の走行でも修復できないほどタイヤを破損させるおそれがあります。

車載工具

車載工具は、テールゲートの下の工具箱に格納しています。

車載工具は、三角表示板、反射ベスト、ホイールナットキャップの取り外しクリップ、タイヤ補修キット、けん引フックなどを用意しています。

- ① 三角表示板
- ② 反射ベスト
- ③ ホイールナットキャップの取り外しクリップ
- ④ タイヤ補修キット
- ⑤ けん引フック



三角表示板の設置

① アドバイス

- 故障や電欠でやむなく道路上に駐停車する場合は、後方車両に知らせる危険を避けるために、三角表示板の赤い反射部を車両進行方向に向け、車両後部から 50m 以上離れたところに設置するように心がけてください。移動の準備ができれば、三角表示板を回収してください。
- 故障で緊急停車する場合は、車載工具に入っている反射ベストを早めに着用してください。

三角表示板は、後方車両に危険を知らせ、後方車両が速すぎたり、早めにスピードを落とさなかったことにより、停止中や修理中の前方車両に衝突したりすることを避けるためのものです。

三角表示板の使い方：

1. ケースから三角表示板を取り出します。
2. 正三角形となるように三角表示板を組み立てます。
3. 三角表示板の足を広げます。設置後の状態を図に示します。



パンク修理剤

- パンク修理剤は、小さいパンク穴、特にトレッドパターン内の穴を塞ぐことができます。パンク修理剤で補修するのは、最寄りのサービス工場まで走行できる状態まで復旧するための応急処置にすぎません。タイヤからエアが漏れていないとしても、緊急時の短距離走行に対応するだけです。

⚠ 警告

- タイヤ補修キットは、トレッドパターン内に開いた直径 6mm までの穴を補修することができます。直径が 6mm より大きい穴、またはタイヤの他の位置に開いた穴では、この補修キットを使わずにロードサービスを依頼してください。
- パンク修理剤は、引火性が高く、かつ健康に害をおよぼすため、蒸気を吸い込まないでください。修理中は、裸火の使用や喫煙を禁止し、皮膚や服、目に付着することを避けてください。また、お子様の手が届かないところに保管してください。

パンク修理剤に触れたとき

- パンク修理剤が皮膚や目に付着した場合は、ただちに多量の水で付着部位を洗い流してください。
- ただちに汚れた服を脱いでください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の手当てを受けてください。
- 誤ってパンク修理剤を飲み込んだ場合は、ただちにうがいで口の中をきれいに洗い、また、多量の水を飲んでください。吐かせずにただちに医師の手当てを受けてください。

- パンク修理剤の使い方について、詳細は空気自動補充・パンク修理剤の取扱説明書を読んでください。

i アドバイス

- パンク修理剤で破損したタイヤを補修するのは、応急処置だけで、できるだけ早く専門のサービス工場でタイヤを交換してください。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。タイヤの中にパンク修理剤が入っていることについては、整備士に伝えてください。
- 急発進や高速でカーブを曲がることは避けてください。
- 80km/h の最高制限速度を守ってください。走行中に激しい振動が発生したり、走行性能が不安定になったり、騒音が聞こえたりした場合は、車を運転し続けしないでください。
- パンク修理剤の有効期限が切れるとき（有効期限はパンク修理剤の容器に付いているラベルを参照）、新品のパンク修理剤に入れ替えてください。
- タイヤ補修キットで補修した後、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場から新品のパンク修理剤を購入するようおすすめします。

8-1 データ情報	298
車両諸元.....	298
8-2 指示メッセージ	301
車両の表示.....	301
警告ラベル.....	303
マイクロ波通信用 ウィンドウ.....	305
8-3 適合宣言書	306
リモートキー.....	306

車両諸元

車両寸法

全長 (mm)	4290
全幅 (mm) (ドアミラーを含まない)	1770
全高 (mm)	1550
ホイールベース (mm)	2700
フロントトレッド (mm)	1530
リアトレッド (mm)	1530
フロントオーバーハング (mm)	830
リアオーバーハング (mm)	760
アプローチアングル (°)	16
デパーチャーアングル (°)	23

車両重量

車両重量 (kg)	1506	1658
前軸荷重 (kg)	855	894
後軸荷重 (kg)	651	764
車両総重量 (kg)	1916	2068
車両総重量前軸荷重 (kg)	977	1021
車両総重量後軸荷重 (kg)	939	1047
乗車定員 (人)	5	

駆動モーターの諸元

型式	TZ180XSF	TZ200XSQ
種類	永久磁石同期モーター	
駆動方式	二輪駆動	
定格出力 / 回転数 / トルク (kW/rpm/N・m)	35/4775/70	65/4433/140
最高出力 / 回転数 / トルク (kW/rpm/N・m)	70/15000/180	150/16000/310

車両の経済性および動力性能データ

環境条件での 100 キロ毎の電気 使用量 (kW・h/100km)	12.9 (WLTC モード)	13.8 (WLTC モード)
最高設計速度 (km/h)	150	160
最大登坂角度 (%)	30	

⚠ 注意

- 消費電力量の実績は、車の状況、道路条件、運転習慣などにかかっています。

ホイールとタイヤの諸元

タイヤの呼び	205/55R16
タイヤ空気圧 (kPa)	250
ホイールバランス (g)	≤ 10

ホイールアライメント調整値 (車両重量時)

フロントタイヤキャンバー角 (°)	-0.82 ± 0.75	
フロントタイヤトーイン (mm)	1.3 ± 1.82	
キングピン角 (°)	11.3 ± 0.75	
カスター角 (°)	3.16 ± 0.75	
リアタイヤキャンバー角 (°)	-1.38 ± 0.5 (トーションビーム式)	-1.07 ± 0.5 (4 リンク式)
リアタイヤトーイン (mm)	1.1 ± 3 (トーションビーム式)	1.56 ± 3.56 (4 リンク式)

ブレーキシステム技術諸元

ブレーキペダルの遊び (mm)	1 ~ 5	
フロントディスクローターの 厚み (mm)	23 ~ 25	
リアディスクローターの厚み (mm)	9 ~ 11 (トーションビーム式)	10 ~ 12 (4 リンク式)
フロントディスクパッドの厚み (mm)	2.5 ~ 8	
リアディスクパッドの厚み (mm)	2 ~ 6.5	

パワーバッテリー諸元

パワーバッテリータイプ	リン酸鉄リチウムイオンバッテリー	
パワーバッテリー定格容量 (Ah)	135	150

シート諸元

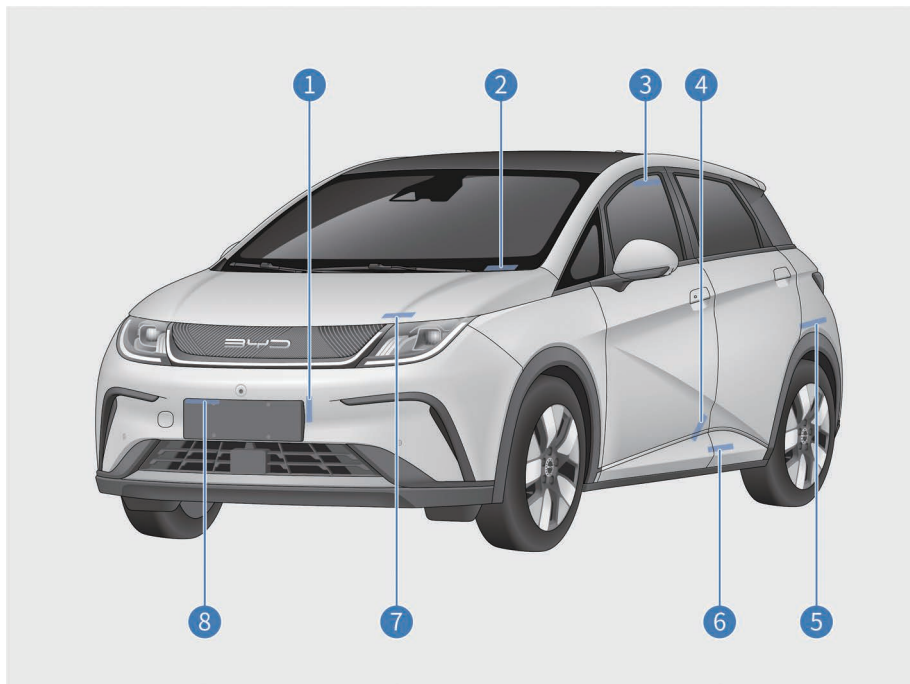
シート	項目	諸元
フロントシート	(シートクッション座面の深さを測定時) シートの前後位置	レールストロークの末端位置から先へ 70mm
	(シートクッション座面の深さを測定時) シートバックの角度位置	25°
	シートバックの通常使用状態	前方へ 24°、後方へ 50°、スライドレールが前方へ 190mm、後方へ 70mm、レール角度 4.5°
リアシート	((シートクッション座面の深さを測定時) シートの前後位置	スライドレールなし
	(シートクッション座面の深さを測定時) シートバックの角度位置	27°
	シートバックの通常使用状態	リアシートバック 27°、固定、調整不可

油脂類諸元

トランスミッションオイルの型番	Castrol BOT384	
トランスミッションオイルの注入量 (mL)	450 ± 50	600 ± 50
ブレーキフルード	HZY6	
ブレーキフルード注入量 (mL)	1100 ± 100	
モーター冷却水の規格	エチレングリコール系有機酸冷却液：不凍液 - 氷点 -40℃	
モーター冷却水の注入量 (L)	3.1 ± 0.2	3.3 ± 0.2
エアコン冷媒	R1234yf	
エアコン冷媒注入量 (g)	1000 ± 20	

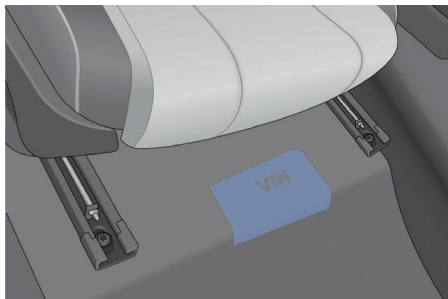
車両の表示

車両識別番号 (VIN コード)



- 1 トランスミッションの本体に貼ってあります。
- 2 フロントガラスのクロスシル、アッパーパネルのVINコード溝に貼ってあります。
- 3 テールゲートの上の中央板金面に貼ってあります。
- 4 左フロントドア左下のドア内側に貼ってあります。
- 5 左リアタイヤのフェンダ表面に貼ってあります。
- 6 左リアドアのサイドシル内側板金の表面に貼ってあります。
- 7 ボンネット内の板金表面に貼ってあります。
- 8 フロントクロスメンバー上側端部の板金表面に貼ってあります。

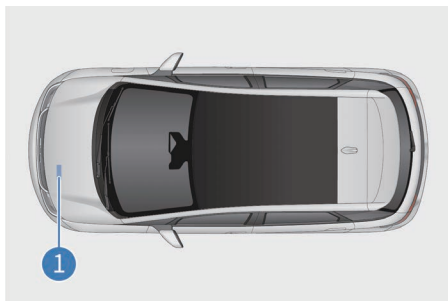
VIN コードは運転席側シートの下部に刻印されています。



注) 車両 VDS の接続を通じて、車種を選定してから、右上で車両識別番号 (VIN) を読み出します。詳細は VDS 取扱説明書を参照してください。

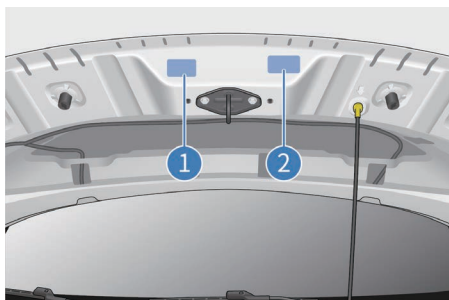
駆動モーターの型式および番号

- 1 駆動モーターの型式および番号は、駆動モーターケースに刻印されています。



警告ラベル

- ① 空調システム、冷却ファンラベル
- ② バッテリー搭載位置ラベル



サイドエアバッグ警告ラベルは、左右Bピラーのドアロックストライカーの下側に貼ってあります。



エアバッグ警告ラベルは、助手席側サンバイザーに表示してあります。



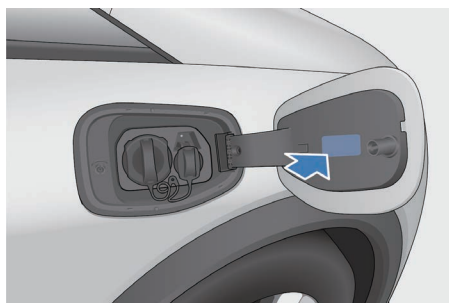
⚠ 警告

- 絶対に前側にエアバッグが装備されているシートで後向きにチャイルドシートを使わないでください。お子様の死亡や重傷につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧ラベルは右側 B ピラーのドアロックストライカーの下側に貼ってあります。



充電コネクタの警告ラベルは、充電ポートフラップ裏側の表面に貼ってあります。



チャイルドロックのマークは、左右リアドア板金の表面に刻印しています。



マイクロ波通信用ウィンドウ


マイクロ波通信用ウィンドウは、ウィンドウガラスの左上にあります。



⚠ 注意

- 車検検査標章を貼り付けるとき、ガラスのプリント部や他の物体への重なりを避けてください。

リモートキー

	<p>ウズベキスタン 型番：D0-92</p>
	<p>EU 諸国 型番：D0-92</p>
	<p>ブラジル 型番：D0-92 本デバイスは、有害な妨害から保護する対象外であり、また、正規認証を取得しているシステムに妨害を与えることはありません。</p>
<p>FCC ID : 2A5DH-DAEA-92</p>	<p>アメリカ 型番：D0-315</p>
	<p>日本 型番：D0-315</p>

数字

12V アクセサリー電源 ……………237

A

ACC システムの作動条件 ……………164

AC 充電スタンドでの充電 ……………122

AEB システムの作動条件 ……………174

B

BYD アラウンドビューシステム ……200

D

DC 急速充電 ……………123

E

EPB 作動音 ……………158

EPB システム表示灯 ……………158

I

ICC システムの作動条件 ……………170

N

NFC カードキー …………… 67

NFC カードでの施錠 / 解錠 …………… 72

P

PCW システムの作動条件 ……………173

S

SD カードスロット ……………236

U

USB ポート ……………235

かな

あ

アシストグリップ ……………235

アダプティブクルーズ

コントロール (ACC) システム ……163

安全運転支援システム ……………207

安全運転上のご注意 ……………140

アンチロックブレーキシステム

(ABS) ……………212

い

一般充電故障の診断 ……………116

イモビライザー …………… 41

飲酒運転厳禁 ……………140

インストルメントパネルセンター

ボックス ……………230

インストルメントパネルの

フューズボックスラベル ……………280

インテリジェントスピードリミット

コントロール (ISLC) ……………182

インテリジェントパワーブレーキ

システム ……………207

う

ウィンドウロックキー …………… 99

ウォッシュャ ……………269

運転支援スイッチユニット ……………101

運転席および助手席エアバッグ …… 23

運転前の準備について ……………152

運転前の点検 ……………151

運転要領 ……………161

え

エアコンについて222
 エアコンパネル、カーオーディオ、
 インstrumentパネル、
 コントロールパネルとスイッチ259
 エアバッグが作動しないとき 28
 エアバッグが作動するとき 26
 エアバッグ作動条件 26
 エアバッグについて 22
 エアバッグの作動条件および
 注意事項 26

お

オートビークルホールド (AVH)159

か

カーペット 240,258
 外部給電方法 129,130
 火災の予防145
 カップホルダー232
 家庭用 AC 普通充電117
 可倒式ドアミラー216
 ガラスを割る方法について242
 冠水路の走行143

き

キー 64
 起動バッテリー (12V)136
 起動バッテリーの電圧不足時の
 スリープ解除機能137
 機能ボタンの操作192
 機能を ON にする場合 75
 客室に荷物を積み込む場合141
 距離表示ブザー203
 緊急時車線維持支援 (ELKA)189
 緊急時シャットダウンシステム286
 緊急脱出ハンマー241

緊急脱出ハンマーの
 使い方について242

く

空気を入れるとき273
 空調システム270
 駆動モーターの型式および番号302
 車の運転151
 車の始動149
 車の第三者への譲渡、および
 オフラインモード 46
 車を安全運転可能な状態に保つ140
 車を始動する場合 75
 グローブボックス230

け

警告灯 / 表示灯について 52
 警告ラベル303
 けん引フック290

こ

交通標識認識システム (TSR)180
 後方レーダーの電源スイッチ202
 交流充電ポートの非常解錠128
 故障時のリリース機能157
 ご注意 167,171,175,178,180
 183,184,187,190
 ご利用要領226
 コンビネーションメーター
 イメージ 50
 コンビネーションランプ264

さ

サイドカーテンエアバッグ 25
 作動状況説明 163,170,184
 作動するセンサーおよび
 その検知範囲204

サングラスホルダー	233
サンシェードスイッチ	106
サンバイザー	234

し

シートについて	78
シートバックポケット	233
シートベルト	258
シートベルトについて	16
シートベルトの緊急ロック機能	17
シートベルトのプリテンション /	
ロードリミット機能	17
シートベルトリマインダー	20
シートベルトを着用するとき	18
システムの限界	166,174,187,189
システムの応答方法	195
自動緊急通報システム E-Call	105
自動洗車をするとき	257
自動的に EPB がかかる	155
シフト機構	153
車載工具	293
車線逸脱警告 (LDW)	186
車線逸脱防止 (LDP)	186
車内からのテールゲートの	
緊急時解錠	73
車内の人工皮革部分	259
車内の清掃	258
車両火災が発生したら	287
車両識別番号 (VIN コード)	301
車両諸元	298
車両接近通報装置 (AVAS)	199
車両データの処理	44
車両の表示	301
車両の防食について	254
車両の保管	265
車両メンテナンス計画	246
集中ドアロック	100
集中ドアロックの施錠 / 解錠	73

充電上のご注意	112
充電方法	117
充電ポート盗難防止ロック機能	127
充電予約	125
充電について	111
手動で EPB を解除する	156
手動で EPB をかける	155
手動防眩機能	214
衝突事故が発生したら	288
衝突予測警告 (PCW) および	
自動緊急ブレーキ (AEB)	173
助手席側ウィンドウスイッチ	100
助手席側エアバッグスイッチ	103

す

ステアリングホイール	
コンビネーションスイッチ	84
ステアリングホイールの調節	89
スマートエントリー&	
スタートシステム	75
スマート充電機能	125

せ

セキュリティ表示灯	42
セルフメンテナンス	261
セルフメンテナンス上のご注意	261
センサータイプ	203
洗車	256
前席サイドエアバッグ	24
センターコンソールボックス	231

そ

走行距離切替スイッチ	100
速度の抑制	140

た

タイヤ ……………273
 タイヤ空気圧モニタリング ……………197
 タイヤチェーン ……………219
 タイヤとホイールの交換 ……………276
 タイヤの位置交換 ……………275
 タイヤのエア漏れが発生したら ……292

ち

チャイルドロック …………… 77
 駐車券収納ボックス ……………229
 駐車支援システム ……………202
 直接式タイヤ空気圧モニタリング ……197

つ

使い方 … 164,171,173,178,180,182
 184,186,189,194,195,199

て

手洗い洗車をするとき ……………256
 定期メンテナンス ……………253
 データの収集および処理 …………… 43
 電気の省エネで車を長持ち
 させる方法について ……………147
 点検 …………… 263,274
 電動ドアミラー ……………215
 電動パーキングブレーキ (EPB) ……155
 電動パーキングブレーキスイッチ ……155

と

ドアおよびドアガラス ……………259
 ドアの施錠 / 解錠 …………… 68
 ドアポケット ……………229
 ドアミラー調整ボタン ……………215
 冬期の運転について ……………162
 当局への個人情報開示 …………… 46

塗装メンテナンスのお願い ……………255
 ドライバー眠気注意力警告 (DAW) ……194
 トランクルームに荷物を
 積み込む場合 ……………142
 トレーラーのけん引 ……………139

な

ナビゲーションパイロット (ICC) ……170
 慣らし運転期間 ……………139

に

荷物の積み込み ……………141

の

ノブ操作でドアを開けるときの …… 68

は

ハイビームアシストシステム
 (HMA) ……………184
 ハザードランプスイッチ ……………106
 発車時に自動的に EPB を解除する ……156
 バッテリー特性 ……………132
 バッテリーの液漏れが発生したら ……288
 バッテリーの使い方について ……133
 パワーウィンドウスイッチ …………… 97
 パワーステアリングモードの設定 …… 89
 パワーバッテリー ……………132
 パワーバッテリーの回収 ……………135
 パンク修理剤 ……………294

ひ

ヒーターシステム …………… 80
 非常信号灯 ……………284

ふ

吹き出し口 ……………229
 フック ……………241

フットブレーキが効かない場合の 緊急ブレーキ機能	157
フューズ	277
ブラインドスポットアシスト システム (BSA)	191
ブレーキシステム	268
フロントカップホルダー	232
フロントクロストラフィックアラート (FCTA) およびフロントクロス トラフィックオートブレーキ (FCTB)	178
フロントシートの調節	80
フロントワイパーとウォッシャー	95

へ

ペダル踏み間違い時加速抑制装置	206
ヘッドライトの高さ調節	94
ヘッドレスト	83
ヘッドレストの調節	83

ほ

ボンネット	266
ボンネットの開け方	266

ま

マイクロスイッチ操作での 施錠 / 解錠	70
マイクロスイッチ操作での テールゲート解錠	71
マイクロ波通信用ウィンドウ	305
マルチメディアコントロールパネル PAD	243

め

メーターのその他故障について	61
メーター表示灯	51
メカニカルキー	66

メカニカルキーでの施錠 / 解錠	68
メカニカルキーでの 全ドア緊急施錠	74
メンテナンス	274
メンテナンス計画について	247
メンテナンス細則	271
メンテナンス周期および メンテナンス内容	246
メンテナンス周期表	247

も

モータールームの フューズボックスラベル	278
-------------------------	-----

ゆ

ユーザーのデータ保護の権利	47
---------------	----

よ

幼児置き去り検知 (CPD)	195
幼児用補助装置アンカー	35
幼児用補助装置 (チャイルドシート)	34
幼児用補助装置の 取り付けについて	37

ら

ライトスイッチ	90
---------	----

り

リアカップホルダー	232
リアシートの収納	82
リアシェルフ	240
リモートキー	64,306
リモートキー操作での施錠 / 解錠	69
リモートキーのバッテリーが 切れたら	285

リモートキーの
 「リモートスタート機能」 ……………150
 リモートスタート機能 ……………150

る

ルームミラー ……………214
 ルームミラーの手動調節 ……………214
 ルームランプスイッチ ……………107

れ

冷却システム ……………267
 レーンサポートシステム (LDA) ……186
 レッカー移動が必要なとき ……………290

わ

ワイパー ……………217
 ワイパースイッチ …………… 95
 ワイパーブレード ……………271
 ワイパーブレードの交換 ……………217
 ワイヤレス充電エリア ……………238

略語

略語	名称	略語	名称
ECO	エコモード	NORMAL	ノーマルモード
SPORT	スポーツモード	AVH	オートビークルホールド
ACC	アダプティブクルーズ コントロール*	PCW	衝突予測警告
AEB	自動緊急ブレーキ	AVAS	車両接近通報装置
ABS	アンチロック ブレーキシステム	ESC	横滑り防止装置
VDC	ビークルダイナミクス コントロール	TCS	トラクション コントロールシステム
HHC	ヒルスタートホールド コントロール	HBA	ハイドロリック ブレーキアシスト
CDP	減速度制御	TPMS	タイヤ空気圧 モニタリングシステム
ECU	エレクトロニック コントロールユニット	VIN	車両識別番号

